

---

# なにかが違うGXと3邪神

ナム

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

なにかが違うGXと3邪神

### 【Nコード】

N0547V

### 【作者名】

ナム

### 【あらすじ】

・・・なにかが違う・・・。

なにかが違うのだ。

なにかはわからないが、どこかが違うのだ。

・・・おもに、十代とか精霊とかが。

どうやら死んだようだが・・・。

俺の目の前に、四季映姫様のような人が、座っている。

・・・かわいい・・・。

「あなたには、転生してもらいます。」

・・・彘・・・？

いや待て・・・死んだ記憶ないんだけど・・・。

・・・とりあえず、お持ち帰りしても、いいですか？

マジかわいいよ閻魔様・・・。

「本来ならば、あと77年生きたはずです。」

・・・無駄に長生きしたんだな・・・俺・・・。

「で、転生先を、リストにしてみましたので、その中から、選んでください。」

どれどれ・・・うん・・・いろいろとおかしいね

転生先リスト2011

- ・ バイオハザード
- ・ 日常
- ・ 北斗の拳
- ・ リリカルなのは
- ・ ドラクエ
- ・ 遊戯王GX
- ・ ランダム
- ・ ギャグ漫画日和
- ・ ブラックロックシューター
- ・ モンハン
- ・ ポケモン
- ・ スターウォーズ
- ・ トランスフォーマー（コンボイ）
- ・ マリオ

- ・東方
- ・ガンダム（初代）
- ・初代遊戯王
- ・ネウロ
- ・もう一つの現実

「遊戯王GXで。」

・・・ほとんど死亡フラグだし、ほとんど普通に死ぬし。

「わかりました・・・。」

なにか望むものはありますか？」

「全カード9枚ずつ

キラメル4箱とハバネロ4箱

俺の『現実』でやっていたアニメのDVD全部で。」

「・・・わかりました。それでは転生させますね。（そんなんじゃ虫歯になりますよ・・・。）」

そう呟いた瞬間、真つ暗な穴が・・・。「ああああああああ

ああ。」

どうやら死んだようだ。。。 (後書き)

今回が初投稿です。

褒められると伸びます。

罵倒されても興奮しません。

見苦しい点や誤植などが、ありましたら、ご指摘お願いいたします。

実技試験に遅刻・・・乗る電車まちがえた・・・（前書き）

前回の続き：あの世から落ちてきました。

実技試験に遅刻・・・乗る電車まちがえた・・・

視点：主人公

場：受験会場

ガスの元栓閉めたかな？と心配しつつ受験票を受け取る。

まあ、ぼちぼちやりますか。

門1

ダークカメラに収縮を使った時の攻撃力を答えよ。

・・・え・・・なぜダーク・カメラ？

805・・・だよな・・・。

門2

エラーカードを3枚答えよ。

・・・まあ、難しいな。これ。

ほとんどの問題は分かったのだが、ある問題で、手が止まった。

門88

オレイカルコスと名のつくカードを3枚答えよ。

マテ社長、この問題はいろいろと問題があるよ社長。

この問題はひとまず置いて、ほかの問題をやるつ。

受験番号は108番だった。

・・・一覧ずらして書いてしまったようだ。

『受験番号108番、月影永理さん  
4番の決闘場に移動してください。』

・・・俺の出番か・・・。

今更だが、自己紹介だ。俺は月影永理。元の世界では学生だった。  
って、誰に言っているんだ俺は。

俺がそう呟いているといつの間にか決闘場につまづいた。  
周りから笑い声が聞こえる・・・その前に顔が痛い・・・。

「君が受験番号108番か。

よろしく。」

「よろしくおねがいます。」

「デュエル」

「私の先行、ドロー。」

私は、魔法カード『古のルール』を発動。

手札から『コスモクイン』を特殊召喚。」

女王様がフィールドに現れた。・・・タイプじゃないな・・・。

「私はカードを1枚伏せ、ターンエンド。」

あいつ終わったな。

可哀想に・・・と聞こえてきたが気にしな～い気にしな～い。

「俺のターン、ドロー。」

手札から魔法カード『デスメテオ』『火炎地獄×3』を発動。」

・・・なんか口からエクストプラズマーみたいなのが出ているが気にしないことにしよう。

さあ、デュエルだ（前書き）

オリカ出します。

さあ、デュエルだ

視点：月影永理

合格通知が届いた。

レッド寮なのはいい幽霊もこの際どうでもいい  
問題なのは

「なぜ貴様らがいる・・・『邪神』共」

俺が疑問に思っていることを口にするのアバターが  
「神に不可能などないっ」て、言っていた。

しばらくの間邪神たちとマ○オゴルフを

やっていたら、歓迎会の時間になったので行った。

邪神たちがズルいぞとか言っていたが、無視した。

料理？・・・美味かったとだけ言っておこう。

俺は食後の、デザート（ちなみに今日はエビフライだ）を

食べていると、PDAからじゃんじゃんーはおにゃんと聞こえて  
きた。

どうやら、万丈目たちとのデュエルのようだ。

メールの内容から、そうだろう。

ちなみにフェバリットカードは『モリンフェン』だ。

まあ、アイドルカードみたいなものだが・・・。

デュエル自体は別に良いのだが

デザート時間を邪魔した代償・・・きちんと払ってもらおう。

俺がそう思っていると幽霊の栄ちゃんから顔が怖いって言われた。

ちよっとへこみつつ俺は着信音を替えた。

何に変えたって？最終鬼畜妹です。

俺がデュエル場に行くと、万丈目たちがいた。どうやら俺が先にデュエルらしい。相手は水色のほうか・・・まあいい。我がサンプルデッキの一つ大邪神祭のモルモットにしてやる。

「『デュエル』」

「俺のターン、ドロー。」  
先行が取られた・・・俺の、勝ちは決定したな。俺がそう思っていると、モブーがゴブリン突撃部隊を召喚してデーモンの斧を装備させターンエンドした。罨カードぐらい伏せるよエリート（笑）

「俺のターン、ドロー。」

俺は手札から『嘆きの幽霊』を特殊召喚  
俺の場に嘆きの亡霊みたいなのが現れた。  
友達になりたいな・・・。

「俺は『嘆きの幽霊』を生贄に捧げ  
『邪教神官』を召喚」

嘆きの幽霊が崩れ落ちて  
ハーゴンみたいなのが出てきた。

「『邪教神官』を生贄に捧げ  
デッキから

『邪神アバター』を特殊召喚。」

邪教神官が闇に飲み込まれ、黒い丸が現れた。  
登場時『映画のタイトルになりました』  
と言っていたが、情報が・・・古いよ。

「魔法カード『死者蘇生』を発動  
墓地から『邪教神官』を特殊召喚

『邪教神官』を生贄に捧げ『邪教幽霊』を  
デッキから特殊召喚。」

俺の場に蒼い幽霊が現れた。

まあまあ可愛いな、勿論クリボーみたいな感じだ。

「『邪神アバター』でこうぐ「ガードマンが来たわ  
見つかったら退学よ。」  
「えっ」

あと少しなのに・・・あと少しで勝てるのに・・・。

そう思いつつ、俺は逃げます。十代が騒いでいるが無視していった。

「で、どうだった？ブルー生徒の洗礼を受けて。」

「話にならん弱すぎる面白くもない眠いエビフライが食べたイリオ  
レイアが倒せない」

「後半から、関係なくなっているわよ。」

「大丈夫だ、問題ない」

俺は明日香を軽く受け流しつつ、帰った。

視点：明日香

見たことのないモンスターを使う生徒  
面白そうな人・・・。

さあ、デュエルだ（後書き）

初の原作キャラ 初のオリカ

ほぼ初の後書きというのも珍しいんじゃないでしょうか。  
今回初めてまともにデュエルを書きました。

・・・モリンフェンは弱い？表に出る。

オリカの説明は下に書いておきます。

『嘆きの幽霊』

レベル：2

闇属性

攻撃力：666

守備力：2200

アンデット族：効果

このカードはフィールドに存在しない場合

このカードは『邪神』として扱う。

自分フィールド場にモンスターが存在しない場合  
手札から特殊召喚できる。

『邪教神官』

レベル：5

攻撃力：1940

守備力：4500

闇属性

悪魔族：効果

このカードを生贄に捧げ『邪神』と名のついた

モンスターを一体、召喚制限を無視して

デッキ特殊召喚する。

『邪教幽霊』

攻撃力：0

守備力：5000

レベル7

闇属性

アンデット族：効果

このカードの攻撃宣言時攻撃力を4000ポイントアップする。

このカードは戦闘によっては、破壊されない。

トランプ発動げき りゅう そつ (前書き)

TFのレイルート、やっと全部クリアできた。  
レイ可愛いよレイ。

## トラップ発動げき りゅう そう

視点：月影

テスト前日に、隣の部屋から呪詛のようなものがきえてきたからのぞいてみると……。

オシリスに拜んでいました。

翔よ、なぜそんなにも、死者蘇生を持っているのかね。

たしか、かなりのレアカードだったはずだが……。

そう思いつつ、俺は布団に潜った。

視点：ジエド……ゲフンゲフン……十代

月影が起きてこない……。

寝ているんだろうか。

いや

それはないなと……

そう思っていた時期が、俺にもありました……。

だって寝てるし……。

昨日の黒丸がそう言っていたし……。

でも、もう8時だぜ？寝すぎじゃないか？

俺がそう思っていると

黒丸が『昨日、徹夜でオンハンをやっていたからね』って答えた。

俺が月影を起こそうとすると寝言で

「トラップ……発動……げき りゅう そう」って、言っていた。

「じゃあ、俺は先に行くぜ。」  
『いつてらっしや〜い。』

今思えば、あいつ等見たことないカードだった。

視点：ドレッド・ルート

ぐっすり寝てるな・・・

あいつは・・・。

と思いつつ俺はあいつを起こす方法を考えた。

拷問車輪・・・は駄目だったな・・・。

バイサー・シヨックは・・・起きなかったな・・・。

・・・よし諦めよう・・・。

そう決めつつパソコンの電源を付けた。

視点：十代

結局、来なかったな・・・授業・・・。

明日・・・テストなのに・・・。

あと翔・・・その儀式みたいなの怖いからやめて。

翌日

視点：寝てた人

4日ぶりに寝た気がするが、たぶん気のせいだ。

そう思いつつ俺は寮を、あとにした。

テスト……だと……。

まあ、この程度の問題、35分あれば十分だ。

あとは……、実技か……。

恐らく相手は、前のアイツだな……たぶん。  
そう予想しつつ、俺はデュエル場へ向かった。

「貴様が相手か……。

昨日の借り、返させてもらう。」

「返品はお断りです。」

「デュエル」

「俺の先行、ドロー。」

手札は……まあまあだな。

「俺はモンスターをセット

カードを伏せ、ターンエンドだ。」

「俺のターン、ドロー」

俺は、魔法カード『ワン・フォーワン』を発動。

手札の『ボルト・ヘッジホッグ』を墓地に送り

デッキから『千眼の邪教神』を特殊召喚。

『ジャンク・シンクロン』を攻撃表示で召喚。

『ジャンク・シンクロン』の効果により『ボルト・ヘッジホッグ』  
を特殊召喚。」

ワンターンでシンクロをするのは凄いが、俺はその斜め上に行く。

「トランプ発動『激流葬』」

相手が「な・・・なんだってー」って顔をしている。だが、まだ相手のメインフェイズは終了してないぜ。

「破壊された、『ワイズ・コア』の効果、発動。

自分フィールド場のモンスターカードをすべて破壊しデッキから

『機皇帝キングドムワイゼル』

『ワイゼルT』

『ワイゼルA』

『ワイゼルG』

『ワイゼルC』を特殊召喚する。」

まわりから「きれい」

とか「ガンダムですか？」

とか「ふつくしい」

とか、聞こえてくる。

「さつさと、エンド宣言をしな、モブ1」

「・・・カードを・・・伏せ

ターン・・・エンド・・・。」

これでジ・エンドだな。

「俺のターン、ドロー」

俺は魔法カード『ハリケーン』を発動。」

生暖かい風が、辺りを駆け巡ると、モブ1の伏せていたカードが飛んでった。

「手札から永續魔法『一族の結束』を発動し、バトル

『機皇帝ワイゼル』で攻撃。

爆熱ゴッドフィンガー。」

どこからか『Gガンダムですか？』と聞こえたが、気にしないよう

にした。

ワイゼルが相手に突っ込んで・・・爆発?!!

さすが社長、俺たちじゃできないことを、平然となつてのける  
そこにシビれる憧れるう。

まあ、イエローへの昇格は無かつたんだけどね。

前編：主人公が、敵サイドに入るって、どうなの？

視点：アバター

『『憑依するブラット・ソウル』でダイレクトアタックです。』  
『ヒデブツ。』

どうも、アバターです。

俺は、栄ちゃんと、デュエルをしました。

『ぐ・・・偶然ですよ。』

『偶然で、14回も負けるか・・・普通？』

『栄ちゃんに、勝ったこと、一度もないもんね。』

『あべしっ。』

昨日は、ビートだったから、ロービートを構築したのに・・・。  
何故負けるのだ。あれか、3邪神（俺たち）は弱いのか？

「お前が弱いだけだろ。」

『たわらばっ』

酷いよ酷いよみんな酷いよ。

（そう言えば、初めて喋ったなあ私。）

そう静かに思う、栄ちゃんでした。

視点：月影

アバターが今日も負けたようだ。

栄ちゃんは、なぜ憑依するブラット・ソウルを入れているんだろう。  
アバターは、どう考えても弱すぎるな・・・。

さて、PCで幻想郷でも、しますかな。

PCの電源を入れた。

数時間ぐらいたったので  
なんとなく、廃寮に行きたくなったので  
PCの電源を切った。

〈少年移動中〉

適当にぶらぶらと歩いていると  
明日香の姿が見えた。  
あとを追いかけると、あの人がいた。

「我が名は、タイタン。

闇のデュエリストだ。

かかってこい遊城じゆうd・・・だれだっ!!」

「俺の名は、月影永理

十代を狙っているらしいなあ。」

「貴様、なぜそのことを、お前が

知っている!!!」

お前が言っただろ、お前が。

「そんなことはどうでもいいだろ。

貴様が十代を狙っているのなら、俺と共に戦え。

「何故？貴様には、メリットなど無いはず。」

疑っているなあ、当たり前か

俺にはメリットなど無いからな。

「俺は奴が気に入らないから

潰したいと思っている。

ただ、それだけだ。」

「十代が、フそんなにも嫌いなのか？」

「当たり前だよ。」

( そんなにも、嫌われているのか・・・あいつは )

「だが、貴様のデツキでは、私との相性が・・・。」

「問題は、そこなn」話は、すべて聞かせてもらった。「だれだ！  
! ! !」

声が出たほうを、見ると、万丈目が立っていた。

なぜこんな時間に・・・？

「・・・何の用だ、万丈目。」

「万丈目さんだ。」

どっちでもいいだろ。

「まあいい。」

タイタンとやら、十代とのデュエルはこの俺

万条目様が、やる。」

「なら、ストーリーを用意しないとなあ。」

俺はさっそく作ったストーリーをタイタン達に教えた。

我ながらいいストーリーができたぜ。

視点：遊城 十代

俺たちが、廃寮を探検していると

明日香の悲鳴が聞こえた。

「ひいっ、きつと彼氏が浮気して

それに絶望して自殺した女性の霊の声っすよ。」

どう聞いても明日香の声だったんだが。

ビビり過ぎじゃないか？

「アニキ、もう帰りましようよ。」

「も・・・もう、帰ったほうが、い、いいと、おおお思っんだな。」

みんなビビり過ぎだろ。

「でも、どう聞いても、明日香の声に、聞こえたんだが？」

俺たちが、悲鳴のした方向に行くと  
月影と万丈目がいた。

「我が名は、タイタン。  
闇のデュエリストである。」  
セルだ。セルに、そっくりの声だ。

視点：月影

まんまと引っかかりおったな、ヴァカめ。  
すべて、計画どおりだ。

十代はさらわれたと思っっているらしい。

( 万条目、計画どおりに、行くぞ。 )  
( 万条目さんだ。 )

・・・そろそろか。

「貴様の相手をするのは、俺じゃない。  
こいつらたちだ。」

十代が、なんか騒いでいるが気にせず  
タイタンは、ストーリーを進めた。

「このデュエルに、負けた者は闇に葬られる。  
言わば、闇のゲームだ。」

「闇のゲームなんて、あるわけがねえ。」

「信じるか信じないか、どちらにせよ

・・・助かるのは、貴様らか、こいつらか・・・だ。」

勿論、嘘だな。

だが、奴は単純だ。すぐに信じるだろう。

此処までは、ストーリーどおりだ。

さあ、遊びの始まりだ。

「デュエル」

今回は、タイタンはデュエルをしないらしい。  
みごとな、原作ブレイクだな。

「俺の先行、ドロー。」

ひひひ、我が新たなるデツキの力を思い知るがよい。

「俺は手札から魔法カード『愚かな埋葬』を発動する。  
デツキから『DT・デスサブマリン』を墓地に、送る。」

「聞いたことのないカード

でも僕のデツキの敵じゃない。」

くくく、俺がその幻想をぶち殺す。

「『DT・デスサブマリン』の効果、発動。

蘇えれ、デスサブマリン。」

俺の場に、黒い潜水艦が現れた。

「俺は、手札から『邪神の器』を、特殊召喚。

レベル1『邪神の器』にレベル9『DT・デスサブマリン』をダークチューニング。」

「『ダークチューニング?!?!』」

シンクロ召喚時とは違い、邪神の器が闇に飲み込まれた。

1-9-8

「全てを呪殺する闇の龍よ。我が使い魔を贄にし  
我が勝利を約束せよ。」

ダークシンクロ召喚、『破滅の邪龍 サタン』召喚。」

真っ黒な龍が俺の場に現れた。

ちなみに噂ではサタンというのは、一個体を示しているわけでは  
ない、らしい。

「ダークシンクロ?おい永理、そんな召喚方法聞いたこともないぞ。」

「すつげえ。これが永理の・・・モンスター・・・。  
でも破壊できないモンスターはいない、絶対勝てるわけではないぜ。」

勝てる？無理だろ。

てか、このカード、能力が、チートだな。

「『邪神の器』の効果により、デッキから

『邪神イレイザー』を手札に加える、」

まあ、がんばって倒してくれよ？俺のモンスターを。

前編：主人公が、敵サイドに入るって、どうなの？（後書き）

ついに出しました。ダークシンクロ。  
では、オリカの、説明をいたしますね。

『邪神の器』

レベル：1

闇属性

攻撃力：0

守備力：0

悪魔族：効果

このカードは、自分フィールド場にDTと名のつく  
モンスターが存在する場合、特殊召喚できる。

このカードが、ダークシンクロ召喚の素材として、墓地に送られた  
とき、デッキから、邪神と名のついたモンスターを手札に加えるこ  
とができる。

『破滅の邪龍 サタン』

レベル：-8

闇属性

攻撃力：0

守備力：1500

「DT」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター1体  
このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在する「  
DT」と名のついたチューナーのレベルから、

それ以外の自分フィールド上に存在するモンスター1体のレベルを  
引き、その数字がこのカードのレベルと等しくならなければならない  
このカードが戦闘を行う場合、デッキから闇属性モンスターを墓地  
に送る事ができる

このカードの攻撃力は、墓地の闇属性モンスター1体につき、60ポイントアップする。

後編：主人公より敵が好きです（前書き）

万条目を強化しすぎました。  
だが、自嘲しない。

## 後編：主人公より敵が好きです

視点：万丈目

「カードを2枚伏せ、ターンエンドだ。」

まさか奴が1ターン目から、ダークシンクロを使うとは本来は出しにくいと、永理から聞いていたが。次は・・・水色の髪のドロップアウトか。

「僕のターン、ドロ。」

手札から『沼地の魔神王』を捨て、『融合』を、手札に加える。」

まさか、1ターン目から、融合をするというのか？

まあ、遊城十代よりは、ましか・・・。

「手札の『サイバー・ドラゴン』2体を融合。」

まさか出るのか？1ターン目から。

「『サイバー・ツイン・ドラゴン』を融合召喚。」

アレ、もの凄くヤバいんじゃないや。

「ターンエンドだ。」

馬鹿かこいつ、カードぐらい伏せるよ。

「俺のターン、ドロ。」

手札から魔法カード『ワン・フォー・ワン』を発動  
手札の『ヘル・ドラゴン』を捨て、デッキから

『ヘルセキュリティ』を特殊召喚  
さらに、魔法カード『地獄からの誘い』発動  
このカードは、自分フィールド場に、ヘルと名のついたモンスター  
が存在するときのみ  
発動が可能、手札または墓地から、レベル6以下のヘルと名のつ  
いたモンスターを1体特殊召喚する。  
俺は墓地から、『ヘル・ドラゴン』を特殊召喚する。  
俺は、レベル4『ヘル・ドラゴン』にレベル1『ヘルセキュリティ』  
をチューニング。」

馬鹿みたいに手札が良いな。  
だが、俺は自嘲しないぜっ。

「地獄より来たりし暗黒の書物よ。長き封印を解き、我が土地に現  
れよ。」

シンクロ召喚、呪殺せよ、『地獄の書物』。」  
ドロップアウトボーイ達が騒いでいるが、無視しよう。

「『地獄の書物』の効果、発動。  
手札の地獄と名のついたモンスターを1体、墓地に送ることで、効  
果発動。」

相手フィールド場のモンスターのコントロールを、1体得る。  
さあこい。『サイバー・ツイン・ドラゴン』。」  
「ああ、僕の『サイバー・ツイン・ドラゴン』があ〜。」  
「カードを一枚伏せ、ターンエンドだ。」

あれ？俺のデッキって、こんなにも展開力あつたっけ？

視点：月影

万条目よ、手札消費しすぎだ。  
だが、手札の消費量が2枚で、ダークシンクロの俺は、どうなるん

だろう。

しかし・・・十代がいきなりシャイニング・フレア・ウイングマンを融合召喚したのには、驚いた。

アイツのドローは、もはやチートだな。

「俺のターン、ドロー。」

俺は『マンジユ・ゴッド』を召喚する。

『マンジユ・ゴッド』のモンスター効果により

デッキから、『高等儀式術』を手札に加え、発動する。

デッキから『モリンフェン』『青眼の銀ゾンビ』を墓地に送り、『

闇の支配者 ゾーク』を

儀式召喚。」

へんな仮面を被ったおっさんが出てきた。

おお、きもいきもい。

「だ・・・闇の支配者 ゾーク・・・？」

「なんか怖いつすよ。」

（永理・・・エグイことするなあ。）

（全く台詞がない、特別ゲストなのに・・・。）

・・・タイタンすまぬ。

「『闇の支配者 ゾーク』のモンスター効果、発動。

ダイスロール。」

出た目は、2。

「ひひひ、スーパークリティカル、敵モンスターを、すべて破壊する。」

ゾークが闇の波動？を出し、十代達の、モンスターを滅ぼす。

サイコーだ、サイコーな状況だ。

「更に、トラップカード、『針虫の巣窟』を発動。デッキから5枚、墓地に送る。」

このカードによって墓地に送られた闇属性は5枚、よって『破滅の

邪龍 『サタン』の攻撃力は3000アップする。

バトル、『破滅の邪龍 サタン』で、丸藤にダイレクトアタック。

『ソロモン72柱の裁き』」

「うわあああああ。」

「次、『サイバー・ツイン・ドラゴン』で、十代に攻撃、『レボリ

ューション・ツイン・バースト』」

「トラップ発動『攻撃の無力化』。」

「カウンタートラップ発動『盗賊の7つ道具』。」

「えっ、ってうわあああああああ。」

あっ、やばっ、十代達倒しちゃったよ。

まあ、いいか。

その後、十代達の目をさませ、俺たちは各自自分の寮に戻った。

勿論、明日香も起こしたぞ。万丈目が。

・・・キルしか、してないような気が・・・。

後編：主人公より敵が好きです（後書き）

万丈目にオリカをつかわしたらこんなことに  
万丈目、まだいたっけ？このころ。  
では、毎回恒例のオリカ説明を開始します。

『地獄の書物』

レベル：5

闇属性

攻撃力：0

守備力：3000

悪魔族：効果

チューナー＋地獄と名のついたモンスター

手札の地獄と名のついたモンスターを、捨てて発動する。  
相手フィールド場のモンスターの、コントロールを得る。  
」

フタエノキワミ、アーーーーー（前書き）

今回は、デュエルほぼ無しです。

## フタエノキワミ、アー————

視点：永理

前回、十代達と廃寮でデュエルし、寮へ、戻った。  
恐らく、みんなはもう、寝ているだろうか……。  
そんなことを、考えつつ、ファミコンの電源を入れた。  
やはりチーオーマンは難しい。

チーターオンを何とかクリアすると不意に魚が食べたくなった。  
『出かけるんですかあ？』

「少しばかり釣りにな……。。」

『でも、もう3時ですよ？』

アバターさんたちは、もう寝ましたよう。』

「大丈夫だ、問題ない。」

たしか、釣り具は屋根裏の物置に、置いてあったはずだ。

数時間が経過しただろうか、太陽が昇り始めている。

しかたない、釣りはあきらめるか。

デッキでも、作成しますかな。

〈数分後〉

できた、最高のネタデッキ、『CCO』が。

『CCO』ってなにかって？ニコニコで調べる。

デッキテストとして、アバターとデュエルでもしますかな。

「起きろ、雑魚神、OCG効果のオベリスクで破壊するぞ。」

『あと、5分寝かせて……。』

「却下、今すぐ起きろ、燃やすよ？」

『すいません、生意気言ってますいません。』

「よし、ならばデュエルだ。」

「デュエル。」『眠い・・・デュエル。』

くデュエルはしょうりゃく「忒の秘剣、グレンカイナ。」あつつう  
いよおい。く

『また負けた・・・。』

弱い、弱すぎる。

お遊びデツキに負けるなんて。

こいつはほんとに神なのか？

『畜生、次は格ゲーで、勝負だ。』

く対戦はしょうりゃく「しゅーりゅーけん。」ぎゃあああああああ  
あく

『何故だ、なぜ負けた。』

「やりこみ時間が、違うのさ。」

『煩いですよ、静かにしてください。』

「『すんません。』」

アバターとの対決も飽きたしエグゼ4でもやりますか。

そう思いゲームボーイの電源を入れた瞬間プツンと切れた。

ドアがドンドンとなっているが気のせいだろう。

『・・・煩い・・・。』

「よし、ならば貴様が出る。」

『サーイエッサー。』

「扉を開ける、さもなくば、爆破す」『どなたですか?』「うわああああ。」

「・・・なんたる。すごい面倒事に、巻き込まれそうな気がする。」

「何の用ですか?ドリフヘアーさん。」

「誰がドリフかつ。」

「で、何の用ですか?ドリフエアーさん。」

「だからドリフヘアーじゃなくて、てかなんでそんなの知っているの?。」

「好きな番組だから。」

「古いよ、昭和の番組だよ。」

「で、何の用だ?」

「はあ、なんか疲れる。・・・ゴホン・・・」

我々はアカデミア査問委員会の者だ。月影永理  
ついてきてもらおう。「」

「・・・めんどい眠いし少しからかおうかな。」

「ついてきてほしいにゃん って言ったら、ついていじつ。」

「つな、そ、そんなこといえるかぁー!。」

顔真っ赤にして、まあまあ可愛いな。

自重しろ?だが断る。

「じゃあご主人様あゝ、学校の時間ですにゃんと、言ってもいいんだぜ。」

顔が真っ赤だなあゝ飽きた。

「おい行くぞ。」

「(恥ずかしい、でも言わなく。(えっ?あ・・・はい。」「

「だゝかゝらゝ、ペットは犬が一番だって。」

「いやいや、ペットにするなら、猫が一番でしょ。」

「ゴ○ブリもけっこう可愛いぞ。」

「……え？飼ってるの？」

「いや、可愛いじゃん。」

「……それはない。」

「ゴ○ブリを買うのは、さすがになあ。」

「少しは静かにしろ。運転に集中できん。」

酷いや。

「着いたぞ、ほら、降りろ。」

～校長室へ移動中～

どうやら退学らしい。

制裁デュエルで、負けたら退学、勝ったら無罪放免らしい。

十代と翔がタッグを組んで、俺がシングルでデュエルをすることになった。

「話は澄んだか？俺はもう、寮に帰ってもいいよな？」

「はい、一通りのことは伝えましたから、もう帰ってもいいですよ。」

「では、さ～らば。」

「ちよつ、ここは3階ナノーネ。」

ここから飛び降りるナン～テ、正気でス～ノ？」

「……無事、みたいなんですが。」

（あのドロップアウトボーイは、ほんとに、人間です～ノ？）

～少年移動中～

さて、帰ってまいりました夢のジメジメホーム。

外で、デュエルがあったみたいだけどどうでもいい。  
ロマサガを、クリア、するまで、ファミコンをやめない。

「少年ゲーム」パワーをメテオに。」あつつう。

満足満足、さて、明日の

制裁タッグデュエルのために、デッキでも作りますか。

レイド寮は、今日も平和である。

## 対戦相手はギャンプラー

視点：永理

制裁タッグ決闘当日

ね・・・眠い。

まさかデッキ制作中に新たなネタデッキが思いつきさらにネタデッキが（以下エンドレス）

ノリで7個も作っちゃったよ。

「大丈夫？」

「天上院殿、君はこの顔色で元気と思うのかね。」

「全然、昨日は寝たの？」

「デッキ作成に4時間、釣りに1時間、睡眠時間はわずか30分。いつ、どこで、倒れてもおかしくない。」

（こいつ、馬鹿なの？退学がかかっているのよ。）

うわっ、可哀想な人を見る目だよこの人。

まあ、仕方ないっちゃあ、仕方ないか。

「そろそろ時間だぞ、天上院殿。」

「私のことは、明日香でいいわ、時間ね、行くわよ。」

はいはい、元気があって、よろしい。

・・・遊戯って、伝説のデュエリストだったんだ。

まあ、がんばれ十代、嫌いだけどな。

十代たちの相手は迷宮兄弟、どこぞの配管工のカラーリングだな。

まずは迷宮兄のターンだな。

地雷蜘蛛を攻撃表示で召喚しエンド宣言。

カードを伏せるカードを

仮面コンビのほうが強いんじゃない？

次は十代のターン。

1ターン目から融合とは、チートドロもいい加減にしろ。

「いかりや「しょーりゅーけーん。」があああああゝ

十代がE・HEROフレイム・ウィングマンで、止めをさした。

それと同時に、パソコンの電源をOFFにした。

お嬢様強すぎ。

眠いけど、これで勝ったら廃寮をくれるらしい。

『裁判デュエル勝者遊城十代&丸藤翔なノ〜ネ。

まだ終わらない裁判デュエル、続きましては、

彼の有名なデュエリスト、武藤遊戯の親友であるデュエリスト、  
城之内克也なノ〜ネ。

対する相手は史上最恐のデュエリスト、彼に常識は通用しない、  
月影永理、両者デュエル場上がるノ〜ネ。』

やっと俺の出番か。

ギャラリー達がうるさい、寝てないんだから、頭が痛くなる。

「退学が懸かってるらしいが、手加減はしないぜ。」

「ふうん、凡骨デュエリストが、粹がるんじゃない。」

「凡骨つてゆるな。」

「デュエル」

「俺のターン、ドロー。」

俺は『ワイバーンの戦士』を攻撃表示で召喚、カードを2枚伏せ、ターンエンドだ。」

ワイバーンの戦士・・・

所詮凡骨は凡骨だな。

「俺のターン、ドロー。」

『キラー・トマト』を攻撃表示で召喚。

カードを1枚伏せ、ターンエンドだ。」

「『キラー・トマト』・・・その気持ち悪いペットちゃんを倒してやるぜ。」

俺のターン、ドロー。」

手札から儀式魔法『黒竜降臨』発動。

手札から『真紅眼の飛竜』を生贄にし、『闇竜の黒騎士』を儀式召喚。

そして、このカードを生贄に捧げ、デッキから、『真紅眼の黒竜』を特殊召喚。」

真紅眼ぐらいで騒ぐなや、うるさい。

あの程度、雑魚モンスターだろ。

「バトル、『真紅眼の黒竜』で、『キラール・トマト』を攻撃  
黒炎弾。」

黒竜が、トマトを焼き焦がす、香ばしい香りが当たりに広がり、充  
満する。

今日の晩飯はマルゲリータにしよう。

「『キラール・トマト』の効果発動、デッキから『ボーガニアン』を  
特殊召喚。」

「『ワイバーンの戦士』で、『ボーガニアン』を攻撃。」

ワイバーンがボーガニアンを切りかかろうとする。

どうでもいいけどワイバーンなのに戦士でトカゲ人間で獣族だよな。  
テキストやら名前やら種族がバラバラで、設定に全く統一感のない  
モンスターだな。

「畏カード『過ちの加護』を発動、このカードは、闇属性モンス  
ターが

攻撃対象に選択されたとき、発動が可能。

そのモンスターの攻撃を無効にし、そのモンスターの攻撃力分のダ  
メージを与える。」

ボーガニアンの弓から黒い光が出、ワイバーンの戦士の攻撃を防ぐ。  
・・・主人公が使うカード名じゃないな。

「くっ、ターンエンドだ。」

「俺のターン、ドロー。」

くくく城之内い、貴様にとって最悪のカードを拝ませてやる。

「さあ、ボーガニアンよ、苦痛の矢を放て。」

「へん、その程度のダメージ屁でもないぜ。」

貴様の余裕もそこまでだ。

「貴様のモンスター2体を生贄に捧げ、『溶岩魔人ラバア・ゴーレム』を特殊召喚。」

ギャラリーから、あいつバカか？相手フィールドに、攻撃力3000の

モンスターを特殊召喚するなんてとか聞こえてきた。貴様が馬鹿だヴァカめ。

「ターンエンドだ。」

さあ、もがき、苦しみ、絶望の淵へと落ちろ。」

あゝ楽しつ、城之内トラウマデッキは、使いやすいな。

「お、俺のターン、ドロー。」

「この瞬間、溶岩魔人の体が崩れ、貴様のライフを削りゆくぞ。」

ラバア・ゴーレムの体が崩れ、城之内に降りかかる。

「うつ、ラバア・ゴーレムで『ボーガニアン』を攻撃い城之内ファイアー。」

「罠カード『拷問車輪』」

「はあ？そんなのアリかよあゝ。」

ラバア・ゴーレムの、体を、拷問車輪が挟む。  
シユールだ。

「ターンエンドだ。」

「俺のターン、ドロー。」

さあ、チェックメイトだ。

「『ボーガニアン』 & 『拷問車輪』の効果で、死ぬ。」

「ぐっ、うわあああああ。」

『し、勝者月影永理なノ〜ネ。(ま、まさか城之内さんまで負けるなんて、あいつには常識なんて本当に通用しないデス〜ノ。)]

「校長先生、もう帰ってもいいですか？

寝てないので。」

「はい良いですよ。ゆっくり休んでくださいね。」

周りから外道だ、酷い、って聞こえてくるが、いったい何故だろう。

『自重しろサディストめ。。。』

「俺は女性には、マゾヒストだぞ。」

オチはないよ。

## 対戦相手はギャンプラー（後書き）

（オリカ説明）

『過ちの加護』

通常罫

自分フィールド場に存在する闇属性モンスターが

攻撃対象に選択されたとき、発動が可能。

そのモンスターの攻撃を無効にし、そのモンスターの攻撃力分のダメージを

相手ライフに与える。

このカードの発動は、無効化されない。

## 熱中症にご注意を。

視点：永理

「夏。」

「つくし。」

「獅子。」

「シルク。」

「クマノミ。」

『水色のレオタード。』

『同性愛。』

どうも、永理です。

夏休みも冬休みも終わりました。部屋にはコミケで培ったゲーム、小説、同人誌などが、散乱しています。

今万丈目たちと、しりとりをしています。

体育？ナンノコトデスカ？

「イチジク。」

「クリスマス中止のお知らせ。」

「せ？・・・せー、せー、・・・栓？」

「『『『『黒川唯一アウト、罰ゲーム。』』』』」

「えっちよまつ。」

「では、罰ゲームはくじ引きで決める。」

「『』『』おおう。『』『』」

罰ゲームは何か？さあ、引くのだ黒川唯一。

「引いたくじは、なんと初恋の相手を暴露だ。」

この罰ゲームは引いたくじで、運命がきまる。

今食べたいものから初恋の相手まで、引いた内容をすべて暴露しなければならぬ。

さあ俺を楽しませろ、初恋が叶ったってんならポッコポッコにしてやんよ。

何度もしつこく黒川唯一に、言え言えコールが、発せられる。

はい、言ーえ言ーえ言くるぶしあ。

何？何が起きたの？

十代君？なんでここに？

まさか

まさか

まさか、明日香イベントが、起こるのか？

こんな暑い中で？

態々外で？

「実はカクカクシカズカで、明日香のフィアッセを賭けたデュエルをしてほしい。」

「よしことわ」断ることは許さないよ。「誰だお前は！」

声のしたほうを、見てみると、さわやかという単語が似合言いそうな  
いかにもモテてます的なオーラを出している人がいた。

「いかにも、モテませんって人たちが、集まる場所って感じだなあ。  
どうしてこんなところでたむろってる奴が、彼女と仲がいいのかね  
え。」

OK、こいつ潰す。  
精神を完全に崩壊させてやる。

我々ゲームD E デッキ作成部を侮辱したこと、公開させてやるよ。

「「デュエ」お餅焼けましたよ。」・・・。」

少年たち食事中

ではあらためて

「「デュエル」」

「さあやってまいりました。

『第一回テニス部vsゲームD E デッキ作成部』モテる漢に殺意が  
走る。』

解説は私アバターと。』

「万丈目がお送りいたします。」

注：邪神たちは実体化したり精霊化したりします。

「僕のターン、ドロ。」

僕は手札から魔法カード『サービスエース』を発動。

このカードは、手札からカードを一枚選択し、相手はそのカードの種類を当て、当たった場合そのカードを破壊するでも君が外したら1500のダメージだ。さあ、当ててみな。」

サービスエース・・・相手はギャンブルデッキか？  
だとしたら前回戦った凡骨と被るではないか。

だが、凡骨はギャンブルカードを使って無かったな。  
もしやコレの伏線だったのか？

忘れてただけです。

『初手から『サービスエース』・・・  
出だしとしては微妙なところですね。』

「確かに、初手なら普通は『デスメテオ』が良いだろうな。  
ほんとにこいつは、あのカイザーと互角の実力なのか？」

『まあ、この世界では禁止ですからね。』

「魔法カードで。」

「残念、外れだ」

僕が選択したカードを除外し、君に1500ポイントのダメージだよ。」

得意気だなあ、でも残念。

「手札から『炎食いの餓鬼』の効果を発動。  
このカードを手札から捨てることで、カード効果によるダメージを1000減らすことができる。

そして手札の『冥府の使者ゴーズ』の効果により

手札から特殊召喚、さらに『冥府の使者ゴーズ』の効果により  
相手ライフに500のダメージだ。」

はあ、ファンデッキで唯一ガチなカードを速攻使ってしまうとは  
ライフは互角、まあ俺の勝ちだろうな主人公だし。

「くっ、僕は『聖なる魂』を守備表示で召喚し  
カードを2枚伏せ、ターンエンド。」

みよんな球体が場に現れる。

天使ごときがあ、闇へと引きずり込んでやるわ。

まあこのデッキは悪魔族はゴーズしか、ないんだけどね。

「俺のターン、ドロー。」

俺は手札から儀式魔法『高等儀式術』を発動し

デッキから『灯り火』『難破した海賊船』『竜巻』を墓地へ送り

『クラブ・タートル』を儀式召喚。

さらに手札から『オカルトファン・儀式』を、自身の効果により特  
殊召喚

そして手札から魔法カード『大嵐』を発動し、バトルフェイズに入  
る。」

『外道ですね。』

「ファンデッキでここまでするなんてな。」

「『クラブ・タートル』で、『聖なる魂』を攻撃  
クラブ・クラッチ。」

カメでありカニであるクラブタートルが  
聖なる魂をハサミの部分で殴る。

聖なる魂は潰れて、昇天してしまった。

「『聖なる魂』の効果により、『聖なる魂』を2体、表側守備表示で特殊召喚するよ。」

ちっ面倒な、こっちは早く出てっほしいんだよ。

「はあ、『オカルトファン・儀式』で、攻撃通信教育式黒魔道弾。」

普通の青年が杖に黒いオーラみたいなのを魂に投げつける。

ついでに杖も飛んでゆく悲しそうだ。

「続いてゴースで攻撃冥府斬。」

ゴースが魂をぶった斬る  
拡散した魂をさらに斬る。  
この外道め。

「ターンエンドだ。」

「ば、僕のターン、ドロー。」

モンスターを伏せ、カードを伏せターンエンドだ。

(僕の伏せたカードは『聖なるバリア ミラーフォース』  
君が攻撃したところをドツカーンだ。)

あの顔、聖バリか激流葬だな

「俺のターン、ドロー。」

モンスターを伏せ、カードを2枚セット、ターンエンドだ。」

「僕のターン、ドロー。」

カードを伏せ、ターンエンドだ。」

飽きた、決着をつけよう。

「俺のターン、ドロー。」

手札から魔法カード『ハリケーン』を発動。」

「な・・・『聖なるバリア ミラーフォース』が。」

まじでそれやったんかい。

ポーカーフェイスを覚える貴様は。

「カードを二枚伏せ

セットモンスターオープン、『メタモルポット』

手札をすべて捨て、5枚ドロー。」

手札の『ワタポン』の効果により、手札から特殊召喚。

『ワタポン』を生贄に『炎帝テストタロス』を生贄召喚する。」

『テストタロス・・・ぶっちゃけ要りませんよね。』

「あいつのデッキはゴルベージ四天王デッキ  
完璧なファンデッキだぞ。」

『でもスカルミリオネが、まだ出てませんね。』

「おそらく手札に来ていないのだな。」

「手札から魔法カード『天使の施し』発動  
カードを3枚引き、2枚捨てる。  
手札から魔法カード『二重召喚』発動し  
『オカルトファン・儀式』を生贄に捧げ  
『死霊伯爵』を生贄召喚。  
バトルフェイズに入り  
『死霊伯爵』で、ダイレクトアタック  
伯爵のレイピア。」

死霊伯爵がレイピアを出し、相手に投げつけた。  
ダーツ投げをさせてみたいな。

「続いてゴースでダイレクトアタック  
冥府斬。」

ゴースが相手を切りつける。

デュエル終了のブザーが鳴った。

テニス君が頂垂れているが、気にしない。

『そろそろ銀〇の時間だぞ。』

「マジで……」

みんな、今日はここで銀〇を見よう。

レッド寮は今日も平和である。

熱中症にご注意を。(後書き)

『炎食らいの餓鬼』

レベル：5

炎属性

攻撃力：2600

守備力：0

悪魔族：効果

このカードを手札から捨てることで効果ダメージを、  
1000減らすことができる。

『灯り火』

レベル：3

炎属性

攻撃力：600

守備力：200

炎族

怨念のこもったロウソク  
火をつけると、悪魔を呼び込む。

『難破した海賊船』

レベル3

水属性

攻撃力：760

守備力：980

アンデット族

その昔、世界中の海を支配していた海賊船。  
今は腐敗し、まともに航海すらできない。

『竜巻』

レベル2

風属性

攻撃力：400

守備力：670

雷族

意志を持った竜巻

成長したら大嵐になると信じている。

『聖なる魂』

レベル4

光属性

攻撃力：1500

守備力：100

天使族；効果

このカードが破壊され墓地へ送られたとき  
デッキから聖なる魂を2体特殊召喚する。

『オカルトファン・儀式』

レベル5

闇属性

攻撃力：1600

守備力：400

悪魔族；効果

儀式召喚に成功したとき  
このカードを手札から特殊召喚する。

おにぎりは梅がいちばん。

視点：永理

『ドローパンが食べたいですう〜。』

栄ちゃん、いきなり何言い出すんだよ。

ドローパン？あんなもん買わないほうがいいよ。

「永理〜、ドローパン買ってきたぞ

一緒に食べようぜ。」

万丈目よ・・・なんとタイミングの良い時に。  
てか、キャラ崩壊しすぎだろ。

『・・・万丈目らへんの岩場・・・  
崩れてきてるよ。』

あ〜、落ちたな・・・  
ドッポーンとド派手に。

やっぱノース校に流れるのかな。

『万丈目・・・パン持って落ちて行ったな・・・ナース服なら興奮  
するが。』

『勿体ないな〜、水に濡れたのは嫌だけど・・・白スク女子はグッ  
ジョブだが。』

『体操服なら興奮するよな。』

「おまいら自重するwww。」

『おなかすいたですう〜。』

マジで辛そうだ・・・、幽霊なのに・・・。  
幽霊って死んでるはずなんだけど  
お腹が減るらしいんだよ。

『お腹すいたずら〜。』

『ジャンケンで負けた人が買ってくるってのは?。』

『貴様・・・俺の苦手な分野で決めようとしているな・・・。』  
「擬人化しろよ。」

たしか『前編：主人公が敵サイドに入るって、どうなの?』でテストデュエルしたじゃん。」

思い出したって顔してるな。

イレイザー達まで・・・。

駄目だこいつ等・・・早く、何とかしないと・・・。

『私たち学生ではないので代わりに買ってきてください。』

栄ちゃんの頼みならしかたねえ、俺は行ってくるぜ。

『いつてらっしや〜い。』

あ、俺ジャムパンで。』

『俺カレーパンで。』

『俺はコッペパンで。』

『私はチョコパンでおねがいしま〜すう。』

・・・ドローパンでいつかあ

人性はギャンブルで十代並みにドロー力があったらたぶん引けるよ  
な・・・。

コッペパン以外……。

少年パシ「マスターースパーク。」ピチューン

「永理い、万丈目さん見なかったか。」

おや、ブルー寮の高田と清水ではないか。

「落ちてくの見た。」

隠してもしょうがない、半分正直に答えよう。

「で、何処に行ったの？」

「海にドボンと……。」

たぶん今頃漂流してると思う。」

「で、何処から落ちたの？」

「崖。」

「死んでるなそれ。」

「死んでないよ。」

今も生きているさ。」

そう……。「心のな」それ死んでんじゃねーか。」

「大丈夫だって、たぶんここ等で『レッド寮は今日も平和でした』  
で終わりだから。」

うん、心配ないな

コレギヤグ小説だし。

「メタ発言は自重しろ。」

「じゃあどこその東方ゲームの如くセピアでチンと。」  
「無理だろ……。」

こいつは事件が起こったら多分、有利なほうに付くんだろな。

「こいつは事件が起こったら多分、有利なほうに付くんだろな。」

「心の声を口に出すなよ……。」  
不可能だ。

「あゝ、俺ドローパン食べたいから  
そろそろ行くわ。」

俺は適当にそう言い残しドローパンを買うため  
購買の方へ足を急がせた。

十代はパンを買ったびに叫んでいる。

ちなみに俺は4分叫び続けたら喉と頭が痛くなる……。

なにかの病気であろうか。

「十代は元気だね。」

「アニキは元気とドローカだけが取柄だからね。」

翔にもそう思われてんだ。

「僕なんてあと相手ライフ100で相手フィールド場にはモンスター  
ーなし

互いに手札なしで引いたカードが『サイバードラゴン』っすから。」

「とりあえず不幸だっていつとけ。」

すんげー不運だなそりゃ。

「その元氣と若さを分けてほしいわ。」

「永理君は十分若いじゃないっすか。」

「見た目は少年中身は老人」

この前身体検査したら老人並だったぜ。」

「マジっすか。」

「大マジだ。」

去年なんてぎっくり腰になったからな。

つと、当初の目的を忘れるところだったぜ。」

「ふあゝ、ふえいふい。」

ふおっふおふいふえふおろーふあんふあいふいふいふあふおふあ？。

」

何言ってるかわかりません。

「翔、通訳よろ。」

「アニキは『あゝ、永理」

ひよっとしてドロパンか？』と言ってるんつす。」

「・・・通訳こんにやく頭に乘せたほうがいいかな？

あと十代、喋るのは食べ終わってからにしろ。」

通訳こんにやくは頭に乘せても効果発動できるんだぜ。

おや、妙なトリビアを読者に伝えていたら十代が食べ終わったらしい。

「残念だったな永理、黄金の玉子は盗まれたらしいぜ、残念だよな。」

で、何しに来たんだ？お前は米好きだとおもってたが。」

「別に米以外もスパゲティやマルゲリータ、ナンカレーやチーズフ  
オンデユも好きだが・・・」

邪神共 + に頼まれてだ。」

半分は本当だ。

・・・このパンでいいか。

「ぐっ・・・なにを入れたんだこれ・・・。食ったことのないの。味が、わからねえ。」

甘くなく、辛くなく、苦くない。オレンジ色が奇妙だ。

これ、かなり嫌な味だ。」

「なんか聞いたことのある台詞・・・。」

アレ・・・意識が・・・遠のいて・・・まさか・・・。

「謎ジャムかよ。」

死ぬっていうの・・・こんな感じなんだな・・・。

そこで俺の意識はブラックアウトした。

目が覚めたらベンチの上でした。

やっぱり謎ジャムはいかんよ、逝きかけたよ。

「おっ気が付いたか。」

「目が覚めて一番に見るのが美少女じゃなくて貴様かよ・・・。」

「ギャルゲのやり過ぎっすよ。」

やり過ぎ？何言ってるの？

「俺は一日最低10時間しかやらねえぞ。」

「やり過ぎっすよ・・・。」

「で、貴様らは何をやっている？」

原作知識知ってるけどな。

「永理は、ドロパンが盗まれたのは知っているよな。」

「知ってはいるが・・・それで？」

「簡単に言えば泥棒退治っす。」

なんだって、ゆるせねえな。

「何でそんなメンドクサイ事を・・・。」

「永理君・・・思ってることと口で言ってることが反対っすよ・・・。」

「腹減ったなあ・・・、帰っていいっすか？」

「お腹空いたならおにぎり食べるっすか？」

「じゃあ貰おうか。」

おっ、梅だ。

・・・ウマッこの梅ウマッ。

「まだまだあるからドンドン食べなよ。」

トメさんあざーっす。

やはり梅は最高だ。

酸っぱすぎるのがちょうどいい。

十代は涙目になっている。

まあ、普通の人にとっちゃ酸っぱすぎる・・・のか？

前までミ〇カンの酢を飲んでたからなあ。

パソコンの前の諸君。

あとでコン〇メの素を食べてみる、結構いけるから。

「なんだか昼よりピンピンしてないっすか？」

「俺は夜型で普段は明るくなったら寝る生活をしていたがなにか？」

中学時代は、だけどな。

最近はなかなか起きれなくて途中で、寝落ちしたりしていた……。あんときのユーザーさんごめん、結局リオに狩られたね。

「ドラキュラっすか……。」「

「ドラキュアはたしかドラキュア伯爵の名前のことであり種族のことではないぞ。」「

「マジっすか！！！」「

一般常識だろ。

「マジだ。」「

眠い……。でも起きなきゃな。

時計を見ると午前1時……。やばっすっげえ帰りたい。

ちなみにみんなは盗人を捕まえるために隠れた。

十代達はテーブルの下に

トメさんは机の下……。よく入ったな。

俺はパンかこの後ろに。

……。シャッター辺りが、ガタガタなっている……。嫌な予感が……。

やっぱ開いたよコンチクショー。

その馬鹿力は化け物の特権だ、ここでは常識にとらわれたら負けなのか……。

馬鹿力の化け物はパンを手を取った。  
かかったな化け物。

『そこまでよっ！！！』

びっくりしてるびっくりしてる。

さすが俺様特製防犯ブザーパッチェさん。

まあやっぱり逃げただけだね……。

やっぱ追いかけなあかんよな。

「待て！！」

十代君……待てと言って止まれば警察はいらないんだぜ。  
って足早っ着いていけねえぜ。

「ちよっ……まっ……しっ……。」

「永理君大丈夫っすか？」

「死……ぬ……。」

「頑張れッス。」

何とか追いついた……。

ああ、お花畑が見える。

嘘だけだね。

「貴様の噂は聞いているぞ。」

十代がアレとデュエルするんだろっか。

十代……とうとう人間をやめちまったんだな。

「月影永理！！俺とデュエルだ。」

「やっぱ原作ブレイクだよこん畜生。」

「なぜ俺なんだ。」

「ほんとは何故だ……。」

別にそんなにチートドロローは……やってるな。

「お前は年に一度しか入れないというメイコさん特製のジャムパンを当てたからだ。」  
マジかよ。

「と、言うわけでデュエルだ。」

「くうく、俺もデュエルしたいぜ。」

でも相手がお前を指名しているなら、お前に譲ってやるよ。  
絶対負けんなよ。」

ふっふっふ、十代君君はは僕が負けるとでも……。

「大丈夫だ、問題ない。」

「デュエル」

「俺の先行。ドロロー。」

手札は……なあにこれえ。

「……手札から魔法カード『手札抹殺』」

「手札事故かつ。」

「イエス、手札を五枚捨て、五枚ドロロー。」

墓地の『DT・デスサブマリン』の効果発動。

墓地より蘇生させる。

『DT・デスサブマリン』の特殊召喚成功時速攻魔法『連鎖する悪夢』を発動。

効果により『DT・デスサブマリン』をデッキから2体特殊召喚。そして3体のモンスターを生贄に捧げ『邪神アバター』を特殊召喚だ。」

自重しろ？よし断る。  
「な・・・なんすか・・・その黒いラーみたいなのは・・・。」  
「見たことのないモンスターだぞ。  
なんだそれは。」

そついや翔に見せるのは初めてか・・・。

「このカードは『ラーの翼神竜』を超える神のカード。  
このカードはフィールドの攻撃力が一番高いモンスターの攻撃力+1000になる。」

「インチキ効果つすね・・・。」

大丈夫だ、問題ない。

「俺はターンエンドだ。さあ貴様のターンだぜ。」

「お、おれのターン、ドロー。」

俺は手札からまひ「あっそれ無理。」なに!!!」

「アバターは召喚時に相手ターンで数え2ターンの間、魔法罫の発動を

行うことは出来ないよ。」

驚いてる驚いてる。  
でもそんな位だけだぜ。」

「なら俺はモンスターを伏せ、ターンエンドだ。」

「俺のターン、ドロー。」

俺は『ブラッド・ヴォルス』を攻撃表示で召喚。

バトルフェイズに入り、アバターで伏せモンスターを攻撃  
ダークネス・ブラッドスラッシュ。」

ブラッド・ヴォルスの攻撃名知らんから適当に名づけた。  
だって知らないんだもん。  
ドローラーだった。

「『ブラッド・ヴォルス』でダイレクトアタック  
ブラットスラッシュ。」

「ぐつ、手札の『ドローソルジャー』の効果発動、このカードを特  
殊召喚する。」

泥の兵士？なんか溝臭そう。  
攻撃力0って……。

「カードを二枚伏せ、ターンエンドだ。」

「俺のターン、ドロー。」

『ドローソルジャー』の効果発動。

手札をデッキに1枚戻すことで攻撃力を700ポイントアップする。  
手札を4枚戻し、攻撃力を2800アップだ。

バトル、『ドローソルジャー』で『ブラッド・ヴォルス』を攻撃  
マッドスラッシュ。」

泥の兵士に負ける獣戦士族って

「速攻魔法発動『収縮』」

『ブラッド・ヴォルス』の攻撃力を半減させる。

更に罠カード『死のデッキ破壊ウィルス』発動

『ブラッド・ヴォルス』を媒体に選択し発動

貴様のデッキ手札・フィールド場の攻撃力1500以上の攻撃力を持つモンスターを全て破壊する。」

「くっ、カードを伏せ、ターンエンドだ。」

よし、なんとなくオベリスク召喚しよう。

「俺のターン、ドロー。」

手札から魔法カード『悪夢の施し』を発動。

デッキからカードを4枚ドローし、5枚捨てる。

で、手札から魔法カード『死者蘇生』発動。

墓地の『オベリスクの巨神兵』を蘇生。」

「「「3幻神!!!!????」」」

「バトルだあ。」

さあ、その力を存分に発揮するがいい

オベリスクの攻撃、ゴッド・ハンド・クラッシャー。」

やっば生でみたら迫力が全然違うなあ。

「くっ、うわあああああ。」

「まだまだあ、アバターでダイレクトアタック

ダークネス・ゴッド・ハンド・クラッシャー。」

こちらは黒い方、やっばなまd（以下略）

「うわああああああ。」

「じゃ、あとはよろしくな、十代  
明日ドローパン買ってきたらラーあげるわ。」

「お、おう、また明日な。」

さて、家に帰ってひと眠りしますか。

・・・なんか・・・忘れてるような・・・。

一方その頃レッド寮では

「あ、焦らずとも料理は消えたりしないのじゃあ〜。」

『アバター、そのエビフライは俺のんだ。』

『とったもん勝ちさ。』

『パセリうめえwww』

『大徳寺先生、おかわりお願いします。』

「はいはいなのじゃ。(早く帰ってきてほしいじゃあ〜。)

視点：???

ついに見つけた・・・邪神使い。  
貴様のその汚れた心、魂ごと浄化してやるぜ。  
この・・・天界磁誠がな。

おにぎりは梅がいちばん。(後書き)

オリカ説明

『ドローソルジャー』

レベル5

地属性

攻撃力：？

守備力：0

岩石族：効果

このカードは戦闘ダメージを受けた時、手札から特殊召喚できる。

このカードの攻撃力はデッキに手札を一枚戻すごとに攻撃力を70

0ポイントずつ

アップさせる。

『悪夢の施し』

通常魔法

デッキからカードを4枚ドローし、5枚墓地へ送る。

## 神と悪魔の対決

視点：永理

「月影永理！！  
貴様にデュエルを申し込む！！」

面倒そうなやつが来たよ……。  
しかも二人も。

「永理、デュエルするのか？  
なら見せてくれよ、永理のデュエルを。」

「十代、あいつを追い払ったらレアカードをやるぞ。」  
「よし、貴様は帰れ。」

ふむ、デュエルで追い払うかあの馬鹿とデュエルするか……。  
アカデミアってスゲーな。

デュエル？見るわけねーだろ、帰ってサイレントヒルするわ。  
「あれやった後栄ちゃんガタガタ震えてたぞ。」

幽霊がホラー映画怖がつてどうする。

「怖いもんは仕方ないんじゃない？可愛かったけど。」

確かに布団に潜ってガタガタ震えて泣いてたのは可愛かった。

勿論写メも撮ったぞ。

『今日は月曜・・・大会を開催する日だぞ、サイレントヒルはまた今度だ。』

「あゝ、忘れてたわ。」

『時間だ・・・教室へ行こう。』  
どこのムスカ大佐だ。

視点：誠

「永理に挑んだ無謀者がいるらしいよ、馬鹿だよね。」

「あゝ聞いた聞いた、たしか天なんとかって人でしょ。  
命知らずだよね、馬鹿だよね。」

「・・・うるさいぞ女ども。」

ギャラリーが騒々しい、神に逆らう者をのさばらせるワケにはいかないのだ。

そもそも俺は一年では上から4番目に強いんだ、あんな奴に負けるわけがない。

「うわっ、何あれキモツwww。」

「正義のために戦いますうゝって顔、キモツwww。」

ふん、人間の雌ごときに馬鹿にされてもなんともおもわんわ。  
騒がしい、果たし状を書いているんだぞ。

『主人……そろそろ授業の時間でございます。』  
「……………」

感謝はしない……こいつは執事で俺は主人だからだ。  
こいつは俺の手駒であり、それ以上の価値はない。

月影よ……貴様の無様な負けっぷり、見せてもらうぞ。

く月影永理

眠い……相変わらず授業は暇だ。

丸藤は、本当に馬鹿だな……。  
永続魔法位誰でも知っているぞ。

「丸藤は小学生からやり直したほうがいいな……。」  
『それは言いすぎだろ……たぶん。』  
『なんかあいつ3幻神も答えられなさそうだな。』

まあ確かにな……あいつ馬鹿だから。  
「永理くん、誠って人から手紙だよ。」  
「……………」

ちなみに俺はブルーの席の前に座っている。  
よくブルー生徒でもわからない技術を聞いて来たりしている。  
俺のカリスマまじパネエ。

『俺、あいつ嫌い。』

俺も嫌いだよ。

『PDAなんか取り出してどうするんだ?』

「今週の大会は中止、俺と誠どっちが勝つかの対決、場所は廃寮、入場料400円つと。」

『・・・やはり金が貴様は。』

「金以上のものはないぜ。」

ほい、送信つと

一体何人集まるかなあ、楽しみだぜ。

『受付の人はどうするんだ?』

「受け付けはカイザーにでもやらす。

奴は新たなサイバー流デツキを望んでいる、だからそれを餌にして、利用させてもらおう。」

これも送信だぜ。

あゝ、眠いから寝たい。

もうダメ、寝るわ。

「・・・いり君、永理君、永理君起きて、デュエルの時間だよ。」

もうそんな時間か。

「起こしてくれてありがとう

ただ、腹が減った購買に買いに行く

一緒に来るか?」

「はあ、いつもいつも寝てばかりでこのままじゃ二トになるよ。」

「大丈夫だ、問題ない。」  
「問題あるよ。」

ところで、こいつ誰だ？

「あゝ、こいつ誰だって顔してる。」

まあ、会ったのは初めてだっけ。

初めまして・・・かな？永理君、月城藍です。」

藍・・・まさか・・・。

「八雲藍ですか。」

「違います、月城藍です。」

どっちでもいい  
さて、

「往くぞ。」

『我らが。』

『戦場へ。』

（少年移動中）

俺は歩みを止めない。

早く行けと言われても止めない。

「諸君、俺はデュエルが好きだ。」

淡々と喋りながらクソ天使の居場所まで足を急がす。

「諸君、俺はデュエルが大好きだ。

デッキ破壊が好きだ。

ギャンブルが好きだ。

手札破壊が好きだ。

バーンダメージが好きだ。

エクゾデアが好きだ。

禁止カードが好きだ。

絶版カードが好きだ。

1ターンキルが好きだ。

限定カードが好きだ。」

足を止めない、奴は俺のカリスマに充てられ  
雨に濡れた子猫のように震えているであろう。

「飛行船で、闇の世界で

バーチャル空間で、精霊界で

バイクの上で、地球の外で

孤島で、廃寮で

大会ドームで、ゴーストタウンで

此処以外の世界でも行われるありとあらゆるデュエルが好きだ。」

廃寮は大きい。

いつもの近道が生徒たちで埋め尽くされている。

「フィールドをBFで満杯にし、一斉攻撃で1キルするのが好きだ。」

マシユマロンを壁にした相手が絶望する瞬間など心がおどる。

対戦相手のコントロールするレアカードを奪うのが好きだ。

胸を張る対戦相手の目の前で切り札級のモンスターをコントロールを得た時など胸がすくような気持ちだった。

銃剣先をそろえたレベルの横隊が敵の戦列を蹂躪するのが好きだ。

恐慌状態の志願新兵が既に息絶えた敵兵を何度も何度も蘇生させ、心が壊れ、虚ろな目には感動すら覚える。

完璧主義の対戦相手を1ターン・キルする様などはもうたまらない。

泣き叫ぶ対戦相手が私の振り下ろしたギルファー・デーモンからの魔のデツキ破壊ウイルス、

相手の墓地から蘇生

外道のひらめきのコンボとともに

金切り声を上げるドラグニティを虫のように薙ぎ倒すのも最高だ。

たった1枚のカードで環境を滅茶苦茶にするのが好きだ。

必死に守るはずだったアイドルカードが破壊され相手の怒りを買って殺されていく様はととても悲しいものだ。

激動のあとのスライム・トークンの物量に押し潰されて殲滅されるのが好きだ。

ライコウをリバーサされ、確実にしもべを破壊されるのは屈辱の

極みだ。

諸君 私はデュエルを戦争の様なデュエルを望んでいる。

諸君 私に付き従うデュエリスト諸君

君達は一体何を望んでいる？」

観客へと聞く、勿論足は止めない。

「更なるデュエルを望むか？」

情け容赦なく殺され、何もできないまま殺されゆく糞の様なデュエルを望むか？

コントロール略奪、バウンドダメージ、高攻撃力で殴り、殴られるなどの限りを尽くし

3000世界の極楽鳥を殺す戦争の様なバトルロイヤルを望むか？

「

デュエル場へ着いた。

その真ん中に立ち、両手を広げ  
こう叫ぶ。

「高らかに宣言せよ！！」

貴様らは何を望む！！。」

『デュエル！ デュエル！ デュエル！』

今更ながらカリスマ高いな。

「よろしい ならばデュエルだ。」

我々はありつたけの運と知識を込め、今まさに手札を開かんとする拳だ。

だがこの運が体力4000の我々にただのデュエルではもはや足りない！！

闇のデュエルを！！

生き残りを賭けたバトルロイヤルを！！

我らはわずかに一個大隊、十人に満たぬデュエリストに過ぎない。

だが諸君は軍人だと私は信仰している。

ならば我らは諸君と私で総力100万と1人のデュエリストとなる。

禁止カードリストを忘却の彼方へと追いやり、眠りこけている連中を叩き起こそう。

裏世界からカードを手に入れ、レアカードをコピーし、相手を絶望の淵へと追い込み、思い出させよう。

連中に、カオスの味を思い出させてやる。

連中に、我々のバーンの音を思い出させてやる。

闇と光のはざまには、奴らの常識では思いもよらない事があることを思い出させてやる。

40以上のカードで動員令で

環境を破壊し尽くしてやる。

最後のデュエルより、すべてのデュエリストへ

目標禁止カード!!

デッキを持って、デュエルを開始せよ

征くぞ、諸君。」

・・・主人公が言うセリフじゃねーな。

『今更だけどね。』

「さあ、デュエルだ。」

・・・警戒しているか、天使のなり損ないめ。

「貴様・・・闇の者がこの世界の住人にこんなにも愛されているなんて。」

俺は認めない!! 貴様のような人間など!!

人の道を踏み外した罪人め!! 来い!! 貴様を闇へと送り返してやるう!!」

「屑天使ごときの遠吠えなど、聞こえんわ。

さあ来な

神の飼い犬ごときがっ。」

さあ、シヨアの始まりだ。

「デュエル!!!」 「きゃーひゃっひゃっひゃっひゃ!!!」

「俺のターン、ドロー。」

俺は永続魔法『エンジェルゲート』を発動

手札から『大天使ミカエル』を特殊召喚する。

カードを1枚伏せ、ターンエンドだ。」

ふむ、こいつも転生者か……。

しかし1ターン目から上級モンスターねえ……。

しかも大天使とは、破壊のし甲斐があるぜ。

「俺のターン、ドロー。」

『ゲルニア』を守備表示で召喚

カードを3枚伏せ、ターンエンド。」

まずは様子見様子見。

「俺のターン、ドロー。」

手札から魔法カード『天使収集』を発動。

デッキからレベル4以下の天使族モンスターを2体、特殊召喚する。

よってデッキから『聖なる魂』『シャインエンジェル』を特殊召喚。

3体のモンスターを生贄に捧げ、『聖神アバター』を生贄召喚。」

白色のアバターだな。

恐らく、新たなる神のカード……か。

だから天使族は嫌なんだよ。

「行けアバターよ、現世に留まる亡霊を書き殺せ

ホーリーブレス!!」

神の息吹・・・だと・・・。

こいつはヤバそうだな。

「永続罨カード『不死者の記憶』発動!!

自分フィールド場のアンデット族モンスターが破壊され、墓地へ送られたとき

デッキからアンデット族モンスター以外のモンスターを特殊召喚。

よって、デッキから『ネクロマンサー』を特殊召喚。

『ネクロマンサー』が特殊召喚された瞬間、リバーズカードオープン『連鎖魔術』発動。

『連鎖魔術』は自分フィールド場に魔法使い族モンスターが特殊召喚された瞬間

デッキから同盟カードを1体特殊召喚する。」

俺の場にインフィルにティ・ネクロマンサーみたいなのが3体現れた。

「ちっ、だか『聖神アバター』の効果により『ゲルニア』の攻撃力つまり1300のダメージを受けてもらおう。」

「ところがそうもいかねんだよ、罨カード『死者の道ずれ』発動。このカードは俺が効果ダメージを受けるとき

相手モンスターを1体破壊し、そのモンスターの攻撃力分のダメージを相手プレイヤーへ与える。

効果により『聖神アバター』は破壊させてもらう。」

神に罨は効かないと思ったか。

「残念だったな、神のカードは罫では破壊さ」「それはどうかな。」  
「なに!!」

おうおうびっくりしてる。

残念だったな、貴様より神のカードは長く使ってるんでねえ。

「『死者の道ずれ』の効果はそれだけと・・・誰が言った？

『死者の道ずれ』の効果は絶対。

つまり効果は無効にされないのさ。」

「なん・・・だと・・・ぐッ、カードを伏せ、ターンエンドだ。」

「俺のターン、ドロー。」

手札から魔法カード『苦渋の選択』を発動。

デッキから『邪神アバター』『カオス・エンド』『死体食いのグー

ル』『狂人ジャック』

『不死の人間』を選択、さあどれを選ぶ。」

迷ってる迷ってる。

まあ、どれを選んでも一緒だけだな。

「ちっ、『不死の人間』を選択だ。」

「残りを墓地へ捨て、『ネクロマンサー』を生贄に『死霊を操りし

パペットマスター』を生贄召喚。

パペットマスターの効果により1000ライフを払い

『邪神アバター』『カオス・エンド』『狂人ジャック』を

墓地より特殊召喚。

行け、『邪神アバター』よ、敵を殺せ

ダークネス・エンドクラッシャー。」

闇の波動を手から噴き出した。  
相手は苦しそうだ、だがやめるわけねえ。

「『狂人ジャック』の効果により伏せカードを破壊する。  
『狂人ジャック』でダイレクトアタック、ジャックスラッシュ。  
更に『カオス・エンド』でダイレクトアタック、エンドクラッシュ  
！」

『ネクロマンサー』でダイレクトアタック、蘇生の舞。』

明らかなオーバーキル、最高だ。  
我ながら最高のバトルだった。

「あばよ、屑天使

神のカード程度、たかが知れてる効果だ、その程度で最強だとか肅  
清とかほざくなカス。」

「・・・とめない。」

なんか言ってるよこの屑。  
面倒だ。

「貴様のようなデュエリスト、認めない。  
もう一度デュエルだ、次は貴様を倒してみせる。」

なにいつてるのこのカス。

「もう腹減ったから帰る。

貴様ごときに神のカードは使いこなせねえよ。」

野郎がどこで泣こうが知るか。

俺はチーズさえありゃそれでいいや。

## 神と悪魔の対決（後書き）

あとでコメントで言われるような気がするので先に言っときます。  
原作効果のアバターは特殊召喚できます。

オリカ説明

『エンジェルゲート』

魔法カード

手札の天使族モンスターを一体特殊召喚する。

このカードを発動するターン、通常召喚できない。

『聖神アバター』

レベル10

光属性

攻撃力：?????

守備力：?????

幻神獣族；効果

このカードは特殊召喚できない。

このカードは天使族モンスターを3体、生贄に捧げた場合のみ召喚できる。

このカードを対象とするモンスター効果、罫カードの効果を無効にする。

このカードの攻撃力、守備力は場のモンスターの攻撃力+1000になる。

このカードが相手モンスターを破壊し、墓地へ送ったときそのモン

スターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

『不死者の記憶』

永続罫

自分フィールド場のアンデット族モンスターが破壊され、墓地に送られた時

デッキからレベル4以下、アンデット族以外のモンスターを1体、特殊召喚する。

『ネクロマンサー』

レベル4

闇属性

攻撃力；0

守備力：2000

魔法使い族；効果

手札を1枚捨て、効果発動。

墓地からアンデット族モンスター以外のモンスターを攻撃表示で特殊召喚する。

『連鎖魔術』

速攻魔法

自分フィールド場に魔法使い族が特殊召喚したとき、効果発動。  
デッキから同盟カードを1体、特殊召喚する。

『死者の道ずれ』

通常罫

自分が効果ダメージを受けた時、発動。

相手モンスターを1体破壊し、そのモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

このカードの効果は無効にされない。

『カオス・エンド』

レベル5

闇属性

攻撃力：0

守備力：0

悪魔族；効果

このカードの攻撃力は自分フィールド場に存在する悪魔族モンスター1体につき

700ポイント攻撃力をアップさせる。

『狂人ジャック』

レベル4

闇属性

攻撃力：1300

守備力：1200

悪魔族；効果

このカードがフィールド場に表側表示で存在する場合

悪魔族モンスターが直接攻撃に成功したとき、効果発動。

相手フィールド場の伏せカードを1枚、破壊する。

『死体食いのグール』

レベル4

地属性

攻撃力：2400

守備力：0

アンデット族；効果

このカードが攻撃した場合、このカードのコントロールは相手に移る。

『不死の人間』

レベル2

地属性

攻撃力：900

守備力：450

アンデット族：効果

このカードが攻撃した場合

相手のデッキからカードを4枚、墓地へ送る。

たまにはシリアスもいいよね。

視点：永理

「遊戯のデツキねえ・・・」  
時間を割いて見るほどの価値があるのかねえ。」  
「夢ねえな。」

伝説のデュエリストつつたつたつてなあ。  
てかぶつちゃけ戦つてたのATMだしなあ。  
あと十代うるさい。

「折角チケット手に入れたんだから行こうぜ。」  
「チケット手に入れたの僕なんだけどね・・・。」  
「今はゲームに集中しろ。翔、レイアのサマーソルト来るぞ。」  
「えっ、ちよ、毒に・・・ポイズンになっちゃったツス。」  
「解毒薬持つてきてるだろ。」  
「持つてきてないっすよ。」  
「翔、苦虫やるから落ち着け。」

十代よ、解毒笛を持つてこい。  
なぜ苦虫だ？

「ランスで突撃。」

栄ちゃん、火炎弾に当たるよ・・・。  
あゝ、やっぱ当たったか。

ちなみにやってるゲームはモンハン2Gだ。  
翔が下位のリオに苦戦してるから手伝わってって言われて……。

『尻尾切りました。』

「今回もやられたサマーソルト。」

『腹減った……。』

いい感じにカオスってるな。  
気刃斬り美味しいです。

「竜撃砲ぶっぱー!!」

「ちよっ、アニキ巻き添えくらったツス。」

『邪魔だ邪魔だ、突撃。』

「また飛んだorz」

「閃光玉どくん。」

栄ちゃんホンマに自由だな。

一応幽霊なんだけどね、死に設定になってるね。

あ、十代の後ろにランゴスタが……。しかもレイアのファイアーに当たったし。

『畏張りますね。』

「では、捕獲の方向で。」

「サー・イエッサー。」

栄ちゃんが落とし穴を張り、レイアが穴に落ちた。  
いまだあああ。

「麻醉玉発射。」

「隊長!!! 麻醉玉を忘れました!!!」

「構わん、麻醉玉があるものだけが投げろ!!」

2発ぐらい投げたら捕獲できました。

脳内BGMはFFの勝利のファンファーレです。

『逆鱗ゲット。』

「逆鱗ゲット。」

「逆鱗ゲット。」

「僕だけ逆鱗なしツスカ。」

『これ遊戯王小説つすよね……。』

『「大丈夫だ、問題ない。」』

「メタ発言自重するツス。」

『ところで俺の隣にいる人って誰?』

イレイザーの隣?

あ、イエローの制服の人……。

『「いたんだ、三沢。」』「いたんだ三沢君。」

「いましたよ!!」

いや、だってねえ。存在感が全くなくなってさあ。

・・・ホラ、この小説三沢の出番なかったじゃん。

三沢vs万丈目も崖から落ちてなくなっただし。

だからもう出てこないと思ってたり。

「全く出てこなかったしなあ。」

「三沢君、存在感が全くないツスから、ねえ。」

「ぶつちやけ外国のデイグマみたいな状況になってたと思ってた。」

『で、この人誰?』

『そんなことよりおうどん食べたい。』

「orz」

マジで忘れてた。

だってもう出てこないかと。

作者も忘れてたと思ってたから。

・・・文化祭で活躍させてやるっつん。

「あ、もうこんな時間ッス、僕たちはそろそろ帰りますッス。」

まだ22時だぞ。

「じゃあ明日、校舎前で。」

「ああ、じゃ、おやすみ。」

「どうせ俺なんて・・・俺なんて。」

三沢うるさい。

『うんうん、その気持ち分かるよ。俺も最近出番がなくなってきたから。』

「お前ら帰れ。」

『ポケモンはガキの遊びじゃねーんだよ。』

『栄ちゃん強すぎ。』

『お腹空いた〜。』

「早く寝ないと貞子さんが来るぞ〜。」

『『『『おやすみ』』』』

寝るの早ッ。

俺も寝ないとなあ。

夢の世界でぐらい彼女できてもいいよね。

いや〜、久々にグツスリ寝たわ〜。  
気分もいいし、亡霊たちも見えるし、ドロ〜パンでチョコパンたるし、いい朝だ〜。

『2時に寝て5時に起きてピンピンしてる貴様は何もんだ。』  
人間です。

ちなみに今日は休日である。

でも、休みの日に早起きって誰でもやるよね。

・・・やることねえ〜。

マジで早起きしてもやることねえ〜。

誰だ早起きは3文の得って言ったのだれだ。

・・・ブルー寮周辺にでも行くか。  
蝉取りに。

カブトムシ捕れちゃったよ。

しかもいやな奴に出会ってしまったよ。

誰が呼んだか黒光りするG

まさにキモいよ黒い悪魔。

『呼んだ？』

呼んでません。

「何してんだ、お前。」

おや、君は高田君じゃあないか。

全くデュエルしていない高田君じゃあないか。

「見て分かれ。」

「わかるか！」

やれやれ、少年の頭は柔軟ではないのかねえ。

「天なんとかのために黒くてカサカサ動いて背中がテカテカしてて妙に動きが速いやつを捕まえようとしているのではないか。」

「要はゴキリだろ。」

「高田、オブラートに表現しろ。」

『てか、そろそろ展示の時間だぞ。』

・・・忘れてた。

「俺には用事があったんだ、というわけでアデュオス。」

「どこのタキシード仮面だ。」

別にピチピチフレッシュの女子が好きなわけではないぞ。

別に可だけど。

午後10時・・・いつもなら貯まりに貯まったゲームの攻略で忙しい時間である。

・・・高校生スケジュールじゃねえ。

普通高校生って幼馴染が起こしに来たり朝飯作ってくれたりして朝を迎え・・・死が向かってくる気がする。

恋人なんて都市伝説です、実在しません。

自分の思考回路が悲しくなってきたな。

「お、永理じゃないか、おーい。」

「カブトムシが見えるツス。」

「やっと来たか、遅かったな。」

「三沢君、いたの？」

「三沢、いたんだ。」

「君たちより早くいたんだが・・・てか挨拶したじゃないか。」  
「モブと思つてた。」  
「orz」

また落ち込んでるよ。

「マァンマミイイイイイイアアアアアア!!」

どうでもいいけどクロノスの肌つてやっぱり京都のアレなのだろうか。どうでもいいけど。

「クロノス先生の悲鳴!!」

「扱けたのかな。」

「タンスの角に小指をぶつけたんだらう。」

「まあともかく悲鳴のしたほうへ行つとけ。」

ほんつと自由だなこの小説。

で、やっぱり原作のごとく盗まれてました。

「なにちよつと前の三沢の格好してるんすか。」

「三沢?そんな生徒見当たりませ〜んが。」

「ここにいます!!」

見失つてた、ミストボディ装備してんじゃね?  
やっぱ探さなあかんのかなあ。

「うわあああつ!!」

今の声は・・・あのガキか。。。  
なんで岩場なんだ神楽坂、こっちは塩が弱点なんだぞ。

・・・幽霊みたい？ちがう、俺は悪魔だ。（使用するモンスターの種族的な意味で。）  
自重しろ？自重してほしいならコメント欄にそう書けばいいじゃない。  
そうすれば考えるぞ、考えるだけだがな。

「くつくつくつくつく、この力だ、伝説のデュエリストのデッキを持った俺はもはや誰にも止められねえ！！  
この俺にたてつく奴はこのデッキで葬り去ってくれる！！俺は最強なんだ！！」

あの程度で伝説って・・・どうなのさ。  
ぶっちゃけカイザーとか凡骨とかのほうが伝説のような気がするけど。主に運全般的な意味で。

「で、翔  
あそこでサイコーにハイッて奴だみたいなのになってるのは誰？  
知ってるけどな。」

「遊戯さんのデッキを盗んだ人だよ。  
返してもらおうとしたらこのとおり負けちゃって。」

・・・煩いなあ、あいつの声。  
こっちは頭痛つてのにさあ。  
あゝ、頭痛い。

「おいそこの黄色、デュエルしろよ。」  
この世界なら、たぶんこれで通じる。  
俺なら逃げるけどな。

「なんだお前は。」

「わが名は土のスカルム……一般人だ。」

盗人君、デュエルでこの俺が勝ったらそのデッキを返してもらおう。

「

そこ、神のカードを使っているからって一般人じゃねえだろうって思わないっ!!

まあ、このデュエルを受けるような馬鹿はいないよな。

「いいだろう、受けて立つ!!」

貴様もこのデッキの錆にしてくれるわっ!!」

受けちゃったよこの人。

大丈夫かこのデュエルアカデミア。

「デュエル!!」「ぎゃーひゃっひゃっひゃっひゃっひゃ!!」

「俺の先行、ドロ。」

先行とられました、そろそろ1キル止めようかと思いません。  
ちなみに別にスキエルは使いません。  
キチアーノではありません。

「魔法カード『融合』発動、『幻獣王ガゼル』と『バフォメット』  
を融合

『有翼幻獣キマイラ』召喚、ターンエンドだ。」

いきなり融合……チートキャラめ。

「俺様のターン、ドロカード。」

なぜバクラ風かって？  
気分さ。

「魔法カード『悪夢の施し』発動、デッキからカードを4枚ドロ―し、5枚墓地へ送る。」

そして魔法カード『死者蘇生』発動。さあ、我が勝利のため、起動せよ。『ラーの翌神竜』！！」

「神のカード・・・だと・・・。」

「もうなんでもありツスね。」

さすが神のカード、灰になりそうだぜ。  
つてか熱っ、ラーの周り熱っ。

「ラーの攻撃力は自身のライフをラーに1になるように捧げ、払った数値分アップさせる。」

よってラーの攻撃力は3999だ。

行けラーよ、その魔物を焼き払え！！ゴッド・ブレイズ・キャノン  
！！」

おゝ、炎がスゲエマジパネエ。

さすが神のカード、現実じゃライフチュッチュギガントだけどな。

「ぐ、うわあああ！！」

どんな攻撃方法かって？ググレ。

「くっ、だがキマイラの効果により『バフォメット』を  
特殊召喚。」

「メインフェイズ2に魔法カード『融合解除』

選択するのは『ラーの翌神竜』」

「なっ、ラーは融合モンスターではないはずだ。」

バトルタワーのアレを見ていないのか貴様は。  
やれやれだぜ。

「カードを2枚伏せ、モンスターを1体伏せる。  
このターンは終わりだ、再び墓地へ舞い戻れ。」

いっぺん言ってみたかったんだよね。

どうしてOCGではラーになってしまったんだ。

「俺のターン、ドロー。」

『マンジュ・ゴッド』を召喚、効果発動。

デッキから『高等儀式術』を手札に加え、発動。

デッキから『青眼の白竜』を墓地へ送り、『カオス・ソルジャー』  
を儀式召喚。」

・・・どうでもいいけど暑そうだなソルジャー。

仮面だし、鉄だし。

「行け、『カオス・ソルジャー』」

モンスターを切り裂け！！カオス・ブレード！！」

やはり遊戯のデッキでも、基本的なプレイングは一緒か。  
遊戯なら社長の嫁を蘇生させ、大ダメージを狙うだろう。  
ちなみに嫁ドラゴンはレプリカだ。

一般に発売されているカードだ。

・・・レア度高いけど。

「破壊された『ニユードリア』の効果、発動。  
このカードが破壊され、墓地へ送られたとき、破壊したモンスターを破壊する。」

「なっ、卑怯な!!」

卑怯？ありがとう、最高の褒め言葉だ。  
だが、まだ俺のコンボは終わってないぜ。

「罨カード『蘇生の石板』」

このカードは戦闘によって破壊され、墓地へ送られたときその戦闘によって破壊されたモンスターを蘇生させる。  
つまり、『ニユードリア』召喚!!」

死者蘇生の罨版です。

ひゃーはっはっはっは。

主人公として、このカードはどうなんだろう。

「くっ、ターンエンドだ。」

バフオメットを守ったか・・・。

所詮貴様のレベルじゃあ、その程度か。

「俺様のターン、ドローカード。

魔法カード『左腕の代償』発動。

手札をすべて捨て、デッキから魔法カードを手札に加える。  
俺が手札に加えるのは『天よりの宝札』。」

一応レアカードなんだけど、このデッキには3枚入っている。翔も突っ込むのが疲れたのか黙っている。

「『天よりの宝札』発動、互いのプレイヤーはデッキから手札が6枚になるようにドローする。貴様は3枚ドローしな！！」

6枚ドロー美味しいです。

「永続魔法『エクトプラズマー』発動。『怨念のキラードール』を召喚。更に手札2枚をコストに『魔法石の採掘』発動。

『死者蘇生』を手札に加え、発動。

『死者蘇生』で蘇生させるのは……

社長の嫁。」

「なぜに嫁ツスカ？」

翔よ、小さいことを気にしてるから背も小さいんだぜ。

「行け青眼

目障りな摩獣を焼き殺せ。滅びのバーストストリーム。」

さすが社長の嫁、強いな。

「『ニードリア』で直接攻撃。

エンドフェイズに社長の嫁を生贄にし、貴様にダメージ、止めだ。」

はい止めシヨボイです。

そしてキラードール可愛いです。

「くっ、俺は間違っていたのか・・・？」

「強奪は犯罪だからなあ、間違ってたっちゃあ間違ってたかな。」

敗北のショックで頂垂れたまま話しかけてきた。

関係ないがすごい髪だ。

他の小説なら慰めの言葉をかけるのだろうが俺はしない。

闇は黙って消え去るのみ。

「・・・さて、他の奴が来る前にとっととずらかりますか。」

表向きは翔が倒したってことにしておけばいいし

俺は正義には似合わなすぎる。

俺は邪神で十分だ。



PDAからメールが届いた。  
しかし、シリアスに決めている場面でナイト・オブ・ナイツは  
ないだろ。

件名：破壊の闇

奴を我らが同志に引き入れても良いのではないか？

我らの闇を集めるために……。

妬みを集めるために……。

殺意を集めるために……。

返信を待つ。

教祖様。

「……ちようどいいかな。

……あいつ程度の實力なら、消えても……。」

デュエルアカデミアから。

恋愛？そんなの幻想です。偉い人にはそれが解らんです。

視点：恒例の永理

『前回までのあらすじ

破壊の闇はモテない人の集まりです。』

「台無しになること言うな。」

「何の話をしているのにゃー。」

まあ、それは置いといて、転入生の紹介にゃあ。」

編入生、ねえ……。

あ、HDDの容量が限界に近いんだった。

「寮長殿、ハードディスクドライブの容量が限界に近いので部屋に戻るとききます。」

「だめですにゃ。」

……ですよね〜。

『エビフライおかわりですう〜。』

「わた……僕の実在感ゼロ!?!?」

さすが栄ちゃん、通称エアークレイカー。

でもそんなところがまた可愛い。

変態……いいえ、紳士です。

ピチピチフレッシュな女子高生が好きなんて言いません。  
変態という名の紳士です。

「早乙女君には、永理君と一緒にの部屋ですんでもらうわ〜」『エビフライ

「いまだですかあ〜」

「ちよつ、アバター君僕のエビフライ取らないでよ。」

「弱肉強食、早いもん勝ちさ〜。」

「肉を食べたい〜。」

アバターが翔のエビフライを食べ、翔が文句言つてアバターのエビフライを取ろうとしたらなんやかんやでデュエル。イレイザーは肉が食べたいらしい。

・・・カオスだ！の一言に尽きる。

「・・・幼女水着特集何処やったっけ。」

「知らん、俺に聞くな。」

「僕が完璧に空気!？」

「仕方ない。」

だつてキャラ濃すぎだからねえ。

「米をだせええええええええええいやあああああ!?!?!?!」

「ドレッド黙れ。」

「すいません・・・と、みせかk「マツスルスパーーク。」ぎ

やあああああ!?!?!」

「・・・幼女の匂いがすr「筋肉バスターー」ぎゃああああ

!?!?!」

視点：レイちゃん可愛いよレイちゃん

レッド寮、カオスつて聞いてたけど、ここまでカオスだとは思わなかったです。

・・・亮様・・・レイは今行きます。亮様の所へ。

あの黒い服を着た人たちはなんだろう……。  
レッド寮の生徒ではなさそうだし。  
てか寒い！超寒い！  
あと怖い、あの女の人人間じゃない。

「では、解散、早く寝るにやよ。特に永理君はできるだけ夜に起きないでくださいにや。」

「尿意だ、仕方ない。」

「……。年寄りですかにや？」

「年寄りではない。思春期真っ盛りのいたって普通で健全な男子生徒だ。」

「健全な男子生徒はコミケなんか行かないと思うにや。」

『エビフリヤああああああああああああひゃひゃひゃひゃひゃひゃひゃあはははあははは。』

……。お母さん、ここは地獄です。

常識なんて通用しません。

「大徳寺先生、ここはいつもこんな感じなんですか。」

「どちらかというとまだソフトなほうにや。」

なにそれ怖い。

お母さん……。私はデュエルアカデミアに入ったことを後悔します。

「良い子は寝る時間にや。みんな、解散にや。」

寮長も適当ですね……。

く次の日く

「あの・・・これ、なんですか？」

「カレーだ。」

「すんごい真つ赤なんだけど。」

「目が、目が痛い。」

「何入れたのこれ。」

「ハバネロだ。（本当はデソースだけどな。）」

「食べたら口の中痛いとお腹が痛いで大変だった。」

「永理さんはなんで大丈夫なの？」

「てかなんで朝からカレーなの？」

「あとなんで幽霊がいるの？」

「なんで幽霊がカレー食べてるの？」

「なあ、時間・・・大丈夫か？」

「・・・あ、忘れてた。」

「こりゃ完璧に遅刻だな。」

「笑ってないで早く食べてよ。」

「もう間に合わないけど・・・。」

『レイちゃん、一緒にストファやろう。』

「えっ、別にいいけど・・・。」

「？ B ？ならできるだけだけど、まさかレバガチャのほうとは・・・」

もう突っ込みどころがあり過ぎるよ！

あと栄さん強すぎるよ！

なにあのガイル！歩きながらサマーソルトやってきたよ！  
高橋名人もびっくりだよ！

結局クロノス先生がやってきてストファは中断になった。

・・・永理さん、貴方は一体何者ですか。

授業は難しかったなあ、錬金術とか解んないし。

永理さんは僕の恋を応援してくれるらしい。

僕の恋、叶うといいな。

視点：永理

恋する乙女ねえ、青春だねえ。

おじさんは青春の88%をゲームに費やしたね。

さて、レイちゃんはたしかカイザーに告白　フラれる　十代に恋  
弾ぜろ。

あれ、なんか違うな。

レイちゃんカイザーに告白　フラれる　俺が慰める　夢オチでした。

絶望

やっぱり違う。なにかが違う。

レイちゃんカイザーに告白 くつつく カイザー死ね

どうして俺の頭はこう、ネガティブなのかね。

「なにしてるの？早く行くよ」

そっぴい俺の手を握ってきた。

・・・もう思い残すことはない。死んでもいいや。

「永理さん！鼻血が凄いやー！！」

「大丈夫、少し目が霞んでるだけ。」

「それ大丈夫じゃないよねー！！」

「大丈夫、死にやあしないよ。」

「なにやってるんだお前ら。」

あ、亮さんだ。

「俺の初登場時に鼻血、貴様まさかペドかつ！」

「せめてロリって言え。」

「永理さん、保健室行こうよ。」

さすがにヤバイよ、1リットルぐらい出てるよー！！

何言ってるんだレイちゃん、俺なら大丈夫だぜ。

「まだ、大丈夫だ。」

初めてのエロ本読んだときに比べ・・・。」

レイちゃん、上目使いは、反則、だぜ。

「ぶはあ!!」

「え、永理さーん!!」  
「亮さん!! 救急車を、救急車を呼んでください!!」

「学園に救急車はないぞ。」

目が覚めたら、知らない天井だった。  
この匂いは、保健室か。

「目が、覚めたか。」

カイザー……か……。  
なぜカイザーが？

「あの後大変だったんだぞ。」

制服は汚れるわお前を運ばなきゃならないわで。」

「そう、スマヌな。」

ところで、レイちゃんは？」

「レイちゃんなら帰ったぞ。」

お前に言伝を頼まれてな。」

レイちゃんが言伝？

俺そんなフラグ立てたっけ？

「また来ます……だよ。」

また？

・・・文化祭の事かな？

あの後、勿論寮に帰ったよ、俺は。

レイちゃんが居なくなつて広く感じるけれど、すぐに慣れるよね。  
すg『永理さーーん、テレビから、テレビから人が!?!?』

静かにならないかなあ。

しゅ、主人公がいう台詞じゃないよね。

視点：永理

代表・・・みんなは代表に選ばれたことがあるだろうか。  
生徒会会長とかなら選ばれたりするだろう。  
なぜ俺が？それと十代が相手なら86%負ける自信はあるアルヨ。

「お断りいたします、その日は黒魔術で実験がありますので。」  
「く、黒魔術！？ま、まあそれは置いといて、そこを何とか・・・。」

嫌だよメンドクサイ。  
なんで俺が。  
代表で出てもバーンデッキで決めるからな。

「メールが入ったみたいですので、席を外してもよろしいですかな。」  
「あっはい、いいですよ。」

立ち話だけだな。  
そう心の中でどや顔しつつ、俺は廊下へ出た。  
なにになに

文名：満月栄

文件：無題

永理さん助けて・・・貞子さんが・・・貞子さんがあ。

何があつた我が寮よ。

「何してるのそんなところで・・・。」

おや、何時ぞやの藍様ではないか。

「何の用・・・月城さん。」

「その言葉、そのままそっくりあんたに返すわ。」

「メールを読んでただけだ。」

「メール？」

まあいいわ、今日はあなたに紹介したい友達がいるの。」

これまた面倒なキャラを連れてきたなあ。

よりもよってこいつとわな。

「貴方があの伝説の作家、百合白ランの小説を持ってって聞いたから華麗に参上！」

大庭ナオミ、参上！」

TFとキャラが全然違うじゃねーか。  
なにこのハイテンション。

「なぜに参上を2回も言ったんだ？」

「大切なことなので2回言いました。」

あっそう。

「さあ、百合白ランの小説とついでに百合漫画を私に売りなさい！」

「1冊756円です。」

「買った!!」

元気だなあ。

まあ小遣い稼ぎにやあなるか……。

「で、何をしてたの？少佐君。」

「で、何をしていたのですの？大隊指揮官さん。ついでにゲームも売りなさい」

「俺は別に吸血鬼を倒したりしないぞ。

ちよこつとメールが来たんで見てただけだ。プレミアがついてる妹と姉のラブコメのやつ90000円な。」

何処の少佐だよ、まったく。

そりゃあさ、射的で全弾外したけどさ。あれはライフルだぜ、だからノーカンだよな。

「もしかしてアカデミア代表とか？」

「まあ実力だけは認めますけど……代表って性格では……。もう少し安くなりますの？76000円。」

「藍様正解、あと大庭さん性格のほうは触れないでくれ。

安すぎる、84000。」

「まあ顔は普通ですからね。買いましたわ。」

おうおう、ブルジョアは違うねえ。

一気にこんなにも金が。

あとやっぱり性格が違うねえ。

ん、メールだ。

文名・満月栄

文件：無題

永理さん、テレビから、テレビから人があゝ。  
呪怨を、呪怨をゝゝ。

めそ。

栄ちゃん呪怨をどうしたの！？それとめそってなに！？めそって！？

『で、めそってなによ。』

「しらねーよ。」

「誰と話してるんですの？」

まあ、いいですわ。

「一応出ておきなさい、校長の頼みですので。」

メンドクサッ。

「メンドクサッ。」

「わざわざ口に出さなくても」

「一応でておきなさい、百合ゲーあゝ」よし、出るぜ。「そ、そっ

。。。

いざ、戦いの舞台へ。。。。！

〈学園対抗デュエル、予選当日〉

視点：十代

「なあクロノス先生、永理はまだ来てないのかよ。」

楽しみにしてたのになあ。

「そう焦ることもないノ〜ネ。すぐに来るはずデス〜ノ。」

まだかなあ、早くデュエルしてえよ。

ん、明かりが消えてる、まさか・・・。

「はははははははははは。」

あの声はッ！

「おい、あれはなんだ!!」

「鳥か!!!?」

「飛行機か!!!?」

「いや違う!少佐だー!!」

スポットライトが声のしたほうへ向けられる。

「諸君、待たせて悪かったねえ、最恐の悪魔族使い月影永理ただ今  
参上!!」

諸君に最高のデュエルをお見せしよう!!」

永理ってあんなキャラだっけ?

視点：永理

たまには目立つのもいいなあ。

あとみんなノリがいいねえ、おじさんはりきっちゃうよ。

「さあデュエルスタートだ!!」

「一応それ言うの私なんでスゝガ。」

「デュエル!!」 「ゲームスタート!!」

「まずは私のターン!ドロー!

さあ、出番ですよ『熟練の黒魔術師』召喚!!

そして手札から『永続魔法』前線基地』発動!!

手札から『W ウイング・カタパルト』を特殊召喚!!カードを1枚伏せ、ターンエンドデース!!」

やばッ、このキャラ楽しッ。

ちなみに使用デッキはブラック・マジシャンとVWXYZのアレだ。

「俺のターン、ドロー!

手札から魔法カード『強欲な壺』発動!

いきなりですかい。

「『融合』発動!

手札の『E・HEROエンシャント』と『E・HEROプリズマー』を融合!!

こい、『E・HEROオヘブズ・ガイ』!

「こ、攻撃力2800、だど……。」

いきなりそれはないでしょ。

「行けエエエエへブンス・ガイ！！エンジェルシューウウウトオオオオオオ！！」

やばいやばい、大分とやばい。

はア、まさかこんなにも早く使うことになるとはなア。

「罨オープン『基地爆破』発動！！

このカードは『前線基地』を破壊することで相手モンスターの攻撃を無効にし、デッキからカードをドローする！！」

ピンポイントだなあこのカード。

とりあえず作ってみたけど・・・使い道が限られてるんだよなあ。

「カードを2枚伏せ、ターンエンドだ！」

「私のターンですね、ドロー！」

魔法カード『強欲な壺』を発動！デッキからカードを2枚ドローします！

『熟練の黒魔術師』を生贄に捧げ、来なさい『ブラック・マジシャン』

もうみんなびつくりしない、なれたっばいなあ、おじさんちよつと悲しいよ。

ちなみに色はパンドラさんの奴。

「さらに、『？タイガー・ジェット』召喚！

行きますよ、ドッキング！！『VWタイガー・カタパルト』合体召喚！！」

男の夢だよね、合体。ちなみに合体召喚は勝手に名づけた。

「タイガー・カタパルトの効果により、憎き英雄を守備表示にし、  
『ブラック・マジシャン』に『蝶の短剣 エルマ』を装備し  
行け！タイガー・カタパルト！！

メガ粒子砲！！」

「ビグザム！！？」

なぜ知ってる丸藤翔！

「畏カード『ヒーローバリア』を発動！  
相手モンスターの攻撃を無効にする！」

「ならば『ブラック・マジシャン』で攻撃！パピ ヨン光線！」

やっぱり装備魔法はネタに走らないとねえ。

で、攻撃はというとブラック・マジシャンが杖を捨て、「蝶、サイ  
コーー」と言いながらヘブンス・ガイを殴り、杖を拾いに行った。

・・・すげえよ海馬コーポレーション。

まさかうる覚えネタまでにも反応するとは。

「まだまだあ、速攻魔法『光と闇の洗礼』を発動！

デッキより出でよ！『混沌の黒魔術師』！」

出てきた瞬間「今夜の俺はあア、ジエントルマンキャラなのよ。」  
って言ってた。

やっぱりスゲーぜ海馬コーポレーション。

ネタも欠かさず入れるってか。

「効果により墓地の魔法カード『強欲な壺』を手札に加えるぜ。行けえい、混沌魔術師、カオス・ブラフアム!!」

「攻撃名ちげえよ!!」

「はーはっはっはっはっはあ、小さいことを気にしたらだめだぞボウズ。

名前?ノリで付けたに決まってるじゃない。

あと声が若本になってきた。何故に?

「ちょッ、声がおかしいってうわあああ!!」

俺、中二病になったかも。

「『強欲な壺』を発動し、ターンエンドだ。」

次のターンにライトニング・ボルテックスを浴びせ、止めをさしてやる。

アレ、これ、死亡フラグ?

「なんだかわくわくしてきたぜ、俺のターン、ドロー!

『天使の施し』を発動、デッキからカードを3枚ドローし、2枚捨てる。

さらに魔法カード『ミラクルヒュージョン』発動!!」

「いまさら融合したって無駄だが、貴様の融合デッキには攻撃力2800以上のモンスターは入ってないはず俺様の勝ちだ!」

「このカードが、俺を勝利へと導いてくれる。こい！」E・HER  
Oフレーム・ウイングマン』！」

「だかそいつじゃア攻撃力がたりねえなあ。次のターンで貴様に落  
雷を落とし、直接攻撃で決めてやるぜ！！」

あ、これ死亡フラグだ。

「ヒーローにとっちゃアこのフィールドは殺風景すぎるぜ。フィー  
ルド魔法『摩天楼スカイクレイパー』発動！！」

負けましたーっと。

「行っけエエエエ『混沌の黒魔術師』に攻撃！スカイクレイパー・  
シユート！！」

「だ、だか『混沌の黒魔術師』は破壊されたら墓地へと送られる、  
次のターンで俺の勝ちだ！」

だがあの伏せカードが気になるが、まさか。

「そんなことは百も承知だぜ！永続罨発動！！『王宮の鉄壁』！！」

まじでかよ、だから主人公は嫌なんだよ。

「フレーム・ウイングマンの効果発動！永理のライフに直接ダメ  
ジを与える！」

まさかとは思うがあのカードを使ったりしないよな、無罪釈放パー  
ティーであげたあのカードを。

「これで止めだ！『火炎地獄』を発動！！」

やっぱり来たよこのご都合主義の塊めツ。

「ぐツ、たとえこの場で死すとも・・・闇は消えん・・・貴様らが存在する限り、私はよみがえ、ぐはあツ！！」

ノリで言いました、後悔はしていません。

「し、勝者、遊城十代ナノ〜ネ（なんなノ〜ネあのセリ〜フわ。）」

「ガツチャ、楽しいデュエルだったぜ。」

「負けた、だが次は俺が勝つ！またその日までサ〜〜ラバ〜〜！」

視点：十代

腰に引つかかっているワイヤーに引つ張られ、どこかへ行ってしまうた。

「ちょッ、引つかかっているよ、服が引つかかれて、まッそんな無理やり引つ張つたら・・・！！」

な、なにが起こってるんだ！！

「だからダメだって、死ぬから、苦労して作った衣装が、あッ、仮面が落ちた、パピ ヨン仮面が踏むなヒビが入って・・・！！」

大変そうだなあ・・・。

「あの服、凄い派手だったノ〜ネ。いくら位でシヨ〜カ？」

クロノス先生、買ったあの服。

「えッ、オチがないから落ちろって、ちょつまッイ、エアアアアアアアアアアアアアアアアアア！」

しゅ、主人公がいう台詞じゃないよね。(後書き)

どうもナムです。

「永理です、しかしなんで今回は俺たちが後書きに出てるんだ？」  
他の小説見てたらやってみたくなくなったからさ。

「お前、それ駄目だろ。」

まあ小さいことは置いといてオリカ紹介しようか。

「逃げたな。」

くオリカ紹介く

『E・HEROエンシャント』  
レベル8

光属性

攻撃力：2600

守備力：1500

天使族；効果

このカードを生贄に捧げることで墓地からHEROと名のつくモンスターを1体

召喚条件を無視し、特殊召喚する。

このカードは墓地から特殊召喚することはできない。

『E・HEROヘブンス・ガイ』  
レベル10

光属性

攻撃力：2800

守備力：1700

天使族；融合

『E・HEROエンシャント』 + 『E・HEROプリズマー』  
このカードは融合召喚でしか、特殊召喚できない。

このカードが戦闘を行う場合、相手モンスターの効果を無効にする。

『基地爆破』

通常罠

相手モンスターの攻撃宣言時に『前線基地』を破壊することで、相手モンスター

の攻撃を無効にする。

「で、本当のところなんで今回は後書きを、前まで『ネタが思いつかん、たまに書くぐらいなら書かないでおこう』って言ってたじゃん。」

まあ、ちょっとしたアンケートを取ろうと思ってな。

「アンケート？」

ほら、永理の部屋って色々とおかしいじゃん。  
レバガチャのストファとか。

「あゝ、あれね。」

アンケートで5人以上部屋の構造を見たい！プロフィールとか見たい！って人がいたら書こうと考えてる。

「ふむなるほど。」

プロフィールが見たい！部屋の構造が見たい！どこが違うかわからないから詳しく書いてっ、て人は感想欄に書いといて。ついでにオリキャラも募集する。

「性格が改悪になったりするかもしれないぞ、作者が作者だし。」

どついう意味だてめえ、募集するキャラは見た目、性格、使用デッキ、性別などを書いてくれ、書かなかつた場合勝手に決める。

「それじゃ、また次の更新でお会いしましょう。」

生きてたら更新します。

それではまた次回お会いしましょう。サヨウナラ〜。

あの後どうなったの？

「布切ったよ、苦労して作ったのに。」  
ドンマイ。

太陽神がデュエルって想像できん。

視点：永理

学園対校試合・・・凄かったなア・・・。

十代の後攻1ターンキル。

流れとしてはフレイム・ウイングマン スカイクレイパー ミラクルフュージョンで総攻撃！

『すいませ〜ん、さださだ宅配便で〜す。ハンコお願いしま〜す。』

「あつ、はいどうも。」

『またのご利用、お待ちしております。』

そう言いながらテレビに潜って帰った。

さて、東方花映塚でもやりま〜す。おい、家具運ぶの手伝え！」え〜。

「住まわしてやるだけでもありがたいと思え。」

「俺だつてこんな薄気味悪い場所は嫌だが・・・仕方ないだろ。」

気味が悪いって・・・そりゃ異世界に繋がったりしている地下室はあるけどさア。

幽霊いるけどさア。

『万丈目のアニキ〜、この部屋、凄いポスターの量だね〜。』

『見たところかなりのレア物ゲームも山積みだ〜。』

『でも女の子を部屋に入れるにはちよつと。』

『こいつに彼女はいませんよ・・・。』

『俺の能力つてさ〜、原作では神には効かなかったんだぜ、俺の能

力意味なくね？』

『俺なんか人任せの神って言われたし……。』

精霊が増えたらだいぶとうるさい……。』

てか霊使いの精霊来てくれマジで、ここむさ苦しい。てか何、なんで俺の部屋なのよ。涼しい物件だけど。

・・・新たな精霊が欲しい。

と、思ってた時期が、僕にもありました。

よりもよっておジヤマかよ！

精霊？もちろんあげましたよ。

「永理！タンス運ぶの手伝え！」

「よし断る。」

だって面倒なんだもん。

ん、PDAから着メロが……。

『月光蝶である！月光蝶である！げkk「鬱陶しいわー！」  
アブッ！」うであ……。』

ソウルイーターのエクスカリバーのほうが数百倍ましである。  
あと万丈目よく避けたな、タンス持った状態で。

『随分飛んだな。』

『ありゃ遺跡のほうまで行きましたな。』

『若干無理やりな気もするけど……』

『てか、潰れてるだろPDA。』

『月影のアニキ、ちよっとヤバいんじゃない。』

ウルセエ、マジウルセエ。

頼むから霊使い、ブラマジ、来い。

「万丈目、取りに行くぞ。」

「一人で行って来い。」

まあどっちでもいいけどね。

遺跡か、久しぶりに行くなア。

はいやってまいりましたアカデミアの遺跡。

前探したときはお宝が見つからなかったけどこんそこそは……。

「こ……これはうまい棒たこ焼き味……だと……。」

『絶対賞味期限切れてるよそれ！絶対食べちゃダメだよそれ！』

『トランスフォーマーコンボイの謎ゲット！』

『古ッ！そのゲーム古ッ！』

『こつちや幻のレアカード『気まぐれの女神』を見つけたぜ！』

「『おっばいキターーーー！』」

『何このカオス』

いやだつてレアアイテムだらけじゃん、これで興奮しないドレッドは何者かッ！

『ドレッドくん、もしかしてデュエルで使ってくれないの気にし

てるんじゃない？』

うわ、嫌味だ。

『『地砕き』で潰すぞ』

『すいません調子こきました許してください。』

ドレッド君のオラオラがアバターにむかって・・・アバターご愁傷様。

ん？次元の裂け目みたいなのがこっちにむかって・・・。

「やっぱり精霊界か！」

「ここじゃア』が「」になるんだね。」

「アバターメタ発言自重。」

・・・遺跡・・・ピラミッド・・・墓守・・・あ！

もしかしたら俺、死ぬかも・・・。

「闇のゲーム・・・やらなきゃダメかな？」

「ダメなんじゃね？」

やりたくねエ。

俺は捕まらんぜ・・・アレ、コレ死亡フラグ？

死亡フラグでしたよやっぱ。

どうしてこう不幸なんだ俺は。

「我らが神が貴様に会いたがっている。」

そういわれたからついて行ったらさく。

「我とデュエルせよ。」

って言ったのよ神様。

いきなり何？

しかもインティだし。

それに明日香達が人質のとられてるらしい。

メンドクサッ。

今度パン奢ってもらおう。

「デュエル！」

「我のターン、ドロー。」

遊戯王ってすごいね・・・竜でもデュエルできるんだ。

どうやってデュエルディスク持つてるかって？・・・ご想像にお任せいたします。

「我は『キラートマト』を攻撃表示で召喚、ターンエンドだ。」

インティの場にグロトマトが現れた。

もう誰も傷つけないんだー！

俺はファーストガンダム派だ！

「では俺のターン、ドロー。」

全体的に気の抜けた感じでデュエってます。

「手札から魔法カード『魔の試着部屋』を発動します。」

今回のデッキはロマンがあります。・・・紳士な。

「800ライフ払いデッキからカードを4枚めくり、レベル3以下の通常モンスターを特殊召喚します。」

まず1枚目、ドロー、モンスターカード！

・・・ごめん。

「『占い魔女ヒカリちゃん』！」

周りの墓守達が「ようじょキター！」って言ってる。このロリコン共め！

「2枚目ドロー、『占い魔女エンちゃん』召喚！

3枚目ドロー『占い魔女フウちゃん』召喚！」

俺の勝ちは決定したア！！

あとドローはしていません、めくってるだけです。

勿論ノリで言ってます。

「4枚目ドロー『占い魔女フウちゃん』！」

俺なんでこのデッキ選んだんだろう・・・。

「そのような雑兵・・・並べたところで壁にしかならぬぞ。」

「残念、こいつ等はサポートカードで真の力を発揮するのだ。」

「なん・・・だと・・・!」

インティさん、BLEACH読んでんだ・・・。

「永続魔法『開運ミラクルストーン』発動!

自分フィールド上の占い魔女と名のつくモンスター1体につき攻撃力を1000アップさせる!

つまり、こいつらの攻撃力は4000!」

周りの墓守達が「踏まれたい」「罵倒されたい」「殺されたい」「テメー等最低だ!

「3体のモンスターを生贄に捧げ。」

「占い魔女達を生贄だと!酷い!」

「外道め。」

テメー等最悪だ!

「出でよ『ラーの翼神竜』」

はたしてこんなに無茶苦茶する主人公がいたでしょうか?

「ラーの攻撃力は生贄に捧げたモンスターの攻撃力の合計数値となる、つまり攻撃力は12000!

ラーの効果発動!1000ライフを払い、『キラートマト』を破壊!ゴッド・フェニックス!」

勿論マリク風にね。

キラートマトに当たって、ファイアー。

・・・スライムだったらばよえ〜んだな。

「さらに『占い魔女ヒカリちゃん』を召喚し、ヒカリちゃんを生贄に捧げ攻撃力20000ポイントアップ。

そしてライフを1になるように払い、攻撃力を2999ポイントアップ。」

つまり攻撃力9000+2000+2999〃オーバーキル。

大体15000のオーバーキルだな。

うわすげえ。

「『ラーの翼神竜』で攻撃、ゴッド・ブレイズ・キャノン！」

ラーさんが突っ込んでボンバーした。

なんか突っ込む時泣いていたような。

「では俺が勝ったんでみんなを元の世界に戻してください。」

「う、うむ。」

しかしお主、どこでそのカードを・・・。」

どこでって言われてもなあ〜。

「企業秘密です。」

「あ、そう。じゃあ戻しとくからどっかで遊んどいて。」

墓守達と話をしていたらなんか闇のゲームを無力化するペンダント貰った。

どうやらここのお土産らしい。

「また来いよ。」

「次は霊使いを……。」

「我也待っているぞ。」

「じゃ、またな。」

こうして俺達は元の世界に戻っていった。

『永理、PDAは？』

「……あッ！」

太陽神がデュエルって想像できん。(後書き)

「お前さ、少しは自重しろよ。」

「だが断る」

「駄目だこいつ」

「そ、そう。まアいいや。」

え〜と、プロフィールが見たい、部屋の構造が見たい、何処が違うかわからないって人は感想欄にそう書いといて、5人以上で書くから。」

「あとオリキャラも募集中です。感想欄に見た目、性格、使用デッキ、性別などを書いてください。」

ついでに使用デッキも。もし書いてなかった場合、作者が勝手に決めますので。」

「それではまた次回の更新日まで、さよなら。」

「インティと戦ってみてどうだった?」

「ぶっちゃけ暑かった。」

## 紳士とコスプレとダークネス

視点：亮

俺が出るの久しぶりじゃないか？

まあそんなことはどうでもいい。

どうでも・・・いいんだ！泣いてなんかいいよ？

泣いてなんか・・・。

『マスタ・・・泣いてる。』

「泣いてなんかいない！目にゴミが入っただけだ！」

『帝王って呼ばれてるのに・・・。』

『こつちじゃバカイザーだね。』

「だれがバカイザーだ！」

バカイザーではない、少なくとも未来融合 オーバー来ない 自滅  
なんてことはない！

だからバカイザーではない！

『でも最初辺りやってたよね未来自滅。』

『マスタ・・・あのころは仕方ない・・・。』

『その喋り方霊使いがやるものだけオーバーさん。』

そうだ！あのころはアレだ、仕方ないんだ！

だって師範がアレだし！

『マスタ・・・師範が呼んでる。』

まさか、心を読まれたかッ！

『たぶん違っぜ(バ)カイザーさん、鍵がなんとか言ってたぜ。』

「ためバカイザーって言おうとしたろ。」

『痛い痛い痛い痛い！アイアンクローはやめて。』

『とりあえず行っつけ。』

ツインがそう言うので校長室に行ってみた。

ちなみに校長室は永理、クロノス先生、論理委員会の人達で改築され、ゲームセンターみたいになっている。

「こう『フルコンボだドン。』なんん「甘い！スラ・ストライク！」

なに言ってるかわかんないだっけ？そこは読者の頭でなんとかしてもらおう。

「えe『波動k「速さが足りないツツ！」』しよーr「サマーソルトなんて卑怯d「めゝる〇とけ」』かg『フルコンボだドン』あずかt「今日こそは負けないぞ十代！」せぶn「今日も勝たせてもらっぜ。」」

全く聞こえません。

そっぴやくロノス先生に万丈目、十代に翔まで居る。いつもはブル―生徒でにぎわい、レッドは勉強しているはずなのに。「俺もいるぞー！」・・・何処からか声が聞こえた気が・・・。

「そついでy「レアファイギュアg「リーチキター!!」ガチャを!」フルコンボだドン』ない!!」」

『読みにくいのでカットしますね』

「「「お前誰?」」」

『一応カイザーの精霊です』  
「エンドごめん、忘れてた。」

視点：永理

『こつちの服は縫い付け終わったよ』

『万丈目って無茶難題出すときあるよね。』

『XYZなんてできるのか?』

「口を動かさず手を動かせ。」

どうも永理です。今コスプレデュエル大会の衣装を作っています。今残ってる衣装の頼まれた数は20、7割方終わって残りがこの量だよ!

『なんか鍵が送られてきたけど……。校長から。』

・・・鍵?いったい何の?

『「インヴァルズ・ギラファ」の衣装完成ですう。』

『なんでギラファなんだろう。翔の衣装。』

『「サイバー・ヴァリー」の衣装、オーダー入りました。』

『何故にヴァリー？』

はア、万丈目何処へ行ったんだ……。せっかく手伝わせようと思ったのに……。

『万丈目なら校長室へ行ったぞ。』

「あのやろ。」

帰ってきたら目の前でおジヤマカード破ってやる。

『それはやめとけ。散らかるし』

「それもそうだな。」

かたずけるの面倒だし。

焼却炉潰れてるし。

ん、鍵？まさか……。

そのまさかでした。

目の前にダークネスがいます。

むっっちゃ熱いです。

『クーラーねえの？ダークネスさん。』

「火山だから。」

『アイス食べてええ。』

「我慢しろ。」

『一体何の用さ。こっちはコスプレ衣装作りで忙しいんだ。』

「あとで手伝う。」

・・・なんでこいつ等は自然に話ができるんだ？

「ダークネス、今手伝え。」

どうせ倒したら気絶するんだろ絶対！俺は騙されんぞ！  
結構重労働なんだよ作るの！

「断る。」

「では断ることを断る。」

「断ることを断ることを断る。」

「断ることを断ることを断ることを断る。」

「こて(ry)」

とりあえず作業がまだ残っているので、ダークネスを倒すことにしました。

倒したら元の世界に戻るよね・・・たぶん。

「大丈夫だ・・・たぶん。」

「たぶんをつけないで！」

闇のデュエルらしいけど、勝てばいいんでしょう？  
勝てば出れるんでしょう？

「・・・よし、そうと決まったら・・・。」

「デュエル！」

最近デュエル宣言のネタなくなってきたな、と思いつつデッキから5枚カードをドロウする。

・・・じ、事故ったアアアアア！！

「なんだこれは！」「なあにこれえ」

敵さんも事故つたみたい。手札抹殺使つてくんねえかな。

「私の先行、ドロー！」

魔法カード『手札抹殺』を発動！」

・・・よし、まあまあの手札だ。

相手もいいカードを引いたみたいだ。

「魔法カード『思い出のブランコ』を発動し、墓地の『真紅眼の黒竜』を特殊召喚する！」

黒炎弾来るかな。・・・来ないでほしいけど・・・。

「魔法カード『黒炎弾』を発動！2400のダメージを相手に与える！」

黒竜さん・・・口から出してください・・・。

何故に波動拳風？つて、熱ッ！さすが闇のゲーム！

「真紅眼を生贄に『真紅眼の闇竜』を特殊召喚する！カードを1枚伏せ、モンスターをセットし、ターンエンド！」

攻撃力3900・・・出だしとしては中々だ。

「俺のターン！ドロー！」

手札から魔法カード『古のルール』を発動！手札から『レオ・ウィザード』を特殊召喚！」

俺の場にマントを被ったヒビ？みたいなのが出てきた。  
やっぱレオはロマンだよな。

「・・・古いな・・・。」

気にするな！

「『レオ・ウィザード』の特殊召喚時、速攻魔法『地獄の暴走召喚』を発動！

デッキよりレオさんを1体、墓地からレオさんを1体特殊召喚する  
！」

「闇竜は特殊召喚できない、まさか・・・。」

「そのままかさ！3体のモンスターを生贄に『邪神ドレッド・ルー  
ト』を召喚！」

『俺の出番キター！』

うるせえ・・・。

「おい。」

「ん、なに？」

「アレうるさい。」

「うん、俺もそう思ってた。」

『酷い！』

「「だまれ」「

「うわーん！」』

緊張感の欠片もねえ。

一応元ネタは恐怖の根源なのに。

てか、こんな神、この小説だけだろ。

「とりあえずドレッドで攻撃、ドレッド・サーヴァント！」

攻撃名が違うのは仕様です。

ちなみにただのパンチです。

「畏カード『攻撃誘導アーマー』発動！

攻撃したモンスターは私が選んだモンスターと、戦闘を行う！」

な、なんだってー。

闇竜を破壊できなかったのは痛いな。

たぶん次のターンライボルくるな。

「『メタモルポット』の効果発動！

互い手札をすべて捨て、デッキからカードを5枚ドロウする！」

やべえ、後でイレイザーがすねるよ。

いいドローだけど……。メタモルじゃなくてもグレファアールさんで捨てるけど。

「カードを2枚伏せ、ターンを終了する。」

バーンダメージ対策にレインボー・ライフを伏せた。もう一つは和睦、これで勝てる！

「私のターン！ドロウ！」

魔法カード『ハンマーシユート』を発動！ドレッドを破壊！」

ドレッドさん滞在ターン、2。

神がハンマーに潰される、シールドだ。

『イ、エアアア』

俺も出したことあるけど、どうやってだしてらんだろ。

「闇竜で直接攻撃！ダークネス・ギガ・フレイム！」

ダークネス・・・アバターの攻撃名どうしよう・・・。

勿論和睦で防ぎましたよ。

「ちつ、カードを1枚伏せ、ターンエンド！」

そろそろ終わらそう。

「俺のターン、ドロー！」

手札から『俊足のキラザウルス』を特殊召喚！」

このデッキ、コンセプトがよくわかんない。

「貴様は墓地のモンスターを蘇生させることができる。

さあ、好きなモンスターを蘇生させな！」

・・・俺って悪役の方があってる気がする。

「では、『真紅眼の黒竜』を特殊召喚しよう。」

どうでもいいけどこっちはじゃ特殊召喚っていうんだ・・・。

俺、普段から蘇生って言ってた。

「さらに速攻魔法暴走召喚！デッキからギラザウルスを2体特殊召喚する！」

「では、私は真紅眼を特殊召喚しよう。」

ふうん、たかが攻撃力2400のモンスター、すぐに破壊してやる。

「ギラザウルスを3体生贄に捧げ、アバター召喚！」

『すごく……。』

「黒いいですって、何言わせるんだ貴様！」

さすがフブキング！ノリがいい！

さて、問題は……。

「ダークネス君、ここでちょっとした問題が発生した。」

「えっ、なに？」

これが一番の問題なんだよね。

「『邪神アバター』の攻撃名はダークネス。そして真紅眼の攻撃名は……。」

「ダークネス・ギガ・フレイム……はっ！」

気づいたか！

「そう、真紅眼姿のアバターの攻撃名がダークネス・ダークネス・ギガ・フレイムになるんだ。」

でもそれは格好悪い、そこで攻撃名のアイデアを求め。」

マジで問題なんだよなあ……アバターの攻撃名……。  
だってダサイじゃん。ダークネス・ダークネス・ギガ・フレイムな  
んで……。

討論の結果、攻撃名はフルダークネス・バーストに決定しました。  
鎧黒竜の攻撃名にも使えるね！

「と、いうわけでアバターで黒竜を攻撃！フルダークネス・バース  
ト！」

黒い闇竜が黒い炎を吐く、闇竜だから黒いのは当然か……。  
その炎に焼かれ、真紅眼が崩れる。

「ターン終了。」

次のターンで、一気に決める。

「私のターン、ドロー！」

真紅眼たちを守備表示に変更、ターンエンドだ！」

「くくく、ドロー！」

魔法カード『ライトニング・ボルテックス』を発動！」

空から雷が降り、竜を燃やし尽くす。

僕……悪役じゃないよ。

「魔法カード『死者蘇生』蘇生させるのはもちろん真紅眼！  
バトル！真紅眼で直接攻撃！黒炎弾！」

最初あたりはこの名前だったんだけどな・・・なんでダーク・メガ・フレアになったんだろう。

「ぐ、うわあああああ！」

「ジ・エンドだ！潰せ！アバター！フルダークネス・バースト！」

「ぐ・・・あ・・・あ・・・。」

・・・おお！戻ってきた！

スゲエ、スゲエゼゼブンスターズ！

で、倒れているダークネス・・・どうしよう。

・・・一先ず俺の部屋に連れて行こう。

別にくそみそのなアレをしようって訳じゃない。

俺はいたって健全で二次ファンなだけだ！

『どこが健全だ！』

『ロリコンの癖に・・・。』

「う・・・うるさい！イレイザー、テメーが運べ！」

『なぜ俺が・・・。』

「『大して活躍してなかったから』」

『酷い・・・。』

イレイザー・・・後でペプシソあげるから元気をだして・・・。

『ペプシソなんかいるかあああ！』

紳士とコスプレとダークネス（後書き）

「チートドロー。」

「いな」

「真紅眼、強かった？」

「結構強かった。」

「ドレッドさん、やっと召喚されましたね。」

「たしかに初めてだな・・・。」

「さて、プロフィールが見たい、部屋の構造が見たい、何処が違うかわからないって人は感想欄にそう書いといて、5人以上で書くと思うから。」

「あとオリキャラも募集中だ。感想欄に

見た目、性格、使用デッキ、性別などを書いてください。

ついでに使用デッキも。もし書いてなかった場合、作者が勝手に決める。」

「真紅眼の闇竜ってさ、ワイバーンだよな。」

「それをいつな」

吸血鬼と聞くとおせつさまを思い出す。

「……夢想封印……やってみたい。」  
『ヤメレ。』

視点：永理

始まりがいつもと違う？気にするな。  
ところで……このダークネス……どうしよう。  
全く目覚めないんだよね……。

「万丈目、どうすればいいと思う？」  
「それは置いといてコスプレ衣装を作れ。」

さいですかい……。  
ダークネスのコスプレ衣装でも作ろう！疲れるけど……。

「手伝おうか？」  
「いや、いい……って、え？」

声のした方を見ると……吸血鬼がいた。パジャマ姿で……。  
たしかTFの……「顔芸女！」「その言い方やめて！」

「永理……そいつだれだ？」  
「おせつさまじゃない方の吸血鬼。」  
「なるへそ。」  
「酷い言い方！」

だって・・・ねえ。吸血鬼ですよ奥さん。  
って、誰に言ってるんだ俺・・・。

「・・・で、何の用や？セブンスターさん。」

本当に何の用やこの人・・・人じゃないけど。

「スト2やりに来ました。」

グーサインで言う事じゃないよね。

てかタグにキャラ崩壊入れた方がいいかな？

「スト2 スト2。」

カミューラさん・・・キャラが・・・キャラが・・・。  
ヤベエスゲエ可愛い。

「スト2は校長室に移した。ここはカード専門ショップ、石村だ。」

「なぜに石村？」

「凡アイザックさんゲームの戦艦の名前。」

「あのゲームは怖かったわ、一人で寝れなくなったもん。」

マジでか・・・すんげえイメージ変わったわ。

おっと鼻血が・・・。

「ストファの方なら廃寮の方にあるよ。」

「情報提供感謝するわ、それではサラバダー！」

飛んで行くんじゃないかって歩いて行くんだ・・・どうでもいいけど。

カミューラが廃寮へ移動した数分後PDAから……。

『絶望した！絶望した！絶望した！絶望した！絶望した！絶望した！』

……ウゼエ。

『ぜー何の用だ、クロノス先生……だっけ？』

PDAからクロノスの独創的な声が聞こえる。

『覚えてないんデス〜ノ？酷いデス〜ヨ……』

まあ、いいデス〜ノ。今からソツチでカードを買いたいんデス〜ノ。

』

「了解、電気代が勿体ないからそろそろ切る。24時間営業だから急がず慌てずガス栓閉めたか確認してから来てください。」

『アナ〜タホントに学生デス〜カ？いつ寝てるんでス〜ノ？』

「気にするな。」

そっつい俺はPDAの携帯で言う赤色のアレを押し、PDAでゲームをした。テトリスって、オモシロツ！

……ところで携帯の赤色のアレって、なんて言うんだ？どうでもいいけど。

携帯なんて親のしか使ったことないですがなにか？

「栄ちゃん、万丈目、俺は寝る。店番よろ。」

「アバター店番よろ。」

『アバターさん店番よろしくですう〜。』  
『・・・俺・・・一応神ですよ・・・。』

気にするな。

ウザいほど清々しい青空！灰になってハイになりそうなほど熱い太陽！

アカデミア内に聞こえる蝉の鳴き声！

ヤバい引きこもりたい。

おや、正門前でデュエルが行われている。

よく見ると青い方は彼女ができたばかりの金山ではないか。

あちらの赤い制服でマスクを被っているの方は・・・破壊の闇の信者であり隊長である木野山君ではないか。

「リア充が・・・破壊の闇の力・・・思い知れ！」

木野山・・・ホドホドにな・・・。

「レッド寮生徒如きが・・・生意気な！」

「デュエル！」

結果は・・・まさかの赤の方の勝ちだ。

破壊の闇信者は妬みを力に変え、カイザー並のチートドロー、カイザー並の実力・・・いや、カイザー以上の力が備わる。

嫉妬の力ってすげえ。

ちなみにデュエル内容は・・・

青の方の先行、ゴブリン突撃部隊を召喚、エンド。

赤の方、きのこマンを召喚し、フォースで攻撃力を上げ、地割れで相手を破壊、直接攻撃し、速攻召喚でテスト 手札破壊 レベル4 直接攻撃。

・・・嫉妬の力つてすげえ。

ついでに木野山は勝利時に「俺は、勝利をリスペクトするうううう！」って言った。

「十代・・・アレどう思う？」

「相手が哀れに思えてきた。」

ですよね・・・まああの宗教・・・俺が造ったんだけどね。

でもロックデッキとかパーミッションとかバーンデッキとか使う生徒が居るんだよね。

レッドに・・・。

普段は

ブルー

イエロー

レッドだけど嫉妬が加わったら

レッド

ブルー

イエローになる。

・・・嫉妬のt(ry)

まあそれがこれからの物語で重要になることは1期はない。

2、3は分からん・・・出すとしてもギャグサイドだけどなッ!

「そっぴや永理、知ってるか?」

十代・・・居たのか。

「攻略できないヒロインの攻略ルートか?・・・そっぴえば白き精霊はどうした?」

「どこの高校生だ。『ハネクリボー』なら校長室でキミキスやってる。」

ハネクリボー・・・ついにヲタとして目覚めたか。

さて、冗談は置いて。

「知ってるってなにが?」

「アカデミアに湖があつて、そこに最近城が現れたらしい・・・。」

アカデミアに湖あつたんだ。

ん、城?・・・おぜうさまか!

「と、いうわけで城に探検しにいこうと思つんだ。」

「宝は?」

「たぶんある。」

よし、行こうたか・・・探検に!

・・・ところで、どうしてカイザーまで来てるの?

わくわくすんな!

で、授業をさb・・・早退してやってきましたころまk・・・城！  
看板になんか書いてある、なにになi・・・

『吸血鬼の館

入場料

大人300

子供250』

どこのテーマパークだ！

てか城じゃない！

「十代！永理！翔！行くぞ！」

「兄さん・・・。」

「手を引つ張るな。」

「カイザー・・・あんた、変わっちまったな。」

まるで原作の十代とカイザーが入れ替わったみたいだ。

吸血鬼の館に入り、適当に歩いていると・・・扉から光が・・・。  
扉を開けると・・・。

「あ、殻入った。って、あ・・・。」

カミューラさんが食事中でした。

「闇のゲームやりに来たの？朝食食べ終わるまで適当に、遊んでて。」

「ご飯に玉子のくぼみを作りつつそう言ったので、適当にゲームで遊ぶことにしました。」

「・・・ところで西洋の妖怪がメザシと卵かけご飯と味噌汁ってどう

なの？

「腹減った……。」

「じゃあ……食べる？」

「いただきます。」

十代……食べるなよ……。

カイザーも食べたそうにしない！

く思いつかないからいか」「不夜城れええええっど……！」ピチ  
ユーン

「ご馳走様でした。さて、ゲームでもしよつか。」

「そだね。」

「ああ。」

おいおい。

ま、なんやかんやで闇のデュエルすることに。

なんやかんやって何があつたかつて？簡単に言つと……

カイザーとカミューラがくにおくんをプレイ　カイザーがカミュー  
ラにダメージを与える　闇のゲームに。

……はつきり言おう！しょーもな！

「デュエル！」

どうしてみんなやる気なの？バカなの？死ぬの？

「私のターン、ドロー！」

『ゴ布林ゾンビ』を準備表示で召喚！カードを1枚伏せ、ターンエンド！」

ゴ布林がゾンビ・・・ゴ布林は執念深いから・・・かな。  
さすがゴ布林死んでもしつこいゴ布林！

「俺のターン、ドロー！・・・ヤバい事故った。」

カイザーが事故る・・・だと。

あの積み込み上等なカイザーが事故だとう！

「カードを2枚伏せ、モンスターをセットし、魔法カード『封印の黄金櫃』を発動！

自分のデッキからカードを1枚選択し、ゲームから除外する！

発動後2回目の俺のスタンバイフェイズ時にそのカードを手札に加える！

俺が選択するカードは『サイバー・ソルジャー』！ターンエンドだ！」

サイバー・ソルジャー・・・俺が売ったカードだな。

最近サイバー流デッキに入ったみたいなのでカイザーは持っていなかったんだ。

（まさか『サイバー・オーガ』が2枚来て『融合』がないとは・・・）

『運が悪いだけ・・・次は大丈夫・・・。』

『日頃の行いがアレだからな』』

『どういう意味じゃい!』

「あの・・・私ターンエンドなんだけど・・・。」

カミューラの場に人型モンスターがいた。

・・・猫型ロボットみたいな文だな上の・・・。

『僕ドラえもん。』

ため猫型ロボじゃねーだろ。

「俺のターン、ドロー! (あれ? 翔はどこ行った?)」

俺は伏せモンスターをリバース! 『メタモルポット』!

手札をすべて捨て、5枚ドロー! (やっとアタッカーを出せるよ!)

『サイバー・パラサイド』を攻撃表示で召喚! 『サイバー・パラサイド』の効果により除外場の『サイバー・ソルジャー』を特殊召喚し、そのカードに装備する!

『サイバー・ソルジャー』の効果発動! デッキからカードを5枚墓地へ送り、墓地の魔法カードを1枚、手札に加える!

俺は墓地の『サイバー・インパクト』を手札に加える! 行け! 『サイバー・ソルジャー』! 『カース・オブ・バンパイア』に攻撃! サイバー・スパイラル!

カイザー・・・サイバー・ソルジャーが苦しそうだぞ。

寄生虫のせいだ。

「カースが戦闘で破壊された時500ライフを払うことで、私のスタンバイフェイズに特殊召喚するわ!」

「どうでもいい、ターンエンドだ。」

「十代・・・翔はどうした?」

「トイレ。」

「あ、そう。」

翔め・・・ジュース飲みすぎたな。  
ちなみに俺はジュースが飲めない。笑えばいいと思うよ。

「ところで十代・・・ハバネロ食べるか？」

「永理・・・お前なんでそんなにハバネロがあるの？」

だってさつき送られてきたもん。

キャラメルはイレイザーに持って行かせた。

『なんで俺ばつかり・・・』

気にするな！手札コスト。

『だれが手札コストじゃ！』

え？

「私のターン、ドロー！」

・・・そろそろ爪切ろうかしら・・・。

スタンバイ・フェイズにロードを蘇生！そしてロードを生贄に捧げ

『偉大魔獣ガーゼット』を召喚！

魔法カード『幻魔の扉』を発動！（あいつにだけは負けたくない！

だからどんな手段でも使う！）

『サイバー・ソルジャー』を破壊し、私の場へ特殊召喚する！

そしてこのカードの代償として、負けた方の魂は・・・誰にしよう。

┌

「光子カビーム

アイアンカッター

ルストハリケーン

ブレストファイヤー

ドリルミサイル  
ミサイルパンチ  
大車輪ロケットパンチ  
強化型ロケットパンチ  
冷凍ビーム  
スクランダー・カッター  
サザンクロスナイフ  
「え、永理？」

すらすらマジンガーの武装を答えられる俺って……。  
あつ、翔が帰ってきた。

「このトイレムツチャ綺麗つす。」

マジでか。

「カイザー弟を捕まえろ！」

幻魔の扉からマジックハンド？が出て、翔を捕まえる。

マジックハンドって……。

あとカイザー……無表情はやメテ。

「卑怯だぞ！」

「勝てばいいのよ。行け！まz……ガーゼット！ロケットパンチ  
！」

拳は飛びません。

ガーzは普通に殴りました。

ガーzのzがおかしい？元ネタを見る。

「手札の『速攻のカカシ』を捨て、攻撃を無効にする！」  
「ターンエンドよ。」

「俺のターン、ドロー！」

「…カミユラ、貴様の負けだ！」

魔法カード『未来融合 フューチャーフュージョン』！！

『キメラティック・オーバー・ドラゴン』を選択し

デッキから『サイバー・ドラゴン』と19体の機械族を墓地へ！！

カイザー、あんた容赦ないな。

弟が捕まってるんだぜ。

「！さらに魔法カード『オーバーロードフュージョン』を発動！！  
翔、許せ。『キメラティック・オーバー・ドラゴン』融合召喚！！」

「ちょ、兄さん！！？」

まさかカイザーがヘルカイザーになるとは…。

信じられるか…コレ…原因くにおくんなんだぜ。

「あんた、自分の弟を犠牲にするでも言うの！？」

「俺がリスペクトするのは翔じゃない！勝利だ！」

魔法カード『サイクロン』を発動！伏せカードを破壊！

さらに『サイバー・ソルジャー』に『ミスト・ボディ』を装備！

行け！オーバー・ドラゴン！『サイバー・ソルジャー』に攻撃！

エヴォリューション・レザルト・バースト+19連打！

「ちよつ、あんた弟大事にしなさいって、うわあああああ！！」

「俺は、翔を犠牲にしても、勝アアアアアアアアツツ！！リスペクトなんかクソくらえじゃハハハハハ！！」

かくして、恐ろしい（カイザーが）闇のゲームは幕を閉じた……。このカイザーに勝つ我が宗教団体って……。

「十代……帰ろっか。」

「……うん。」

城？家の地下室か出てきたカミューラが引き続き使ってますがなか？

たまに栄ちゃん率いるブルー女子がお茶会に使ってるらしい。

「……アレ？」

「ん？どうした永理？」

「……PDA……失くした。」

吸血鬼と聞くとおぜつさまを思い出す。(後書き)

不味い、カイザーのキャラが・・・。

永理「勝利をリスペクトするカイザー・・・目覚めたきっかけはくにおくん・・・。

カイザー・・・色々と駄目だ。」

カイザーのキャラ変更は反省も後悔もしていません。

それが、ナムクオリティー！

永理「てめえもうだめだ。」

くオリカ紹介く

『サイバー・ソルジャー』

レベル4

光属性

攻撃力：1850

守備力：1400

機械族：効果

このカードが召喚、特殊召喚された時、デッキからカードを5枚墓地へ送り

効果発動。墓地の魔法カードを1枚、手札に加える。

『サイバー・パラサイト』

光属性

攻撃力：600

守備力：1980

機械族：効果

このカードの召喚に成功した時、除外されているサイバーと名のつくモンスター1体を特殊召喚し、そのカードに装備する。  
このカードが装備されているモンスターの攻撃力は600ポイントアップする。

『サイバー・インパクト』

通常魔法

墓地のサイバー・ドラゴンを3体、特殊召喚する。

翔さ、カイザーについてどう思ってる?」

翔「昔はもっと優しかったような。」

永理「ええー!!!?!」

番外編・謎になっているシンクロ召喚の誕生と翔のサイバー・ドラゴン

〈シンクロ秘話〉

2ちゃんのとあるスレ

156 : 我が勝利のため、起動せよ！ななしの翼神竜  
ラーがシンクロだったら使えてた。

157 : 我が勝利のため、起動せよ！ななしの翼神竜  
シンクロ？

158 : 我が勝利のため、起動せよ！ななしの翼神竜  
オリカ乙wwww

159 ; 我が勝利のため、起動せよ！ななしの翼神竜  
オリカじゃねえ！未来の召喚方法だ！

160 : 我が勝利のため、起動せよ！ななしの翼神竜  
あの詠唱しなきゃ召喚できないアレだろwwww

161 : 我が勝利のため、起動せよ！ななしの翼神竜  
召喚方法キボンヌ

162 : 我が勝利のため、起動せよ！ななしの翼神竜  
シンクロ召喚の手順  
+

1・自分のターンのメインフェイズに、自分フィールド上に表側表示で存在するチューナーとその他のモンスター1体以上のレベル合計が、召喚したいシンクロモンスターのレベルと等しくなった時にシンクロ召喚することを宣言します。

2・召喚するシンクロモンスターのレベルとレベルの合計が等しくなるように、チューナー1体とその他のモンスターをシンクロ素材として墓地に送ります。

基本的に、チューナーは必ず1体でなくてはいけません。

3・シンクロ素材としたモンスターが墓地に送られた後、エクストラデッキからシンクロモンスターをフィールド上へ表側攻撃表示が表側守備表示で出します。

コピペだけど堪忍なwww

「・・・シンクロ召喚・・・作ろう!!」

もしかしたら結構売れるかもしれない

このような事があってシンクロが作られたのであった・・・。

「翔がサイバー・ドラゴンを持っている理由」

兄さん・・・いや、カモといった方がいいかな？

なんせ兄さんがゲット出来なかったゲームが僕の手にあるんだから。

「・・・翔、そのゲーム・・・譲ってくれ!」

兄さんが土下座をしてそう言う・・・。だけどね・・・。

「僕もコレ手に入れるのにだいぶと苦労したんだよ……。なのに  
タダであげるワケにはいかないよ。  
取引だ。」

「と、取引……?」

「そう……。兄さんのサイバーデッキを僕に渡す。ただそれだけだ  
よ。」

兄さん……。君に選択権はないんだよ……。

「……。いいだろう。サイバーデッキをくれてやろう。だから早く  
ソレをこっちへ寄せ!」

「最初にサイバーデッキを貰う。拒否するならこのゲームを……。  
」

「このゲームを……?」

僕は息を吸い、こつ言った。

「割る。」

その後カイザーのデッキが僕の物になった……。  
外道? 戦略だよ。

永理「今回は短いな……。」

外編だし？

永理「そうか……。」

では、プロフィールが見たい、部屋の構造が見たい、何処が違うかわからないって人は感想欄にそう書いといて、5人以上で書くからあとオリキャラも募集中だ。感想欄に見たい目、性格、使用デッキ、性別などを書いてください。ついでに使用デッキも。もし書いてなかった場合、作者が勝手に決める。

……やばいコピペ編集超ラク

永理「コピペ……ルイズ……俺、本当に主人公か？」

しるか、ではまた次回の更新かほかの方の小説の感想欄で……さようなら。

温泉といえば混浴、男しかイネエ。

視点：永理

「温泉？」

「そう温泉！！久々に行きたくなっただろ。」

温泉か・・・温泉卵しか思いつかねエ・・・。

原水で緑茶作ってみようかな・・・やめておこう。

「・・・で？温泉で何したいの？・・・まさか翔のていさ」違っ！  
精霊が出るって噂があるんだ！！」なにを今更。」

邪神とか実体化&擬人化してるではないか。  
む、緑茶パン・・・微妙な味だ！

「常に実体化してる精霊がいるではないか。」

『トメさくん、チョコパン4つね。』

「はいよ、よく噛んで食べるんだよ。」

『はいはい。』

・・・こいつら本当に邪神か？

原作（遊戯王R）の面影ねえ！

チョコパン買おうかな・・・。

次のパンは・・・キムチ！？漬物は駄目だろ！！パンにあわん！！

「久々に幻の唐辛子パン食べたい。」

ハズレパンではない！ウマパンだ！

・・・ついでにピザまん食いたい。

なに？キムチも唐辛子使ってるだろって？野菜が入ってるであろう！！我は純な唐辛子が食べたいのである！！キムチは米だ！！

「唐辛子はやめといた方がいいぞ。翔が当てた時すごい辛そうだった。」

そんなにか？言うほど辛くはなかったぜ？俺にはちょうどいいぜ？

おっ、カードパンだ。中身は・・・

「スカゴブ死ね！！氏ねの方じゃなくて死ね！！」

「『スカゴ布林』・・・ドンマイ、永理。」

テメエなんか使う事ないんだよヴォケ！！普通の主人公とは違うんだよ！！

こんなならマグロの目玉パンの方が数倍マシだよ！！

そっぴや温泉でなんのイベントが行われるんだろう・・・？闇のデユエルはだいぶと軽いノリでやってたし・・・。

どこのFate/tiger colosseumだ！って言われそうなほど軽かったし・・・。

・・・またカードパン・・・次はなんだ？

ポニー・・・緑・・・風・・・。

「ウインたんキターーーー!!!」

「まじっスか!!!?」

『イヨツシヤア!今夜は宴会だー!!!』

『めでてえな!めでてえな!めでてえな!めでてえな!めでてえな!』

なんで喜んでるかって?ウインだからだ!家のカードは色々特殊すぎてアレなんだよ!

今夜は宴会だー!!!

『なあ永理・・・。』

「なんやドレッド。」

『ウインの精霊は別の人が持つてるよ。』

「・・・は?」

マジでか・・・畜生!畜生!畜生!

ウインたんとにゃんにゃんできると思ったのに!!

絶望した!ほかの作者の小説では美少女&美少女の精霊が居るのにこっちはいない事に絶望した!!

「十代・・・温泉行こうか・・・。」

「お、おう。」

もしかしたら新しい精霊が出てくるかもしれないし!

うん、希望を持って月影永理!信じていればヒノキの棒でゾーマ位倒せるんだ月影永理!神竜は無理です!

もう男の娘でいいから・・・。

視点：十代

永理・・・ゲテモノ食っても大丈夫って凄いな・・・。

あと翔、ウイン欲しそうにするな。

てか男の娘って、どんだけ萌えに餓えているんだ。

『不味ッ!!!』

イレイザーがなんかのジャムパンを当てたみたいだ・・・。

なんか臭いのはそのせいか・・・。ん？臭い？まさかくさやジャムか!!!!?どこの日常だ!!!

あと温泉に行っても新しい精霊は出ないと思うよ。

おっ、黄金の玉子パン。普通だ。

いやでもキムチパンとかマグロの目玉パンとか幻の唐辛子パンとかよりはマシだ。

・・・贅沢言つなとか言つな!!!4回以上食ったら飽きるわ!

ん？アレはカイザー？

「む・・・不味い。」

カイザーの食べたパン。それは・・・

鮭のキモだった。

うん、温泉行こう・・・。

視点：永理

久々の温泉だ、今日はゆっくり浸かろう。

・・・いつの間に移動したかって？小さいことは気にするな。  
・・・なんかへりの音がうるさい・・・アレ？へりから人が飛び降りたような・・・？

「はーっはっはっはっはっは！！我こそはセブンスターズの人、あびど・・・」

聞こえたのはそこまでだった。温泉が結構な高さまで波打った。バツシャーンって、こうバツシャーンって・・・。温泉に飛び込んではいけません。

「アレは無敗伝説を持つデュエリスト・・・アポピス3世！！」  
「アビドスだ！」

三沢・・・居たのか！

「三沢居たのか？」  
「君たちが温泉に入る前から居たんだが・・・。」  
「気付いた人？」  
「なんか久しぶり。」  
「居たんだ、三沢君。」  
「ずっと居た！吸血鬼と聞くとおせうさまを思い出すから居たよ僕！！」



で、へりからデッキのホルダーが投げられた。

お察しのとうり、ばら撒かれます。空中で。

パワー・ウォールの如く、温泉に浸り、凡蟹さんでも無限の可能性がなくなるほどビチャビチャに。

ヤヴァイマジセブンスターズって、面白ッ!!

「ぶくく、翔、コレデュエルしなくても、あはは、いいよね。」

「きゃはは、いいと、ヴァハア! おも、ぶくく。」

「わ、笑うなー!!」

「「「それ無理、ぶはははは!!!!」」」

その後、温泉に浸かり、帰りました。

その頃出番がない精霊界では・・・

「・・・アレ? 出番ない?」

「グルルルルルル!!」

「デュエル・・・やりたかったな。」

「ギャウ!!」

温泉といえば混浴、男しかイネエ。(後書き)

魚の目玉？

「部屋に飾ってるぞ？」

趣味悪ツ！

「俺が出てない。」

デカいし？

「擬人化できるだろうが！！俺をだせえい！！ドレッド・サーヴァント！！！」

リバースカードオープン、次元幽閉

「イェアアアアアアアア！！！」

ふう、さて、プロフィールが見たい、部屋の構造が見たい、何処が違うかわからないって人は感想欄にそう書いといて、5人以上で書くと思うから。

「あとオリキャラも募集中だ。感想欄に

見た目、性格、使用デッキ、性別などを書いてください。

ついでに使用デッキも。もし書いてなかった場合、作者が勝手に決める。」

コピペ楽だ！

「テメエは駄目だ色々と・・・。」

霊使いは俺の嫁！ただしダルク、テメエは駄目だ！

「このロリコンめ！」

オリキャラ出すの久しぶりだ……。

視点：永理

「『ブラック・マジシャン・ガール』で翔にダイレクトアタック、黒・魔・導・爆・裂・破。」

『コレで止めよ 黒・魔・導・爆・裂・破 』  
「負けたく。」

どうも永理です。いま翔とデュエルしています。

今俺が使っているカードはみんなの嫁、ブラック・マジシャン・ガールですね。

このカードは唯一マトモなカードなんですよ。

……99枚の中で唯一……。

「翔……お前弱すぎ。破壊の闇（嫉妬団）の時はカイザーもびつくりのディスプレイードローなのに。」

「仕方ないツスよ、あの時は嫉妬パワーでやってんスから。」

説明しよう！破壊の闇（レッド寮嫉妬団体）はリア充（要するにカップル、専門用語で異端者と言う）は普段はアニメ道理の弱い団体だが嫉妬の力よって

カイザー（アニメの方、この小説では未来融合とオーバーロードはリストバンドに隠している）並のチートドローを持つのだ！

尚チートドロー1回に尽き1嫉妬が消費されるのだ！（1嫉妬＝ゲームのプレイ時間4分）

嫉妬の力ってスゲー。

コレも転生した時に入手した力・・・フラグ力が欲しかった！  
ええ！最低なのは分かってますよ！男が変態で何が悪い！男はすべ  
からく変態だ！だがその変態を認めるか否かで、男の器は天と地ほ  
どの差があるのだ！

・・・神よ！どうして私をこんな性格にしたのですか！私はこんな  
残念な性格&思考回路を与えた神を恨みます！

「セブンスターズはまだ来ないのか・・・。」

アドビス「ア・ビ・ド・ス！」はまだデッキの作成中だし・・・あ  
・・・

「暇だ〜。」

視点：誠

「『大天使クリスティア』で止めだ！」

「畏カード『爆導索』でクリスティアを破壊！破壊された『ピエロ  
ナイト』の効果で自分手札の枚数×400のダメージ！僕の手札は  
2枚！君のライフは800ポイント！僕の勝ちだ！」

「なッ・・・うわあああ！！！」

また・・・負けただと・・・。

何故だ・・・何故だ何故だナゼダナゼダナゼダ！！

・・・そうか、アイツが悪いんだ・・・アイツが・・・勝たなけれ

ば……。

力が欲しいか……。

……誰だ！

力が欲しいのなら……くれてやる！

そう俺の頭の中の誰かが言った瞬間、目の前が光に包まれた……。ふと目を開けると……見たことのないカードがデッキに……。

「死天使……？」

神が俺にチャンスくれたんだ……。

これで……コレで奴に勝てる！

「神よ！私めに復讐のチャンスをもたらした事に感謝いたします！」

「うるさい。」

「じゅん。」

視点：影丸

「はあ、タイタンが闇のデュエルしたらこんな面倒な事せんですんだのに……。」

「確かにな、4カード。」

「よし、私も4カード。」

「ちっ、4カード。爺さんは？」

「2ペア……。」

「「「いよつしゃー!!」「」」  
「畜生。」

あゝ、なんで天使族使いをセブンスターズに引き入れなあかんだ。  
てかみんな運いいなオイ。いや・・・私の運がないのか？  
アムナエルは何してるんだらう？  
カミューラくん出番だよ。

『骨までくだk・・・なによ影丸・・・。』

「今アムナエルは何してる？」

『一緒にテイルズしてるよ。』

何してるのアムナエルさん・・・。

てか何なのこのノリ・・・？

『もういい？通信切るわよ。・・・喰らえ！ジェノサイドブレイバ  
ー！』

カミューラエ・・・本当にキャラが・・・。

『ぶるあああああ』

可愛い、スゴイ可愛い。

てか、ロリボイスなのね・・・。

アレ？俺悪役だったよね？

視点：永理

「魔法カード『ワン・フォー・ワン』を発動！  
手札の『カタパルト・タートル』を捨て、『魔導サイエンティスト』  
を特殊召喚！

魔法カード『死者蘇生』で『カタパルト・タートル』を特殊召喚！  
『魔導サイエンティスト』の効果で『サウザンド・アイズ・サクリ  
ファイズ』を特殊召喚！

『サウザンド・アイズ・サクリファイズ』の効果により『偉大魔獣  
ガーゼット』を装備する！」

「なん・・・だと・・・。」

「『偉大魔獣ガーゼット』の攻撃力は4000！つまり『サウザン  
ド・アイズ・サクリファイズ』の攻撃力は4000！

更に『魔導サイエンティスト』の効果により『コアラッコアラ』を  
特殊召喚！ラストに『コアラッコアラ』を特殊召喚！

『カタパルト・タートル』の効果により『コアラッコアラ』を射  
出！もう一回『コアラッコアラ』を射 出！ラストに『サウザンド・  
アイズ・サクリファイズ』を射 出！！

『カタパルト・タートル』を射 出し、止めだ！」

「ひどくね？」

「ガチデツキならこんなもんだブルー生徒くん。」

むっ、アレは・・・天界磁くん！8〜9話ぶりだな。

「久しぶりだな・・・悪魔使い！」

我こそはセブンスターの一人！天界磁誠！いざ！七精門の鍵を賭  
け！デュエルだ！」

「闇の力を手に入れたか・・・面白い！俺様を楽しませろ！俺様の

ために足掻け！」

面白いことになってきた……くひやははははははは!!  
俺はデュエルディスクのデッキを取り換え、こう言った。

「満足させてくれよ。」

「デュエル!!」「くひやははははは!!」

「俺のターン!ドロー!

『ダーク・エンジェル』を守備表示で召喚!

カードを1枚伏せ、ターンエンド!」

おかしい……普通のシャインエンジェルとは違う!

なんか羽が黒い。

ちなみに笑い声が俺だ。

「俺様のターン!ドローカード!

『手札抹殺』を発動!互いに手札をすべて捨て、捨てた枚数分ド

ーする!」

「では俺は4枚ドロー!」

「墓地の『邪神イレイザー』『地縛霊』『レジェンド・デビル』を

除外!」

『やめろ!そんな事をしちやいけない!!』

おや?空耳が聞こえたような……?

気のせいか!

『まだ俺は死にたくな……イェアアアアアアアアアアア!』

！」

気のせいだなうん。気のせい気のせい。

「『ダーク・ネクロファイア』を召喚！」

禿げ頭の女の人が出てきた。あ……睨まないでお願い。  
気にしてただね。

「魔法カード『トレード・イン』発動！

手札の『DTスラッシュ・ブラッド』を墓地へ捨て、2枚ドロロー！  
更に装備魔法『早すぎた埋葬』発動！スラッシュ・ブラッド蘇生！

『DTデス・サブマリン』を捨て、『ダーク・グレファアー』を召喚！

『DTスラッシュ・ブラッド』に『ダーク・グレファアー』をダーク  
チューニング！

神と生が朽ちし時、封印されし闇が舞い降りる！我が地へ現れよ！  
ダークシンクロ！

出ですよ！『不完獣キメラ』召喚！」

俺の場に見えろ完璧に見えるキメラ。

だがリミッターが常に外れている危険な人工生命体……。

「このカードは攻撃力は3000！

行け！キメラ！『ダーク・エンジェル』を攻撃！キメラ・パッシュ  
ン！」

キメラの口から黒い炎を吐く、その炎に当てられ、羽からダーク・  
エンジェルが朽ちて逝く。

くくく、絶景だ！

「ぐっ、だが『ダーク・エンジェル』の効果により、デッキから死  
天使と名のつくモンスターを特殊召喚する！  
こい！『死天使アモラティス』を召喚！」

レベル5で攻撃力が1470？何故そんなカードを……。  
何を考えている？

「何を考えている？『ダーク・ネクロファイア』でアモラティスを攻  
撃！念眼殺！」

「罨カード！『和陸の死者』！」

「ちっ、モンスターを伏せ、エンドフェイズにキメラの効果でデッ  
キを3枚墓地へ送る！」

伏せたモンスターはメタモルポット……。次のターンに手札を一気  
に回復してやる。

「俺のターン！ドロー！」

「死天使の使い』を召喚！」

攻撃力が2000の下位モンスター……。

「『死天使の使い』の効果発動！このカードを破壊する！」

「『死天使の使い』の効果により、墓地から『死天使クリスティアゼ  
ロ』を召喚！」

黒いクリスティア？アイツは誠の精霊だったはずじゃ……。  
まあどうでもいい。次のターンで潰す！

「『死天使クリスティアゼロ』で『不完獣キメラ』を攻撃！タナト

ス・フラッシュユ！」

攻撃力2700のモンスターで攻撃？何を考えて……。

「『死天使クリスティアゼロ』の効果！」

キメラが……破壊された！？

どういう事だ！？

「クリスティアゼロは特殊召喚されたモンスターと戦闘を行う場合、そのモンスターを破壊する！」

そして『死天使アモラティス』の効果により、デッキからカードを1枚墓地へ送る毎に100ダメージ軽減する！俺はカードを3枚墓地へ送り、ダメージを0にする！」

面倒くせえ効果だ。

しかし、死天使……聞いたことがないし持ってない……どういう事だ？

「ターンエンドだ。」

「俺様のターン！ドローカード！」

ちっ、リバーズモンスターオープン『メタモルポット』！

5枚ドロー！『ワタポン』を特殊召喚！『DTシールド・ドルリラ』を特殊召喚！

『DTシールド・ドルリラ』に『ワタポン』をダークチューニング！破壊の闇に現れし闇の竜よ、今我のため、力を解き放て！

ダークシンクロ！我が契約せし死の神！『カラストロフィー』！」

機械族じゃないです。

「『カタストロフィー』で『死天使クリスティアゼロ』を攻撃！カタストロフィー・ブレス！」

黒い竜が闇のブレスを吐く、だがクリスティアゼロが黒く光り、カタストロフィーを破壊する。

だがカタストロフィーの効果でクリスティアゼロも破壊される。

「な・・・何故クリスティアゼロが・・・？」

「くきやはははは、『カタストロフィー』の効果は、破壊された場合、相手モンスターを破壊する！」

『ダーク・ネクロファイア』でアモラティスを攻撃！念眼殺！」

ダーク・ネクロファイアが目からビームを出した。

何処のネウロですか？

「ぐっ、アモラティスの効果で7枚墓地へ送り、ダメージを軽減！」

おいおい、残りデッキが15枚だぞ・・・何を考えている？

「カードを伏せ、ターンエンドだ！」

「俺のターン！ドロー！」

墓地の死天使と名のつくモンスターを全て除外し、『死霊天使アラブラミス』を墓地から特殊召喚！

アラブラミスの効果発動！除外されている死天使と名のつくモンスター1体につき、攻撃力を200ポイントアップさせる！

除外されたモンスターの数は19！よって攻撃力は3800ポイントアップ！」

おいおい、こりゃ不味いんじゃないか？

アラブラミスの元々の攻撃力は1800・・・FGDを超えたな。  
だが、その攻撃力が命取りになるんだぜ！

「行け！アラブラミス！『メタモルポット』を攻撃！死天使怨念波  
！」

はい、残念。

「畏カード！『スパーク・ブレイカー』！『ダーク・ネクロフィア』  
を破壊！

『ダーク・ネクロフィア』の効果で、アラブラミスのコントロール  
を得る！」

「な・・・！  
くっ、ターンエンド！」

アラブラミスの効果は除外された死天使の数攻撃力が上がる。それ  
は自分の数ではなく、全体の数・・・。  
それこそが・・・最大の利点であり弱点！  
この勝負！俺の勝ちだ！

「自身のモンスターで死にな・・・！  
行け！死霊天使！死霊雷光波！」

「ぐっ、うわあああああ！！！」

ジ・エンドだ・・・。

「中々楽しめたよ。くくく、さあ、七精門の鍵を渡してもらおうか  
！」

おや？奴の居た場所には、カラスの羽と鍵のみが落ちている・・・？  
消えた？何故？

・・・まあ、どうでもいいか。

さてと、鍵を拾ってさっさと寝ますか！

『まだ18時だぞ。』

気にすんな。

オリキャラ出すの久しぶりだ……。(後書き)

お疲れ様。

『今回は俺出てない……。』

たまにはいいじゃないアバターくん。

『俺全く出てないんだけど……。』

ラストの台詞がお前でいいよ。

「全くダメージ喰らわなかったな……。俺……。」

それは置いといて、久しぶりのオリカ紹介!!

『ダーク・エンジェル』

レベル3

闇属性

攻撃力：1300

守備力：1200

天使族：効果

このカードは悪魔族としても扱う。

このカードが戦闘によって破壊され、墓地へ送られた時、デッキから死天使と名のつく攻撃力1500以下のモンスター1体を特殊召喚する。

『D.T.スラッシュ・ブラッド』

レベル8

闇属性

攻撃力：2100

守備力：0

悪魔族：ダークチューナー

このカードをシンクロ素材とする場合、ダークシンクロの素材に  
し  
か  
で  
き  
な  
い。

このカードが守備表示でフィールド上に存在する時  
このカードを破壊する。

『不<sub>レ</sub>完<sub>レ</sub>獣<sub>レ</sub>キ<sub>レ</sub>メラ』

レベル4

地属性

攻撃力：3000

守備力：1200

獣族：ダークシンクロ

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在する  
ダークチューナー  
「DT」と名のついたチューナーのレベルを

それ以外の自分フィールド上に存在するモンスター1体のレベルか  
ら引き

その数字がこのカードのレベルと等しくならなければならない。

このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する場合

エンドフェイズにデッキからカードを3枚、墓地へ送る。

『死<sub>レ</sub>天使<sub>レ</sub>ア<sub>レ</sub>モ<sub>レ</sub>ラ<sub>レ</sub>ティ<sub>レ</sub>ス』

レベル6

闇属性

攻撃力：1470

守備力：2100

天使族：効果

このカードは悪魔族としても扱う。

このカードが自分フィールド場に存在する場合、自分が戦闘ダメージを受けた場合

自分のデッキの上からカードを任意の枚数墓地に送る事で

自分が受ける戦闘ダメージを墓地に送ったカードの枚数×100ポイント少なくする。

『死天使の使い』

レベル4

闇属性

攻撃力：2000

守備力：0

天使族：効果

このカードは悪魔族としても扱う。

このカードが召喚に成功した時、このカードを破壊する。

このカードが破壊され、墓地へ送られた時

自分の墓地からし天使と名のつくモンスター1体を特殊召喚する。

『死天使クリスティアゼロ』

レベル8

闇属性

攻撃力：2700

守備力：1700

天使族：効果

このカードは悪魔族としても扱う。

このカードは戦闘によっては破壊されない。

このカードが戦闘を行う場合、相手モンスターが特殊召喚されたモンスターだった場合、そのモンスターを破壊する。

『DTシールド・ドルリラ』  
レベル9

闇属性

攻撃力：0

守備力：0

戦士族・ダークチューナー

このカードをシンクロ素材とする場合、ダークシンクロの素材にしかできない。

このカードをドローフェイズ以外にドローした場合、フィールド場に特殊召喚できる。

『カタストロフィー』

レベル8

闇属性

攻撃力：3300

守備力：2700

幻神獣族・効果

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在する「ダークチューナーDT」と名のついたチューナーのレベルを、

それ以外の自分フィールド上に存在するモンスター1体のレベルから引き、

その数字がこのカードのレベルと等しくならなければならない。

このカードが破壊された時、相手モンスターを1体破壊する。

『死霊天使アラブラミス』

レベル12

闇属性

攻撃力：1800

守備力：2900

天使族：効果

このカードは通常召喚できない。

このカードは墓地の死天使を5体以上除外した場合のみ手札又は墓地から特殊召喚できる。

このカードは悪魔族としても扱う。

このカードの攻撃力は、除外された死天使と名のつくモンスター1体につき

200ポイント攻撃力をアップさせる。

このカードは魔法・罫の効果では破壊されない。

主人公どっちだっけ？

「俺だ。

所で名前の由来とかはあるのか？」

無い！

「それでこんなにも出せるのか貴様は……。」

はっはっは。

サイエンカタパこの時代使えたっけ？

「野良デュエルだからいいんじゃない？」

## 食の恨みは恐ろしや

視点：永理

あゝ、疲れた……。  
なんでこんな日にアイツとデュエルしなきゃならなくなったんだ？  
次は美少女のセブンスター来ないかな？

「美少女!？」

うわっびっくりした!

いきなり目を覚ましたな吹雪さん……。  
さて……。と……。狸に連絡でもしますかな……。

「おい校長、吹雪さんが目え覚ましたぜ。」

「おい永理、でっかいエビを貰えたから今日エビフライにしようぜ。」

『さすが万丈目のアニキ!そこに痺れる憧れる!』

『何ネタやってんだメモエ……。』

『まあまあ、そう怒らずに……。イエローだって悪気があったわけじゃないんだから。』

……。ウルセエ……。

「少し静かにしろ……。今吹雪さんが目覚めたところなんだから……。」

「つーかなんでこのタイミングで目覚めるんだ？  
しかも美少女とか言ってたような……。  
駄目だこいつ……早く何とかしないと……。」

『おおっ！目が覚めましたか、吹雪くんが……。  
コレでまたファンクラブとかが活発に……。はあ。』

大変ですなあ……。校長も……。」

『おジャマドレミー！』

『『『『ドツカーン！』』』』

ウゼエ……。マジウゼエ。」

なんなのこのノリ、さすがおジャマ！

「じゃあもう切りますね、電池がアレなんで。  
』そうですか……。では……。」

校長がそう言ったのを確認し、電話を切った。

「アレ？ここは何処？僕は誰？」

「お前は天上院 吹雪、ここは俺の部屋だ。」

「一応俺も住んでるんだが……。」

気にするな万丈目。アドバイス「アビドスだ！」だって住んでんだから。

ウゼエ……。アポピス「ア・ド・ビ・ス！」ウゼエ……。」

……。よし！今日はエビフライにしよう！

「千丈目！今日はエビフライだ！」  
「万丈目だ！」

どっちでもいいだろ・・・ソースまだあったっけ？  
よし、ここは吹雪ングに任せよう！

「吹雪さん、ソース買ってきてください。拒否権はありません。」  
「えー？何で僕が・・・まあいいけどさ・・・。」

いいんだ・・・吹雪さんエ。

視点：キング？

おい上の？はなんだおい。

まあそれは置いといて、月影くんの態度が先輩に対しての態度じゃない様な・・・。

えっ？出席日数が足りないから留年？マジで？

えっ？なんで名前を知ってるかって？ダークネス時代に影丸さんから聞いたからさ。

は？記憶を失ってるんじゃないかって？失う訳ないだろ。そう簡単には・・・。

じゃあ最初の台詞はなんだって？へっ？目覚めたら普通ノリで言うでしょ？えっ？言わない？

・・・ソース買いに行こう・・・。

なんだろう・・・すんごい久しぶりに外へ出た気がする・・・。

あっはっは、久しぶりに明日香に会いに行こうかな・・・女子風呂

でなッ!

あつ痛い痛い、石ころが飛んで来た様な……。

「あ……。」

「うん……!?!」

亮……なにその薄い本……月影くんの部屋の本と同じ様な……。  
まさか……目覚めたのか亮……ついに本当の男の子として……。  
中等部時代は熟女や醜女好きだったのが遂に……。

「スクラップ・フィスト!」

「ひでぶっ!」

い……いきなり何するんだ亮!中等部からの長い付き合いじゃないか!

涙が出ちゃう……男の子だもん!

「黙れ……この本を見たからには生かして帰さん!」

「吹雪さん?ソースはまだかな?かな?」

アレ?月影くん……いつの間に……。

気のせいかな……二人の背後に三幻神が……。

「さつさと買ってきてこいや吹雪!」

「くたばれい!衝撃のファーストブリットお!」

ああ……空つて……こんなに青かったっけ……?

僕は今……空を飛んでいます……。そして落ちてます……。

アレ？クロノス先生・・・？まさか・・・。

「避けて！クロノス先生避けて！」

「ひよっ？」

何だろう・・・頭が痛い・・・。

「痛いノーネ・・・いきなり何するノーネ・・・。」

「すみません・・・亮が僕を飛ばしたから・・・。」

嘘はついてないよ・・・事実だし・・・。

ああ・・・頭がクラクラする・・・恋とは別の・・・物理的な・・・。

「じゃあクロノス先生・・・僕はソース買いに行かなきゃならないので・・・この辺でサイナラ〜。」

「ちよっ待つノーネ！って足早っ！」

はっはっは！面倒事に巻き込まれる位なら逃げるさ！

購買へ向かって・・・全速前進DA！

その頃永理達は・・・

「なあ、学食の方でソース・・・貰えば良かったんじゃ・・・。」

「・・・あ！」

気のせいかな・・・なんか殺意が・・・。

気のせいだなうん。  
さて・・・

「トメさん、ソース下さい！」

「おや、久しぶりだねえ、吹雪くん。はいよ、230円だよ。」

学校のソースって高いんだよね・・・ハア・・・。  
帰ろう・・・なんか明日香に会う気分じゃないし・・・。

「エビフライってなんかドン・フライを連想させる・・・。」

ドン・フライってなんだろう・・・自分で言ったんだけど・・・。  
おや・・・アレはアビドスくん？何をして・・・はっ！

忘れてたけど彼・・・まだ負けてないんだっ！ソレであの生徒と  
デュエルを・・・。

気のせいだよな！タニアまで居る気がするけど気のせいだよな！

「あつ、吹雪さん目が覚めたんだ。」

「ちようどいい・・・タツグデュエルだ！」

いや・・・いきなり言われても・・・。

タニア何とかしてくれ。

「諦めろ。」

何それ酷い。

あつ、月影くん！助けてくれ！

「ソースまだあったからデュエルしても大丈夫だZE」

何処の魔理沙だ！

あと鍵はどうするの？

「俺のを授けよう。全力で頑張れ。」

ああ・・・助け舟はどこにもないのか・・・。  
タニア止めてくれ。

「ムリダナ。」

畜生・・・。

「さあ・・・デュエルだ！」

「全力で行くぜ！」

「なんで私まで・・・。」

「畜生・・・。」

「「デュエル！」」「「はあ・・・デュエル。」」

さて・・・読者の皆様はアニメ版のタッグデュエルは知ってるでしょう。  
よ。

でも知らない人のために月影くんが説明してくれます。(多少改変して  
してるかも？原作のルール知らないし。)

「月影 永理と・・・。」

『「アバターの・・・。」』

『「タッグデュエルルール説明！」』

「プレイヤーは最初のターン攻撃できません。  
なんで最後の人も攻撃できないんだろう？」

『ソレは言わないお約束だぜ！』

墓地は共通で例えば吹雪ングが『貪欲な壺』を発動した場合

『貪欲な壺』を発動したプレイヤーのデッキに味方のカードも入ります。

終わったらしつかり返しましょう。』

「以上！説明終わり！短い？気にするな！」

先行はじゃんけんで勝ったアボカドくん「アビドスだ！貴様ダークネス時代に散々注意したではないか！」からのターンだ。

「俺の先行！ドロー！」

『E・HEROエアーマン』を召喚！効果により『E・HEROオーシャン』を手札に加える！

カードを2枚伏せ、ターンエンド！」

「ちっ、属性HEROめ……。」

おお……十代くんが燃えている。

何で名前が分かるかって？上の文参照。

「僕のターン！ドロー！」

魔法カード『竜の目覚め』を発動！

デッキからレベル4以下のドラゴン族モンスターを手札に加える！

僕が手札に加えるのは『黒竜の雛』！そして『黒竜の雛』を召喚し、効果発動！

『黒竜の雛』を生贄に捧げ、『真紅眼の黒竜』を特殊召喚！  
カードを2枚伏せ、ターンエンド！」

アビドスくんのデッキが変わってる？何故……？

「私のターン！ドロー！」

『アマゾネスの戦士』を召喚！更に装備魔法『ミスト・ボディ』を装備！ターンエンド！」

ワーオ・・・ガチコンボだー。  
タニアさんソレヤヴァイです。

「俺のターン！ドロー！  
魔法カード『天使の施し』を発動！

デッキからカードを3枚ドローし、2枚捨てる！  
墓地のネクロダークマンの効果によりエッジマンを召喚！  
カードを伏せ、ターンエンド！」

おお！十代くんも凄いね。本当にレッド寮生徒かい？  
なんか・・・なんでもない・・・。

「俺のターン！ドロー！  
戦いの生態系！戦いの食物連鎖！その頂点に君臨するのはこの俺と  
属性HEROだ！」

アビドスくん・・・何処の社長ですか。

「御託はいい・・・さつさと続ける！三下！」

おいおい十代くん、三下はないでしょ。  
一応無敗王者なんだよ。

「威勢がいいな・・・魔法カード『融合』！  
こい！『E・HERO アブソルートZero』！」

アブソ？ポケモンですか？

あれ？十代くん？・・・。

「残念でした！畏カード『ヘル・ポリマー』！」

十代くん？ソレは主人公が使うカードじゃないよ。  
てかなんでそんなアンチカードを？

「これでアブソは俺の手中に収まった！きえーきえーきえーきえー！」

十代くうううん！！！！

その笑い方悪役！原作の綺麗な心はどこへ行った！

「卑怯な・・・モンスターをセット、ターンエンド」

どうしよう・・・たしかがら空きの方を狙ってもタニアが庇うだろうからなあ・・・。  
よし！ここは・・・

「僕のターン！ドロー！」

リバースカードオープン！『砂塵の大竜巻』！破壊するのは勿論その伏せカード！」

「なっ・・・（ちっ・・・『死せし英雄の骸』が・・・。）」

いいカードが破壊出来たかな？

「行くよ！魔法カード『黒炎弾』！アビドスくんを対象にするよ！」

真紅眼が黒い炎を吐き、アビドスくんの人中に撃った。

人中は駄目でしょ。

「なっ、ぐわあああー！」

「更に儀式魔法『高等儀式術』を発動！デッキから『片翼の飛龍』と『ゼロ・ドラゴン』を墓地へ送り、『闇竜の黒騎士』を儀式召喚！そして『闇竜の黒騎士』を生贄に捧げる事で、デッキから『真紅眼の黒竜』を特殊召喚！そして伏せカード『天よりの宝札』！デッキからカードを5枚ドロー！」

我ながら凄まじいドローだね・・・。  
おっ、いいカードだ。

「魔法カード『サイクロン』！破壊するのは勿論『ミスト・ボディ』！」

そして魔法カード『禁じられた聖杯』！『アマゾネスの戦士』の効果を無効！

そして『真紅眼の黒竜』を2体生贄に捧げ、『真紅眼の皇帝竜』をレッドアイズエンペラードラゴン召喚！

おお、カッコいいぞ真紅眼！コレが皇帝になった姿・・・。  
どこぞの銀河竜なんて目じゃない！

「はっはっは！行け皇帝竜！目障りな女を殺せ！滅びのダークネスバースト！」

どう聞いても青眼の攻撃名です本当にありがとうございました。  
なんだろう・・・叫びたいぜ僕のコスモ！

ダークネス時代よりも輝いてるぜ僕！あっはっはっはっはっは！

「攻撃！破壊！大喝采！」

「吹雪さん……どこのキャベツ社長ですか？」

タニアの残りライフはわずか1000 この勝負！貰った！

「ターンエンド！」

「不味いな……私のターン！ドロー！」

（来たか！）魔法カード『アマゾネスの蘇生術』を発動！『アマゾネスの戦士』を蘇生！

更に『アマゾネスの戦士』を生贄に捧げ、『アマゾネスの神』を召喚！」

弱い！弱すぎる！今の僕では攻撃力2900など……弱すぎる！

「『アマゾネスの神』は1ターンに一度、相手モンスターを操る事ができる！『真紅眼の皇帝竜』を選択！」

「なっ、なん……だど……。」

なんちゃって！ヴァカめ！皇帝竜は相手のカード効果を受けないんだよ！」

「な……カードを1枚伏せ、ターンエンド！」

勝利の女神は僕たちのチームに微笑む！

さあ十代くん！君のチートドローで！勝利を掴もう！あと月影くんエビフライ残しとして！

「もぐもぐ……頑張れー」

『タルタルウマ！』

「博多の塩！」

『『『『『サクサクウマ！』』』』』』

畜生。

「俺のターン！ドロー！」

『融合』発動！手札の『沼地の魔神王』とスパークマンを融合！

『E・HER シヤイニング・フレア・ウイングマン』を融合召喚！更に魔法カード『苦渋の選択』！

さあ、この中から選べ！アビドス！」

なになに・・・

E・HEROスパークマン

E・HEROバーストレディ

E・HEROネクロ・ダークマン

E・HEROバブルマン

E・HEROバブルマン・ネオ

なあにこれえ。

どれを選んでも攻撃力アップって・・・。

外道だ十代くん！月影くんの影響を受けたか！

「どれを選んでも同じだろう・・・バブルマンを選択する。」

「OK！残りは墓地へ！更に魔法カード『セメタリーヒーロー』を発動！」

デッキからHEROを5体墓地へ送る！行け！シャイニング！アビドスに攻撃！セメタリー・フラッシュュ！」

うおっ、眩し！

ああ、目があゝ、目があゝ。

「さあ行け！エッジマン！エッジスラッシュュ！」

「何故俺を、ぐわああああ！」

「アブソ！絶対氷壁！」

「貴様・・・ぐわああああ！」

ひ・・・酷い・・・。オーバーキルだ・・・しかも止めアビドスくんのエースモンスターだし・・・。

「くくく、ターンエンド！」

外道だ・・・外道だよ十代くん！原作の綺麗な心は何処へ・・・。  
一体どうして・・・確かに属性HEROやシンクロが増えたけど・・・。

「（殺らなきゃ・・・殺られる！）私のターン！ドロー！」

『アマゾネスの神』の効果はつだ「残念、畏カード『天罰』！」ひよっ？？」

タニアさん・・・どここの羽蛾だ！

どこの羽蛾だ！大事な事なので二回言いました！

「うっう・・・なんで吹雪はそんなにも強いんだよ。ターンエンド・・・。」

タニアさん・・・どうなのそのキャラ。

「僕のターン！ドロー！」

皇帝竜で攻撃！滅びのダークネスバースト！」

なんでだろう・・・攻撃法がバルバトスのジェノサイドブレイバー風なのね・・・。

粉碎！玉砕！大喝采！

勝利！

「さあ、なんとかの鍵を渡してもらおうか。」

十代くん、七精門の鍵ね……。

「ちっ、ほらよ。」

「なんか釈然としないんだよなあ、まあ負けたから渡すわ。じゃっ、さようなら。」

タニア……ハングライダーで風に乗って飛んで行った……。アビドスくんはどうするんだろう。

「カモン！ヘリコプター！」

アビドスくんがそう叫ぶと、空からヘリが……。ではなく海から船が出てきた……。ヘリじゃねえのかよ！

「では、さくらば。」

おお、崖から飛んでも死なないとは……。さすが幽霊！

「月影くん……エビフライ頂戴。」

「ごめん全部食った。」

「ダークネス・ギガ・フレイム！」

「R+ スマブラ的回避！」

許さん！許さんぞう！！

食の恨みは恐ろしや（後書き）

エビフライ・・・食べたいなあ。

永理「貴様の分はない！」

このガキヤア・・・。

永理「さて、オリカ紹介！」

『竜の目覚め』

通常魔法

デッキからレベル4以下のドラゴン族モンスターを1体、手札に加える。

『死せし英雄の骸』

通常罫

デッキからHEROと名のつくモンスターを1体、特殊召喚する。  
このカードは、自分のメインフェイズにのみ発動できる。

『片翼の飛龍』

レベル3

地属性

攻撃力：1200

守備力：1700

ドラゴン族

その昔、数多の人々を喰らった伝説の飛龍。  
その力はもう、残ってはいない。

『ゼロ・ドラゴン』

レベル1

攻撃力：0

守備力：0

ドラゴン族

ガンドラの雛で、最強に近い力を持つ竜。

だがその力をまだ、コントロールできない。

『真紅眼の皇帝竜』  
レッドアイズエンペラードラゴン

レベル12

攻撃力：5500

守備力：2200

ドラゴン族：効果

このカードは、真紅眼と名のつくモンスターを生贄にしなければ、  
召喚できない。

このカードは魔法、罫、効果モンスターの効果を受けない。

『アマゾネスの蘇生術』

通常魔法

墓地のアマゾネスと名のつくモンスターを1体、特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したモンスターの効果は、無効となる。

『アマゾネスの神』

レベル10

攻撃力：2900

守備力：2900

戦士族・効果

このカードは、アマゾネスと名のつくモンスター1体で、生贄召喚できる。

1ターンに一度、相手モンスターのコントロールを得る。

『セメタリーヒーロー』

通常魔法

デッキからHEROと名のつくモンスターを5体、墓地へ送る。

永理「なんとというチートカード……。」

はっはっは、名前の由来なぞ考えんでもいくらでも出てくるわ！

永理「お前さ……もういいわ。」

エビフライのしっぽは堅い！

永理「俺も食えん。」

テメエは食えるだろ・・・魚の目玉も食ってるんだし・・・。

黒蠟？どんな効果か知らぬ！！

視点：永理

「ジエノサイドプレイヤー！」

「うるさい吹雪。」

「うるさいぜ吹雪先輩。」

「酷い・・・お兄ちゃん泣いちゃう！」

何だこの人・・・今回は結構マトモだったのに・・・  
どうしてこうなった！作者！

はあ・・・客が来ない・・・何故？神のカードもあるのに・・・。

『今授業中だからだろ・・・。』

「ああ！」

そうか！でもなんでこいつ等は逝かないんだ？

「永理字が違うぞ。・・・もしかしたらセブンスターズが現れるか  
もしれないからD A」

それを利用してサボってるんですね分かります。

こいつ等駄目だ！

「永理」

十代の声！？何故？まだ授業の時間だアアア！！なのに……。えっ？なんでお前は授業に出ないのかって？店番だ！

「あつ、居るんだ……。授業はどうした！」

「無断欠席DA！」

「授業出るよ……。」

見るな！そんな目で俺を見るなアアア！

てかお前が言うな。

「お前が言うな。」

「あはは……。十代くん何か用かな？用がないなら是非、カードを買ってくれ！」

「じゃあ『魔導雑貨商人』を2枚……。って、そんなこと言ってる場合じゃないよ！」

なんか外に警察の人が居るんだが……。何かしたのか？」

俺は無実だ！本当に無実だ！

本当だよ……。昔不良達の頭になってたけどさ……。

なんとなく嫌な奴のデッキを燃やしたり破いたりしたけどさ……。

「ハア……。ドロップアウトは何時まで経ってもドロップアウトだな……。」

「黙れネタデッキのエリート（笑）」

「貴様……。」

「えっ？何この雰囲気？僕置いてけぼりなんだけど……。」

喧嘩すんな……。面倒な奴らだ……。

あと地獄デッキは地味に強いお。

イレイザー、後ヨロシク。

『酷いよマスター……。』

「マスターって言うていいのは俺の嫁だけだ！」

思考がおかしい？気にすんな！そんな事よりスモークチーズを食べよう！

『お前本当に主人公か？』

「言つなアバター……。」

はっはっはっは！知るかヴオケがあ！

無理矢理ベリーメロン食わずぞ！シークレットソード？放っちゃう

よおおじさん！

塩くれてやるぞ！

「外に居る人達って誰？」

「三沢居たのか。」

「吹雪さんがジェノサイドブレイバー、って叫ぶあたりから居たよ！」

メタ発言多いな……。この小説。

いつその事アレするか？アレしちゃうよ俺？アレってなんだ！

「しらねえよ。」

ちよっ、心の声読むな十代！

「あの……。もう入ってもよろしいでしょうか？」

「「「「あっ、忘れてた。「「「」

すまぬ、ガチで忘れてたZE ワザとではないんだZE

「酷い。」

「存在感がない同志、仲良くしましょう。」

「よし断る。」

「しょんなぐ。」

三沢ウゼエ・・・とりあえずウゼエ・・・なんかウゼエ・・・。  
ロリコンの癖に！くさやジャム食わずぞ！  
俺？・・・嫌いですけどくさやジャムは。

「で？何の用なんだ？用がないなら帰れ！商売の邪魔になる！」

「でも今、授業中・・・。」

「大丈夫よ。授業ならつぶさ・・・潰れたわ。」

明日香・・・潰したって言わなかったか？もしそれが本当ならお前  
ヤバイぞいろんな意味で。  
てか居たのか？気付かなかったぞ？

「明日香！お兄ちゃんの為にこの店へやって来たんだね！お兄ちゃん  
うれしいよ！」

「それはない・・・ちよつとカードを買いにね。」

で、この人達誰？警察みたいだけど・・・何かやったの？

何も殺つてないし犯つてない。

本当だよ！それは昔の話だよ！

ぷるぷる、ぼくわるいデユエリストじゃないよ。

「何もしていない、おそらく七精門の鍵の件じゃないか？」

「まあ・・・そうですね。その件です。鍵は奪われてないですけど  
用心に越したことはないですからね。」

ちなみにこいつ等はカードの精霊・・・らしい。アバター達が言った。

「皆さんは何処に、鍵を隠していますか？」

「私は女子風呂の排水溝に隠しているわ。」

明日香・・・どこの犯罪者だ！絶対犯罪犯すよこの人！  
てか髪の毛詰まったりしないのか！？

「リストバンドの中だ。」

カイザー・・・居たのか。音も声も聞こえなかったから気付かなかつたぞ。

・・・リストバンド好きだねこの人・・・。オーバーロードに未来融合隠してるしね・・・。

しかもデッキに4枚積み・・・こいつデュエリストとして最低だ！  
本人はリアリストって言ってるけど・・・。

「俺は翔の髪の中に。」

翔！気付け！普通気付くだろ！

それと十代！どうしてそんな所に・・・。

「俺はデッキケースの中に・・・。」

さすが三沢！地味だ！普通だ！特徴ねえ！

「俺は薄い本のどれかに・・・。」

万丈目・・・お前なあ・・・  
どうしてそれに隠したよ・・・。

「大会の景品にしたぜ！」

「『『『『『隠せよ！』』』』』」

はっはっは！強化ガラスだから問題ない！  
それに最近大会出る人いないし・・・。  
・・・バカとか言うな！

アレ？クロノスは？原作ではカミューラに負けて鍵失くしたけど・・・。

「クロノス先生なら今日はおやすみよ・・・なんでも阪神VS巨人の試合を見に行ったらしいわ。」

「授業しろよ・・・。」

アレ？あのでかいおっさんの肩が震えているぞ？

「くっくくく・・・それさえ聞けばもはやきさま」「奪ってもたしかデュエルで盗らなあかんど。」「・・・まじで？」

知らなかったんかい・・・駄目だこのおっさん・・・。

「貴方がセブンスターズの一人なら・・・私とデュエルよ！最近出番が無いしデュエルだって全くやってないし・・・。」

明日香エ・・・メタ発言を・・・一応アニメのキャラなんだからさ・・・。

「だったら俺もだ！なんか無視されてはっかな気がするから……」

三沢……だからコスプレデュエル大会で活躍させたるって……。

「だったら俺だってでゅえ」「テメエは沢山出てるだろ！！」「  
だが原作では俺がデュエルする事になってるんだ！」

万丈目……アニメのキャラが原作とか言うな……。  
もうジャンケンで決める……。

まさか万丈目が勝つとは……なんか二人位絶望してたぞ？

「デュエルの女神は俺に微笑んだ！さあデュエルだ！！」  
「えっ？あ、ああ。……なんか釈然としないなあ……デュエル  
！」

さて……万丈目はあのデッキをどこまで使いこなせるかな？  
……警官の方誰だっけ？

「俺のターン！ドロー！  
魔法カード『苦渋の選択』を発動！」

おいおい……一気に決めるつもりかよ……。  
しかも選択したカードが……な……。

「俺は『おジャマ・イエロー』を選択！」  
「なら残りは墓地へ捨て、『アームド・ドラゴンL?3』を召喚！  
永続魔法『ハイリスク・レベルアップ』を発動！デッキの魔法力！

ドを5枚墓地へ送り、『アームド・ドラゴンL?5』を特殊召喚！」

初っ端から飛ばすねえ、破壊されたら泣くよ？

「カードを伏せ、ターンエンド！」

さて・・・アイツはどんなインチキを使う？

何故インチキを使うと思うかって？勘だ！

まあ、俺の勘は外れやすいけどな！

「俺のターン！ドロー！」

・・・魔法カード『黒蠍団の勧誘』を発動！デッキから黒蠍以外のモンスター1体と、黒蠍と名のつくモンスター1体を特殊召喚する！デッキから『首領・ザルグ』と『黒蠍 毘外しのクリフ』を特殊召喚！さらに魔法カード『黒蠍団召集』を発動！

手札から『黒蠍 茨のミーネ』『黒蠍 強力のゴーグ』『黒蠍 逃げ足のチツク』を手札から特殊召喚！カードを伏せ、ターンエンド！」

一気に並んだな・・・黒蠍？・・・ああ、アレか！たしか万丈目が中の人ネタするアレか！

・・・いつからだろう・・・公式が病気になったのは・・・。

「俺のターン！ドロー！」

スタンバイフェイズに『ハイリスク・レベルアップ』の効果発動！このカードが表になっている時、1000ポイント払う。

魔法カード『ハイリターン・レベルアップ』を発動！自分の場に存在する『ハイリスク・レベルアップ』を墓地へ送り、デッキからモンスターを特殊召喚する。

俺はデッキから『アームド・ドラゴンL?7』を特殊召喚！『ア

ムド・ドラゴンL?7』の効果により、手札の『地獄殻の使い』を墓地へ送り、貴様の場のモンスターすべて破壊する！  
アームド・ミサイル！」

アレ？ドラゴンってたしか生き物だよな・・・なのになんで爪を射出してんだ？

おかしいよね！

「なつ、貴様・・・。」

「はっはっは！大事な友達が潰されてさぞや悲しいだろうな！だがそれも、俺にとっては至福の時だ！相手のエースモンスターがあっさり破壊されず様・・・最高だ！」

万丈目が・・・万丈目があ！完全に悪役に・・・。  
駄目だこいつ・・・。

「案外あつけなかつたな・・・『地獄戦士』を召喚！更に魔法カード『イージー・チューニング』を発動！

墓地の『地獄からの使い』を除外！『地獄戦士』の攻撃力を2600アップさせる！さらばだ・・・『アームド・ドラゴンL?7』で直接攻撃！

完全破壊！アームドブラスト！」

うわぁ・・・これはやり過ぎ感が・・・。

そもそも爪を射出し、プレスを吐いて、相手へのリスペクトが全くない感じが・・・。

「チエックメイトだ・・・『地獄戦士』で止め！一族秘伝ヘルスラッシュ！」

一族秘伝なんだ・・・地獄戦士・・・。

「な、うわあああああ!!!」

「あっはっはっはっはっは!!! 貴様の實力など、所詮その程度だ。雑魚め!」

万丈目・・・明らかにやり過ぎだ。

よし、カードをあげよう! レア物の青眼だ。レアカードって書いてある方のな!

「さあ、七精門の鍵を俺に渡し、とっとと失せろ!」

「商売の邪魔になるから消えてくれ。」

外道? タグに書いてあるではないか!

あっはっはっはっはっは!!!

「僕たち・・・空気だね・・・。」

「次こそは・・・ちゃんと活躍を・・・。」

・・・お前らなあ・・・そんな事言っているのか? 一応アニメキヤラだぞ?

**黒蠍？どんな効果か知らぬ！！（後書き）**

「お前さ、もう少し長くは出来ぬのか？」

ムリダナ。

・・・さて、後書きが短い気がするけど気にせずオリカ紹介！

「お前なあ・・・本当に駄目だ！」

『ハイリスク・レベルアップ』

永続魔法

自分フィールド場にL?と名のつくモンスターが存在する場合に発動。

そのカードに記されているモンスターをデッキから特殊召喚する。

このカードが破壊された場合、この効果で特殊召喚したモンスターを破壊する。

このカードが表側表示で存在する場合、自分のスタンバイフェイズに1000ポイントのライフを払う。

『黒蠍団の勧誘』

通常魔法

自分のデッキから黒蠍と名のつくモンスター1体と黒蠍と名のつくモンスター以外を1体、特殊召喚する。

『ハイリターン・レベルアップ』

通常魔法

自分フィールド場に表側表示で存在するハイリスク・レベルアップを墓地へ送り  
デッキからハイリスク・レベルアップで特殊召喚したカードに記されているL?と  
名のつくモンスター1体を特殊召喚する。

「『レベルアップ!』という名のk魔法カードの方が強いな……。」

黒蠍団の勧誘はいいと思うが。

「まあそれ位だな。」

だね。

恋愛などはなア、ソレだけで死亡フラグなんだよぉー！！

視点：みなんとか

「俺の名前は三沢 大地だ！！」

「いきなり何叫んでんだよ三・・・沢？」

「『？』を何故つける十代くん！？」

俺はそんなにも影が薄いのか・・・。

だが・・・俺は今回こそデュエルをする！

そもそも俺はセブンスター編は影が薄くはなかったはず・・・何故D A I E R Y ! ! ! !

「あつ、三沢くん居たんだ。」

「居ましたよ!？」

ふっふっふっふ・・・今回は活躍するぞ！コスプレデュエル大会！これに出て、俺は新・・・じゃねえや。真のメインキャラに・・・！そのために・・・そのために来たのに・・・。

「何故俺が準備を・・・。」

「アレ？知らないの三沢くん、三沢くんの出番はこれだけだよ。」

へ？翔くんもう一回言ってみてくれ。

「だから、三沢くんの出番はこれで終わりだよ。」

「なん・・・だと・・・?」

・・・そだ・・・嘘だあああああ!!!?」

そんな訳がない・・・そんな訳がないんだ!だって・・・だって作者は・・・作者はアア・・・活躍させてくれるって・・・くれるって言ったのに・・・。

もう誰も信じられない・・・信じないぞオオオオオ!!!」

「十代、この木材を持ってきてくれ。」

「サー・イエッサー」

「・・・俺は軍曹ではないぞ?」

「三沢くんの出番はこれで終わりです。」

ちくしょおおお!!!」

俺はレオパルドンじゃねえぞオオオオオ!!!」

視点：栄

「4カードね。」

「2ペア・・・。」

「3ペアですわ!」

『ロイヤル・ストレート・フラッシュですう。』

「・・・なん・・・だと・・・」

気のせいですかねえ、喋るのが久しぶりな気がしますう。  
気のせいですね!はい!

「そついやあさく、レッドでコスプレデュエルするらしいんだけど、皆は出るの？私は出るけど。」

ジユンコさんは、出るらしいですねえ・・・やはり永理さんの造った衣装が着たいんでしょうかあ？

まあ、気持ちは分からないでもないですけど・・・。

「私は遠慮いたしますわ、レンちゃんできょつとした曲を作ろうかと思ひましてね。」

「シヨタコン・・・」

「何か言いましたか？明日香さん。」

「ももえ・・・顔が怖いわよ・・・。」

ももえさん・・・何言ってるんですかあ？レンって誰ですかあ？あと、ももえさんはオタクなんですかあ？

「ぶえつくしよい！！」

「どうした永理・・・くしゃみなんかして・・・。」

「明日香く、どこ行つたんだい・・・お兄ちゃん寂しいよ。」

「吹雪黙れ。」

「酷い・・・。」

何か聞こえたような気がしますますが気のせいですよね・・・。  
あとカミューラさん・・・何してるんですかあ？

「どうぶつの森。オオクワガタゲットオオオオ！！」

『シーラカンス4匹釣りましたけれど・・・。』

「ちくしよおおお！！」

私は運はいいですからねえ、ジャンケンで負けた事は13回しかないんですよ。」

「栄ちゃんはどうするの？出るの？出ないの？」

『出ますよう。永理さんのは凄いですからあ。』

「なんかえ」「黙りなさいももえ、この小説がR 15になってしまっわ。」「明日香さんメタ発言はどうかと。。。」

なにがエロいんですかあ。私にはわかりませえん。

「フィツシユイヤツフオオオオウ!!!」

。。。煩いですカミユラさん。。。

視点：吹雪

明日香、どこ行ったんだよ。お兄ちゃん寂しいよ。

あと永理くん、背中蹴らないで痛いよ。

あと吹雪と呼ばないでお兄ちゃんと呼んでくれれば僕はうれしいな。

「貴様。。。この小説をボーイズラブにするつもりか！」

「永理。。。一応あんなんでも先輩だから。。。認めたくないけど。。。」

「みんな酷くない！？あと僕は普通に女子が好きだよ！基本大学生以上が好みの普通の少年だよ！」

みんなして酷い。。。二人だけだけ。。。

て言うか永理くんロリコンだよね！？そんな人に女性好きだけの馬鹿なんて言われたくないよ！

「そんなことは言っていない。心の中で呟いただけだ！」

酷いよ……。

あと心読まないで！

「そもそも17過ぎたらもうおばさんじゃん。」

「ロリコンめ。」

「ロリコンじゃん！」

『では、俺はその上に行く！』

「……アバター黙れ。」

『黙れって……俺神だよ？』

そういえばそうだったね。忘れてたよ。

うん？永理くんどこかへ行くのかな？

「嫉妬センサーが反応した……今から幸せいっぱい奴に地獄を見せに行く。」

永理くん……怖いよ……君本当に十代くんと同じ年齢かい？

「おじさんを差し置いて幸せなど……許すわけにはいかない！イザ！漆黒の世界へ！！！」

永理くん！！？

帰ってきて！！

「ハーハッハッハッハア！！『オレイカルコスの結果』で、あ奴の

魂を頂戴するぜ！」

永理くんが……壊れた!? 僕には止めることができないよ……  
残念ながら……そのカップルさん……ご愁傷様だね。

視点：最終鬼畜暴走月影 永理

「奴をデュエルで拘束せよ！」

「「サー・イエツサー!!!」」

はっはっは、逃げる逃げる!

さあ万丈目! 奴を捕まえるんだ!

「捕まえたぞ! 異端児!」

万丈目ナイス!

「なっ、何の用ですか……?」

「貴様に朝日は拝ませねえ! フィールド魔法! 『オレイカルコスの結果』!!!」

「「よし!! 万丈目さん! 早く逃げて!!そこに居たら永理さんに二人同時に狩られてしまいますよ!!」」

「おう! 今そちらへ行く!」

さあ、シヨアの始まりだ!

「このフィールドはこのデュエルに勝利しなければ出る事は出来ない。そして負けた者は魂を刈り取られる!」

「な・・・それなら貴様も負けたら魂が抜き取られるって事じゃねーか！」

「ご安心を・・・私には闇のデュエルを無効化するアイテムを持っていますのでね。私が負けた場合、どちらも助かるんですよ。」

「貴様・・・卑怯な！」

「そりゃどうも、さあ、狩らせてもらっぞ、貴様の幸せをなッ！」

「デュエル！」「ぎゃははははー！」

先ずはあ奴のターンか・・・まあ、どちらでも良い。

貴様は一ターンで葬ってやる・・・くくくくく・・・。

「『ゴブリン突撃部隊』を攻撃表示で召喚！ターンエンド！」

弱い、弱すぎるぜ。

「私のターン！ドロー！」

『黒竜の雛』を攻撃表示で召喚！『黒竜の雛』を生贄にして、『真紅眼の黒竜』を特殊召喚！

魔法カード『二重召喚』！その効果により私は更にモンスターを通常召喚出来る！

そして『正義の味方カイバーマン』を攻撃表示で召喚！そして『正義の味方カイバーマン』を生贄にし、『青眼の白竜』を攻撃表示で召喚！」

「なっ、貴様積み込みしただろー！」

何故分かったし。だが、このデュエルにルールなぞは関係ないぜ！それに、俺の手札にはオネストが有る。・・・オレイカルコス？あれは奴をデュエルで拘束するためだが？

「『青眼の白竜』でキモいゴブリン集団を攻撃！破滅のブラストスクリーム！！」

更に、ダメージ計算時に手札の『オネスト』の効果を発動！」

はっはっはあ！気分爽快だぜえ！

「なっ、うわあああああ！！」

「ヒャーハッハッハッハア！真紅眼で貴様を攻撃！黒炎弾！！」

「うわあああああああ！！」

ジ・エンドだぜヒャーハッハッハッハア！！  
奴が負けたからオレイカルコスの光に包まれた。

スゲエ、アニメ道理だ！

空に魂みたいなのが吸い込まれていき、その魂が抜けた体・・・いや、骸と言った方がいいな。

骸が奴の場所、いや、今骸になっているのは奴か・・・まあ、そこに転がっている。

「諸君！私は勝利したぞ！！悪しき者の魂は、何処へ消えた！」

「『ジーク、永理！ジーク、永理！』」

・・・さて、帰って文園祭の準備でも手伝いますか。

・ ・ ・  
もう少し主人公した方がいいかな？

恋愛などはなア、ソレだけで死亡フラグなんだよお！！（後書き）

お前さア、オレイカルコスはあかんやろ。

永理「仕方ないじゃん！他に拘束出来そうなカードが無かったんだから！」

やっぱりお前、セブンスターズにしたら良かったわ。

永理「俺は誰にも従わない！」

金貰えるなら？

永理「従うぜ！」

お前外道だな。

アバター「俺たちの出番がなかった・・・。  
三沢「せめてもう少し出番が欲しかったなア。」

ロリサイコー近○相○サイコーブス最悪……。

視点：永理

文園祭……それは俺の夢とロマンと桃源郷が造られる時間……。  
文園祭……それは好きなキャラクターにコスプレ出来る唯一の時  
間……。

文園祭……それは明日香ちゃんやこの島に来たレイちゃんやカミ  
ユーラのコスプレ姿が見れるという至福の時……。

文園祭……それはトメさんによって齎される我が嫁……じゃね  
えや我が心のオアシスが汚されてしまった絶望の時間……。  
あえて言おう！何故……何故……

「明日香さんがブラマジガールのコスプレじゃなくてトメさんがブ  
ラマジガールのコスプレしているんだ……！！！」

「何叫んでるんツスカ？永理くん。」

「貴様には解らんのか！熟女と言うアンデットによってブラマジガ  
ールが汚されているんだぞ……あの狸め……地獄を見せてや  
る。」

「こ、怖いツスよ永理くん……。」

怖い？何処がだ？

あつ、万丈目何してるんだ？

「やはり……XYZでは中途半端だな……VWXYZまで行っ  
た方がいいか？」

無茶言うな！こちとら首なし騎士の鎧作るのに大分と金と時間を掛けたんだよ！

そもそもカイザーが「ディアバウンド・カーネル」の格好してみたいな・・・。」とか言うからなあ・・・首なし騎士の剣の部分がまだ未完成なんだよ！

サイバー・ヴァリー？あれは翔の奴だ！

「てか翔。どうやって移動してるんだ？俺が作ったんだけど・・・。」

「下の方に穴開けて足を出しているんだ。兄さんはなんのコスプレなの？」

「『インヴァルズ・ギラファ』だが？」

「なんと悪趣味な・・・。」

ディアバウンド・カーネルなんか作れるか！

まあ・・・首なし騎士の完成度が予想の斜め上を行ったんで部屋に飾ってるんだけどね・・・。」

じゃあ今は何の恰好かって？死霊伯爵ですがなにか？

む、アレは・・・アネキ！？

なんでアネキが！？

しかも何故ヒータ？声も見た目もシャナたんだしさ！

「アレ誰ツスか？見たところヒータっぽいツスけど・・・。」

「アレは俺の姉だ。」

「なん・・・だと・・・！？」

『新たなヒロイン・・・私の立場が・・・。』

栄ちゃん・・・居たのか？

アレ？あれって・・・藍ちゃんか？大分と久しぶりな気がするな！

「トメさん、貴女のその姿はまるで天使のようね」「ダーク・メガ・フレア！」「ぎゃあああああ！！」

なにしてるんだろう？二人とも・・・。

「私の出番が全く無いんだけど・・・。」

「ドンマイだ若人。生きてりゃ良い事あるって！」

「デュエルだって、全くしてないしさあ。」

「じゃあ、永理〜！そこの幽霊さんとこの子、デュエルさせて〜。」

無理難題だなおい！栄ちゃんのデッキは今、他の子どもに貸してるつてのにさ〜。

「栄ちゃん、デュエルやりたいツスカ？」

『はい、そろそろマトモにデュエル描写が欲しいですう〜。』

「吹雪め・・・貴様あ！」

「亮！目を覚ますんだ！あんなブスの何処が良いんだ！」

「ゆ・・・許さん！！！」

はあ、あっちの方もなんとかしないとな・・・。

まあ、栄ちゃんのデッキはもう一個有るんだけどね！

たしか、このデッキだったな・・・。

「栄ちゃん、パス。」

『えっ？はい！』

ああ、可愛いな栄ちゃん可愛い。  
藍しゅま・・じゃなくて藍様がデュエルディスクを構える。  
藍ちゃんの方は可愛いと言うより、凜々しい感じだなうん。

「『デュエル！』」

まずは栄ちゃんのターンか・・・。

『私のターン！ドロ〜！』

『地縛霊』を守備表示で召喚ですう〜。

カードを2枚伏せ、ターンエンドですう〜！』

栄ちゃんやつぱ可愛いよ栄ちゃん。

地縛霊？アレはアイドルカードみたいなのだ！

「ワタシのターン！ドロ〜！」

魔法カード『愚かな埋葬』を発動！デッキから『トラップ・リアクター・RR』を墓地へ送る！

『ブラック・ボンバー』を召喚！効果により墓地の『トラップ・リアクター・RR』を特殊召喚！

『トラップ・リアクター・RR』に『ブラック・ボンバー』をチュ  
ーニング！

世界の平和を守るため、勇気と力をドッキング！シンクロ召喚！愛  
と正義の使者！『ダーク・ダイブ・ボンバー』！」

あるえ〜？その口上はパワーツールじゃなかったっけ？

コレ絶対ネタだよな？

『畏れ〜ド『奈落の落とし穴』を発動ですう〜。』

「えっ、あつうつうつ。カードを伏せて、ターンエンド』では『サイクロン』でそのカードを破壊ですう。』……うええええん！！」

栄ちゃん……なんてガチカードを……。

「あの幽霊……このデュエルに勝ったね。」

「え……あ、ああ。そうだね。」

逆に勝たなければおかしいけどね……あのデッキは超ビートデッキ。ガチシンクロのアンチも入れてあるし。でも、ゲームがつまなくなるからね。封印してたんだ……。

ウソだけどね。

『私のタ〜ン！ドロ〜！』

『地縛霊』を生贄に『地獄詩人ヘルポエマ〜』を攻撃表示で召喚ですう。』

装備魔法『デ〜モンの斧』をヘルポエマーに装備ですう。』

『地獄詩人ヘルポエマ〜』で直接攻撃ですう。』

「へっ？いや来ないで怖い怖い助けて〜。みぎゃっ！」

ああ、マジ可愛いな二人共。マジお持ち帰りしたい可愛い可愛い可愛い。

「逝け吹雪！『サイバー・エルタニアン』で止め！」

「畏カード！『魔法の筒』！」

「なん……だと……？」

なにやってんだあつちは……。

マジで何やってるんだあつちは。

『カードを伏せ、ターンエンドですう〜!』

藍ちゃんヤバいぞ……。

恐らく伏せたカードは次元幽閉……マジでガチカード集団だな。

「あーうー。私のターン……ドロー……。

(やっと来たよ〜。) 『洗脳ブレイン・コントロール』を発動! 選択するのは勿論ヘルポエマー!」

おお! まさかそのカードを引くとは……スゲエ!

あとあつちの方は……

「もう万策尽きただろ亮。さっさとサレンダーしたら楽になるのに……。」

「……くっくっく……ライフを1になるようにライフを払い」

サイバー・デス・デビルデーモン』を特殊召喚!

潰せ! サイバー・デビル・クラッシュ!!」

「な、うわあああああ!」

おいおい。そのオリカ使うか普通……。

こいつ駄目だ!

「ヘルポエマーで栄ちゃんに直接攻撃!」

『残念ですね。畏カード『次元幽閉』!』

やっぱりか!

この子、恐ろしい子!

「あつうつう……『大木人18』を守備表示で召喚して、ターンエンド……。」  
『ふふふ、私の勝ちですね。私のターン！ドロ〜！』  
『ハンマー・シユート』を発動ですう〜。『大木人18』を破壊ですう〜。

『メカ・ハンター』を召喚ですう〜。そして攻撃ですう〜。  
「ちよっ、やめて止めてやめて止めて……止まった！」

うわあ、すんげえネタだあの台詞……。

マジでこの小説が何処向かっているか分からなくなってきた……。

「おお！マジあの子強いよ永理ちゃん！スゲエ！」

「はいはい。凄い凄い。」

「あつう……永理ちゃん意地悪するよおおお。」

ああ、この姉可愛いZE

マジ可愛い本当に可愛いマジお持ち帰りしたいさすが最強で最高に可愛いプロデュエリスト！

「泣かない泣かない。良い子良い子してあげるから。」

「わーい。永理ちゃんの久しぶりの頭なでなでだー。」

ああ、この時間が最高だ……。やっぱりこの姉可愛い幽霊に怖がる姉可愛い一人でトイレ行けないから俺んとこにくる姉可愛いぶっちゃけロリ顔で遊んで遊んでってせがむ姉可愛い！  
変態？紳士です。てかぶっっちゃけロリなら何でもいいのでシスコンではありません。

「わ、私の出番が……。」

「『あつ。明日香さん居たんだ。』」

「居たわよ!!」

ごめんマジ気付かなかった。  
アレ？亮達何してるんだ？

「亮くん。君にも分かるか。彼女の魅力が。」

「ええ、師範。恋に子弟関係は関係無いですよね。」

「いいでしょう。なら、今日から貴方も私のライバル 友 ですよ！」

「おいしいおいしい!!!何やってんだアイツ等！」

「何あの茶番劇？すごくウザい。」

「なあ、俺の出番無いのか？折角投票されたオリキャラなのにさ・・・」

次回で出ると思うよ。

ロリサイコー近○相○サイコーブス最悪……。 (後書き)

あんな姉が欲しい。

永理「はっはっはあ。羨ましいだろ。」

だが貴様に恋人は作らぬ！

永理「なん……。だと……。？」

俺に恋人が居ないのに貴様に恋人を作るとでも？

永理「貴様……。最低だな！」

ありがとう、最高の褒め言葉だよ。

さて、オリカ紹介DA

『サイバー・デス・デビルデーモン』  
レベル12

閻属性

攻撃力：？

守備力：0

機械族；効果

このカードは自分のライフを1にして、特殊召喚する。

このカードの攻撃力は除外されている機械族モンスター1体に付き、攻撃力を600ポイントアップする。このカードが破壊された場合、自分は1のダメージを受ける。

さて、忘れてたアレ。

プロフィールが見たい、部屋の構造が見たい、何処が違うかわからないって人は感想欄にそう書いといて、5人以上で書くと思うからあとオリキャラも募集中だ。感想欄に見たい目、性格、使用デッキ、性別などを書いてください。

ついでに使用デッキも。もし書いてなかった場合、作者が勝手に決めます。

永理「なんで前までやってなかったんだ？たしか最後にやったのは・  
・アビドス？の時だったけ？」

ああ。

永理「もうお前最悪だな。」

はっはっは。ありがとう。

永理「褒めてない。」

レイちゃんは俺の嫁！異論は認めない！

視点：みんなの嫁レイちゃん

「おじさーん、久しぶりー！」

僕は永理さんに向かって走って行った。

僕が永理さんに抱きつくと、少し乱暴に頭を撫でてくれる。

腕が女の人の様に白いし、顔だって女の人みたいなのにおじさんって呼んでしまうんだ。

所で、あの女の人是谁だろう？ヒータっぽいけど……。

「永理おじさん。あの人誰？」

「俺の姉だ。」

ええ！！？永理さんのお姉さん！？どちらかというとな妹の方がシックリ来るよ！

あ、そうだ。永理さんにあのカードお願いしてたんだ。

「永理おじさん。あのカード有る？」

「ああ、あのカードか。はい、レイちゃん。」

やった。やっと手に入れた！究極時械神セフィロンゲットだぜ！あつ、お金渡さなきゃ。

「レイちゃん。それはおじさんからのプレゼントだ。一人でよくここまで来れたね。」

「む〜。おじさん、僕も子供じゃないよ。」

「はいはい。良い子良い子。」

「あ〜。レイちゃんズルい〜。私も私も〜。」

・・・この人本当に永理おじさんのお姉さんなのかな？  
だって、仕草がすんごく子供っぽいんだもん。

あつ、僕が恋してるのは十代様様だからねツ！

「吹雪！あんなケツの青いガキの何がいいんだ！熟女こそが最高なんだ！」

「亮目を覚ませ！つてかこのやり取り前回もやったよね!？」

アレは無視だ無視。・・・無視つたら無視！

だって怖いんだもん！何あの亮さんの眼！本気で怖いよ！

ああ、今日も海が青いなあ・・・。

「レイちゃんレイちゃん！！一緒にイエロー寮の出店回ろツ！勿論永理の奢りでツ！」

「えっ、はい。そうですね。」

「ハア・・・まあいいけどさあ。5千円でいいな。」

変な人に付いて行くなよ。金が余ったらおじさんに返せよ。しっかりと考えて使うんだぞ。」

「「ハイー!!」」

そういえば、このお姉さんの名前なんて言っただろつ。

「あの・・・お姉さん。」

「むっ、何かなレイレイ。」

「そのあだ名止めてください。……お姉さんの名前なんて言うんですか？」

なんで前回に名前出さなかったんだろう……。

あと、僕は普通だよ。永理おじさんのお姉さんの方が数倍可愛いよ。

「あっ、そういえば言ってなかったね。……ふっふっふ、お姉さんの名前は月影 瑠璃だよ！」

瑠璃……可愛い名前だなあ……アレ？どこかで聞いたような……。

……あっ、思い出した！たしか、無敗伝説を持つプロデュエリスト、月影 瑠璃さんだ！

前にテレビでエドって人をノーダメージで倒してた！

……でも、エドって人のデッキは正直微妙な実力だったのはは密に、密に……。

「さあ行こう！夢のワンダーランドへ！」

「そういえば、永理さんが4時にはレッド寮へ戻るようになって言うてましたよ。」

「なぬッ！（4時……永理の好きな時間に戻る……大会だな！）

そう、だったらちゃんと楽しもうではないかッ！！」

「瑠璃さん。そんなに走ったら扱けますよ？」

あっ、扱けた。大丈夫かなあ？なんか涙目みたいだけど……。

「レイちゃ〜ん！絆創膏持ってきて〜！」

この人、本当に私より年上なのかな？

くようじ・・・少女移動中

さて、やってまいりましたイエロー亮！

「レイちゃん！金魚すくいやるうやるう！！」

なんだろう・・・見てるだけで癒されるなあ・・・。

アレ？あの人・・・アカデミアの人じゃない様な・・・。

「ついに見つけたぞ・・・月影 瑠璃！」

「むッ？誰っさ？」

懐かしいなあ・・・昔、ドラグニティってデッキでぶいぶいいわせ  
てた篠芽 響谷さん。

しのめって聞いた時、日常のはかせの作ったロボットの一種です  
か？って、聞いたのは僕だけでない。

ぶいぶいって言うのは時代遅れ？・・・屋上。

「俺を忘れたか！篠芽<sup>しのめ</sup>響谷<sup>ひびや</sup>だ！」

瑠璃さん。本当に知らないって顔してる・・・それはちょっと酷い  
んじゃ・・・。

『ッシャア！？6個体ゲット！！』

彼女はビッグバングールのシャルロツテ。

厨二病じゃないよ？本当だよ？

だから、瑠璃さんの真上になんかデツカイ龍が居るんだけど・・・  
幻覚とかじゃないよね？

『あゝ、ありや混沌帝龍だね。どう見ても。』

ですよね・・・やっぱり、永理おじさんの家庭は普通じゃないな・・・。

「あゝ、たしかりりーで負けた人ねたしか。」

「アレは偶然だ！そもそもあん時は手札が事故ってたから負けた訳であつてだな・・・。」

たこ焼き・・・美味しいなあ。外はカリカリ、中はトロ〜リとしていて、学生が作れるレベルではないよね。

『美味しそう・・・。』

シャルロットの分は無いよ。

あつ、涙目だ。・・・しょうがない、一個だけだよ？

『おお、すんげえ美味い！なにこれ学生が作るレベルを超越しちゃつてるよ。』

でしょ！すごいなあ・・・。前来た時は、自分で作った方が美味しいって感じたのに・・・。

「デュエル！」

あつ、いつの間にかデュエルになっちゃったかあ。

まあ、デュエルアカデミアだしね

「私のターン！ドロー！」

『ドラグニティ-ドウクス』を攻撃表示で召喚！更に魔法カード』

ワン・フォー・ワン』を発動！手札の『ドラグニティ コルセカス』を捨て、『ドラグニティ トリブル』を守備表示で特殊召喚！  
『ドラグニティ トリブル』の効果により、『ドラグニティ ファランクス』を墓地へ送る！ターンエンド！」

一気に2体も・・・永理さんの方が凄いやね。  
でも、普通の人よりは凄いのかな？

『？6じゃない・・・よし、もう一回！！』

シャルロツテ・・・電池ヤバいんじゃないの？ランプが赤色だよ？  
あっ、やっぱ消えた・・・。

『イーブイが・・・？6のイーブイがあ・・・。  
出すのに10時間かかったのに・・・。』

僕しくらないッ！

「ふっふっふ、若人よ。はりきり過ぎて自分の首を絞めるなよ。私のターン！ドロー！」

『RF 闇の狩人』を攻撃表示で召喚！更に『RF 漆黒を狩りし者』を特殊召喚！

そして『DT 闇からの使者』を特殊召喚！レベル2の闇の狩人にレベル12の闇からの使者をダークチューニング！」

永理さんと同じ、ダークシンクロ！瑠璃さんも使った・・・。  
あと、最初の台詞ってたしか・・・ブレイブって人と同じな気が・・・。

「光が闇に閉ざされし時、冥府に封じられし邪神よ！我が勝利の為に働け！」

「ダークシンクロ！コレが私の神だ！『邪王モノフルスス』！！」

「うわぁ・・・すごいデカイなぁ・・・」

「アレ？攻撃力がたったの2000？強力な効果があるのかな？」

「このカードがダークシンクロに成功した時、デッキから光属性のモンスターを1体手札に加え、デッキから闇属性モンスターを特殊召喚する！」

「私はデッキから『RF 陽月の神官』を手札に加え、『死者のお守り』を特殊召喚！」

「アレ？死者のお守りって攻撃力が0？どんな効果があるんだろう。」

「嘘！？リオってこんなに強かったっけ！？」

「カードを伏せて、ターンエンド！」

「邪王モノフルススの攻撃力が900上がった。一体どれだけの効果があるんだろう。」

「私はその事で頭がいっぱいだった。だが、それは予想の斜め上を行く効果だったのだ。」

「なんか一気に普通の小説みたいになったね。」

「普通って言うな！」

「RF・・・目障りなカードだ。私のターン！ドロー！」

「『ドラグニティ ブランディストック』を攻撃表示で召喚！」

「レベル1の『ドラグニティ トリプル』にレベル4の『ドラグニティ ドウクス』レベル1の『ドラグニティ ブランディストック』をチューニング！」

「竜の里に封じられし稲妻の竜よ。今、我が僕の魂を餌として、我が」

地へ舞い降りろ！シンクロ召喚！これが新たなる破壊の力！

『ドラグニティロード・カラドボルグ』！！』

これがシンクロ・・・目に悪いなあ本当に・・・。  
光の中から出てきたのは翼が4枚のレヴァティン・・・若干白っぽい緑。

『なんか四枚の翼で白っぽい緑って強化版のデフォだよな。』

シャルロツテ・・・それを言っちゃ駄目だよ。

手にやいばを持ち、体に白銀のよろいをまとっていたのって誰だっけ？全く関係無いけど。

「カラドボルグの効果発動！手札のドラグニティと名のつくモンスターを1枚捨て、相手フィールドに表側表示で存在するモンスターを全て破壊！

目障りな敵を焼き払え！フレイム・テンペスト！」

属性風なのにフレイム・・・某E・HEROを思い出すなあ。

そんなどうでもいい事を考えていると、目の前が真っ白になった。どこのポケモンだ！って思った人、私の時械神でみつくみくにしてやんよ。

「カラドボルグで直接攻撃！超電動斬 サンダー・スラッシュュ！」

どう聞いてもドジリスのパクリです本当にありがとうございました。そつえば、あのカードの攻撃力・・・3000なんだよね。瑠璃さん大丈夫かな？

「ふっふっふ、まだまだだよ若人！畏カード『ダークスター・フルガード』！...！」

なんかデツカイ盾？が描かれている罫・・・どんな効果が・・・。  
『幼女はおおきいって言うのがそそるんだよ！レイ！』

『少し静かにしてください。』

あつ、上に居た混沌帝龍が下りてきた。  
喋れたんだ・・・。

「ふっふっふ、『ダークスター・フルガード』はエクストラデツキからダークシンクロモンスターを9体墓地へ送ることで、戦闘ダメージを0にするのさ！」

私はこの効果で『DST病竜』に『DST死竜』、『ワンハンドレツド・アイ・ドラゴン』と『地底のアラネー』に『猿魔王ゼーマン』

『地獄の亡霊スプライト』 『暴漢ピサロ』 『セメタリー・クイーン』  
ブラックアイズ・フルドラゴン  
『黒眼の紫龍』

を墓地へ送り、戦闘ダメージを0にする！」

ダークシンクロって、こんなにも居たんだ・・・。さすが月影家！アレ？たしか5D・sでダークシンクロって、ダークシグナーが使用ってたんじゃない・・・。

「カードを伏せ、ターンエンド！（伏せたカードは『竜族のバリアドラゴンフォース』これで奴もイチコロだ。）」

失敗フラグビンビンだね。

『幼女がビンビンって、ちよつとえら・・・レイちゃん？そつちの方に関節は曲がらないんだよ痛い痛い痛いよ！もうやめて！とつくに私のライフは0よ！もう勝負はついたよの！』

よし、この位にしておくか！反省してるみたいだしね。  
鬼？教育です。

「私のターン！ドロー！」

魔法カード『強欲な壺』を発動！デッキからカードを2枚ドローっ  
さ！

魔法カード『ミラクル・シンクロフュージョン』！

墓地のダークシンクロモンスター10体を除外！現れよ融合召喚！

『絶望に染まりし英雄ゼブラ』！！」

キン肉マンとは関係無いよ！本当だよ！

「ふーははははは！！行けゼブラ！！マッスル・インフェルノ！」

瑠璃さん狙ってやってるだろ絶対！

てか、ネタが古いよ！

「畏発動『竜族のバリア ドラゴンフォース』！！」

「無駄無駄！！ゼブラは魔法、畏では破壊されないのさ！」

なんとというチートカード・・・この子、恐ろしい子！！

『・・・それ、どこのガラスの仮面？』

元ネタを言うな！元ネタを！！

あ、カラドが破壊されている・・・。

「なっ、攻撃力たったの2000のモンスターに破壊されただと？」

「ふっふっふう、このカードが風属性モンスターと戦闘を行う場合、  
攻撃力を2600上げるのさ！！」

やっぱりチートカードだったか！  
僕の予想だけど、あのカードはクリアー・ワールドみたいな……。  
今度作るのかな？クリアーデッキ。

「カードを伏せて、ターンエンドさ！さあ、どこまで足掻けるかな  
少年！」

おっさんに少年で……。どうなの？  
あの人、他に切り札があるのかな？

「まだまだ！まだ終わらんよ！私のターン！ドロー！  
『強欲な壺』を発動！デッキからカードを2枚ドロー！更に『天使  
の施し』発動！デッキからカードを3枚ドローし、2枚捨てる！」

普通そこでドローカード引くかな普通……。

私なんか、手札事故で負けたんだからな！  
サンダー3枚に青眼2枚ってどうなのさ！

「『未来融合 フウーチャーフュージョン』！『F・G・D』を選  
択！

『ドラグニティ・ピルム』 『ドラグニティ・ファランクス』  
『ドラグニティ・ブラックスパア』 『ドラグニティ・ブランディス  
トック』 『ドラグニティアームズ・ミスティル』を墓地へ送る！  
魔法カード『龍の鏡』！墓地のドラゴン族モンスターを5枚除外！  
来い！『F・G・D』！！」

すごく……。おおきいです。

でも相手は闇属性だから、瑠璃さんのチートモンスターのインチキ  
効果で破壊されるだろうなあ……。

「行け！ゼブラに攻撃！超炎弾波ファイアー・フォース！！」

「ゼブラの効果！闇属性モンスターが攻撃する場合、手札を2枚捨てる！」

以外と地味でした。

地味に強い効果だね。

・・・この人才シリス好きなのかな？だって技名が全てオシリス風だし・・・。

「『死者のお守り』の効果！相手の闇属性モンスターの攻撃宣言時、そのモンスターの攻撃力を3000下げる！それにチェーンして『収縮』発動！攻撃力を半分にするっさ！」

うわあ、チートだ、チート。

「なっ、うわああああ！！」

まさかの反射ダメージで止めとは・・・。  
でも最近、闇より光が待遇されている気がするから普通なの・・・かな・・・？

「ガツチャ、楽しいデュエルだったよ！」

「・・・十代様のパクリ？」

『お疲れ様です。マスター・・・早く帰ってアイドルマスターを攻略したいので帰りますよ。』

混沌帝龍さん・・・ヲタクなんだ・・・。

ああ、アバターさんを思い出すなあ……今頃何してるんだらう？

「混沌帝龍さんはデュエルするんですか？」

『下手の横好きですよ私なんて……瑠璃さんにも永理さんにも勝てないですし……』』

いや、それが普通だよ！あの人達に勝てるデュエリストなんてそう居ないよ！

……もう、永理さんはプロで食べていけると思うよ僕は……。  
あつ、もうこんな時間だ！

「瑠璃さん！そろそろ4時になりますよ！」

「なぬール！それでは行くかレイレイ！目指すは優勝だー！」

「次は負けないぞ瑠璃！覚悟しているー！」

ああ、多分この人も大会出るんだらうなあ……。  
だって、こんな人がアカデミアに居るって事は、永理さん主催の大会で優勝して賞品のカードを目当てに他のプロデュエリストも居るし……。

「アレ？今回も私の出番無し？なんで？」

「明日香さん、居たんだ。」

「ずっと居たわよ！？てか、出番これだけ！？不幸だー！」

禁書目録ネタですね、わかります。

レイちゃんは俺の嫁！異論は認めない！（後書き）

邪神達『俺たちの出番は？』

無いね。まあ、レイちゃんが主役の回だし？

明日香「私の出番をもっと増やしてよ！レオパルドンだってもっと出てたわ！」

おお、キン肉マンネタ・・・。

まあ、それは置いといてと、オリカ紹介。

明日香「聞いているの!？」

『RF 闇の狩人』

レベル2

光属性

攻撃力：1000

守備力：2000

鳥獣族：効果

このカードが表側守備表示で存在する場合、このカードを破壊し、このモンスターの元々の攻撃力ダメージを受ける。

自分フィールド場にRFと名のつくモンスターが存在する場合、手札から特殊召喚できる。

1ターンの1度、相手モンスターの元々の攻撃力を半分にする。

『RF 漆黒を狩りし者』

レベル4

光属性

攻撃力：1700

守備力：1000

鳥獣族：効果

このカードが表側表示で存在する場合、このカードを破壊し、このモンスターの元々の攻撃力ダメージを受ける。

自分フィールド場にRFと名のつくモンスターが存在する場合、手札から特殊召喚できる。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時その守備力を攻撃力が超えていればその数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

『DT 闇からの使者』

レベル12

闇属性

攻撃力：0

守備力：0

悪魔族：ダークチューナー

このカードをシンクロ素材とする場合、ダークシンクロの素材にしかできない。

自分フィールド場にモンスターが2体以上存在する場合、手札から特殊召喚できる。この効果で特殊召喚した場合、エンドフェイズに除外される。

『邪王モノフルス』

レベル10

闇属性

攻撃力：2000

守備力：750

悪魔族：ダークシンクロ

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在する  
「ダークチューナーDT」と名のついたチューナーのレベルを

それ以外の自分フィールド上に存在するモンスター1体のレベルか  
ら引き

その数字がこのカードのレベルと等しくならなければならない。

このカードがダークシンクロに成功した時、デッキから光属性のモ  
ンスターを1体手札に加え、デッキから闇属性モンスターを特殊召  
喚する事が出来る。

このカードの攻撃力は場にフィールドに存在する魔法・罫カード1  
枚につき、攻撃力を900ポイントアップさせる。

『RF 陽月の神官』

レベル6

光属性

攻撃力：1960

守備力：2780

鳥獣族：効果

このカードは、相手プレイヤーに直接攻撃できる。

『死者のお守り』

レベル8

攻撃力：0

守備力：3000

鳥獣族：効果

このカードが破壊された時、墓地のシンクロモンスターをすべて、  
エクストラデッキに戻す事が出来る。

『ドラグニティロード・カラドボルグ』

レベル6

攻撃力：3600

守備力：2300

ドラゴン族：シンクロ

ドラチューナー+チューナー以外のモンスター2体以上

1ターンに1度、手札のドラグニティと名のつくモンスターを1枚捨てる事で、相手フィールドに表側表示で存在するモンスターをすべて破壊する。1ターンに1度、手札からドラグニティと名のつくモンスターを捨てる事で、自分フィールド場に表側表示で存在するこのカード以外のドラグニティと名のつくモンスターに、墓地のドラゴン族モンスターを装備させる事ができる。

『ダークスター・フルガード』  
通常罫

ダメージ計算時、エクストラデッキのダークシンクロモンスターを9枚、墓地へ送る事で戦闘ダメージを0にする。

『DST病竜』

レベル1

地属性

攻撃力：200

守備力：1500

ドラゴン族：ダークシンクロ・ダークチューナー

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在する

「ダークチューナーDT」と名のついたチューナーのレベルを

それ以外の自分フィールド上に存在するモンスター1体のレベルから引き

その数字がこのカードのレベルと等しくならなければならない。

このカードがダークシンクロに成功した場合、墓地のダークシンクロモンスターを1体、表側守備表示で特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚したモンスターは表示形式を変更する事ができず、効果は無効化される。また、1ターンに1度、エクストラデッキに存在するモンスターを相手に見せる事でエンドフェイズ時まで、このカードのレベルを相手に見せたモンスターのレベルにする事が出来る。

『DST死竜』

レベル4

闇属性

攻撃力：2100

守備力：0

ドラゴン族：ダークシンクロ・ダークチューナー

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在する

ダークチューナー  
「DT」と名のついたチューナーのレベルを

それ以外の自分フィールド上に存在するモンスター1体のレベルから引き

その数字がこのカードのレベルと等しくなければならない。

このカードが特殊召喚された場合、エクストラデッキからレベル8のダークシンクロモンスターを1体、特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したモンスターは、効果は無効化される。また、1ターンに1度、自分の墓地に存在するモンスター1体を選択し、このカードのレベルをエンドフェイズ時まで、選択したモンスターと同じレベルにする事ができる。

『地底の亡霊スプライト』

レベル6

闇属性

攻撃力：2600

守備力：3000

アンデット族：ダークシンクロ

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在する

「ダークチューナーDT」と名のついたチューナーのレベルを

それ以外の自分フィールド上に存在するモンスター1体のレベルから引き

その数字がこのカードのレベルと等しくならなければならない。

このカードの攻撃力は自分の墓地に存在するアンデット族モンスターの数×300ポイントアップする。1ターンに1度、墓地のレベル4以下の守備力700以上のモンスターを1体、特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したモンスターは、エンドフェイズに破壊される。

『暴漢ピサロ』

レベル7

地属性

攻撃力：3300

守備力：0

戦士族：ダークシンクロ

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在する

「ダークチューナーDT」と名のついたチューナーのレベルを

それ以外の自分フィールド上に存在するモンスター1体のレベルから引き

その数字がこのカードのレベルと等しくならなければならない。

このカードの攻撃宣言時、自分フィールドのモンスターを1体、生贄に捧げる事で攻撃力を300ポイントアップさせる事ができる。

この効果を発動した場合、エンドフェイズに自分フィールドのモンスターをすべて破壊し、墓地からレベル3以下の闇属性モンスターを表側守備表示で特殊召喚する。

『セメタリー・クイーン』

レベル3

闇属性

攻撃力：1000

守備力：3000

魔法使い族；ダークシンクロ

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在する

ダークチューナー

「DT」と名のついたチューナーのレベルを

それ以外の自分フィールド上に存在するモンスター1体のレベルから引き

その数字がこのカードのレベルと等しくならなければならない。

このカードが表側表示で存在する場合、自分フィールド場のモンスターの攻撃力を600ポイントアップさせる。

墓地のモンスター1体につき、このカードの攻撃力を600ポイントアップさせる。このカードが戦闘で破壊され墓地へ送られた時、墓地のモンスターを1枚除外し、このカードを特殊召喚する事ができる。

『黒眼の紫龍』

レベル7

闇属性

攻撃力：3000

守備力：1500

ドラゴン族；ダークシンクロ

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在する

ダークチューナー

「DT」と名のついたチューナーのレベルを

それ以外の自分フィールド上に存在するモンスター1体のレベルか

ら引き

その数字がこのカードのレベルと等しくならなければならない。  
このカードが破壊された場合、墓地のカードを1枚手札に加える。

『竜族のバリア ドラゴンフォース』  
通常罫

自分フィールド場にドラゴン族モンスターが存在する場合のみ、発動できる。

相手モンスターの攻撃宣言時、相手フィールドのモンスターをすべて破壊する。

『絶望に染まりし英雄ゼブラ』

レベル12

闇属性

攻撃力：2000

守備力：2000

幻神獣族：融合

ダークシンクロモンスター10体以上

このカードは融合召喚でのみエクストラデッキから特殊召喚する事ができる。

このカードが表側表示で存在する場合、相手はコントロールしている属性によって以下を適用する。

光：相手は、手札からモンスターを特殊召喚、効果を発動する事ができない。

闇：相手は、手札を2枚捨てなければ攻撃する事ができない。

地：相手は、エンドフェイズにデッキからカードを6枚、墓地へ送る。

水：相手は、墓地のカードを2枚、除外しなけば攻撃宣言に入る事ができない。

炎：相手は、ライフに直接ダメージを与えるカードは発動できない。

風：風属性モンスターと戦闘を行う場合、このカードの攻撃力は2600アップする。

自分で作っというてなんだけど・・・なんていうチートカード群。しかも、ダークシンクロモンスター多いなあ。

永理「まあ、原作でもあまり出てなかったからな。OCG化しないかな？ダークシンクロ・・・。」

したら使うよ俺。

レイ「あゝ、明日香さん。元気を出して・・・ね。」

さて、永理おじさんのプロフィールが見たい、部屋の構造が見たい、何処が違うかわからないって人は感想欄にそう書いてください。5人以上で作者が書くと思います。

あとオリキャラも募集中です。感想欄に見たい目、性格、使用デッキ、性別などを書いてください。

あと、使用デッキも。もし書いてなかった場合、作者が勝手に決めますので。

また、キャラ的に薄い感じがする。こうした方が盛り上がる。って場合、性格などが変更される場合がございますので、あしからず。」

レイレイって、暴デメリットアタッカーを思い出すZE

レイ「サンダイオンで攻撃！」

ぎゃあああああああ！！

参加者が凄すぎる大会では、大体自信満々な奴は嘸ませ犬だけどこの話ではそん

視点：レイ

「さあやってまいりました！！第一回 カードショップ石村デュエル大会！」

永理・・・さん？なにこれ？大会？聞いてないんだけど・・・。  
アレ？瑠璃さん知ってたの？すんごいワクワクしてるけど・・・。

「さあ！勇気ある挑戦者達よ！神のカードを手に入れたいか！」

うわぁ・・・みんなノリノリだぁ。なにこれ怖い。

瑠璃さんまで、・・・神のカードってなんだろう？

でも、優勝するのは無理そうだなぁ・・・だって海馬さんや城之内さんまで居るんだもん！なにこの豪華キャストは！！？

『えーでは、この大会の大まかな説明をいたしますドレッドです。  
えー、この大会ではタッグデュエルを皆様方にしていただきます。  
タッグデュエルは

最初のターンは攻撃できません。この大会では、以下のカードを使用制限させていただきます。

- 1 封印されしエクゾディア
- 2 直接攻撃系魔法、または罨カード
- 3 終焉のカウントダウン
- 4 意図的な目的でのデッキ破壊
- 5 サイキック族

- 6 相手モンスターを破壊する魔法、罨
  - 7 ロックカード
- などを禁止していただきますはい。この大会は基本、見せデュエルなので……。
- あと、この大会では以下のような特別ルールが追加されます。
- 1 ライフコストの踏み倒し
  - 2 エンドフェイズに手札を5枚になるように補充可能
  - 3 通常モンスターはバニラテキストに記されている説明がカード効果となる。

以上です。では皆様、見てる側もやってる側にも楽しいデュエルをお待ちしております。』

ど、ドレッドさんが普通に喋った……だと……？  
あのドレッドさんが……ドレッドさんがあ。

『レイ、ちよつとたこ焼き買ってくるわ。レイも居るか？』

「じゃあ頼むね。」

「じゃあ私もよろすくつさ！」

『食べ過ぎたら太りますよ……。』

混沌さん！それは言わないの！

そもそも、僕はまだ成長期だから体重が2？増えたぐらい……じやあ……。

……大丈夫だよね！？僕はまだ大丈夫だよね！？

「勝利と栄光と神のカードを手にするには誰だ！第一回戦 凡骨&エネコン社長VS顔芸&顔芸 デュエルスタンバイ！」

「「顔芸じゃないよ！！」」

「エネコン……？」

「気にするな・・・海馬・・・。」

「すごい大物さんだあ・・・。これなんてMAD？」

「そう僕が自問自答していたら、海馬さん達とマリクさん達がデュエル場へ上がったっていった。」

「・・・ちよつとまつて！？なんで永理さん家にデュエル場なんかあるの！？何この人怖い。」

「ああ、永理さんには常識なんて通用しないんだな・・・帰ったら虻でも食べよう！」

「レイちゃん・・・さすがに虻はちよつと・・・。」

「結構美味しいんだけどなあ・・・永理さん家で食べてみたら旨かったのに・・・。」

「お酒もいいよね あつ、始まった始まった。」

「デュエル・・・開始です！！！」

「・・・デュエル！！！！」

(永理家内BGM resonance)

「なんでソウルイーターの曲？」

「まあ、それは置いといて。」

「まずはマリクさんからのターン・・・ホント、豪華だなあ・・・。」

「アレ？みんなどうしたのかな？手札事故ったのかな？」

「俺のターン！カードドロー！」

「魔法カード『手札抹殺』！」

「今引いた『ニードリユア』を守備表示で召喚！魔法カード『愚かな埋葬』を発動！デッキから『青眼の白竜』を墓地へ送る。更に魔法カード『死者蘇生』！蘇生させるのは勿論、『青眼の白竜』！夕」

「ターンエンド！カードを3枚伏せ、ターンエンド！」

うわぁ、これなのはMADだ。完全になのはMADだ……。てかいいの？こんな声優さん達集めてこんなのに使っているの！？次は、城之内さんのターン。永理さんは凡骨って呼んでるけどいいのかな？

「俺のターン！ドロー！」

『ランドスターの戦士』を召喚！魔法カード『スタープラスター』発動！このカードは、自分のモンスターを1体生け贄に捧げて発動。サイコロを1つ振り出した目の数と生け贄にしたモンスターのレベルの合計分のレベルを持つモンスターが手札に存在する場合、そのモンスターを特殊召喚するぜ！出た目は勿論、5！」

また出るんだ……。青眼さん……。私も持つてるけどね。でも、出し過ぎじゃないかな？

『女の子が出し過ぎ、最高ー！』

「……キン肉バスター！  
『ギヤーー！』」

「手札から、『青眼の白龍』を特殊召喚！伏せカードを2枚場に出し、ターンエンド！」

これだけ手札消費しても、エンドフェイズに補充されるから凄いやね。壊れルールだよね。

あつ、海馬さん怒ってるよ！嫁出されて怒ってるよ！

「私のターン！ドロー！」

『カイザー・シーホース』を召喚！更に魔法カード『二重召喚』発動！『カイザー・シーホース』を生贄にして、『青眼の白龍』を召

喚！

カードを伏せ、ターンエンド！」

うわあ、最上級モンスターばっかだあ。これなんてMAD？  
最後は、社長のターン。どうせ融合だろうね……。

「俺のターン！ドロー！」

『融合』発動、『融合解除！』……。」

うわあ、マリクさんえぐいなあ……。

コレで社長はどう出るか？伏せてエンドだろうけど……。

「お、俺はカードを伏せ、『ジャイアント・ウィルス』召喚！ター  
ンエンド！」

積み込みかな？普通、こんなにも早く青眼なんて出せないでしょ。  
えっ？TFでは初手裁きの龍3枚でワンキル余裕でされました？  
・僕はライトロードなんか使わないよ！？使っるのは時械神だよ！  
時械神もヤバいだろうって？気にすんな

「俺のターン！カードドロー！」

行くぜ！『青眼の白龍』で海馬の『青眼の白龍』を攻撃！『滅びの  
爆裂疾風弾』！」

「リバーズカードオープン！『攻撃誘導アーマー』！このカードは、  
呪われし鎧を着せられた者に攻撃が誘導される！俺は凡骨の青眼を  
選択！」

「海馬テメエ！！！」

なのはは出てこないよね？ないよね？タグに書いてないから出てこ  
ないよね？

海馬さん・・・全く協力しようとしてない。これじゃなのはと丸被りだよ！

ニコニコネタ多いなあ・・・。

「カードを伏せ、『ギル・ガース』を守備表示で召喚し、ターンエンド！」

「俺のターン！ドロー！」

魔法カード『死者蘇生』！青眼を蘇生！青眼で斎王だっけか？そいつの青眼を攻撃！バーストストリーム！（これで斎王の場にモンスターはいない、海馬の青眼で一気に決めるぜ）

「所がそうはいきませんよ。罨カード『蘇生の石版』！このカードは戦闘で破壊されたモンスターを蘇生させる。つまり、青眼復活！」  
「くっ、『リトル・ウインガード』を守備表示で召喚！ターンエンド！」

あの・・・後からやる人達の事も考えてくださいお願いします。

本当に後からやる人達にとってはプレッシャーになりますので・・・  
てかこのデュエル・・・

「一回戦でやる内容じゃねえ！！！」

「同意」「」

やっぱみんなもそう思うよね！？そもそもこれ、ほぼオリジナリテイーがないんだけど！？

しつかりと後からなのはMADとは違う展開になるんだよね！？

『最初あたりが違うじゃん。』

そうだけだよ！

「私のターン！ドロー！」

『酢酸の悪魔』を攻撃表示で召喚！『酢酸の悪魔』で海馬さんに直接攻撃です！」

「かかったな！リバーカードオープン！『死のデッキ破壊ウィルス』」

不味い！これがほぼなのは道理に話が進むのなら・・・海馬さんのデッキは死滅してしまう！

これで、なんの対策もしなかったらオリジナル展開になるけど・・・。

「甘い！『呪い移し』！」

「『呪い移し』？聞いた事ないツス。」

「翔さん、『呪い移し』は畏の効果を相手に移し替える効果なの。」

つまり・・・」

「つまり？」

「海馬さんがデッキ破壊されるって事。」

なのはだったか・・・ヤバイ・・・この回が長引けば・・・精霊界編に間に合わなくなってしまう！それだけは阻止せねば！

だが、それより恐ろしいのは×××で×××や×××が感想欄に書かれてしまう！それも阻止せねば！

だが、マリクさんが何とかしてくれる・・・はず！

「『酢酸の悪魔』が戦闘を行った場合、このカードは破壊されます。カードを伏せて、ターン終了です。」

あつ、そんな効果があるんだ。結構使える・・・かな？

まあ、機皇帝の召喚に使えるけど・・・。

「俺のターン！ドロー！」

戦いの生態系、戦いのしよくもつれんさ」「六芒星の呪縛」「魔法

カード『闇の生産工場』！墓地の青眼を2体、手札に加える！魔法カード『融合』発動！来い！『青眼の究極竜』！そして魔法カード『死者転生』発動！墓地から『青眼の光龍』を手札に加える！そして『青眼の究極竜』を生贄に『青眼の光竜』召喚！」

攻撃力・・・6000！？凄い・・・これが海馬さんの真の力・・・。

こんなのと戦う事になるなんて・・・笑えるよ本当に・・・。  
みんなも驚いてるし・・・そりゃこんなの見せられたら驚くよね・・・  
・永理さんや亮さんはその上を行くけど・・・。

「俺に力を貸せ！キサラ！！装備魔法『メテオ・ストライク』を装備、『ニュードリユア』に攻撃！シャイニング・バースト！！！」

「（甘い、甘いぜ海馬・・・くくくく・・・）罨発動！『レインボー・ライフ』！！このカードにより、ダメージは受けず、回復する！」

まさかのカード・・・これ以上デュエルを長引かせるのは作者の体力的にヤバイ！5200ライフ回復なんて・・・。  
ライフポイントが9200ってどうなの！？キュアバーンでもない限り無理だよ！？

「『リトル・ウインガード』を破壊！（光龍が倒せないのは痛いな・・・  
・斎王、貴様の力を見せてみる。）」

「カードを伏せ、ターンエンド！」  
「（分かりました。）私のターン！ドロー！（このカードなら・・・勝てる！）」

私は魔法カード『手札同調』を発動！手札のレベル6『アルカナフオースXIV | TEMPERANCE』にレベル3『ジャンク・シンクロン』をチューニング！

集められし破壊の光よ！今こそ我が身体を器とし、目の前の敵を破壊せよ！シンクロ召喚！来い！『フォーカード ジョーカー』！」

凄いデカイ化け物がそこに居た。信じられるか？これ、天使族なんだぜ？

ちなみにアルカナフォースはタロットつてのをモデルにしてるらしい。日本人なら、スピリット使えよ！

「『フォーカード ジョーカー』の効果発動！このカードがシンクロ召喚に成功した時、デッキ、またはエクストラデッキからアルカナと名のつくモンスターを特殊召喚できる！

私はデッキから『アルカナフォー스XXI』THE WORLD』を特殊召喚！THE WORLDの効果発動！その瞬間『ジョーカー』の効果発動！アルカナと名のつくモンスターの効果を任意で決めることができる！選択するのは勿論表！」

うわあ、なんとというチートカード・・・何度目だろう。この台詞。そろそろ終わってほしいんだけどなあ・・・作者的には。

「まだ終わりませんよ！『フォーカード ジョーカー』の第3の効果発動！相手モンスターのコントロールを得る！この効果は無効にされない！『青眼の光龍』のコントロールを得る！」

・・・コレナントなのは？このままじゃバルバトス風のなのはさんがジェノサイドプレイヤーぶっばなすよ？

「行け！『フォーカード ジョーカー』で『ジャイアント・ウィルス』に攻撃！雷光弾！」

もうやだこの大会。自信無くす。

「『ジャイアント・ウィルス』の効果発動！」

相手ライフに500のダメージですね分かります。

あえて言おう。シヨボイなおい！永理さんが売つたんだろあいつ等に！あとシャルロッテ！食堂でDS充電してるんじゃないよ！怒られえるよ！

「デッキから『ジャイアント・ウィルス』を2体、特殊召喚！」

「光龍で攻撃！シャイニング・バースト！」

「『ジャイアント・ウィルス』の効果以下略！！」

略した！？略したよこの人！

そして海馬さんのライフはゼロに・・・最後にTHE WORLDで止めさせました。

「そして魔法カード『神秘の中華鍋』発動！光嫁を生贄にし、ライフ3500回復！ターンエンド！」

うわぁ、駄目だろそれガチコンボ。

しかし、城之内さん。ドンマイです。

「お、俺のターン！ドロー！」

『E・HEROプリズマー』召喚！プリズマーの効果でデッキの『メテオ・ブラック・ドラゴン』を相手に見せ、このカードを『真紅眼の黒竜』として扱う！

『真紅眼の黒竜』扱いのプリズマーを生贄にして、『真紅眼の闇竜』を特殊召喚！」

海馬さんが負けて、海馬さんの墓地は消滅した。なので攻撃力がた

つたの3000。普通なら十分んだけど、この相手じゃあ……  
城之内さん。ご愁傷様です。

「ターンエンド……。」

あつ、諦めた。

「俺のターン！ドロー！」

魔法カード『苦渋の選択』を発動！俺が選択するのはこの5枚だ！」

えーっと何々……

・サファイア・ドラゴン

・ヘルカイザー・ドラゴン

・輪廻独断

・処刑人マキユラ

・ラーの翼神竜

なあにこれえ。

「『サファイア・ドラゴン』を選択……。」

「残りは墓地へ送り、『ドリ・ラゴ』召喚！行け！『青眼の光竜』  
で攻撃！シャイニング・バースト！！」

『ドリ・ラゴ』で直接攻撃！『フォーカード ジョーカー』で攻撃  
！」

城之内さん爆 殺！

勝ったのは顔芸チーム……もういやだこの大会。

「勝者！顔芸&顔芸！素晴らしいデュエルを見せてくれた四人に大  
きな拍手を！！！」

永理さんノリノリだあ・・・ある方の感想欄では残虐な性格なのに・・・。  
次は・・・僕と吹雪さんがチームなんだ・・・瑠璃さんと組みたかったなあ・・・。  
対戦相手は・・・遊戯さんと永理さん！？なんで永理さんまで！？盗られたくないなら賞品に出さないでよ！金か？金が目的なのか！？  
一気にハードル上がったんですけど！？MCは誰がやるんだろう・・・アバターさんですか。  
あっ、もう行かなきゃ。僕はこれで失礼するよディスプレイの前の諸君。

視点：君の瞳に何が見える？んんんんジョイン！！

僕はアニメよりハジけたりしないよ。  
さて、デュエルの相手がまさかの無理ゲーと化すとは・・・誰が思ったでしょう。  
でも負けられない！意地があんだよ、男の子にはね！

「心の準備はいいかい？レイちゃん。」  
「はい、でもこれ・・・勝てないでしょ。チートドロとチートドロ+ガチ構築寄りの人がタッグ組むなんて・・・。」

うん。僕も信じられないんだよ。そもそも今回の賞品は三幻神の融合体らしいからね。たしか、ホルククチンだったっけ？  
でも、三幻神が融合素材だから出しにくいんだよね・・・事故率高いし。

さて、無駄話が過ぎたかな？デュエルと逝こうか！負けるとわかっ  
ていても、漢はやらなきゃならない時があるんだよ！！  
こうなりゃヤケだ！当たって砕けるだ！粉碎とはいかないだろうけ  
ど、玉砕ならなんとか逝ける！

『デュエルファイト！レディーGO！！』

「『『『デュエル！』『』『』」

（永理家BGM 聖少女領域）

「僕のターン！ドロー！（なんでローゼン？）  
モンスターをセット！ターンエンド！」

レイちゃんのパターンが僕と丸被りだあ・・・まあいいけどね！た  
ぶんデッキは違うだろうから。

次は・・・遊戯さんのターン・・・もう勝つのは諦めています（泣）

「俺のターン！ドロー！」

『デーモン・ソルジャー』を攻撃表示で召喚！更に装備魔法『デー  
モンの斧』を『デーモン・ソルジャー』に装備！伏せカードをセッ  
トし、ターンエンド！」

アレ？意外と普通だった・・・前ので感覚が鈍ってるのかな？  
いや、でもそう簡単に鈍るわけ・・・あるなこれ。

「僕のターン！ドロー！」

儀式魔法『黒竜降臨』を発動！手札の『真紅眼の飛龍』を生贄にし、  
『真紅眼の黒竜』を特殊召喚！

更に『真紅眼の黒竜』を生贄に『真紅眼の闇竜』を特殊召喚！モン  
スターを伏せ、カードをセットしターンエンド！」

僕が伏せたカードは攻撃誘導アーマー・・・伏せたモンスターは魔導雑貨商人。このデュエル、僕たちの勝ちだ！  
アレ？これって負けフラグ？

「くははははは！俺様のターン！ドロー！

魔法カード『天使の施し』発動！デッキからカードを3枚ドロー！  
そして手札を2枚捨てる！更に魔法カード『愚かな埋葬』を発動！  
デッキから『首なし騎士』を墓地へ送る！

墓地の悪魔族モンスター・・・『首なし騎士』『絵画に潜む者』『  
夢魔の亡霊』を除外し、『ダーク・ネクロフィア』を特殊召喚！更  
に速攻魔法『異次元からの埋葬』！墓地の悪魔族モンスター3体を  
墓地へ戻す！カードを伏せ、モンスターをセット。ターンエンド！」

さすが永理くん・・・行動が速いなあ。

確か効果は、コントロール略奪だったっけ？・・・前のパワーゲ  
ムで感覚が鈍ってるから大した脅威には感じないなあ・・・。  
どうでもいいけどこの曲、いい曲だね。

「僕のターン！ドロー！

リバースモンスターオープン！『魔導雑貨商人』！自分のデッキを  
上からめくり、一番最初に出た魔法か罠カード1枚を自分の手札に  
加えよ！

それ以外のカードは墓地へ送るよ！

まず1枚目！『ライトロード・ビースト ウォルフ』！

2枚目！『時械神サンダイオン』！

3枚目！『時械神ラツイオン』！

4枚目！『時械神ザフィオン』！

5枚目！『魔導雑貨商人』！

6枚目！『カイザー・シーホース』！

7枚目！『セカンド・エフェクト』！魔法カードだから手札に加えるよ！そして魔法発動『セカンド・エフェクト』！

このカードは墓地のリバースモンスターを除外して、その効果を得る！僕は墓地の『魔導雑貨商人』を除外！そして効果で以下略！

1枚目！『時械神ザフィオン』！

2枚目！『時械巫女』！（『時械巫女』が落ちた・・・『リミット・リバース』で蘇生できる！）

3枚目！『時械神カミオン』

もう面倒だから5枚めくる！『時械神ミチオン』『時械神ハイロン』『ネクロ・ガードナー』『時械神ラフィオン』『天使の施し』！

レイちゃん・・・墓地肥やし過ぎだよ・・・チートドロいなね。

しかも、ウォルフが落ちたって事は特殊召喚されるって事だよね・・・

。。この子、恐ろしい子！

・・・そういえば、時械神って全て天使族だったね・・・まさか、これがレイちゃんの恋のキューピット！？

「ウォルフはデッキから墓地へ送られた時、特殊召喚できる！『ライトロード・ビースト ウォルフ』を特殊召喚！

更に魔法発動『死者蘇生』！墓地の『時械神サンダイオン』を特殊召喚！バトル！遊戯さんの『デーモン・ソルジャー』を攻撃！超魔導波ゴッド・サンダー！」

サンダイオンがデーモン・ソルジャーの両腕を鷲掴みにして、横にバスターを掛けた。って駄目だろ！それキン肉バスターだよ！

しっかりと神らしく、攻撃名道理に攻撃しなよ！

「『時械神サンダイオン』の効果！相手モンスターを破壊した場合、相手ライフに4000ポイントのダメージ！まずは一匹目。きやは・・・、ターンエンド！」

レイちゃん!!?まさかのワンターンキル!?見せデユエルはどこ行っただの!?

・・・永理くん!?何その顔!?もう諦めた感漂う顔は!?君があげたんでしょ!?

「レイ・・・変わっちゃったな・・・レイのエンドフェイズに速攻魔法『終焉の炎』を発動!」

俺のターン!ドロー!

永続罫『サンダー・スパーク』!破壊するのは『ダーク・ネクロフイア』!」

ああ、彼女の体に稲妻が走り、身体を崩す。まるでマモーみたいに・・・。

・・・久しぶりにルパン3世の映画が見たくなってきたなあ。今度借りよう!

「『ダーク・ネクロフイア』の効果発動!『時械神サンダイオン』のコントロールを得る!

魔法カード『愚かな埋葬』を発動!『ダーク・ネクロフイア』を墓地へ送る!

フィールド魔法『ダーク・サンクチュワリ』を発動!」

不気味なフィールド魔法だ・・・永理くんがいかにも好きそうなフィールドだね。

だって永理くん。ホラー映画とかオカルトグッズとか集めてるし。前に千年リングを拾ったって言ってたっけ?

「我が運命の光に潜みし亡者達の魂よ!この流転なる世界に暗黒の真実を導くため、我に力を与えよ!現れよ!『地縛神 U r u』!」

凄く・・・大きいです。

大きい・・・虫です。虫は嫌いだアー！永理くん狙ってやってるの！？お兄ちゃん泣いちゃうよ！

なに？お兄ちゃんって誰が言うか気持ち悪い・・・？・・・酷い！お兄ちゃん泣いちゃう！

「『地縛神 U r u』で吹雪に攻撃！ヘル・スレッド！」

呼び捨て？酷いや酷いや・・・どうせサンダイオンで僕の闇竜を破壊 バーンダメージで止めなんだろうびっくり？あつ、この伏せカード使えるか？

「リバーズ罨オープン！『攻撃誘導アーマー』！対象にするのは『時械神サンダイオン』！！」

ふう、なんとか凌いませ・・・ごめん、気持ち悪かったね。反省してるよ。

でもまさか、勝てるとは思わなかったね本当に。あのダブルチートに勝てるとは・・・。

『勝者！むとうゆうg・・・吹雪&レイチーム！！』

あ、あはは・・・これ夢じゃないよね？僕達、あの人達に勝ったんだよね。

あはは、信じられないよ本当に！

「レイちゃん！やったね！」

「はい！ですが、明日香さんがなんかorzになってるんですが・・・。なんでですか？」

「たぶん出番が無いからだと思うよ。明日香、次回は出れると思うから・・・三沢くん？居たっけそんな人。」

「吹雪さん、それは酷いんじゃない・・・。」

いやだつて、最近見てないしさ。そういえば三沢くんはもう、出番はないのかな？

ちよつと疑問だね。

『え、では第3回戦に入る前に少し、休憩に入りたいと思います。では皆様、次のデュエルも期待して。シーユーアゲイン』

英語で書こうよそんぐらい。

参加者が凄すぎる大会では、大体自信満々な奴は嘔ませ犬だけどこの話ではそん

ああ、こんな世界へ行きたい。

永理「駄目だこいつ。」

煩い。・・・さて、次回は永理の姉さんと投票されたあの人を出す。  
・・・予定。

永理「明日香は？」

分からぬ。

永理「お前なあ・・・。」

まあそれは置いといて、オリカ紹介！

『酢酸の悪魔』

レベル4

闇属性

攻撃力：1300

守備力：2100

悪魔族：効果

このカードは直接攻撃できる。

このカードが戦闘を行った場合、このカードをエンドフェイズに破壊する。

『手札同調』

通常魔法

このカードの発動後、エンドフェイズまで手札でシンクロできる。

『フォーカード ジョーカー』

レベル10

光属性

攻撃力：3100

守備力：1200

天使族：シンクロ

チューナー+アルカナと名のつくモンスター1体以上

このカードは手札同調の効果でのみ、特殊召喚できる。

このカードのシンクロ召喚時、デッキまたは、エクストラデッキからアルカナと名のつくモンスターを1体、特殊召喚できる。

このカードが表側表示で存在する場合、アルカナと名のつくモンスターの効果は、このカードのプレイヤーが決める。

1ターンに一度、相手モンスターのコントロールを得る事ができる。

『セカンド・エフェクト』

通常魔法

自分の墓地のリバース効果モンスター1体を除外する。このカードの効果は、この効果で除外したリバースモンスターの効果になる。

イレイザー 『俺の出番が無い！ナム！どういう事だ！』

こういう事だ。

イレイザー 『闇電動波ダーク・サンダー！』

畏発動 『ディメンション・ウォール』

イレイザー『ぎゃあああああ！』

召喚条件が難しいカードは大体チート。幻魔？ゲート・ガーディアン？聞こえん

視点：カミューラ

「お姉さん、みぞれ一つ。」

「ちよつと待ってね はいよ少年、一気に食ったら頭痛くなるからゆっくり食べるんだよ」

はいどうも。永理亭・・・じゃなくて永理家のヒロイン（自称）カミューラお姉さんだよ

ああ、そろそろ大会の時間だね。私も行かなきゃ。

「万丈目くん 店番よろだよ」

「イー！」

ショツカー戦闘員ですか？さあ、行くぞ我らが戦場へ・・・あつ、たこ焼き買おう。大好きだし・・・。  
おおーフライドポテトが200円だー。これは買いだね

うう・・・服が汚れたよ・・・。たこ焼き持ちながらフライドポテトなんか食べるんじゃないかなかったにや〜。

服？永理くん家からコスプレの衣装を借りてきたから・・・でも、何故にナージャ？可愛いからいいけど・・・。

てかこの服、完成度高いなおい！売れるぞ普通に！

『では、第3回戦 同じ中の人VS旧サイバーチーム デュエル場へ！』

アバター・・・その服なに？なんでカオス・ソルジャー？いや似合  
ってるんだけどさあ。ほら、普段とのギャップの差が激しいとい  
うか。永理は永理で死霊伯爵だしさ・・・。  
はつきり言おう！もっとマシなコスプレは無かったのか！！  
まあ、そんなんはどうでもいいんだけどね。さて、いつちよ頑張り  
ますか私！

「頑張ろつぞよ少年。」

「へ、あ、ああ！優勝目指すか！」

うんうん。こういう純粋な心を持った少年はいいね。青春だね。  
相手は・・・カイザー？とルドガーっぽい人が相手か・・・ど  
うかで見ただよねルドガーっぽい人。

「相手はカミューラか・・・くくく・・・旧サイバーデッキの底力  
をとくと味わうがいい。」

「なんで俺を示す文字が一文も無いんだ！」

「黙れ！そもそも俺は瑠璃さんとペアを組み、裏サイバーデッキで  
思う存分戦りたかったのに・・・。」

喧嘩・・・か・・・。これを腐女子がみたら『ヒビ×亮キター！』  
とか言うんだろつな・・・。

え？私？私は・・・普通が好みだよ！ヲタクではないよ！

「さあ、貴様の罪を教えろ！」

おお、ノリがいいねこの人！ヨハンって言ったっけ？気が合いそう  
だ！

「え？へ？えっ？」  
「それ何の台詞だっけ？」

さて、戦ろうか。

「『デュエル！』『』『』」

『デュエルファイト！レディーGO！』

それって、Gガンダムでしょ？ネタ多いなあい！

(永理家内BGM DIRTY)

この曲！ネウロだ！凄エ！凄い曲の数だ！

・・・永理の部屋にCDなんて置いてあつたっけ？たしかDVDデ  
ツキは無いけどビデオデツキはあつたけど・・・。  
そっいえば最近、ラジカセ買ったらしいけど・・・iPhone買  
えよ！って言いたくなつた私は悪くない。

「私のターン！ドロー！」

進化したドラグニティデツキの恐ろしさ、とくと味わうがいい！  
『ドラグニティダーク・トリル』を攻撃表示で召喚！効果発動！こ  
のカードの召喚に成功した時、手札のドラグニティと名のつくモン  
スターを特殊召喚できる！

『ドラグニティダーク・フラス』を特殊召喚！『ドラグニティ  
ク・フラス』の効果発動！このカードがドラグニティダークと名の  
つくモンスター効果によって特殊召喚された時、デツキからドラグ  
ニティダークと名のつくモンスターを特殊召喚できる！

『ドラグニティダーク・カラストロフ』を特殊召喚！『ドラグニテ  
ィダーク・カラストロフ』の効果により、デツキからDTと名のつ  
くモンスターを特殊召喚できる！『DT ダークネス・ドラゴン』  
を特殊召喚！

レベル2『ドラグニティダーク・フラス』にレベル8『DT ダークネス・ドラゴン』をダークチューニング!

破壊の風よ!我が龍に闇の力を!ダークシンクロ!飛翔せよ!『ドラグニティダーク・ブルラスト』!カードを伏せ、ターンエンド!

ヘル・ドラゴンにS.iのパーツくっ付けたみたいな?はつきり言う  
とあんまり強そうには見えない。

一気に飛ばすねえ。まあ、私はその上に行くけど・・・永理?無理  
です勝てません。

レイちゃん?無理ですなにこれチート?

「私のターン!ドロー!

魔法発動!『苦渋の選択』!」

さて、墓地に落とすカードはゾンビ・マスター×2に馬頭鬼×1闇  
竜の黒騎士×2

外道とか言っつな!これも立派な戦術なんだよ!

「私は『ゾンビ・マスター』を選択!」

あゝあ、どれ選んでも同じだったんだけどね。

さあ、召喚条件はすべて整った。ゲームスタートだ。

「墓地の光属性と闇属性を除外!『カオス・ソーサラー』を特殊召  
喚!皿の効果によりブルラストを除外!」

カオソがあのカードに描かれている光と闇を相手にぶつけ・・・  
と見せかけて上で両方をぶつけて次元を空に作ったと思ったら落と  
し穴に相手が落ちた。

長いわ!行が長いわ!てかなんで得意げ?ドヤ顔やめい!

「納得いかねー！」

「カードを2枚伏せ、ターンエンド！」

そういえばあのカードの効果ってなんだろうっ？どうでもいっか！

ああ、攻撃してえ・・・。

これがタッグデュエルじゃなかったらワンターンキルできたのになあ・・・。

「ふははははは！俺のターン！ドロー！」

フィールド魔法『戦場の跡地』発動！」

煙を上げる戦車・・・地面に突き刺さってる剣・・・これ、少年向けじゃないね。今ならPTAに訴えられるなこりゃ。

永理はなんか心地いい感じがしてたけど・・・あいつってあんな性格だったんだ。

「『戦場の跡地』の効果発動！1ターンに一度、デッキからレベル4以下の旧と名のつく機械族を特殊召喚できる！」

デッキから『旧サイバー・ドラゴン』を特殊召喚！」

なんか現在よりシンプルなデザインのサイバー・ドラゴンが戦車から出てきた。

でも攻撃力がたったの1499・・・しかも通常モンスターと、何故このモンスターを選択したのが気になる。

・・・まさか融合モンスター！？

「カミューラ、貴様の推理は良い所まで行っている。だがこいつの力は融合では無い！『旧サイバー・ドラゴン』を生贄に・・・

『最終鬼畜兵器サイバー・エンド・ドラゴン』を生贄召喚！」

見た目はデビルガンダムと神龍を足して2で割った感じ……。攻撃力がたったの2000? いったいどんな効果が……。

「『最終鬼畜兵器サイバー・エンド・ドラゴン』の効果発動! 相手モンスターを装備魔法として装備!

そしてデッキから旧と名のつくサイバーモンスターをこのカードに装備させ、そのモンスターの攻撃力分アップする!

『カオス・ソーサラー』を装備! そしてデッキから『旧サイバー・オーガ』を装備!」

ヤバイヤバイヤバイ! 攻撃力が6200だよ!

これ本当にヤバイ! そもそも何あのカード軍!? 効果鬼畜すぎだろ! しかもヨハンくんのデッキはまだ分からないし、でもこの攻撃力を超えるのは無理でしょ!

「永続魔法『機甲部隊の最前線』を発動! カードを伏せ、ターンエンド!」

うわあ……。超ガチコンボだ……。ヨハンくん頑張ろうね! てか倒してくださいお願いします。

てかこの小説でのルールで毎ターン手札補充だからこのデッキの生還の宝札いらなくなつた!

「俺のターン! ドロ……!

『ボマー・ビー』召喚! 効果発動! 『最終鬼畜兵器サイバー・エンド・ドラゴン』を破壊!」

虫が兵器を破壊する。シユールだわ……。

だってそうでしょ? 譬えるならビグ・ザムがボールに負けるような

もんだよ！

なに？ガンダムVSZガンダムとか連邦VSジオンではできるだあ？  
？知るかなもん！

「甘い！永続暴発動！『不良品シールド』を発動！

このカードが場に存在する場合、効果破壊を戦闘破壊として処理する！よって『機甲部隊の最前線』の効果により、デッキから『旧サイバー・ドラゴン』を特殊召喚！」

うわあ、しぶとい。またかよおい！

いちいち出てくる時の演出が凝ってるな！羨ましくなんか・・・ないんだからね！

「俺はカードを3枚セット！ターンエンド！」

次のターンに、またあんなのが出てくるのか・・・もう嫌だ！すごいやる気削がれる！

まあ、あのカードのおかげで私のデッキは結構有利に進められるけどね！

「私のターン！ドロー！」

魔法カード『愚かな埋葬』を発動！デッキから『DT ドラグニティダーク・スプロトル』を墓地へ送る！

墓地の『DT ドラグニティダーク・スプロトル』の効果発動！墓地のこのカードを除外し、デッキから同名モンスターを特殊召喚できる！

『DT ドラグニティダーク・スプロトル』を特殊召喚！『ドラグニティダーク・ハルプトル』を召喚！

レベル3の『ドラグニティダーク・ハルプトル』にレベル7の『DT ドラグニティダーク・スプロトル』をダークチューニング！

集いし闇が、新たな進化の糧となる！ダークシンクロ！『ドラグニ  
ティダーク・ススパルト』をダークシンクロ召喚！」

うん、もうね・・・普通の槍じゃん！黒い槍じゃん！

ただ単にドラグニティアームズ レヴァティンの目が虚ろなだけじ  
ゃん！でも効果は強かったり・・・。

「『ドラグニティダーク・ススパルト』の効果発動！デッキから装  
備魔法を3枚墓地へ送り、デッキから装備魔法を手札に加える事が  
できる！」

私は『ビックバン・シュート』と『ドラゴンの秘宝』最後に『デー  
モンの斧』を墓地へ送り、デッキから『純悪な闇』を手札に加える！  
『ドラグニティダーク・ススパルト』に『純悪な闇』を装備！」

攻撃力がたったの3000・・・低いな。  
しかも装備してやっと4000って・・・。

「『ドラグニティダーク・ススパルト』でカミューラに直接攻撃！  
ダークスピア！」

「永続畏発動！『メタル・リフレクト・スライム』！」

みんな大好きマリクさん。変異でエンド出せるのがいいよね！  
おジャマ・カントリー使えば攻撃力が3000！ロマンだね！

「スライムはk「畏発動！『ディフェンドアップ』！」なん・・・  
だど・・・？」

ちなみに効果は守備力を2000上げるだけなんだよね。

アンデット族に相性がいいから入れてるんだけど・・・まさかこん  
な所で使うとは・・・。

「くっ、カードを伏せ、ターンエンド！」

ふふふふふふ・・・折角出したのにすぐに退場する事になるとはね・・・。

「私のターン！ドロー！」

魔法カード『突然変異』を発動！『メタル・リフレクト・スライム』を生贄にし、『地天の騎士ガイアドレイク』を特殊召喚！

装備魔法『復讐の剣』をガイアドレイクに装備！行け！ススハルトに攻撃！」

ある者はバウンスの力により戻されて、ある者は権力の力に屈し、ある者は最終兵器の龍に除外された・・・。  
今こそその恨みを糧として、その力を発揮せよ！

「ガイアアアアア！！ストラッシュウウウウウ！！！」

これが・・・復讐の力！恨み妬みの力だ！  
ふははははははは！

「ぐ・・・チツ・・・。」

「まだまだア！速攻魔法『アンデットスラッシュ』！墓地のアンデット族を除外し、追加攻撃できる！」

行け！ガイアアアアアアア！ストラッシュウウウウ！」

「甘い！畏発動『レインボー・ライフ』！」

不味い、ライフが6000を超えた・・・だと・・・？  
ヨハンくんごめん！」

「カードを3枚セット、ターン終了!」

カイザー・・・自重してね本当に・・・。  
粉碎玉砕大喝采とかやめてね。

「俺のターン!ドロー!」

魔法カード『プロトフュージョン』を発動!手札の『旧サイバー・ドラゴン』と場の『旧サイバー・ドラゴン』を融合!  
『プロトサイバー・ツイン・ドラゴン』を融合召喚!

なんか黒いサイバー・ツイン・ドラゴンが出てきたんだけど!?  
すごいヤバそうなんだけど!?勝てるのこれ!?

私・・・やれるだけやったよね・・・。だから負けてもいいよね。  
てか、ビートデッキじゃなくてデッキ破壊作ればよかった・・・。  
このデッキアンデシンクロだけど・・・。  
アレ?攻撃力がたったの2000?どういう事?

「装備魔法『プロトサイバーキャノン2001』を『プロトサイバー・ツイン・ドラゴン』に装備!  
バトル!『地天の騎士ガイアドレイク』に攻撃!旧レボリユーション・ツイン・バースト!」

こ、攻撃力が4500・・・?勝てない・・・。  
だが、私には畏がある!んだけど・・・どうせ妨害されるんでしょ!  
!分かってますよ!

「無駄だと思っけど・・・畏発動・・・できない・・・だと・・・?」

「無駄だ!このカードが攻撃する場合、魔法、畏は発動できない!」

なにそのインチキ効果！？DT・デスサブマリンよりチート効果じやん！？

って怖い！トゲが怖い！

「うつ・・・面白くない・・・。」

「更に直接攻撃！」

やばいよやばいよやばいよ！

これどうし・・・クリボーあつた。なんで？まあいいや。

「手札のクリボーを墓地に捨て、ダメージをゼロにするわ！」

「カードを伏せ、ターンエンド！」

さあヨハンくん！なんとかアレを倒してくれよ！

「俺のターン！ドロー！」

魔法カード『生贄人形』を発動！『ボマー・ビー』を生贄にして、

『ブレイン・クラッシュャー』を特殊召喚！

魔法カード『フォース』を発動！『プロトサイバー・ツイン・ドラ

ゴン』を選択！バトル！『ブレイン・クラッシュャー』で『プロトサ

イバー・ツイン・ドラゴン』を攻撃！

行け！『ブレイン・ジャッカー』！ブレイン・ショット！」

口から粘液を吐き出し、プロトサイバー・ドラゴンの体を溶かす。

気持ち悪いわ・・・。

ってか昆虫族でどうなの？HAGAGさんぐらいでしょ使うの・・・

へ？アンデット族も気持ち悪い？・・・表出る！

「くくくくくく……機甲部隊の最前線」の効果により、デッキから『旧サイバー・オーガ』を特殊召喚！」

「カードを伏せ、エンドフェイズに『ブレイン・ジャッカー』の効果発動！来い！『プロトサイバー・ツイン・ドラゴン』！ターンエンド！」

おお！凄いわヨハンくん！

……でも、カイザーしつこい。またモンスター出したし……。

「私のターン！ドロー！」

『ドラグニテイク・ハルプルト』を攻撃表示で召喚！

魔法カード『愚かな埋葬』発動！デッキから『青眼の白竜』を墓地へ送る！

更に魔法カード『希望の光と絶望の闇』を発動！墓地の『ドラグニテイク・ススパルト』と『青眼の白竜』を除外！

除外したモンスターの攻撃力の半分、フィールドの表側表示のモンスターを攻撃力をアップさせる！」

つまり、攻撃力が3000アップね。……てヤバいんじゃない？ハルプルトの攻撃力は1600……3000アップで4600……。

しかも私の手札には切り札の次元融合……異次元からの埋葬はまだ手札には来ていない。

……ネクロフェイスを使うしかないかな？いや、それでは折角除外したモンスターがデッキに戻ってしまう。

それでは次元融合が腐ってしまうし、相手のデッキにまたあのカードが戻るのを阻止しなければ……。

「ふはは！カミューラに直接攻撃！」

「っ、手札から『クリボー』を捨て、ダメージをゼロにするわ！」

なんとか凌いだわね。・・・次のターンで一気に決める！

「ふふん、ターンエンド！」

「私のターン！ドロー！」

畏発動！『異次元からの帰還』！」

ライフコスト？踏み倒しです。  
なのは？はいそのとおりです。

「『閻竜の黒騎士』の効果発動！『最終鬼畜兵器サイバー・エンド・ドラゴン』を蘇生！」

そして場のモンスターを全て破壊し、『霸幻王』を特殊召喚！」

これで私の勝ちだ！・・・たぶん。  
攻撃力がたったの2000なのがたまに傷んだけどね。

「『霸幻王』の効果発動！特殊召喚成功時、相手モンスターの攻撃力をこのカードに与える！『ドラグニティダーク・ハルプルト』の力を吸収！」

行け！『ドラグニティダーク・ハルプルト』に攻撃！霸王斬！」

ハルプルトに剣を投げただけ。それで破壊されるってどうよ？

・・・まだ私のバトルフェイズは終了してないわ！

「『霸幻王』の効果！相手モンスターを戦闘によって破壊した場合、攻撃力を元に戻す事で追加攻撃できる！直接攻撃！」

「う、くくく・・・その程度か？まだまだだな。」

後は、このカードね！私の希望！

・・・吸血鬼が希望とか言うのってどうよ？

「速攻魔法『幻の追撃』を発動！ライフを2000ポイント払い、追加攻撃！」

でもライフがまだ残っちゃうんだよね。はぁ・・・罨とか発動されなければいいけど。

ライフコスト？踏み倒しですがなにか？

「罨発動！『闇からの援軍』！『ドラグニティダーク・プライスト』を特殊召喚！」

攻撃力1400・・・守備表示で特殊召喚できない方の効果のようね。

私みたいにメタル・リフレクト・スライム入れればいいのに。

「構わないわ！攻撃！」

後はヨハンくん！頑張つてね！私、たぶん亮にやられると思うから！だって亮のデツキヤバいんだもん！旧サイバーデツキなんてほぼ黒歴史のデツキじゃん！

「カードを伏せ、ターンエンドよ！」

「俺のターン！ドロー！」

魔法カード『闇の量産工場』を発動！墓地の『旧サイバー・ドラゴン』を2枚、手札に加える！

『融合』発動！『プロトサイバー・ツイン・ドラゴン』！

また出たよ！何こいつうざいわ！

まあ、このカード使うからそれも無駄になるんだけどね。

「畏発動！『奈落の落とし穴』！『プロトサイバー・ツイン・ドラゴン』を除外！」

「で？魔法カード『魂の解放』を発動！墓地の『最終鬼畜兵器サイバー・エンド・ドラゴン』に『旧サイバー・ドラゴン』3体を除外！魔法カード『次元融合』を発動！『プロトサイバー・ツイン・ドラゴン』に『最終鬼畜兵器サイバー・エンド・ドラゴン』『旧サイバー・ドラゴン』を特殊召喚！」

あれ？まさか青眼も出てくるんじゃ……。  
やっぱ出てくるのね……あうう……。

「『覇幻王』を『最終鬼畜兵器サイバー・エンド・ドラゴン』に装備！更にデッキから『旧サイバー・エルタニアン』を装備！」

「融合」発動！来い！『サイバー・ツイン・ドラゴン』！  
カミューラに直接攻撃！半エターナル・レボリューション・バースト！」

うふふふふ……コレもう無理。伏せたカードは砂塵……ムリ  
ダナ。

手札にはクリボーはもう無いし……。速攻のカカシもないし……。  
勝てない。

「次！『プロトサイバー・ツイン・ドラゴン』に『プロトサイバー・ツイン・ドラゴン』で攻撃！」

続いて『ブレイン・ジャッカード』に攻撃！ダメージ計算時に『オネスト』を捨て、攻撃力を『ブレイン・ジャッカード』の攻撃力分アップさせる！

そして『旧サイバー・ドラゴン』で直接攻撃！  
二体目の『旧サイバー・ドラゴン』で止めだ！」

私、オワタ！優勝オワタ！あはははははははははは！

「・・・俺、あんま出番無かった・・・ゲストなのに・・・。」

ゴメン、私の実力不足だったね・・・。

『勝者！旧サイバー流！素敵なデュエルをありがとう！』

嘘つくな！モンハンやってたの見え見えだったんだからね！  
アバター！あんた人間じゃねえ！・・・精霊だった・・・。

視点：異世界編では空気だった明日香

空気じゃなくてよ！

・・・コホン！さて、カミューラ達が終わった事だし、そろそろデュエルの準備でも・・・。

・・・瑠璃さんとかよおおお・・・！よりによって一番目立つ人と組むとは、藍ちゃんと組みたかったわ・・・。

対戦相手は・・・誰？・・・うん、あんまり脅威には見えないわ私。なんでだろう・・・。

「若人よ、頑張ろうぞよ。」

「へっ？は、はい・・・。」

うわああああ、緊張するわー、プロと話すの。

チキンですよ！私はチキンですがなにか！？

『では始めます。第4回戦！アイドル&アイドル？VS出番の少ない精霊達 デュエル場へ！』

おい！？の方は私かおい！

やってちゃんよ！ぎったぎたのぼっこぼこのみっくみくにしてちゃんよ！

『ふうん。すぐに決めるぞ小娘。』

『その仮面ダサイから取った方がいいですよ。』

『えっ！マジで！？』

あゝ、そろそろ始めたいんだけど・・・。

でも、さわらぬ神にたたりなしって言うしね。

てかみんな、なんか興奮してんだけど？なんで？

「では、行きますよ！」

「にやはは！」

『高ぶる、高ぶるぞ！』

『今日の晩飯、豚キムチにしよう！』

「」「」「デュエル！」「」「」

精霊もごはん食べるんだ。知らなかった。

さあ飛ばすわよ私！久々の出番だから！

先行は貰った！

「私のターン！ドロー！」

『極星天ヴァナディース』を攻撃表示で召喚！

『極星天ヴァナディース』の効果により『極星天ヴァルキュリア』

を墓地へ送り、このカードのレベルを2にする！

カードを3枚セット、ターンエンド！」

あはは、このデッキ後攻の方が有利になるんだった。忘れてたわ。いやだつてさ、久しぶりの出番だよ。普通浮かれるでしょ？

『私のターン！ドロー！』

魔法カード『手札抹殺』を発動です！手札を全て捨て、捨てた枚数分ドローです！

『ワタポン』は通常ドロー以外でドローした場合、特殊召喚が可能です！『ワタポン』を特殊召喚！

魔法カード『コストダウン』を発動です！『ワタポン』を生贄に『青眼の白竜』を召喚です！

カードを伏せ、ターンエンドです！」

相方すんごい怒ってるけどいいの？どうでもいいけど・・・。

「私のターン！ドロー！」

『RF 桎梏を狩りし者』を攻撃表示で召喚つさ！

『RF 闇の狩人』の効果により手札から『RF 闇の狩人』を特殊召喚つさ！

『DT 闇からの使者』を特殊召喚つさ！

レベル4『漆黒を狩りし者』にレベル12の『DT 闇からの使者』をダークチューニング！

漆黒の帳下りし時冥府の瞳は開かれる。

舞い降りる闇よ！ダークシンクロ！

出でよ、『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』！カードを3枚セツトしてターンエンド！」

瑠璃さん！？いきなりそれは無いんじゃないですか！？

そもそもダークシンクロで、永理ぐらいですよ使ってるの！

『俺のターン！ドロー！』

儀式魔法『白竜降臨』！手札の『サファイア・ドラゴン』を生贄に『白竜の聖騎士』を儀式召喚！

永続魔法『未来融合』フューチャーフュージョン』を発動！『F・G・D』を選択！

デッキから『伝説の白石』3枚と『スピア・ドラゴン』『エメラルド・ドラゴン』を墓地へ送る！

墓地の『伝説の白石』の効果発動！デッキから『青眼の白龍』を3枚手札に加える！

『白竜の聖騎士』を生贄に『青眼の白竜』を特殊召喚！更に魔法カード『増援』を発動！デッキから『正義の味方カイバーマン』を手札に加える！』

おいおいおい、これヤバいんじゃない？

やばいよ瑠璃さん！助けて！

って、何その余裕顔は！こっちは寿命が縮みそうなのに！

「『白竜の聖騎士』を生贄に手札から『青眼の白竜』を特殊召喚！

『正義の味方カイバーマン』を召喚！『正義の味方カイバーマン』を生贄に『青眼の白竜』を特殊召喚！

カードをセットし、ターンエンド！」

あ、あはは・・・これ・・・もう出番終わり？そんなのは嫌だ！私はもっと出たい！

他の小説ではメインキャラなのにこっちは私は出番が無いよ！なんで！？どうして！？

「私のターン！ドロー！

ヴァナディースを守備表示に変更！『極星獣タングリスニ』を守備表示で召喚！ターンエンド！」

今は護りに徹しなきゃ！  
でも、無理そうです。

「私のターン！ドロー！」

魔法カード『フォース』を発動！カイバーマンさんの青眼の攻撃力の半分を私の青眼に加える！

バトル！『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』に攻撃！滅びの爆裂疾風弾！」

うわあ……１ターンで瑠璃さんのワンハンドレッドを破壊するって……。

信じられるか？これ、プロ同士のデュエルじゃ無いんだぜ……。

「『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』の効果発動！デッキから好きなカードを手札に加える事ができる！」

私は『ダークシンクロ・サポーター』を手札に加える！」

『ふふふ、カードを伏せ、ターン終了です！』

またダークシンクロのサポートカード……なにこれ？こんな普通のじゃないよ！

50円で売られているダークシンクロって、こんなにも強かったの？永理ん家では結構な値段するけど……。

「私のターン！ドロー！」

リバーズ畏発動！『呪縛牢』！エクストラデッキから『DST死龍』2体と『黒眼の紫龍』を特殊召喚！

『DST死龍』に『黒眼の紫龍』をダブルダークチューニング！

絶対王者と絶望が共鳴せし時、無限の苦しみより死の王は甦る！闇で蔽え！心も体も、世界も！ダークシンクロ！

これが絶対なる間、『デスナイト・オブ・ダークネスドラゴン』！  
こ、攻撃力5500って、勝てないよ絶対！  
なにこのチートカード！？どうせ効果もチートなんだから！

「『デスナイト・オブ・ダークドラゴン』の攻撃力は、場のカード  
の数×1000ポイントアップする！」

予想の斜め上のチート効果だった！

しかもまだ効果あるっぽいし！

アレ？相手の場に存在するカードは・・・私も入れて9！？つまり  
攻撃力18500！？絶対勝てないよ！アバターでもない限り！

「行け！『デスナイト・オブ・ダークドラゴン』！青眼1に攻撃！  
デスナイト・オブ・ストリーム！」

そして『デスナイト・オブ・ダークドラゴン』の効果発動！相手モ  
ンスターを戦闘で破壊した場合、デッキを3枚めくり、闇属性モン  
スターの数分だけ攻撃が可能となる！

青眼2に攻撃！デスナイト・オブ・ストリーム！青眼3に攻撃！デ  
スナイト・オブ・ストリーム！」

あ、あはは・・・私の出番・・・全く無かった。

『勝者！アイドル&アイドル?!瑠璃さん自重しろ!』

「にははは・・・アバター、それは無理な話っさ」

カムバーク！私の出番！

召喚条件が難しいカードは大体チート。幻魔？ゲート・ガーディアン？聞こえん

永理「なんというチート……。」

ふっふっふ、これこそがオリカの力よ！

アバター『そういえば、だいぶと更新してなかったけどなにかあったの？』

いやね、遊戯王MADにハマったりネタが思いつかなかったりTF6とかやっていたりで……ね？

永理「お前たぶん小説の作者の中で一番最悪なパターンだぞそれ。」

小さいことは気にすんな。それワカチコワカチコ。さて、オリカ紹介、入ってみよう！

『ドラグニティダーク・トブリル』

レベル4

闇属性

攻撃力：1300

守備力：1200

鳥獣族：効果

このカードの召喚に成功した時、手札のドラグニティと名のつくモンスターを1体、特殊召喚できる。この効果を発動するターン、自分はバトルフェイズを行う事ができない。

『ドラグニティダーク・フラス』

レベル2

闇属性

攻撃力：250

守備力：120

ドラゴン族：効果

このカードがドラグニティダークと名のつくモンスターの効果で特殊召喚された時、デッキからドラグニティダークと名のつくモンスターを1体、特殊召喚できる。

『ドラグニティダーク・カタストロフ』

レベル3

闇属性

攻撃力：1300

守備力：1200

鳥獣族：効果

このカードが召喚、特殊召喚された時、デッキからTDと名のつくモンスターを1体、特殊召喚できる。

『DT ダークネス・ドラゴン』

レベル8

闇属性

攻撃力：0

守備力：0

ドラゴン族

地縛神に仕える龍、最近給料が減ってきたのでブックオフで働いてるとかなんとか。

『ドラグニティダーク・ブルラスト』

レベル6

闇属性

攻撃力：3100

守備力：1200

ドラゴン族：ダークシンクロ

チューナー以外のドラグニティダークと名のつくモンスター1体・  
ダークチューナー

このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在する

ダークチューナー

「DT」と名のついたチューナーのレベルを

それ以外の自分フィールド上に存在するモンスター1体のレベルか  
ら引き

その数字がこのカードのレベルと等しくならなければならない。

このカードは戦闘では破壊されない。

『戦場の跡地』

フィールド魔法

1ターンに一度、デッキからレベル4以下の旧と名のつくモンスターを1体、特殊召喚できる。

『旧サイバー・ドラゴン』

レベル3

地属性

攻撃力：1499

守備力：1456

機械族

プロトサイバーより昔に作られた兵器

仲間との合体により、真の力を発揮する・・・かも？

『最終鬼畜兵器サイバー・エンド・ドラゴン』

レベル12

地属性

攻撃力：2000

守備力：3100

機械族：効果

このカードは旧サイバー・ドラゴンを生贄にする事で、生贄1体で召喚できる。

このカードの召喚、特殊召喚時、相手モンスターを1体、このカードに装備させ、デッキから旧と名のつくモンスターを1体、このカードに装備させる。

このカードの攻撃力は装備されているモンスターの攻撃力分アップする。

『旧サイバー・オーガ』

レベル5

地属性

攻撃力：1900

守備力：1200

機械族：効果

このカードを手札から捨てる事で、デッキから旧サイバー・オーガを手札に加える。

『ボマー・ビー』

レベル3

風属性

攻撃力：1300

守備力：1200

昆虫族：効果

1ターンに一度、相手モンスターを破壊できる。この効果を発動するターン、自分はバトルフェイズを行う事はできない。

『不良品シールド』

永續罫

モンスターがカードの効果によって破壊される時に発動できる。  
効果破壊を戦闘破壊として処理する。

『DT ドラグニティダーク・スプロトル』  
レベル7

闇属性

攻撃力：1200

守備力：1300

鳥獣族：効果

墓地に存在するこのカードを除外する事で、DT ドラグニティダーク・スプロトルを1体、特殊召喚できる。

『ドラグニティダーク・ハルプルト』  
レベル3

闇属性

攻撃力：1500

守備力：1300

ドラゴン族：効果

このカードが墓地から特殊召喚された場合、デッキからカードを1枚ドロワーできる。この効果を発動した場合、このカードを除外する。

『ドラグニティダーク・ススパルト』  
レベル4

闇属性

攻撃力：3000

守備力：3000

ドラゴン族：ダークシンクロ

1ターンに一度、デッキから装備魔法を3枚墓地へ送る事で、デッキから装備魔法を1枚、手札に加える。

『純悪な闇』

装備魔法

闇属性モンスターにのみ装備可能。

装備モンスターの攻撃力を1000ポイントアップさせる。

『ディフェンドアップ』

通常罫

自分フィールドに表側守備表示で存在するモンスターを1体選択して発動する。

そのモンスターの守備力をエンドフェイズまで2000ポイントアップさせる。

『復讐の剣』

装備魔法

ガイアと名のつくモンスターにのみ装備可能。

攻撃力を500ポイントアップさせる。

このカードが破壊された時、墓地のカードを1枚、デッキに戻す事ができる。

『アンデットスラッシュ』

速攻魔法

墓地のアンデット族を除外し、効果を発動する。自分フィールド場に存在するモンスターを1体選択する。そのモンスターは通常の攻撃に加え、もう一度だけ攻撃ができる。

『プロトフュージョン』  
通常魔法

手札またはフィールド上から、融合モンスターカードによって決められた

モンスターを墓地へ送り、機械族の旧と名のつくモンスターの融合モンスター1体を融合デッキから特殊召喚する。

『プロトサイバー・ツイン・ドラゴン』  
レベル8

地属性

攻撃力：2000

守備力：2000

機械族：融合

旧サイバー・ドラゴン+旧サイバー・ドラゴン

このカードの融合召喚は、上記のカードでしか行えない。

このカードが攻撃する場合、相手は魔法、罫を発動できない。

『プロトサイバーキャノン2001』  
装備魔法

プロトサイバー・ツイン・ドラゴンにのみ装備可能。

攻撃力を2500ポイントアップさせる。

『希望の光と絶望の闇』  
通常魔法

墓地の光属性モンスター1体と闇属性モンスター1体を除外して発動する。

除外したモンスターの攻撃力の半分を、自分フィールドのモンスター

1の攻撃力をアップさせる。

『覇幻王』

レベル10

闇属性

攻撃力：20000

守備力：20000

悪魔族：効果

このカードは自分フィールドのモンスターを全て破壊する事でのみ、特殊召喚できる。このカードの特殊召喚成功時、相手モンスターを1体選択して発動する。

そのモンスターの攻撃力を半分にし、このカードの攻撃力を半分にした数値分、アップさせる。相手モンスターを戦闘によって破壊した場合、このカードの攻撃力を元に戻す事で、続けて攻撃する事ができる。

『幻の追撃』

速攻魔法

ライフを2000ポイント払う事で発動する。自分フィールド場のモンスターを1体選択する。選択したモンスターは、続けて攻撃ができる。

『闇からの援軍』

通常罫

デッキからドラグニティダークと名のつくモンスターを1体、攻撃表示で特殊召喚できる。

『ドラグニティダーク・プライスト』

レベル4

闇属性

攻撃力：1400

守備力：1900

鳥獣族：効果

このカードの召喚成功時、デッキからドラゴン族モンスターを1体、手札に加える。

『ダークシンクロ・サポーター』

レベル1

闇属性

攻撃力：100

守備力：0

機械族：効果

このカードの召喚時、手札からレベル8以下のTDと名のつくモンスターを1体、特殊召喚できる。この効果で特殊召喚したモンスターはエンドフェイズに破壊される。

『デスナイト・オブ・ダークドラゴン』

レベル1

闇属性

攻撃力：5500

守備力：2100

ドラゴン族：ダークシンクロ

黒眼の紫龍 - ダークチューナー2体

このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在するダークシンクロチューナー「DST」と名のついたチューナーのレベルを

それ以外の自分フィールド上に存在する黒眼の紫龍のレベルから引きその数字がこのカードのレベルと等しくならなければならない。このカードの攻撃力・守備力は、相手フィールド上に存在する

カードの枚数×1000ポイントの数値分アップする。

このカードが相手モンスターを戦闘によって破壊した場合、自分のデッキの上からカードを3枚めくる。

このターンこのカードはその中の閻属性モンスターの数まで攻撃する事ができる。

その後めくったカードをデッキに戻してシャッフルする。

永理「予想の斜め上に行くチートカード軍団だった・・・。」

この俺が自重するだけでも？

アバター『明日香の順番、もっと増やしてやれよ。』

大丈夫！次回の次回の次回で出てくるから。

ちなみに、それまで永理の順番はほとんど無いよ。

永理「行け！ラーよ！ゴッド・ブレイズ・キャノン！」

甘い！マジック・シリンダー！

永理「うわああああー！！」

英語版のバスター・モードの名前はカッコいい。だが、俺には読めないぜ！あー

視点：十代

さて、やっと俺の出番か。・・・しかし、まさかタッグパートナーがこいつとはな。

「よろしく頼むぜ！十代！」

神楽坂・・・その格好なに？

「たしか永理は・・・『DT・ナイトメアハンド』って言ってた。」

マジですか永理さん・・・。てか作ったの！？凄エ！

そついやあ、この大会での優勝賞品ってなんだろう？分かんないなちよつと・・・。

でも、さすがにホルアクティは無いだろ・・・。アレ？気のせいかな？・・・気のせいじゃなかったよ！

こいつマジでやらかしたよ！レイのデッキしかり！普通に神のカード使用しかり！

『漲って来たぜ！第5回戦！ 英雄は夢に何思うのか？V S H E R O & H E R O デュエル場へ！』

アバターのテンションがヤバい事に・・・なんか怖い。

だって眼が！眼が完全に逝っちゃってるもん！

まあいいや、忘れよう。さて、久しぶりのデュエルだぜ！楽しまないとな！

「行くぜ神楽坂！」

「OK！俺様のハンドレスコンボは完璧だ！」

「猫とは・・・いいものだ！」

「何言つてんだ馬鹿不死鳥！」

対戦相手は、アビドスと・・・誰だっけ？たしか人妻好きなプロデ  
ュエリストだった気が・・・。  
まあいい！ゲームの始まりだ！

「・・・デュエル！」 「デュエルではない、エドだ！」

（永理家内BGM ダークシグナー）

選曲いいな永理・・・。

エドさん何言つてんの！？

まずは神楽坂のターンからか・・・。 先行欲しかったなあ・・・。

「俺のターン！ドロー！」

モンスターをセット！魔法カード『愚かな埋葬』！デッキから『イ  
ンフェルニティ・ガーディアン』を墓地へ送る！  
カードを伏せ、ターンエンド！」

それだけ？もつと行動したら？

まあいいや、次はアビドスのターンか・・・。

「名前覚えてくれたんだ。・・・俺のターン！ドロー！」

『ジエスター・コンフィ』を特殊召喚！『ジエスター・コンフィ』  
を生贄に『生贄人形』を発動！

『E・HEROエッジマン』を特殊召喚！更に『融合』発動！手札の『E・HEROスパークマン』と『E・HEROオーシャン』を融合！

来い！『E・HEROアブソルートZero』！ターンエンド！」

忌々しい属性HEROめ……。絶対に殺す！

「俺のターン！ドロー！」

チツ、モンスターをセット！カードを3枚セット！ターンエンド！」

くくく、伏せたカードは素っ破抜きとアヌビスの裁き……。そして天罰！俺の勝ちだ！

エドのデッキはなんなのだろう？まあいい、我が力にひれ伏すがいい！

「俺のターン！ドロー！」

『D・HEROダイアモンドガイ』召喚！エフェクト発動！デッキトップをめくり、そのカードが通常魔法だった場合、そのカードを墓地へ送り、次のターンにエフェクトを発動できる！！

デッキトップは当然……。通常魔法『滅びの爆裂疾風弾』！次のターンエフェクト確定！」

やっぱ青眼か！青眼入れてるかあいつ！

しかし、面倒な効果だなあいつ……。攻撃力がたったの1400……。か……。低いな。

「カードを3枚セット！ターンエン、エドさんのエンドフェイズに罨発動！『砂漠の光』！『不幸を告げる黒猫』の効果発動！『ハンドレス・フェイク』デッキトップに！」。……。ターンエンド！」

ガン伏せですか？さすがプロ！タッグフォースのアレはなんだったんだプロ！？

神楽坂、・・・やっちなえ！

「俺のターン！ドロー！」

魔法カード『天使の施し』！デッキからカードを3枚ドローし、2枚捨てる！

手札の『インフェルニティ・デストロイヤー』を墓地へ捨て、『ダーク・グレファア』を特殊召喚！『ダーク・グレファア』の効果発動！手札の『インフェルニティ・リベンジャー』を墓地へ捨て

デッキから『ネクロ・ガードナー』を墓地へ送るぜ！『ダーク・グレファア』を生贄に『死霊を操りしパペットマスター』を召喚！1000ライフをコストに墓地の『インフェルニティ・デストロイヤー』

『DT ナイトメア・ハンド』を特殊召喚！更に装備魔法『早すぎた埋葬』を発動！ライフを800払い、墓地の『インフェルニティ・ビートル』を特殊召喚！

更に魔法カード『死者蘇生』発動！墓地の『インフェルニティ・ドワーフ』を特殊召喚！」

・・・嫌な予感が・・・てか、DT？まさか・・・月影家十八番のダークシンクロー！？

インフェルニティと相性最悪なんだけどな・・・上級モンスターにDTは・・・。

おいエドさん！何ポケモンやってんだ！しかもGBで・・・GBで・・・。

「おつ、ファイヤーレベルアップ、にらみつけるか・・・どうしよう？諦めよう！」

初代！初代だあれ！

おっ、神楽坂が動くぞ。

「カードを伏せ、レベル2の『インフェルニティ・ドワーフ』にレベル10の『DT ナイトメア・ハンド』をダークチューニング！漆黒の帳下りし時冥府の瞳は開かれる。

舞い降りる闇よ！ダークシンクロ！出でよ『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』！

レベル6の『死霊を操りしパペットマスター』にレベル2の『インフェルニティ・ビートル』をチューニング！

死者と生者、ゼロにて交わりしとき、永劫の檻より魔の竜は放たれる！

シンクロ召喚！いでよ、『インフェルニティ・デス・ドラゴン』！

おお！満足龍に不満足龍！凄エ！

・・・コレ、俺いらなくネ？

「ヒヤッハー！踊れエド！死のダンスを！『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』で『D・HEROダイヤモンドガイ』を攻撃！インフェニティ・サイト・ストリーム！」

「甘いぞ少年！畏発動『炸裂装甲』！」

ああ！神楽坂のダークシンクロモンスターが破壊される！

俺がそう確信した時、目を疑った。

・・・笑っているのだ、神楽坂が・・・。

「残念だったな・・・『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』は、墓地の闇属性モンスターの効果を得るのさ！

ヒヤッハッハッハッハア！墓地の『インフェルニティ・ガーディアン』の効果は、手札が無い場合、戦闘、カード効果では破壊されない！」

やっぱりか！やっぱりそんな効果か！  
でも、これでエドさんも終わりか、意外と早かったな。

「ヒヤーツハツハツハア！『インフェルニティ・デス・ドラゴン』  
で止め！デス・ファイア・ブラスト！」

Q・これはプロ養成学校ですか？

A・はい、プロからやる気を削ぐ学校です。

「やはり甘いな、最初の『炸裂装甲』はおとり！これが本命だ！畏  
発動！『次元幽閉』！」

はいガチカード入りました。

さすがに堪えたみたいだな、神楽坂も……。

「そうでなくては面白くないな！ターンエンド！」

この状況で楽しむとか無理！絶対無理！

……まあいい、次の次のターン、俺のデッキの真の力を見せてや  
る！

「俺のターン！ドロー！」

『融合』発動！手札の『E・HEROSパークマン』と『カード・  
ガンナー』を融合！来い！『E・HEROガイア』！」

またか、……ヘルポリマー伏せときゃよかった。

だが、所詮その程度の効果！ひやははははは！

「『E・HEROガイア』の効果発動時に、こいつを発動させても

らうぜ！『天罰』！」

「ぐつ、小癩な！『カード・ガードナー』を守備表示で召喚し、ターンエンド！」

さて、残りの属性HEROをどうするか？

・・・くくく、運命は俺に味方するのか。

「俺のターン！ドロー！」

手札の『沼地の魔神王』を墓地へ捨て、『融合』を手札に加える！魔法カード『融合』発動！手札の『ゼミアの神』と『E・HEROプリズマー』を融合！

『G・HEROグリファル』を融合召喚！融合召喚した瞬間、効果発動！場のカードを全て破壊！」

「ぐつ、猪口才な！」

「え？何？何？何が起きたの！？」

くくく、シンクロの力、とくとその目に焼き付けるがいい！

ヒヤッハッハッハッハア！！・・・エドさんがなんか違うんだよな・・・テレビとはな・・・。

「『デブリ・ドラゴン』を召喚！効果により、墓地の『沼地の魔神王』を特殊召喚！レベル3の『沼地の魔神王』に、レベル4の『デブリ・ドラゴン』をチューニング！」

冷気を纏いし龍よ！我が勝利のために、古の封印を解き放つがいい！シンクロ召喚！飛翔せよ！『氷結界の龍グングニール』！そして速攻魔法『異次元からの埋葬』」

ふつつつぶ、こいつの効果は、ちよつとキツイぜ？

さあ、イツツ・シヨータイム！

「グングニールの効果発動！手札を2枚まで捨て、捨てた枚数分だけカードを破壊できる！」

「ヒャーハッハッハア！エドの残りカードを全て破壊！オール・ブリザード！」

「さあ行け！グングニールでアビドスに攻撃！コールド・ブリザード！」

グングの口から冷気を纏いし息吹が放たれる……訳ねえだろ！下等生物に息吹なんざ必要ねえ！

尻尾で攻撃しな！ヒャーッハッハッハア！

「ぐ、貴様は、貴様だけは許さん！絶対にぶっ潰す！グアアアアアアア！」

「寝言は寝て言ってる。ターンエンド！」

相手の場には壁モンスターが存在しない。たとえ融合されたとしても、俺の墓地にはネクロ・ガードナーが2枚。

たとえ攻撃してきたとしても攻撃を無効にし、神楽坂のワンハンドレッド・アイ・ドラゴンで攻撃or効果破壊で勝てる！

「俺のターン！ドロー！」

墓地の『滅びの爆裂疾風弾』の効果発動！全てのモンスターを破壊！……『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』は破壊されないけど……。

魔法カード『ダーク・ゲート』を発動！手札を2枚捨て、デッキからダークと名のつくモンスターを1体、召喚条件を無視して特殊召喚できる！来い！『ダーク・アームド・ドラゴン』！

『ダーク・アームド・ドラゴン』を生贄に『偉大魔獣ガーゼット』を召喚！バトル！十代に直接攻撃！ミサイルパンチ！」

「エドの直接攻撃宣言時、墓地の『ネクロ・ガードナー』を除外し、

攻撃を無効！」

「ちつ、カードを2枚伏せ、ターン終了だ。」

ついに、ついに来た！プロを倒す時が！・・・まあ、倒すのは神楽坂なんだけど・・・。

まあそんな事はどうでもいい！永理の口から血が出る気がするが気にしない！

なんかリングゴ持つてるが気にしないぜ俺は！

「俺のターン！ドロー！」

手札の『インフェルニティ・デーモン』を相手に見せ、手札から特殊召喚！

『インフェルニティ・デーモン』の効果発動！デッキから『インフェルニティ・アタッカー』を手札に加える！そして、『インフェルニティ・アタッカー』の効果発動！

手札から特殊召喚し、デッキからインフェルニティと名のつくレベル5以上のモンスターを手札に加える！俺は『インフェルニティ・ジエネラル』を選択！

2体のモンスターを生贄に『インフェルニティ・ジエネラル』を召喚！バトル！『インフェルニティ・ジエネラル』でアビドスに直接攻撃！アビドス撃破！

メインフェイズ2に、『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』の効果発動！『偉大魔獣ガーゼット』を破壊！」

くははははは・・・、これでバースダメージは2800・・・俺達の勝ちだ！

「バーンで止めは嫌あああああー！」

「恐怖におびえ、生き恥さらせ！」

神楽坂くつろぐうん!!?!

悪役ですやん、もう完璧に……。俺?…。気にするな!

『あ、終わった?…。勝者、英雄は以下略。』

アバター絶対にもう飽きてるだろ!

はあ、まあいいやもう。

「神楽坂、少しは自重しろよ……。」

「ダークシンクロ以外と使いやすかった……。それは無理だな! ヒャーッハッハッハッハア!!!」

いや、マジで自重してくださいお願いします。

視点:一!十!百!千!万丈目サンダー!

幽霊って飯食うもんなのか?まあいいや。

『万丈目さん、頑張りましょうね!』

ああ、俺には眩しすぎるぜ……。その笑顔。

……。殺気が背中からするのは気のせいではないなうん。

『え〜では、次の選手は、デュエル場へ上がってください。……。フォルテのあのバルカン卑怯だろ。』

お前もうやる気ないだろ!

しかし、対戦相手が迷宮兄弟とは……。

「我々の力。」

「とくと思いい知るがいい！」

「……デュエル！」

「私のターンですう〜！ドロー！」

「レッド・ガジェット」を召喚ですう〜。効果により、デッキから

「イエロー・ガジェット」を手札に加えますう〜。

カードを3枚伏せ、ターン終了ですう〜。」

栄ちゃんのデッキはいつたいたいなんなのか？まあいいや。

次は、迷宮弟の番か……。

「私のターン！ドロー！」

「地雷蜘蛛」を召喚！魔法カード「生贄人形」を発動！「地雷蜘蛛」を生贄に、「風魔神・ヒューガ」を特殊召喚！

更に魔法カード「天使の施し」発動！デッキからカードを3枚ドロし、2枚捨てる！魔法カード「死者蘇生」発動！

墓地から「水魔神・スーガ」を墓地から特殊召喚！更に装備魔法「早すぎた埋葬」を発動！ライフを800払い、墓地から「雷魔神・サンガ」を特殊召喚！

魔法カード「強欲な壺」を発動！デッキからカードを2枚ドロ！3体のモンスターを生贄に、「ゲート・ガーディアン」を特殊召喚！

「では、特殊召喚成功時に「奈落の落とし穴」を発動ですう〜！」  
「……えっ？」

ああ、ガーディアンが、落ちていく……。

しかも除外だしな……。ダーク・エレメント対応してないし……

この子、恐ろしい子！

「カードを伏せ、ターン終了……。」

「俺のターン！ドロー！」

魔法カード『スター・ブラスト』を発動！500ライフを払い、『アームド・ドラゴンLV5』を召喚！更に魔法カード『ハイリスク・レベルアップ』を発動！デッキから『アームド・ドラゴンLV7』を特殊召喚！

魔法カード『天使の施し』を発動！デッキからカードを3枚ドローし、2枚捨てる！カードを2枚伏せ、ターンエンド！」

伏せたカードは、リビングゲットの呼び声……。たとえば効果で破壊されたおしても、蘇生できる！

そしてもう一枚は収縮。たとえ攻撃してきたとしても、相手モンスターを破壊し、デッキからアームド・ドラゴンLV7を特殊召喚できる！

「私のターン！ドロー！」

ふっふっふ……。魔法カード『古のルール』発動！『青眼の白竜』を特殊召喚！カードを3枚場に出し、ターン終了だ！」

栄ちゃんのデッキがまだ分からないな……。ガジェットだから機械族か？

……。まさか、前に永理が作った機械アンデじゃないよな……。あれの展開力は恐ろしかった……。

「私のターン！ドロー！」

『愚かな埋葬』を発動ですう。デッキから『ゾンビキャリア』を墓地へ送りますう。『ゾンビ・マスター』を召喚ですう！」

『ゾンビ・マスター』の効果で、手札の『サイバー・フェニックス』を墓地へ送り、『ゾンビキャリア』を特殊召喚ですう〜！

更に畏発動ですう〜！『地の代償』！『ゴ布林ゾンビ』を召喚ですう〜！レベル4の『ゴ布林ゾンビ』にレベル2の『ゾンビキャリア』をチューニングですう〜！

地獄の名を持つ龍よ、我が勝利のために甦るがいい！シンクロ召喚！これが、死の文字を与えし龍！『デスカイザ〜・ドラゴン』ですう〜！

『ゴ布林ゾンビ』の効果発動ですう〜！デッキから『ゴ布林ゾンビ』を手札に加えますう〜！

ヘルカイザー・ドラゴン？だが腐ってるし……。まあいいや！効果は、永理から聞いた時は、相手の墓地のアンデット族を1体特殊召喚だっけか？

『フィールド魔法』『アンデットワールド』を発動ですう〜！バトル！迷宮兄弟兄に直接攻撃ですう〜！デスアンデット・ヘルブレス！

……気のせいかな？ワンキル臭がするんだけど……。

恐らく、あの伏せカードの1枚はバスター・モードだと思っただよね俺。

いや無いか、さすがにそれは無いよな。

『畏カード』『Assault Mode Activate』を発動ですう〜！

外国かい！まさかの外国かい！

ん？永理がグーサイン……。？まあ、カッコいいよね外国版。

『『デスカイザ〜・ドラゴン』を生贄に、デッキから『Doomk

a i s e r D r a g o n / A s s a u l t M o d e』を特殊召喚で  
すう〜！

『DoomkaiserDragon/AssaultMode』  
の効果発動！万丈目さんの墓地から『青眼の白竜』と、迷宮兄弟弟  
の墓地から三魔神を特殊召喚ですう〜！

『青眼の白竜』で『青眼の白竜』を攻撃ですう〜！滅びの爆裂疾風  
弾！更に三魔神で直接攻撃ですう〜！雷衝弾！流水波！魔風波！

ああ、俺の出番が無かったぜ

折角のアームド・ドラゴンが無駄になったぜ あははははは・・・  
はあ。

『ありがとうございますあ〜。』

「次は絶対に」

「我々が勝つ！」

「その時まで」

「負けるのではないぞ！」

「「では、また会おう！」」「

・・・元気だなあいつら。

『ちっ、移動するなよ。・・・あ、勝者、栄ちゃんと万丈目。はい  
拍手〜。』

お前後で巩固めな。

英語版のバスター・モードの名前はカッコいい。だが、俺には読めないぜ！あー

やっと不満足に50回勝った今日。長かったぜ。

永理「・・・凄いなお前、勉強しろよ。」

はっはっは、断るZE

家ではゲーム&ネット&漫画でおk。

成績悪くてもなんとかなるさ。

永理「おいおい・・・。」

まあいいじゃんそれは、さて、オリカ紹介エーイ

永理「無駄にテンション高いなお前。」

『ダーク・ゲート』

通常魔法

手札を2枚捨てる。

デッキからダークと名のつくモンスターを、召喚条件を無視して特殊召喚する。

この効果で特殊召喚されたモンスターは攻撃できず、効果を発動する事も出来ない。

永理「正直言つと、微妙だな。」

うん、俺もそう思う。でもさ、シンクロとか、ガーゼットとかに使えるし、ダーク・グレイにも使えるしさ。

永理「確かに、ダークシンクロデッキに入れてもいいんだけど、『簡易融合』でおkだし。」

言うな。それを言うな。

歯茎、大丈夫？

永理「歳には勝てぬわ。」

お前まだ高校生だろ、設定上は。

地縛神には何かの魅力を感じる。・・・そう、ロマンという魅力を・・・。

視点：ナノネ

長き月日を得て、やっとの出番・・・。  
そう、今ここに宣言しよう。

「わが世の春が来たアアアア!!」  
「うるさいでアール!クロノス先生!」

いや、だって全くデュエル描写が無いノノよ!いやまじ本当に。

『ふああ、7試合目開始。眠ろう。』

やる気が無いノネ・・・、アバター。  
ま、まあいいノネ。頑張るノネ!

「「「デュエル!」デース!」でアール!」ノネ!」

(永理家内BGM らららコッペパン)

「(おお、らきすたBGMデース 素晴らしい・・・)私の先行!  
ドロー!

ライフを1000払い、『トウン・ワールド』を発動デース!  
『トウン・マーメイド』を特殊召喚デース!

『トウン・マーメイド』を生贄に『トウン・デーモン』を特殊

召喚デース！『トウーン・チェミナイ・エルフ』を召喚し、ターン終了デース！」

いきなりヤバいノ〜ネ！この状況・・・、どうする私！ あっ、愚かな埋葬あつた。

てかこの手札、一目見たら事故じゃね？って手札なノ〜ネ！

「私のターンでア〜ル！ドロー！」

『トイ・ワールド』を発動でア〜ル！『トイ・ソルジャー』を召喚でア〜ル！カードを3枚伏せ、ターンエンドでア〜ル！」

嫌な予感しかしないノ〜ネ・・・。ああ、この手札ならワンキルできるのに・・・。

まあいいノ〜ネ！うん！

「俺のターン！ドロー！」

『ツインバレル・ドラゴン』を召喚だ！『ツインバレル・ドラゴン』の効果！選択するのは『トイ・ソルジャー』！」

不味いノ〜ネ！あのカードはナポレオン教頭のキーカードなノ〜ネ！でも、あの人ならたぶん、畏を発動するのでしょうか・・・。

「甘いのでア〜ル！畏発動！『トイ・ガード』を発動でア〜ル！このカードは対象を相手モンスターに変更する事ができるのでア〜ル！変更対象は『トウーン・デーモン』！」

「甘いデース！畏カード『トウーン・ガード』！1000ライフ払い、トウーンと名のつくモンスターは効果では破壊されませーん！」

おお、美味しい事かわしたノ〜ネ！

でも、1000ライフコストはちよつとキツイノ〜ネ・・・あつ、

この大会ではライフコストの踏み倒しが可能だったノ〜ネ！  
まさか、そこまで考えて……。

「ちつ、カードを2枚伏せ、ターン終了だ！」

「私のターン！ドローによ！」

魔法カード『愚かな埋葬』を発動なノ〜ネ！デッキから『DT デス・サブマリリン』を墓地へ送る〜ノ！

墓地の『DT デス・サブマリリン』の効果発動ナノ〜ネ！墓地から特殊召喚できるノ〜ネ！魔法カード『ワン・フォー・ワン』を発動なノ〜ネ！

手札の『古代の機械巨人』を捨て、デッキから『ダークシー・レスキュー』を特殊召喚ナノ〜ネ！レベル1の『ダークシー・レスキュー』にレベル9の『DT デス・サブマリリン』をダークチューニング！

闇と闇重なり〜し時、冥府の扉は開かれ〜る。光無〜き世界へ！ダークシンクロ！出でよ、『ダーク・フラット・トップ』！

『ダーク・フラット・トップ』の効果発動！墓地の『古代の機械巨人』を特殊召喚するノ〜ネ！」

私の得意なコンボより早く出せました〜ノ。……事故率高くなりました〜が……。

ちなみに、このデッキは機械族のみなのデ〜ス！つまり、一族の結束で攻撃力3800の貫通効果の巨人が出てくるノ〜ネ！

……1枚しか持ってません〜が……。はあ……。

あと、ナポレオン教頭も機械族オンリーなノ〜ネ！つまり、タッグには最適なノ〜ネ！……性格は好きに慣れませんが。

「カードを2枚伏せ、ターンエンドなノ〜ネ！」

「私のターン！ドロー！」

『トウーン・デーモン』でクロノスさんを直接攻撃デ〜ス！」

「甘いノ〜ネ！罨カード『スピリット・バリア』！」

ふっふっふ、効果は以下略なノ〜ネ！だって面倒だし。

「中々やりますね。カードを伏せ、ターンエンドデース！」

さすが遊戯王の生みの親。強いノ〜ネ……。てかなんでこの人がここに居ます〜ノ？

マリクさんとか遊戯さんとか海馬さんとかがなんで……。

やはり永理、恐ろしい子！

「私のターンでア〜ル！ドロー！」

スタンバイフェイズに『トイ・ソルジャー』の効果発動でア〜ル！デッキから『トイ・ソルジャー』を特殊召喚でア〜ル！

更に特殊召喚した『トイ・ソルジャー』の効果でデッキから『トイ・ソルジャー』を特殊召喚でア〜ル！

『ニトロ・シンクロン』を召喚でア〜ル！レベル3の『トイ・ソルジャー』3体に、レベル1の『アンノウン・シンクロン』をチューニングでア〜ル！

自立型機械大砲の力、とくと見るがいいのでア〜ル！シンクロ召喚でア〜ル！いでよ、『A・O・Jディサイズ・アームズ』！

バトル！『A・O・Jディサイズ・アームズ』で『トウーン・デ―モン』を攻撃でア〜ル！ギガ・バースト！」

おお、スゴイ迫力なノ〜ネ！

でも、ちよつと煩いノ〜ネ……。

「カードを伏せ、ターン終了でア〜ル！」

「俺のターン！ドロー！」

魔法カード『愚かな埋葬』を発動！デッキから『トラップ・リアク

ター・RR』を墓地へ送るぜ！

『ブラック・ボンバー』を召喚！『ブラック・ボンバー』の効果で、墓地の『トラップ・リアクター・RR』を特殊召喚するぜ！

レベル4の『トラップ・リアクター・RR』に、レベル3の『ブラック・ボンバー』をチューニング！

屑鉄の悪魔よ！屑鉄の山より目覚めよ！シンクロ召喚！来い、『スクラップ・デス・デーモン』！

『ツインバレル・ドラゴン』の効果発動！効果対象は『A・O・J デイサイシブ・アームズ』！

コイントスの結果は、成功です。

城之内さんですか？

「バトル！『スクラップ・デス・デーモン』で、ナポレオンに攻撃！デーモン・ストラッシュ！」

「甘いでアール！罨カード『次元幽閉』！『スクラップ・デス・デーモン』を除外でアール！」

ガチ入りました。

ああ、この人とやると楽に勝てると思ってしまっノ〜ネ。ですが、このデュエルで勝ったとしてもマリクさんや、カイザーとかが控えているノ〜ネ……。

だから、このデュエルだけでも輝いてみせるノ〜ネ！

「ちっ、カードを伏せ、ターンエンドだ！」

「私のターン！ドロ〜によ！」

これをこれでこれして、フィールド魔法『歯車街』を発動なノ〜ネ！

「『トイ・ワールド』が破壊された瞬間、デッキから『トイ・ジエネラル』を特殊召喚でアール！」

そんな効果だったノ〜ネ……。知らなかったノ〜ネ……。それにしても、あのキースって人、すんごく帰りがたそうなの〜ネ……。

「『歯車街』の効果発動なの〜ネ！『古代の機械獣』を召喚なの〜ネ！」

「おい、そのモンスターは上級だぞ！なんで召喚できてんだ!？」

「『歯車街』の効果なの〜ネ、古代の機械と名のつくモンスターの生贄を減らす効果なの〜ネ。」

バトル！『古代の機械巨人』で『ツインバレル・ドラゴン』に攻撃！アルティメット・パ〜ウインド！」

やはり、バトルは拳が一番なの〜ネ！まさに男の浪漫！

でも、永理は騙し討ちや不意打ちを好むって言うたノ〜ネ……。教師としては少し、心配なの〜ネ。

「ぐっ、だがこいつの効果を使わせてもらっぜ！手札から『ツインゲーム・ガジェット』を墓地へ捨て、コイントスをする！」

コイントスが表なら戦闘ダメージを0に、裏ならデッキからレベル4以下のモンスターを1体、特殊召喚する！

さあ、運命のコイントス！」

なんなの〜ネ!? そのチート効果は!??

永理……。これも売ったノ〜ネ!?!??

ゴホン!……。コイントスの結果は裏、キースはデッキからツインバレル・ドラゴンを特殊召喚したノ〜ネ。

気のせいかな、若干ツインバレルの顔色が悪い気がするノ〜ネ。

「構わないノ〜ネ！『古代の機械獣』で『ツインバレル・ドラゴン』を攻撃なノ〜ネ！プレシヤス・ファンゲ！」

さすがに2枚目はもう、無い筈なノ〜ネ！この勝負、貰ったノ〜ネ！

「手札から速攻魔法『ツイスター』を発動なノ〜ネ！『歯車街』を破壊なノ〜ネ！」

「わざわざ自分のカードを破壊！？何考えてやる！」

「・・・結構ヤバイデース・・・。」

むひよひよ、このカードは永理から2100円で買ったカードなノ〜ネ！

・・・意外と高かったノ〜ネ・・・。おかげでいつもは買うワインが買えなかつたノ〜ネ・・・。

ま、まあいいノ〜ネ。そんな小さい事は・・・。ナポレオン教頭に馬鹿にされたけど・・・。

「『歯車街』の効果発動なノ〜ネ！デッキから『古代の機械巨竜』を特殊召喚なノ〜ネ！」

『古代の機械巨竜』で直接攻撃！ガジェル・サイクロン！」

んふふ、このデッキの展開力は素晴らしいノ〜ネ！永理から買ったカードを加えてこんなにも素晴らしい展開力になると〜は！

んん？永理がなにかドロップアウト・ボーイに言っているノ〜ネ。

「なあ十代、巨竜が巨乳に聞こえた俺は末期なのかな？」

「ただの思春期だ。」

それはただの思春期なノ〜ネ・・・。

永理の部屋に前に入ってみたことがありますが、まず目に付くの

は柵に並んだガンQ……。怖かったノ〜ネトラウマなノ〜ネ……。その後見たのはたしか、××××だったノ〜ネ……。まあ、仕方ないノ〜ネ。思春期だし……。

「ぐ、うわあああああ！！」

「カードを伏せ、ターンエンドなノ〜ネ！」

さすがに、この状況ではあのペガサス会長でも覆すことはできないノ〜ネ！この勝負、貰ったノ〜ネ！

……。いや、永理から聞いた事があるノ〜ネ……。その昔、ペガサス会長が使用したレベル1の儀式モンスター。その名も……。サクリファイスと……。でも、さすがに無いでしょ。もしあったとしても、1枚しかデッキに入れていないのであ〜れば、そのカードを引く確率はほぼ無いに等しいノ〜ネ。

「これはだいぶと不味いデスね。私のターン！ドロー！」

『トウーン・ゴッド』を召喚デース！『トウーン・ゴッド』の効果で、デッキから『イリュージョンの儀式』を手札に加えマース！儀式魔法『イリュージョンの儀式』を発動デース！手札の『洗顔の邪教神』を生贄に『サクリファイス』を儀式召喚デース！」

出てきたノ〜ネ……。最悪なノ〜ネ……。

やっぱりこの人もチートドローだったノ〜ネ……。だけど、まだ甘いノ〜ネ！

「『サクリファイス』の効果発動デース！『古代の機械巨竜』を装備デース！」

「甘いノ〜ネ！畏カード！『天罰』！『サクリファイス』の効果は無効にし、破壊するノ〜ネ！」

「・・・ターンエンドデース・・・」

ふっふっふ、諦めたノ〜ネ！この勝負、私たちの勝ちなノ〜ネ！アレ？これって失敗フラグ？いやでも、ナポレオン教頭のトイ・ジエネラルで直接攻撃し、次のターンに私の古代の機械巨竜で攻撃して勝ちなノ〜ネ！

「私のターンでア〜ル！ドロー！」

「トイ・ジエネラル」の効果発動でア〜ル！1ターンに一度、デッキからトイと名のつくモンスターを1体、特殊召喚できるのでア〜ル！

デッキから「トイ・スパイ」を特殊召喚でア〜ル！バトル！

「トイ・ジエネラル」で「トゥーン・チェミナイ・エルフ」を攻撃でア〜ル！ジエネラル・スピーン！

「トイ・スパイ」で攻撃でア〜ル！ターンエンドでア〜ル！」

うわあ、これもう積んだノ〜ネ・・・さすがに少し、同情するノ〜ネ。

まあいいノ〜ネ。この大会で優勝して、優勝賞品をゲットなノ〜ネ！

「私のターン！ドローによ！」

魔法カード「トレード・イン」！手札の「古代の機械巨竜」を捨て、2枚ドロー！

「ダーク・フラット・トップ」の効果発動なノ〜ネ！墓地の「古代の機械巨竜」を特殊召喚なノ〜ネ！

バトル！「古代の機械巨竜」で直接攻撃！速攻魔法「リミッター解除」発動なノ〜ネ！

続いて、2枚目の「古代の機械巨竜」で直接攻撃なノ〜ネ！「古代の機械巨人」で直接攻撃なノ〜ネ！」

「ちよ、それやり過ぎデース！NOoooooooooooo・・・。」

勝利したノ〜ネ……。信じられないノ〜ネ。これ夢じゃないよね？

『あつ、終わった？勝者、機械族組。はい拍手〜。』

やる気出すノ〜ネ！少しはやる気を出すノ〜ネ！

はあ、なんかすんごく疲れたノ〜ネ……。

視点：久しぶりだな！永理だよ！

歯茎痛い、口が血の味する……。ちなみに作者は、自分の血を舐めて節分に使うあの豆の味したらしい。

俺？血の味好きだけど？眼とかも好きで集めてるけど？

ふう、まあそれは置いといて……。何故アイツがここに居るんだ？……デイヴァイン！

たしかトカゲちゃんにぱつくんちよされた筈……。一人称がおじさんと、俺とキャラが被るではないか！

……。ホセ爺さんも居るし……。

『ワタル絶対チート使ってるだろ……。あつ、第8試合開始……。れいとうビームでカイリニュー撃破！』

ポケモンやってんじやねえよアバター！

あとデヴァイン共感するな！

ホセは、モンハンやってるし……。なんだこの未来組！？

ジャックが居たらなんだこれは！つて言うよ絶対！

あつ、ピチユツた……。美鈴強いよね。

「『デュエル！』」

あつ、始まつてた。ホセはどんなデュエルしたっけ？  
でもさすがに機皇帝は無いよね！

「私のターン！ドロー！」

『ダッシュ・ウォリアー』を召喚！カードを伏せ、ターンエンド！」

ホセのデッキがなんかヤバいんだけど・・・。

ネタデッキだアレ！完璧にネタデッキだアレ！

でも、ダッシュと名のつくモンスターはあんまり無いような・・・。

「ひよひよひよ、俺のターン！ドロー！」

『DT スパイダー・コクーン』を特殊召喚！『ダーク・スパイダー』を召喚！

『ダーク・スパイダー』の効果発動！『DT スパイダー・コクーン』のレベルを2上げるぜ！

レベル1の『ダーク・スパイダー』にレベル7となった『DT スパイダー・コクーン』をダークチューニング！

闇と闇重なりし時、冥府の扉は開かれる。光無き世界へ！ダークシンクロ！出でよ『地底のアラクネー』！」

おお、早速羽蛾に売ったカードを召喚したか、成長したなあいつ。  
ダイナソー竜崎には、何売ったっけ？

「カードを2枚伏せ、『地底のアラクネー』の効果！トワイナー・スレッド！『ダッシュ・ウォリアー』を装備だ！ターン終了だ！」

こいつにデッキレシピ売ったったが、インセクト女王を抜かなかつたな・・・。

何故だろう？地底でいいじゃん。

「私のターン！ドロー！」

永続魔法『アポルト』を発動！『アポルト』の効果で『強化人類サイコ』を特殊召喚！速攻魔法『緊急テレポルト』を発動！デッキから『クレボンス』を特殊召喚！

レベル4の『強化人類サイコ』にレベル2の『クレボンス』をチュ  
ーニング！

我が深淵に眠りし悪魔よ、殺意の風を纏いこの世界を粉碎せよ！シンクロ召喚！降臨せよ、『サイコ・デビル』！

モンスターを伏せ、カードを2枚場に出そう。ターン終了だ！」

さすがサイキック！ガチデッキ！

えっ？BFだろGj？？セイバーだよ今は。

なんか腹減ってきたな……。今の季節はピザまん美味しいよね！

「わいのターン！ドローや！」

手札の『キラザウルス』を墓地へ捨て、デッキから『ジュラシクワールド』を手札に加えるわ！

フィールド魔法『ジュラシクワールド』を発動！永続魔法『一族の結束』を発動や！『キラザウルス』を召喚！

カードを2枚伏せ、ターン終了や！」

キラザウルスの攻撃力は1800、ジュラシクワールドの効果で300アップして2100、更に一族の結束の効果で攻撃力は2900か……。

中々の出だしだ、褒めてつかわそう。……うん、なんかごめん。

「私のターン！ドロー！」

魔法カード『愚かな埋葬』を発動！デッキから『グラント・コア』

を墓地へ送る！

永続罫『リミット・リバーズ』を発動！墓地の『グランド・コア』を特殊召喚！魔法カード『カオス・ブラスト』を発動！デッキから『バット』を3枚墓地へ送り、『グランド・コア』を破壊する！

「わざわざ、自分のモンスターを破壊やと！？」

「何考えてやがる、プレイミスか！？」

うわあ、TF6の悪夢・・・。

初見ではプレイミスと思うよね。おじさんもそう思ってたよ。

「『ワイズ・コア』の効果発動！」

来るぞ、BF以上の展開力を持つ機皇帝デッキの真の力が・・・！  
ああ、地底が吸収されてしまう未来が見えるよ。

「デッキから機皇帝グランエル『グランエンルT』『グランエルA』

『グランエルG』『グランエルC』を特殊召喚！

合体変化、『機皇帝グランエル』！」

合体キター！竜崎も目を輝かせてるし、だれでも興奮するよね！

・・・はい、幼女見てた方が興奮するロリコン主人公ですはい。

「『機皇帝グランエル』の効果発動！シンクロモンスターを吸収  
！」

「ひよひよひよ、残念だったな、罫カード！『虫神の加護』を発動  
！フィールド上に表側表示で存在する昆虫族モンスターを対象にする  
効果モンスターの効果・魔法・罫カードの発動を無効にし破壊する  
ぜ！」

おお、昆虫族デッキにちょうどいいカード作ってみたから売ったっ

だが、ここで使ってくれるか。うれしいな俺。  
あとホセ、バットは抜いた方が良さぞ。

「ぐっ、カードを伏せ、ターン終了だ！」

「ひよっひよっひよ、俺のターン！ドロー！」

『代打バッター』を召喚！魔法カード『死者の手向け』を発動！手札の『ゴキボール』を墓地へ捨て、『代打バッター』を破壊するぜ！

『代打バッター』の効果発動！手札から『地縛神Uru』を特殊召喚するぜ！そして装備魔法『火器付機甲鎧』を『地縛神Uru』に装備！

永続魔法『一族の結束』を発動するぜ！バトル！『地縛神Uru』でデイヴァインに攻撃！ヘル・スレッド！」

ルドガーより操るの美味いなこいつ。・・・ダークシグナーに最適なんじゃね？

未来世界へなら、いつでも行けるし・・・。

主人公がチートで面白くない？何言ってるんだ、フラグが全く立たないではないか。

・・・ああ、レイちゃんが欲しい。

いやね、姉も好きだけどね。その、血が繋がってるじゃん？つまり、姉弟じゃん？これなんてエロゲ？って話になるのよ。

兄？野郎に興味は無い。

「甘い！畏カード『聖なるバリア ミラーフォース』！」

「甘いで！カウンター畏『盗賊の七つ道具』発動や！」

「それも甘いぞ少年！カウンター畏『神の宣告』！」

「まだまだ！畏カード！『神の警告』！」

上からデイヴァイン、竜崎、ホセ、HA GAだ。

・・・なんか凄いなおい！

「ぐ、があああああああ！」

「ひよひよひよ、次は貴様の番だ爺さんよお！『地底のアラクネー』でホセに攻撃！ヘル・スレッド！ターンエンド！」

次のターンプレイヤーは、竜崎か。ホセ爺さん負けたな、残念だ。しかし、誰が予想したでしょうか？まさか羽蛾と竜崎が勝利すると・・・。

「わいのターン！ドローや！」

『暗黒プテラ』を召喚や！バトル！『暗黒プテラ』でホセに攻撃！暗黒プレス！」

名前安易だなおい！

いや、いいけどさ！

『シゲル如きが生意気なんだよ！・・・えっ？終わった？・・・え、勝者、元準優勝者&元優勝者。はい拍手。』

やる気出せよ！

はあ、まあいいや。さて、少しばかり聞いてみるかな？なんでここに居るか・・・。

・・・まさか、俺もパツクンチョよされたりする伏線なのか？それは嫌だな。

「おい、その勾玉髪の人。少しばかり聞きたい事がある。」

「何かな？何も力になれないと思うけど・・・。つてか勾玉って何さ！？」

「気にするな。さて、お前は何故、ここに居る？たしか地縛神に食われた筈だが。」

「あゝ、それね……。話せば長くなるけど……。」「

デイクアインの話によると、目が覚めたらここに居たと……。アレ？じゃあなんでホセはここに？

「大会の景品目当てじゃ。」「

あ、そうですか……。しょうもないなおい！  
えっ？っーかこれで終わり？オチでないよ！

「じゃあ『落とし穴』で落ちとく？」「

「へ？うわああああああ……。」「

「……。大丈夫なのか？」「

「傷つかないぐらいにまでは抑えたから大丈夫でしょ。」「

地縛神には何かの魅力を感じる。・・・そう、ロマンという魅力を・・・。(後

おじさん出しました。

永理「謎のカリスマだよなあいつ。」

俺は悪役キャラが好きだからな。・・・勿論、幼女も好きだぜ？

永理「そうか、俺もだ。」

さて、オリカ紹介エーイ！

『トイ・ワールド』  
フィールド魔法

トイと名のつくモンスターは、1ターンに一度だけ、戦闘では破壊されない。

このカードが破壊され墓地へ送られた時、デッキからトイと名のつくモンスターを1体、特殊召喚する。

『トイ・ガード』  
通常罫

自分フィールドのトイと名のつくモンスターを対象とするカードを無効にし、破壊する。

『トウーン・ガード』  
通常罫

自分フィールドに存在するトゥーンと名のつくモンスターが対象に  
選択された時に発動できる。このターン、自分フィールドに表側表  
示で存在するトゥーンと名のつくモンスターは、破壊されない。

『トイ・ジエネラル』

レベル7

地属性

攻撃力：2600

守備力：2300

機械族：効果

1ターンに一度、デッキからトイと名のつくモンスターを1体、特  
殊召喚する。

このカードが攻撃する場合、相手は魔法、罨を発動できない。

『ツインゲーム・ガジェット』

レベル1

地属性

攻撃力：0

守備力：0

機械族：効果

自分フィールドに存在するモンスターが戦闘で破壊された時、この  
カードを墓地へ送り効果を発動できる。コイントスを1回行い以下  
の以下の効果を得る。

表：その戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは0になる。

裏：デッキからレベル4以下のモンスターを1体、特殊召喚する。

『トゥーン・ゴッド』

レベル4

光属性

攻撃力：1400

守備力：1000

天使族：トウーン

このカードは召喚・反転召喚・特殊召喚したターンには攻撃する事ができない。

自分フィールド上に「トウーン・ワールド」が存在し、

相手フィールド上にトウーンモンスターが存在しない場合

このカードは相手プレイヤーに直接攻撃する事ができる。

フィールド上の「トウーン・ワールド」が破壊された時、このカードを破壊する。

このカードが召喚・反転召喚に成功した時自分のデッキから儀式モンスターまたは

儀式魔法カード1枚を手札に加える事ができる。

『トイ・スパイ』

レベル3

地属性

攻撃力：1300

守備力：2000

機械族：効果

トイと名のつくモンスターが攻撃する場合相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない。

このカードが破壊され墓地へ送られた時、手札を2枚捨て、デッキからトイと名のつくモンスターを合計レベルが7になるように特殊召喚できる。

『虫神の加護』

カウンター罠

フィールド上に表側表示で存在する昆虫族モンスターを対象にする効果モンスターの効果・魔法・魔法・罠カードの発動を無効にし破壊する。

久しぶりに、ガチで忘れていた奴でも・・・。

プロフィールが見たい、部屋の構造が見たい、何処が違うかわからないって人は感想欄にそう書いといて、5人以上で書くと思うからあとオリキャラも募集中だ。感想欄に見たい目、性格、使用デッキ、性別などを書いてください。

ついでに使用デッキも。さて、忘れてたアレ。

プロフィールが見たい、部屋の構造が見たい、何処が違うかわからないって人は感想欄にそう書いといて、5人以上で書くと思うからあとオリキャラも募集中だ。感想欄に見たい目、性格、使用デッキ、性別などを書いてください。

ついでに使用デッキも。もし書いてなかった場合、作者が勝手に決めます。他にも、ちよっと扱いにくいかな？って時は性格とか、デッキとかを変更するかもですはい。

足、大丈夫？

永理「大丈夫じゃない。」

女の子は可愛ければ何してもOK！ただし二次元に限る！・・・最低？最高では

視点：レイ

あの人、永理さんの知りあいな？見た事ないデツキだったけど・・・。

あつ、もう私の出番だね、頑張ろう！

「レイちゃん、僕、あの人たちに勝てる自信が無いよ。どうしよう・・・。」

「吹雪さんだけなら100%無理でしょうねそりゃ。」

「酷いな・・・、お兄ちゃん泣いちゃうぞー！」

「ご自由に。」

あつ、本当に泣いた、明日香さんが吹雪さんを蔑むような眼で吹雪さんを見ている。

・・・永理さんの作ったクレープ、美味しかったなあ、アレプロの腕だったね。

チヨコとバナナの絶妙なハーモニーが僕の口の中で弾けて・・・、最高だったよ。

「レイちゃん、食うか？さっき貰ったやつなんだが・・・。」

「うん！いったただつきまーす！」

（ああ、幼女がバナナを、俺のバナナを・・・。フオオオオオオオオオオオオ！）

ちなみに余談だけど、バナナは生姜と同じ仲間らしいよ。  
あと私、もう幼女じゃ無いよ。

『いや、もろ幼女ですww』  
『マツスルスパーク！』  
『ギャアー！！』

ふう、障害は取り除いたZE  
アレ？キン肉マンのなになが面白かったっけ？

『では、えーっと・・・試合開始？もうそんな時間？あつ、もうなのねはいはい・・・。第？試合ね。レイちゃんと野郎、あと顔芸チームはデュエル場が上がって。』

て・・・適当だあ・・・。  
アバターもう適当だあ・・・、もう少ししっかりやって欲しいなあ・・・。

『にゃんにゃんを？』  
『かめはめ波！！』  
『ぐぼあッ！！』

なんか出せたZE  
『出せたって・・・え「ぐぼあッ！」』

少し、頭冷やそうか？  
まあいいや、デュエルの時間だ。

「行くよ吹雪さん。」  
「うう、明日香・・・僕を慰めてくれよ・・・。」  
「・・・さっさと立ってよ！」

『立つってどっち!?!』

「もう黙っててシャルロツテ!」

いやマジで黙ってて、この小説R 18になってしまっから! あとシャルロツテのテンションがなんが凄いんだけどなんで? 久々の出番だから?

「なあ、もう始めてもいいか?」

「あつ、はいすいません。・・・ほらしっかり立って吹雪さん!」

「うう、僕の心のライフはもうゼロだよ・・・。」

「だったら『インフェルニティ・ゼロ』でなんとかなるから!」

「この外道幼女!」

ああ、この人色々と面倒な性格だよ・・・。

時械神サンダイオンで攻撃してやろうかッ!!・・・実体化させる事できないけどね

うん? 永理さんが、デュエル場になぜか存在するステージに上った? なんで?

「では行きますよ少年少女諸君!」

「」「」「デュエル!」「」「」

あれ? 永理さんがマイクを持って、何をするつもりなの?

「では聞いてください、ルカルカ ナイトフィーバー!」

ボーカロイド!? なんでその曲なの!?

つてか歌上手いな普通に! なんでその声だせるの!? 凄く女っぽいんだけど!!

「では行きますよ、私のターン！ドロー！

『アルカナフォースII|THE EMPRESS』を召喚！更に魔法カード『魔王の贄』を発動！

『アルカナフォースII|THE EMPRESS』を生贄に、『青眼の白龍』を特殊召喚！カードを2枚伏せ、ターン終了！」

普通に青眼出してきたよやっぱり！なんで普通に出せるの！？  
こっちの業界ではこれが普通なの！？

「僕のターン！ドロー！

『時械神ラツイオン』を召喚！カードを2枚伏せ、ターン終了！」

まずは様子見、この手札で一番、相手ライフにダメージを与えるカードだしね。

伏せたカードはリミット・リバースと針虫の巣窟、次の私のターンに一気に決める！

「俺のターン！ドロー！

魔法カード『天使の施し』を発動！デッキからカードを3枚ドローし、2枚捨てるぜ！

魔法カード『死者蘇生』！墓地の『青眼の白龍』を特殊召喚！更に装備魔法、『デーモンの斧』を『青眼の白龍』に装備！

『悪シノビ』を召喚し、カードを3枚セット、ターンエンド！」

攻撃力4000！？私のサンダイオンと同じ攻撃力だって！？  
凄いなあ、さすがマリクさん。

「僕のターン！ドロー！

『真紅眼の飛龍』を守備表示で召喚！魔法カード『生け贄人形』を発動するよ！

『真紅眼の飛龍』を生贄に『真紅眼の黒竜』を特殊召喚！『真紅眼の黒竜』を生贄に『真紅眼の黒竜』を生贄に『真紅眼の闇竜』を特殊召喚！」

攻撃力・・・ 3000!？やっぱ凄いなあ、吹雪さん。

『1ターンでレベル10のモンスターを普通に召喚しているあなたの方が凄いわ。』

そうかな？以外と事故らないけれど・・・。

いやマジだつて！嘘だと思つたらTF6やってみてよ！

『魔法カード『苦渋の選択』を発動！僕が選択するのは、この5枚だ！』

えーっと・・・サファイア・ドラゴンが3枚に、ハウンド・ドラゴンが2枚か・・・。

アレ？それつつまり、攻撃力が1200ポイントアップするから・・・攻撃力が4200!？

『俺は『ハウンド・ドラゴン』を選択するぜ！』

『そう、なら残りは墓地へ捨てるよ！カードを2枚伏せ、ターン終了！』

ああ、なんでだろう、僕のデッキも十分ヤバいけどみんなもヤバいよ・・・。

・・・今度BFロードでも作ろうかな？鬼畜？普通だよ

『私のターン！ドロー！』

『アルカナフォースI|THE MAGICIAN』を召喚します！『アルカナフォースI|THE MAGICIAN』の効果発動！

当然！正位置！」

当然！？イカサマ！？

・・・僕がコイントスをやったら当然、逆位置！だけどね・・・は  
は・・・。

あれ？目から恵みの雨が・・・よく見えないなあ・・・。

「魔法カード『古のルール』を発動！手札の『青眼の白龍』を特殊  
召喚！」

フィールド魔法『シャインスパーク』を発動！

行け、『デーモンの斧』を装備した『青眼の白龍』で『真紅眼の闇  
竜』を攻撃！悪魔のエクストスクリーム！」

「甘いよ、罨カード『ドラゴン・サイクロン』を発動！相手場の魔  
法、罨を全て破壊するよ！」

「甘いZE 罨カード『呪い写し』」

「まだまだ、罨カード『トラップ・ジャマー』！」

よし、青眼撃破！・・・でも、また蘇りそうなんだよね・・・。  
相手マリクさんだし・・・斎王さんはあまり蘇生させないタイプの  
デッキだと思うけど。

「ターンエンド！」

伏せカードで除去されたら嫌だなあ・・・。

「僕のターン！ドロー！」

スタンバイフェイズ時、『時械神ライオン』の効果発動！このカ  
ードはデッキに戻る！

僕は『時械神カミオン』を召喚！装備魔法『時械補助』を発動！行  
け、『時械神カミオン』で『青眼の白龍』を攻撃！

そして、『時械神カミオン』の効果！このカードが攻撃した時、相手フィールド上のモンスターを全てデッキに戻し1体につき500ポイントダメージを与える！

相手モンスターの数は、5！よって2500のダメージを受けてもらうよ！」

よし、除去されていない！これで僕の勝ちだ！

あと永理さんの声が掠れてきたんだけど、大丈夫かなあ？

「ぐおおおおおー！」

「ぐぐぐぐ・・・、ヤバいんじゃないですか？これどうしましょう・・・。」

「僕はこれでターンエンド！」

次のターンに吹雪さんが決めてくれなくても、僕の手札には時械神サンダイオンがある！次の僕のターンに時械神ライオンをデッキに戻し相手の壁モンスターを破壊すれば、相手に4000のバーンダメージを与えられる！

だけど、もしモンスターを召喚されなかったら僕の手札は事故同然、つまり、相手はまた青眼を召喚してくる可能性は十分に高い！

・・・アレ？針虫の巣窟でデッキからカードを5枚墓地へ送れば、攻撃力1000以下のモンスターが1体は落ちる筈、つまりこのターンで仕留めれた！？・・・完全に僕のミスだ！

「俺のターン！ドロー！」

手札から速攻魔法『禁じられた聖杯』を発動！『時械神ライオン』の効果は無効！」

不味い！このままなら、僕は直接攻撃をうけて大ダメージを喰らってしまう！

でも、手札にはクリボーがあるから、ダメージを0にできる！

「『神獣王バルバロス』を召喚！更に魔法カード発動！『二重召喚』  
！『神獣王バルバロス』を生贄に『偉大魔獣ガーゼット』を召喚！」

こ、攻撃力6000!?まさか意味不明!

あはは、もう笑うしかないよねこれ……。

「行け、『偉大魔獣ガーゼット』で『時機械ライオン』を攻撃！  
カメラシユート！」

「手札から『クリボー』を捨て、戦闘ダメージを0に！」

「ちっ、ターンエンド！」

ふう、なんとか首の皮一枚繋がったよ。本当に心臓に悪いよこの大会。プロデュエリストが見たら絶対に自信無くすよこれ。

凄いやつ、ゲームだよこれ！子供が見たらトラウマになるよこれ！  
僕？もう慣れたよ……。

「僕のターン！ドロー！」

墓地の『ハウンド・ドラゴン』を除外し『ミスト・ドラゴン』を特殊召喚！『ミスト・ドラゴン』の効果で、デッキから『伝説の白石』を墓地へ送るよ！

墓地の『伝説の白石』の効果で、デッキから『青眼の白龍』を手札に加えるよ！『ミスト・ドラゴン』を除外し『レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン』を特殊召喚するよ！

『レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン』の効果で、手札の『青眼の白龍』を特殊召喚！魔法カード『滅びの爆裂疾風弾』を発動！場のモンスターを全て破壊する！

『未来融合 フューチャー・フュージョン』を発動！デッキから『伝説の白石』を2枚『ミンゲイドラゴン』を3枚墓地へ送るよ！墓

地へ送られた『伝説の白石』の効果で、デッキから『青眼の白龍』を2枚、手札に加えるよ！

『融合』を発動するよ！場の『青眼の白龍』と、手札の『青眼の白龍』2枚を融合！『青眼の究極竜』を融合召喚！

バトル！『青眼の究極竜』で、マリクさんに直接攻撃！アルティメット・バースト！」

オーバーキル・・・もうこの大会怖いよ。

何で？僕の常識が通用しないのは何でなの！？

「ぐ、うわあああ！！！」

「続けて『レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン』で、斎王くんを攻撃！ダークネス・バースト！」

「ちよ、まっ私ゲストなのにiiiiiiiiiiii！！！」

おお、さすがドラゴン族、展開力が恐ろしやあ・・・。  
相手にはしたくないね、サンダイオンで終わるけどね

『顔ゲーイ！あつ終わった？勝者、レイちゃん！彼女に盛大な拍手を！吹雪はどうでもいいや。』

「アバター、表出る。」

『えっ、ちよまっ、A I B

！！！！』

アバターさんご愁傷様です。

『まだ死なないよあの邪神、ワタル弱くなったなあ・・・。』

元からでしょそれ、ライバルが一番強いし。

視点：全国約100人のファンのみんな、俺が帰って来たよ、響谷

だよ。

ファンか、欲しいな少しは……。

昔はプロになったらモテると思って、プロになったのに全くモテないのはなんでだろうね？

勿論、美女限定だけどね

「え、アバターが寝てしまったのでえ、ここからはこの俺、イレイザーさんがMCをする事になったぜ！久々の出番だぜ！  
では第10試合目、開始いたします！」

よし、次こそは目立とう私、頑張ろう私！

だが、私が優勝するためには、瑠璃という（胸的な意味でも）壁を越えなければならぬ。

「誰がツルペタだって？」

「すいまッせーん！本当にすいまッせーん！」

後ろに鬼神が見えたのは気のせいではないよな。マジで怖かったぞ今の。

「さっさとやるぞ使えないドラゴン使い。」

「誰が使えないドラゴン使いだ！」

「事実だろ、吹雪の方が実力も人気も顔も勝っているではないか。」

「ちっ、まあいい、さあ……。」

「……デュエル！」

また、永理が何故あるかわからないステージへ上がっていったが、怖くないのか？

つてかまた歌うのか？喉痛くなるぞ？

「では聞いてください、俺ら東京さ行くだ。」

「私のターン！ドロー！（懐かしい・・・。）

『ドラグニティダーク・トブリル』を召喚！『ドラグニティダーク・トブリル』のモンスター効果により、手札のドラグニティダークと名のつくモンスターを特殊召喚できる！

『ドラグニティダーク・フラス』を特殊召喚！

『ドラグニティダーク・フラス』の効果で、デッキからドラグニティダークと名のつくモンスターを特殊召喚できる。

『ドラグニティダーク・カタストロフ』を特殊召喚！更に『ドラグニティダーク・カタストロフ』の効果により、デッキからDTと名のつくモンスターを特殊召喚できる！

『DT ダークネス・ドラゴン』を特殊召喚！レベル3の『ドラグニティダーク・フラス』に、レベル8の『DT ダークネス・ドラゴン』をダークチューニング！

破壊の風よ！我が龍に闇の力を！ダークシンクロ！飛翔せよ！『ドラグニティダーク・ブルラスト』！カードを2枚伏せ、ターンエンド！」

初手手札にこんなにも揃うとは、しかも展開力がBF以上あるんじゃないか？

まあ、ここまで展開できたのは運だよね、あはははは・・・はあ・・・。

「私のターン！ドロー！」

『極星天ヴァルキュリア』を召喚！効果発動！このカードは、相手にモンスターが存在し自分場にこのカード以外のカードが存在しない場合、手札の極星と名のつくモンスターを2枚、除外して効果を発動できる！

私は手札の『極星天ミール』と『極星邪龍ヨルムンガンド』を除外し、私の場に『エイリンヘアル・トークン』を2体、特殊召喚する！

レベル4の『エイリンヘアル・トークン』2体に、レベル2の『極星天ヴァルキュリア』をチューニング！

北辰の空にありて、全知全能を司る王よ！今こそ、星界の神々を束ね、その威光を示せ！！シンクロ召喚！天地神明を統べよ、最高神『極神聖帝オーデイン』！！」

うわあ、ワンターンで出しおったよこの娘、十分プロでも食っていきけるよ！

私？プロですよ、アマチュアに実力で負けてるけどプロですよ。

「カードを2枚伏せ、ターンエンドよ！」

亮、頼むから大嵐とかやめてよ？

「俺のターン！ドロー！」

魔法カード『テラ・フォーミング』を発動！デッキから『戦場の跡地』を手札に加え、そのまま発動！

『戦場の跡地』の効果で、デッキから『旧サイバー・ドラゴン』を特殊召喚！『旧サイバー・ドラゴン』を生贄に『最終鬼畜兵器サイバー・エンド・ドラゴン』を召喚！

俺は『最終鬼畜兵器サイバー・エンド・ドラゴン』を召喚！効果により『極神聖帝オーデイン』と、デッキから『旧世代の機械巨竜』を装備！カードを2枚場に出し、ターンエンド！」

おいおい、何そのぶつ壊れカード……。デュエルアカデミア、恐ろしい場所！

次は、宿敵瑠璃のターンか……。

「私のターン！ドロー！」

『RF 漆黒を狩りし者』を召喚！更に『RF 闇の狩人』を特殊召喚！そして『RF 銀風のミスト』を特殊召喚！

『DT 闇からの使者』を特殊召喚！レベル2の『RF 闇の狩人』に、レベル12の『DT 闇からの使者』をダークチューニング！光が闇に閉ざされし時、冥府に封じられし邪神よ！我が勝利の為に働け！ダークシンクロ！コレが私の神だ！『邪王モノフルス』！  
「！」

い、いきなりかよ、マジでシャレにならないぞ！

「モノフルススの効果で、デッキから『RF 地獄からの帰還者』を手札に加え、デッキから『キラートマト』を守備表示で特殊召喚！カードを2枚伏せ、ターンエンド！」

チートとチートが手を組んだら無双状態になってしまうぞ！

このままでは、オリカTRUEEEEE！！な状況に・・・俺もオリカデッキだったorz

「私のターン！ドロー！」

畏発動！『闇からの援軍』！このカードは、デッキからドラグニティダークと名のつくモンスターを1体、攻撃表示で特殊召喚できる！私はデッキから『ドラグニティダーク・カタストロフ』を特殊召喚！そして『ドラグニティダーク・カタストロフ』のモンスター効果により、デッキから『DT ドラグニティダーク・スプロトル』を特殊召喚！

レベル3の『ドラグニティダーク・カタストロフ』に、レベル7の『DT ドラグニティダーク・スプロトル』をダークチューニング！集いし闇が、新たな進化の糧となる！ダークシンクロ！『ドラグニ

「ティダーク・ススパルト」をダークシンクロ召喚！」

これこそ、絶対的な力！真の闇！まさにDEATH GAME！

「『ドラグニティダーク・ススパルト』の効果発動！デッキから『闇エネルギー』『ジャンク・アタック』『ビツクバン・シユート』を墓地へ送り、『純悪な闇』を『ドラグニティダーク・ススパルト』に装備！

バトル！『ドラグニティダーク・ススパルト』で明日香に直接攻撃！」

瑠璃のあのモンスター・・・攻撃力高すぎワロタWWW・・・ワロタ・・・。

「畏カードオープン！『次元幽閉』！」

「ひよ？」

ひ、卑怯な！除外は卑怯だぞ！

カイザー？あれは卑怯じゃない、チートだ！

「くっ、モンスターを伏せ、ターンエンド！」

「私のターン！ドロー！」

モンスターをセットし、ターンエンド！」

亮、少しは自重しろよ？

いやマジで。

「俺のターン！ドロー！」

魔法発動！『大嵐』！」

ああ、伏せていた聖バリがあ……。  
亮エ……。

「破壊された『旧世代の機械巨竜』の効果発動！このカードが戦闘以外で破壊された時、デッキから旧と名のつくモンスターを1体、特殊召喚する！」

俺はデッキから『旧サイバー・オーガ』を特殊召喚！更に『融合』を発動！場の『旧サイバー・オーガ』と、手札の『旧サイバー・オーガ』を融合！

『旧サイバー・オーガ2』を融合召喚！更に『最終鬼畜兵器サイバー・エンド・ドラゴン』の効果により、デッキから『旧サイバー・オーガ』と『邪王モノフルスス』を装備！」

「残念っさね、畏カード！『闇分離』を発動っさ！自分フィールドのダークシンクロモンスターを墓地へ送り、エクストラデッキから別のダークシンクロモンスターを特殊召喚！」

よって、デッキから『暴漢ピサロ』を特殊召喚！」

亮、これはヤバいんじゃないか？どう乗り越える？

「残念だったな、このカードの効果は1ターンに一度では無いのだよ！デッキから『旧サイバー・ドラゴン』と『暴漢ピサロ』を『最終鬼畜兵器サイバー・エンド・ドラゴン』に装備！」

「これは、チヨツチヤバいかな？」

え？何そのチート効果……。

ああ、プロの世界がお遊びに見えるぜ……。

「バトル！『最終鬼畜兵器サイバー・エンド・ドラゴン』で明日香に直接攻撃！」

「な、なんで私！？出番が来たらすぐ消える、狂気の天上院明日香

あああああ……。」

なんか、すいません本当に。

凄く罪悪感があるんだけど……、何故だろう？

「カードを2枚伏せ、ターンエンド！」

瑠璃、こいつを敵に回した事を後悔するんだな！アーツハツハツハツハ！

「ありやりや、私のターン！ドロー！  
モンスターを伏せ、ターンエンド！」

あの伏せモンスターは、おそらくライトロードハンター・ライコウ  
か人食い虫だろう。

だが、この程度の壁、私には通用しない！

「私のターン！ドロー！」

『ドラグニティダーク・トブリル』を召喚！『ドラグニティダーク・  
トブリル』のモンスター効果により、『ドラグニティダーク・フラ  
ス』を特殊召喚！

『ドラグニティダーク・フラス』の効果により、デッキから『ドラ  
グニティダーク・カタストロフ』を特殊召喚！『ドラグニティダー  
ク・カタストロフ』の効果で、デッキから『DT カオスローグ』  
を特殊召喚！

更に、魔法カード『ダーク・ウェーブ』を発動！レベル-3となっ  
た『ドラグニティダーク・カタストロフ』に、レベル8の『DT  
カオスローグ』をダークチューニング！

闇に憑かれし龍の血族よ、今こそ光の世界へと舞い降り、この世界  
に混沌を！ダークシンクろ『ドラグニティダーク・クルスロード』

「！」

うん、我ながらよくこんなを使う気になったなっと思うぞ。

「『ドラグニティダーク・クルスロード』の効果！デッキから装備魔法を2枚、手札に加える！私は、デッキから『デーモンの斧』と『デーモンの斧』を手札に加え、そのまま『ドラグニティダーク・クルスロード』に装備！

バトル！伏せモンスターに攻撃！キング・フレイム！」

撃破したモンスターは、ネクロ・ガードナーか。確かにいいモンスターだ。だが、このカードにとっては伏せモンスターなど無意味！

「クルスロードの効果！守備モンスターを攻撃した時、そのモンスターを破壊する！」

「ちょwww自重www。」

「無理です。」

ヤバい、ダークシンク口癖になる。

「ターンエンド！」

次は亮、マジで自重してくださいお願いします。

だって、原作よりオーバーキル大好きになっただけもんなこの人。

「俺のターン！ドロー！」

魔法発動！『ハリケーン』！更に魔法カード『融合』発動！手札の

『旧サイバー・ドラゴン』2枚を融合！

『プロトサイバー・ツイン・ドラゴン』を融合召喚！バトル！『プ

ロトサイバー・ドラゴン』で、瑠璃さんに直接攻撃！プロトツイン・

バースト！

「ただだ、『最終鬼畜兵器サイバー・エンド・ドラゴン』で直接攻撃！」

「若人よ、見事だ・・・ぐふっ！」

何あのやられ方？何処の悪へ堕ちた父親？

『勝者、旧サイバーチーム！彼らに拍手を！』

懐かしいな、この興奮。

しかし、このドラグニティダークデッキ・・・恐ろしいデッキだな。気を抜くと闇に飲まれそうだ。

「あうっ、負けちゃったよお。」

「（ああ、泣き顔も可愛い）瑠璃姉は頑張ったんだ、今日はハンバーグを作ってやるう。」

「わーい、永理大好き。」

凄じ嬉しそうだ、このロリコンめ！

「つ、次こそは私も・・・。」

・・・次の出番はセブンスター終了後だと思っぞ・・・。

女の子は可愛ければ何してもOK！ただし二次元に限る！・・・最低？最高では

もうジャンク堂には行かない、凄く疲れた。

永理「ぶつちやけどうでもいいぞそれ。」

なん・・・だと・・・？

ま、まあいいや。それではオリカ紹介 地縛神デッキ作ろうと思ったら、ダブルコストンが欲しくなってきた。

『RF 地獄からの帰還者』

レベル4

光属性

攻撃力：1800

守備力：2000

鳥獣族：効果

このカードが表側守備表示で存在する場合、このカードを破壊し、このモンスターの元々の攻撃力ダメージを受ける。

自分のエンドフェイズ時このカードが墓地に存在する場合、デッキからカードを2枚墓地へ送り、このカードを特殊召喚する。

『旧世代の機械巨竜』

レベル8

地属性

攻撃力：3000

守備力：3000

機械族：効果

このカードが戦闘以外で破壊され、墓地へ送られた時に発動。自分のデッキから、旧と名のつくモンスターを特殊召喚する。

『旧サイバー・オーガ2』  
レベル8

地属性

攻撃力：2600

守備力：2550

機械族：融合

旧サイバー・オーガ+旧サイバー・オーガ

このカードが攻撃した場合、相手モンスターの攻撃力を500下げる。

『闇分離』

通常罫

自分フィールドに存在するダークシンクロモンスターを1体選択して発動する。

そのモンスターをエクストラデッキに戻し、デッキから、他のダークシンクロモンスターを1体、特殊召喚する。

『ドラグニティダーク・クルスロード』  
レベル11

闇属性

攻撃力：3700

守備力：2350

鳥獣族：効果

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在する

ダークチューナー  
「DT」と名のついたチューナーのレベルを

それ以外の自分フィールド上に存在するモンスター1体のレベルから引き

その数字がこのカードのレベルと等しくならなければならない。  
1ターンの一度、デッキから装備魔法を2枚、手札に加える。  
このカードが相手フィールドに存在する守備表示モンスターと戦闘  
を行う場合、ダメージ計算を行わず、そのモンスターを破壊する。

ああ、もう当分自転車には乗りたくない。

永理「運動しろ！」

何故ロリコンの主人公が少ないのかが気になる俺は末期なのか？そして、こんな

視点：金田一 準

「俺の名は万丈目だ！」

『いきなり叫んでどうしたんですかあ〜？』

「いや、なんでもない……。」

なんか電波が飛んで来た様な、気のせいかな？

……なあ、十代の性格が変わってるような気がするんだが……  
気のせいかな？

いやな、前デュエルした時は無垢な少年の眼だったのにさあ、今じゃ死んだ魚の様な眼なんだけど！？

「くくく、このデュエル、もはや俺達の勝利は確定したなあ？」

「ヒャーツハツハツハア！！少しは楽しませてくれよ？」

ああ、逃げたい帰りたい布団に入りたい引き籠りたい校長室でゲームやりたいデュエルする前からサレンダーしたいマジ助けて。

なんか栄ちゃんがる気出してるけど無理無理無理無理！！あいつ等とデュエルしたら地縛神の生贄にされたり、融合モンスター三枚にシンクロ2枚とか普通にありえそうだからね！これ絶対負けるって！イビルジョーを装備無し武器旧ユクモで倒せって言ってる様なもんだから！

せめて、チートカード下さいお願いしますそこまでしなくちゃ勝てる気がしません。

永理助けて！

「行くぜ諸君、ブルアアアアアアアアアア！」

「ブルアアアアアアアア！」

何やってんのオオオオオオオオ！何あれ、なんかの宗教団体？てか何故若本？

つつかみんな白目向いてる怖い怖い怖い怖い！何これお化け屋敷？オカルト嫌いなんだけど！？幽霊とかむちゃ怖いんだけど！？栄ちゃん？可愛いから K！！

『では、第11試合開始の時間だぜ！さあ、万丈目&栄ちゃんチームに、十代&神楽坂はデュエル場へ！！』

イレイザーのテンションが怖い怖い。

あ、永理がまた歌うのかな？・・・歌わなかったorz結構好きだぞあの歌声。

「さあ、デュエルの時間だ。」

「ヒヤーツハツハツハツハア！！満足させてくれよ？」

『が、頑張りますう〜！』

「くくく、楽しめそうだ。」

「『デュエル！！』」「ヒヤーツハツハツハツハア！！」

笑ってるのは十代と神楽坂な。

「俺のターン！ドロー！」

まずは様子見。

「『地獄戦士』を召喚、攻撃表示！  
カードを2枚伏せ、ターンエンド！」

俺の伏せたカードは、落とし穴と万能地雷グレイモヤ。たとえ伏せカードが破壊されたとしても、地獄兵士の効果でダメージを与えられる！

それに、このカードはただの生贄だ。次のターンに、俺の手札の中で最強のカードを召喚してやる！

「ヒャーハツハツハツハア！俺のターン！ドロー！」

『インフェルニティ・ガーディアン』を守備表示で召喚！カードを2枚伏せ、ターンエンド！」

インフェルニティ・ガーディアンの効果は、手札がゼロの場合、破壊されないという恐ろしい効果。

恐らく、神楽坂の伏せたカードは全弾発射などの手札をゼロにするカードだろう。いや、もしかするとインフェルニティ・ガーディアンを守るようなカードである悲劇の引き金か、闇の幻影かもしれない。いや、もしかするとブラフかもしれないし、そもそもインフェルニティ・ガーディアンは困ったり・・・いや、考え過ぎか。デュエルは楽しくやらなくては。

『私のターンですう〜！ドロー！』

魔法カード『愚かな埋葬』を発動ですう〜！デッキから『ゾンビキヤリア』を墓地へ送りますう〜！『ゾンビマスター』を召喚ですう〜！カードを3枚伏せ、手札の『ネクロ・ガードナー』を墓地へ捨て、墓地の『ゾンビキヤリア』を特殊召喚しますう〜！レベル4の『ゾンビマスター』に、レベル2の『ゾンビキヤリア』をチューニング！

獄の名を持つ龍よ、我が勝利のために甦るがいい！シンクロ召喚！これが、死の文字を与えし龍！『デスクイザク・ドラゴン』ですう！

カードを2枚伏せ、ターンエンドですう！』

ああ、栄ちゃんのデッキが永理並にガチ構築になってきた、恐ろしい子！

あつ元からなんですか？・・・マジですか？

「ヒャーハハハハ！俺のターン！ドロー！

『E・HEROカードルーラー』を守備表示で召喚！カードを2枚伏せ、ターンエンド！」

カードルーラー・・・たしか、墓地へ送られた時に墓地のカードを1枚、手札に加える効果だったな。除外系カード少ないんだよな・・・。

ああ、早く手札に来い！

「俺のターン！ドロー！

『地獄戦士』を生贄に『地獄詩人ヘルポエマー』を召喚！カードを2枚伏せ、ターンエンド！」

伏せカードが俺の場に2枚あるが、あえて2枚伏せる。大嵐とかは止めてよね！

ちなみに、新たに伏せたカードがカードブロックと強欲な瓶。ヘルポリマー？除去されません。

「どうしたどうした、俺のターン！ドロー！

ヒャーッハッハッハッハア！！『インフェルニティ・ビートル』を召喚！更に魔法カード『拒絶の魔術書』を発動！

手札のモンスターをすべて、墓地へ送る効果だ！更に魔法カード『罪なき住人の魂』を発動！手札のカードを1枚捨て、デッキからカードを3枚墓地へ送る。

これで俺様の手札は1、カードを伏せるぜ！そして『インフェルニティ・ビートル』の効果！このカードを生贄に、デッキから『インフェルニティ・ビートル』を2体特殊召喚！

レベル4の『インフェルニティ・ガーディアン』に、レベル2の『インフェルニティ・ビートル』をチューニング！

呪われし鎖に封印された龍よ、今こそ我が場へ舞い降り、奴の未来を破滅させよ！シンクロ召喚！『C・ドラゴン』！！」

無駄にカッコいいシンクロ口上だなおい！アニメでの活躍がまるで嘘のようだ！

効果も微妙だし・・・次元で使われたら終わりだけどね！

「まだまだ行くぜ、レベル6の『C・ドラゴン』に、レベル2の『インフェルニティ・ビートル』をチューニング！

シンクロ召喚！いでよ、『インフェルニティ・デス・ドラゴン』！

はつきり言おう、気持ち悪い！

だって脳みそ丸出しなんだぜ？まだモリンフェンの方がカッコいいわ！

「『インフェルニティ・デス・ドラゴン』で『地獄詩人ヘルポエマ』を攻撃！デス・ファイア・ブラスト！」

「残念だったな、畏カード発動！『万能地雷グレイモヤ』！このカードの効果で『インフェルニティ・デス・ドラゴン』を破壊だ！」

「甘いんだよ、テメエはなあ！『E・HEROカードルーラー』の効果だ！このカードを生贄にし、畏の発動を無効にする！」

正直、ドロー効果しか知らなかった。なるほど、道理で永理のおススメカードなわけか。

「ダメージステップ時に『ガード・ブロック』発動！戦闘ダメージを0にし、デッキからカードを1枚ドロー！」

引いたカードはおジャマジックか、手札には天使の施しがあるが、融合が来ないのがなあ。

てかこのデッキ事故率高すぎだろよく考えたら。？W？YZとおジヤマと地獄デッキの混合ってどうなのさ！

しかもVWXYZにいたってはVW タイガー・カタパルトしか出せないよ！

「ひやはははは、ターンエンド！」

神楽坂が怖いです、助けてください。

「私のターンですう〜！ドロ〜！」

バトルですう〜！『デスクイザー・ドラゴン』で、十代さんに直接攻撃！デスクアンドット・ヘルブレス！」

「ぐ、どうした、もつと来いよ。この程度で終わりか？」

「もちろん、これで終わりでは無いですう〜！私は永続魔法『エクトプラズマー』を発動ですう〜！『ゴブリンゾンビ』を召喚して、エンドフェイズ時に『デスクイザー・ドラゴン』を生贄に、十代さんに1200のダメージですう〜！」

私はこれで、ターンエンドですう〜！」

栄ちゃん、恐ろしい子！

ぬ、なんだ？永理が猫を連れてきててもふもふしてる。・・・和むなあなんか。全く関係無かいけど。

「俺のターンか、ドロー！」

『地獄兵士』を召喚！更に魔法カード『地砕き』を発動！『インフェルニティ・デス・ドラゴン』を破壊！」

「ヒヤッハッハッハッハア、甘えよ teme はなあ！カウンター罠『インフェルニティ・バリア』発動！」

このカードは、自分フィールド上にインフェルニティと名のついたモンスターが表側攻撃表示で存在し、自分の手札が0枚の場合に発動する事ができるカード、相手が発動した効果モンスターの効果・魔法・罠カードの発動を無効にし破壊するぜ！」

ガチカードキター！もうこれ積んだ俺。

栄ちゃん、後は任せませ？

「『地獄戦士』を生贄にし、600のダメージを神楽坂に与える、ターンエンド！」

なんか、神楽坂なら逆転しそうな気がする。

長年の勘って奴か？

「イツツ・ショータイム！ドロー！」

「……く、くくくくくく、ひやはははははははははは！俺様の勝ちだな！永続魔法『インフェルニティ・ガン』発動！」

そして『インフェルニティ・ガン』を墓地へ送り、墓地の『インフェルニティ・デーモン』と『インフェルニティ・ネクロマンサー』を特殊召喚！」

そして『インフェルニティ・デーモン』の効果で、デッキから『インフェルニティ・ガン』を手札に加えるぜ！そして永続魔法『インフェルニティ・ガン』を発動！」

これヤバクネ？

まさかのトリシュー3連打来るか！？

「『インフェルニティ・ネクロマンサー』の効果で、墓地の『インフェルニティ・ビートル』を特殊召喚！

レベル3の『インフェルニティ・ネクロマンサー』と、レベル4の『インフェルニティ・デーモン』に、レベル2の『インフェルニティ・ビートル』をチューニング！

闇と氷が交わりしとき、混沌世界の始まりだ！ヒヤーツハツハツハツハ！これこそが3つの絶望！『氷結界の龍トリシューラ』！そしてトリシューラの効果で、場の『ゴブリンゾンビ』墓地の『ゾンビキャリア』そして栄ちゃんの手札を除外！」

ああ、優勝はできないなこれ。

だってこの状況で勝てるって方がおかしいでしょ！いや、このカードを使えばかて・・・ないなうん。

どうせ墓地にデーモン2体以上居るんだろ！？分かってるよんな事はよお！

「もう一度だ！永続魔法『インフェルニティ・ガン』発動！

そして『インフェルニティ・ガン』を墓地へ送り、墓地の『インフェルニティ・デーモン』と『インフェルニティ・ネクロマンサー』を特殊召喚！

そして『インフェルニティ・デーモン』の効果で、デッキから『インフェルニティ・ガン』を手札に加えるぜ！そして永続魔法『インフェルニティ・ガン』を発動！

『インフェルニティ・ネクロマンサー』の効果で、墓地の『インフェルニティ・ビートル』を特殊召喚！

レベル3の『インフェルニティ・ネクロマンサー』と、レベル4の『インフェルニティ・デーモン』に、レベル2の『インフェルニテ

イ・ビートル』をチューニング！

闇と氷が交わりしとき、この世界の混沌の始まりだ！ヒヤーツハツハツハツハ！これこそが3つの絶望！『氷結界の龍トリシューラ』！トリシューラの効果で、貴様の伏せカードに、墓地の『地獄詩人ヘルポエマー』そして貴様の手札を除外するぜ！」

奈落を使えば勝てるかもしれない、どっかの人が男は度胸だっつて言っただし。

「罨カード『奈落の落とし穴』発動！トリシューラを除外！」

「甘いんだよお！罨カード『盗賊の七つ道具』発動！」

神楽坂の頭が教師よりいい件。

なんでこいつイエロー生徒なの！？

「ひゃーはははは、ラストだ！『インフェルニティ・ガン』を墓地へ送り、墓地の『インフェルニティ・デーモン』と『インフェルニティ・ネクロマンサー』を特殊召喚！

『インフェルニティ・デーモン』の効果で、デッキから『インフェルニティ・バリア』を手札に加える！

カードを伏せ『インフェルニティ・ネクロマンサー』の効果で、墓地の『インフェルニティ・ビースト』を特殊召喚！

レベル3の『インフェルニティ・ネクロマンサー』と、レベル4の『インフェルニティ・デーモン』にレベル2の『インフェルニティ・ビートル』をチューニング！

闇と氷が交わりしとき、この世界の混沌の始まりだ！ヒヤーツハツハツハツハ！これこそが3つの絶望！『氷結界の龍トリシューラ』！トリシューラの効果で、栄ちゃんの『エクトプラズマー』に、貴様の墓地の『地獄戦士』を除外し、貴様の手札も除外だ！」

お兄さん、デュエル界でトップを目指すの諦めようかと思えます。

「ヒャーハハハハ！トリシューラ（1）で万丈目に直接攻撃！ヘル・ストリーム！」

「ちょ、ため自重しろおおおお！！！」

「もいつちょ！トリシューラ（2）で万丈目に直接攻撃！ヘル・ストリーム！」

「ぐおおおおお！！・・・少しは手加減つてもんをなあ・・・」

「ラストだあ トリシューラ（3）で万丈目に直接攻撃！ヘル・ストリーム！」

「俺のライフはゼロだあああああ！！！」

じ、地獄だったぜ。なんだあのループ状態は？

栄ちゃん、頑張ってくれよマジで！

「俺はターンエンドだ！」

『わ、私のターン！ドロ〜！』

なんのカードを引いた！？まさか聖バリか？

『はうう、モンスターを伏せて、カードをセットですう〜ターンエンドですう〜。』

栄ちゃんはよく頑張った、だからもうサレンダーしてくれ！

「仲間の為に頑張るってか？泣かせる話じゃねえかよ。ひやははははは、俺のターン！ドロ〜！」

魔法カード『サイクロン』発動だあ！その伏せカードを破壊するぜ？

破壊されたカードはやっぱり聖バリ、となるとあの伏せたモンスターが気になるな。

ってか神楽坂完璧に悪役じゃねえか！

「トリシューラ（１）で、伏せモンスターを攻撃！ヘル・ストリーム！」

あのモンスターは、闇の仮面か。栄ちゃんの作戦では、聖バリ発動でトリシュー破壊、闇の仮面で手札にというコンボだったんだろっけど……。

「次だ、トリシューラ（２）で直接攻撃！ヘル・ストリーム！トリシューラ（３）で直接攻撃！ヘル・ストリーム！」

ああ、終わっちゃったか。俺がもっと強ければ勝てたんだろうが……。

……永理の顔に引掻き傷が、猫のせいか……。

「勝者、十代選手と神楽坂選手！皆さん、彼らに大きな拍手を！そして、最後まで諦めなかった栄ちゃんに感動の拍手を！」

次は、クロノス教授の番か……。相手はあの羽蛾と竜崎だ、頑張ってくださいよクロノス教授。

視点：カイザー

『第12回戦開始！』

・・・俺が永理と猫をモフモフしていたら、いつの間にかデュエル大会第12回戦になっていた。万丈目？見てないよそんなの。だって猫可愛いんだもん！

勿論、犬も好きだぞ。サイバー流道場の床下に柴犬が居てな、たまに遊んだり、餌あげたりしてたんだ。・・・目の上に乗られた事もあったけど・・・。

しかし、羽蛾と竜崎が相手か、クロノス先生が勝てる確率は83%ってとこだな。

『なあ、あの子ばり巨乳じゃね？ちよつとナンパしてくるわ。』

『綿飴・・・もふもふ・・・。』

『少しは自重してくださいツインさん。』

上からツイン、キメラティック・オーバー・ドラゴン、エンドだ。ぬ？なんでオーバーだけがフルネームかって？キメラティックだけなら、フォートレスを連想させてしまうだろ？

「「「デュエル！！」」」

やっと始まったか。あつ、たこ焼き買ってくるかな？美熟女をナンパするついでに。

『たこ焼きならあるぞ？おつ、1ターン目から『インセクト女王』出したぞあいつ。』

『おお、一般レベルなら凄い方・・・、でも、私の方が強い・・・。』

『何無い胸張って威張ってた？』

『・・・レボリューション・レザルト・バースト・・・。』

『甘い！丸藤亮ガード！』

「へ？うわあああああ！！」

なんで俺がこんな目に遭わなきゃならないんだ？俺が何をしたらってんだ！

『リストバンドですね。』

・・・そうでした。

まあいいや。さて、クロノス先生がダークシンクロでダーク・フラット・トップを召喚し、トレード・インの効果で墓地へ捨てた古代の機械巨人を特殊召喚していた。

・・・今の俺のデッキなら、あんなのただの装備魔法だけどな！！

『あつ、『暗黒ドリケラトプス』召喚しましたよ。しかも『一族の結束』の効果で、攻撃力が800もアップして、驚異の3200ですよ。』

『『超伝導恐獣』でおk！』

台無しになるような事言うなよツインエ・・・。

あゝ、あの竜崎って野郎、伏せカードの存在を完璧に忘れてやがるな。

で、案の定伏せカードはリミッター解除でした。やっぱ機械族デッキには居るよね。何故か遊戯のデッキにも入ってるけど。

「ぐ、まだまだ、まだ残機が無くなった訳じゃない！」

永理何やってんの！？

「あゝ、またオワタ・・・、コンテニューもう出来ない・・・。」

東方かい！

つて永理に気を取られている隙に、クロノス教授の場に古代の機械究極巨人が出ていた、攻撃力8800で。羽蛾のライフが一気に削られ、0になった。さすが古代の機械デツキ！ゲスイ！

『おお、『サイバー・ジラフ』召喚して・・・ダメージ・・・ゼロにしたみたい・・・』  
『凄いなあのおっさん。人は見かけによらないって事か。』

竜崎は、サレンダーしたらしい。ま、あの状況で勝てるなんて、俺か神楽坂、後十代に永理ぐらいだからな。

さて、次はレイとのデュエルか・・・永理が強化しまくったらしいからなああのデツキ。

正直、俺も勝てるかどうかは分からないし・・・。  
タッグパートナーがこいつだし・・・。

「ふっふっふ、俺はこう見えてもプロの世界では負け知らずなんだぜ？」

「の割には、俺の姉勝てないみたいだけどな。」

「永理く、あーんしてあーん」

「ぶっ！！」

え、永理の鼻から凄い鼻血が・・・、これ軽く死ぬぞ？

「りよ、亮・・・。」

「永理、すぐに保健室へ行け！」

「俺、生まれ変わったら鳥になって、女子の風呂場を思う存分覗きた・・・い・・・。」

気絶したみたいだな。こいつガチのロリコンではないか！  
はあ、鼻血で俺の制服が汚れてしまった。・・・クリーニング代ぐ  
らい貰ってもいいよな。

ちなみに、永理はツインが保健室へ連れて行きました。

『何故俺が野郎をおんぶしなけねばならないのだ。どうせなら女子  
高生がよかった・・・。』

『いいから運んでください！なんですか、私は採用率低いからどう  
せ馬鹿にしてるんでしょ！？映画に出てなかつた癖に！』

『・・・最強のドラゴンは・・・私・・・、なのにどうしてエンド  
が映画に・・・。』

お前ら落ち着け！

何故ロリコンの主人公が少ないのかが気になる俺は末期なのか？そして、こんな  
神楽坂強化しすぎた。

永理「つつかあれもう別物だろ！びっくりしたわ、トリシュー三打と  
か……。」

ふっふっふ、金が有ったらやってみたいね！

永理「そうか、ところで、なんで今回もこんなに遅かったんだ更新。  
」

いやね、アイデアは思いつくんだけど、アニメやらゲームやら漫画  
やらデュエルやらで忙しくて。

永理「勉強は？」

……まあ、雑談はこれくらいにして、オリカ紹介！

『E・HEROカードルーラー』

レベル3

地属性

攻撃力：1300

守備力：1340

戦士族：効果

このカードがフィールドから墓地へ送られた時、デッキからカ  
ードを1枚ドロウする。このカードを生贄に捧げる事で、相手が発動  
した罫カードの効果が無効にできる。このカードは、シンクロ素材  
に使用する事はできない。

『拒絶の書』

通常魔法

自分の手札のモンスターをすべて、墓地へ送る。

『罪なき住人の魂』

通常魔法

手札を1枚捨て、デッキからカードを3枚、墓地へ送る。

永理「結構なチートカードだな。

さてと、プロフィールが見たい、部屋の構造が見たい、何処が違うかわからないって人は感想欄にそう書いとして、5人以上で書くと思っぜ。

あとオリキャラも募集中だ。感想欄に見たい、性格、使用デッキ、性別などを書いてくれ。ただ、作者の文才や気分でキャラが崩壊したりするぜ。

あと、使用デッキも出来れば書いてくれ。ただ、性格などと同じように変更などがあつたりするかもしれないからな。で、もしデッキや性格、見た目などは書いてなかった場合、作者が勝手に決めたりする。ただ、書いてたとしても変更とかもあり得るからな。」

コピペをちょっと改行するのって楽でいいよね。

永理「それを言うな！」

男の子の殆どはシヨタコンかロリコンに分かれる筈。どっちも？よし、おじさん

視点：吹雪

ついに準決勝か、長かったな・・・。

レイちゃんにこき使われたり、アバターをアレしたり、永理くんの鼻血で服が汚れたり・・・あつ、それは亮だったか！

「え〜り、お腹空いたお腹空いたお腹空いた〜！」

「我が・・・生涯・・・に一片・・・の悔い・・・無し、ブハアツ  
！！」

永理の鼻から、まるで間欠泉の如く鼻血があふれ出る。あつ、服に付いた・・・。結構高いんだぞブルーの制服は！

特に僕のはなんかキラキラする粉が入ってたぞ！30000円ぐらいしたんだぞ！

「これと、これだ！・・・あれ？」

「次は私の番ですね、これとこれです。」

「ちよ、てめインチキだろwww」

「ふふふ、イリユージョンですよマリクさん（キリッ）」

何神経衰弱やってんの！？つうか何普通に打ち解けてんの！？あんな凄いな！

あれ、レイちゃん何やってんだろ？まさか、えんぞ「言わせるか！  
！」アブラカタブラッ！

「永理さん、新しいデッキ作ってくれる？最近、デッキデスデッキ

に飽きてきたんだよね、TF。」

「うん、いいよ。」

「永理、まずは鼻血を止める。レイちゃんのPSPが壊れてしまうぞ！」

永理エ……。

もう永理は終わってるよね、主人公的な意味で。

『……そろそろ始めてもよろしいかな？さあ、準決勝の始まりだ！』

「まさに、DEATH GAME！」

マリクさんノリノリだあ、何故に？

いやまあいいけどさ、でも……ねえ……。

(PSPに隠しカメラ付けてレイちゃんの着替えを……いや駄目だ！それでは人として最低だ！……いや、だけど……エロゲで我慢しとくか！)

何考えてんのこの人、すごく怖い！なんかオーラが怖い！何この黒いオーラは！

いや、もういいや。

『あの……そろそろは？「永理永理」、なんかゲームがバグったんだけど！?』……泣いていい?』

永理の鼻から、絶え間なく鼻血が出てるんだけど……大丈夫なのかな？

あつ、倒れた。ああ、運ばれていくさまがどこかドナドナを思い出すな……。

『あの、そろそろh「まだ始まんねエのかア？」・・・何？何か悪いことした？』

神楽坂くん、君のせいでえーっと・・・イレイザーくんが泣きそうだよ！別にいいけど。

あと永理くん、そのトウモロコシ何処から持ってきた！？

「ふっふっふ、俺の家の裏庭に大量に実ってるのさ！！」

『ああ、俺がつまみとして大切に育ててきたトウモロコシが！ゆるさん、ゆるさんぞー！』

「ふっふっふ、お前のものは俺のもの、俺のものは幼女のものさ！」  
『あの、そろそろ大会を・・・もういいや。』

ドレッドのだったんだ。・・・似合わないねどう考えても。

あとイレイザー、諦めちゃ駄目だよ！努力は必ず答えてくれるんだから！

「吹雪、俺団地妻をナンパしようと努力したことあったが、全く答えはくれなかったぞ。どういう事だ！」

「知らねーよ！たぶん、信じる者は救われる的な事だろ！」

「吹雪、信じる者が救われるのは足元だけという事を覚えておけ！」

「少しは先輩を敬え！」

「・・・だつてお前弱いじゃん。」「」

「ハモるんじゃねえよ！」

永理くん、僕に何か恨みでもあるの？お兄ちゃん泣いちゃっぞ！いや、本当には泣かないけど。

『もういい加減に始めるぞ！準決勝開始！』

ああ、もうなんかアレだ。本当にアレだなこの状況！  
そもそも何？邪神ってこんななの？全部こんななの？

「レイちゃん、頑張ろうね。」

「ほとんど僕がやってただけだね。」

「・・・僕、威厳とかが無いのかなあ・・・。」

「ふーはははは、高ぶる、高ぶるぞ・・・！久々に戦うなあ吹雪い  
！！」

「・・・少しは自重してくれ。つつか何？此処チートデッキ使用の  
たまり場？」

「・・・少なくとも僕は違うよ。たぶん・・・。」

てか亮、何社長の真似してるの？凄いプレッシャーなんだけど！凄  
エ逃げ出したいんだけど！

「」「」「デュエル！」「」「」

まずは亮のターンか・・・、なんか嫌な予感しかない。

つつか、事故ってる、事故ってるよこの手札。あれか？やっぱ今日  
は運が無いのか？アンラッキーデーなのか？

「俺のターン！ドロー！」

速攻魔法『手札断札』発動！互いに手札を4枚墓地へ送り、その枚  
数分ドロー！」

よっしゃあ！今日なんか運いい！いつもよりいい！

ここまで勝てたのも、僕の「僕と組めたことに感謝しとけ。」  
・・・ハイスイマセン。」

凄い惨めな気分です。

結構当たるねあの占い。だって今アンラッキーだもん。永理くんが羨ましそうな目で見てるけどなんで？ドMなの？

「『旧サイバー・ヴァリー』を攻撃表示で召喚し、カードを3枚セツト！ターンエンド！」

なんかカラクリみたいなの出てきたんだけど・・・種族植物だし・・・。

「これからはエコの時代だ！」

「木材つていいよね！」

亮、心を読まないでくれ。凄く怖いんだ。

あと永理くん、木材好きなの？あれ、でも永理くん前自然破壊が好きとか言ってた？気のせい？

「僕のターン！ドロー！」

『時械神ミチオン』を攻撃表示で召喚！カードを2枚伏せ、ターンエンド！」

あの伏せカードは、恐らくソロモンの律法書かな？だったらもう一つは激流葬かな？あんまやって欲しくないけど・・・。

「私のターン！ドロー！」

『ドラグニティダーク・カタストロフ』を攻撃表示で召喚！『ドラグニティダーク・カタストロフ』の効果により、デッキから『DT ダークネス・ドラゴン』を特殊召喚！

レベル3の『ドラグニティダーク・カタストロフ』に、レベル8の『DT ダークネス・ドラゴン』をダークチューニング！

破壊の風よ！我が龍に闇の力を！ダークシンクロ！飛翔せよ！『ド

ラグニティダーク・ブルラスト』！カードを2枚伏せ、ターンエンド！」

相変わらず展開力が凄いね、BF以上だよ。

攻撃力3100で戦闘では破壊されない効果か、結構厄介だね。

・・・レイちゃんには関係ない話だけどね・・・。

「僕のターン！ドロー！

『センジュ・ゴッド』を召喚！『センジュ・ゴッド』の効果で、デッキから『黒竜の聖騎士』を手札に加えるよ！

儀式魔法『黒竜降臨』を発動！フィールドに存在する『センジュ・ゴッド』を生贄に、手札から『黒竜の聖騎士』を儀式召喚！

『黒竜の聖騎士』の効果発動！このカードを生贄に、デッキから『真紅眼の黒竜』を特殊召喚！更に『真紅眼の黒竜』を生贄に『真紅眼の闇竜』を特殊召喚！

更に魔法カード『苦渋の選択』を発動！僕が選択するのは『真紅眼の飛龍』『片翼の飛龍』『ゼロ・ドラゴン』『真紅眼の皇帝竜』『ハウンド・ドラゴン』を選択するよ！」

ああ、高等儀式術がなぜか来ない。入ってるはずなんだけどなあ・・・。  
ま、いいや。別にそこまで困らないし。

・・・永理くん、その美味しそうな匂いのするじゃがバターを食べるのは止めてくれ！お腹が空いて、デュエルに集中できないよ！

「なら・・・『ゼロ・ドラゴン』を選択しよう。」

「では、残りはすべて捨てるよ。カードを3枚伏せ、ターンエンド！」

僕の伏せたカードは、針孔の巣窟に呪い移し、そして攻撃誘導ア

マアの3枚だ。これでもし、相手が攻撃してきたとしてもレイちゃんの時械神に攻撃を誘導させれるし、いざとなったら針孔の巣窟でデッキからカードを墓地へ送ればいい。相手が罠を発動させたとしても呪い移しで、相手に罠の効果を移せばいい。  
たしか、亮のデッキにはスキル・サクセサーがあつたはず。このデユエル、僕の勝ちだ！

「俺のターン！ドロー！」

『旧サイバー・ヴァリー』の効果発動！このカードをゲームから除外し、デッキからカードを2枚ドロー！

そして、デッキからカードを7枚墓地へ送る。（よし、『トラップ・リアクター・RR』が落ちた。）罠カード『リミット・リバース』を発動！墓地の『トラップ・リアクター・RR』を特殊召喚！

そして魔法カード『思い出のブランコ』を発動！墓地の『旧サイバー・ドラゴン』を特殊召喚！『旧サイバー・ドラゴン』を生贄に『最終鬼畜兵器サイバー・エンド・ドラゴン』を召喚！」

うわあ、いきなり出てきた。これヤバクネ？

だってさ、攻撃力5100の真紅眼の闇竜が奪われてアポーンだよ！なにこのチート野郎！

「罠発動『激流葬』！」

ああ、僕の真紅眼が流されてい・・・かないね。

「くっくっく、『盗賊の七つ道具』を発動したのさ！」

うわあ、これ僕死んだんじゃない？

いや、まだ大丈夫だよ！たぶん・・・。

「『最終鬼畜兵器サイバー・エンド・ドラゴン』の効果発動！吹雪

の『真紅眼の闇竜』を装備！」

ヤバいなこれ、マジヤバいなこれ。  
明日香、僕を慰めてくれ。

「畏カードオープン！『天罰』！」

あはははは……は……、た、助かった。  
亮のデッキマジで心臓に悪いなあ、軽く現実逃避してたよ。

「（俺の手札に蘇生系カードは無い。少し不味いか？）カードを1枚伏せ、ターンエンド！」

永理くん、あとで猫触らせてね。畜生モフモフしたいなあおい！

「（猫欲しいなあ……。）僕のターン！ドロー！」

スタンバイフェイズ時に『時械神ミチオン』の効果発動！このカードは、デッキに戻る！

『時械神カミオン』を召喚！そしてバトル！『時械神カミオン』で『ドラグニティダーク・ブルラスト』を攻撃！」

時械神の特徴は、スタンバイフェイズにデッキに戻る効果と平均攻撃力が0である事。

そして、効果が鬼畜な事だよ。永理くんは本当に色々なカードを持ってるよね。なんでだろう？

「だが、『ドラグニティダーク・ブルラスト』の方が攻撃力は上だぞ！」

「モンスターを攻撃力だけで決めるのはどうかと思うよ。『時械神ミチオン』の効果発動！相手モンスターを全てデッキに戻し、その

枚数分×500のダメージを与える！」

えーっと、相手フィールドにモンスターは・・・3枚、つまり1500のダメージだね。

うん、これ僕いらないよね常識的に考えて。

「うおおおおお！！・・・はあ、はあ・・・。」

「ぐおおおおお！！・・・何これチート？」

「カードを2枚伏せ、ターンエンド！」

相手方は大変だなあ。・・・僕、凄く帰りたくなってしまっただけ  
どどうしてかな？凄く居づらいんだけど・・・。

だってみんなキチガイじみてる攻撃力をポンポン出してくるんだよ  
！？こんなんに勝てるわけないよ！

「私のターン！ドロー！」

『ドラゴンフラス』を守備表示で召喚！『ドラゴンフラス』の効果  
で、デッキから『ドラグニティダーク・フラス』を守備表示で特殊  
召喚！『ドラゴンフラス』の効果で特殊召喚したモンスターはドラ  
グニティダークと名のついたモンスターの効果で特殊召喚した扱い  
とする！そして『ドラグニティダーク・フラス』の効果により、デ  
ッキから『ドラグニティダーク・カルラットエイジ』を特殊召喚！  
『ドラグニティダーク・カルラットエイジ』が召喚に成功した時、  
デッキからドラグニティダークと名のつくカードを1枚墓地へ送る  
事ができる！私はデッキから『ドラグニティダーク・カスタラット  
ベイト』を墓地へ送る！」

あのカードは罠？どうしてそれを墓地に、分からないなあ・・・。  
つうか、カード名長いな！よく噛まずに言えるな！僕じゃ息が続か  
ないよ！

「ウワーオ、これは不味いかもなあ。吹雪頑張れ〜。・・・うつ、歯茎にトウモロコシのアレが挟まって・・・なんかイラつく！」

永理くん！？不味いつて何！？凄く気になるんだけど！

あと、トウモロコシ食べてたらたまにそうなるよね。なんとなく分かるよ。

「くくく、墓地の『ドラグニティダーク・カスタラットベイト』の効果発動！墓地に存在するこのカードを除外し、自分のフィールドに存在するドラグニティダークと名のついたモンスターを破壊する！そしてデッキからドラグニティダークと名のついたレベル±2のモンスターを特殊召喚する事ができる！」

私は『ドラグニティダーク・カルラットエイジ』を破壊し、デッキからレベル6の『ドラグニティダーク・カスタルロットベルトイ』を特殊召喚！『ドラグニティダーク・カスタルロットベルトイ』の効果発動！手札を全て捨てる事で、このカードは直接攻撃できる！」

おいおい、マジかよ。攻撃力が2600もあつてで、直接攻撃可能なモンスターって・・・。絶対に永理くんがあげた奴だろ！

「違うな、正しくは売っただい！」 変わんないよ！

「『ドラグニティダーク・カスタルロットベルトイ』で、レイちやんに攻撃！」

技名無いんかい！いや、どうでもいいけど。

って忘れてた、畏畏・・・これだこれだ。完璧に忘れてたよ。

「畏カード『攻撃誘導アーマー』発動！攻撃対象を『真紅眼の闇竜』に変更！」

これで攻撃は閻竜へ誘導され、そして畏カード針孔の巣窟を発動し、一気にダメージを与えられる！・・・一番厄介なのは亮なだけだね。

「畏カード『盗賊の七つ道具』を発動！そのカードの効果は無効にする！」

「甘いよ！カウンター畏『魔宮の賄賂』を発動！そのカードの効果は無効にするよ！そのかわり、ドローさせちゃうのが玉に瑕なんだけどね。」

「なっ、という事は・・・。」

ふう、何とか凌いだね。冷や汗かきまくりだよ！

あ、針孔の巣窟発動できない。orz

オーバーキルしたいお年ごろなんだよ！

まあ、何とか勝てたからいいけどね。でも、永理くんや瑠璃さんみたいにオーバーキルしたいんだよ！

「僕のターン！ドロー！」

畏カード『針孔の巣窟』を発動！デッキから、カードを5枚墓地へ送るよ！」

引いたカードはレモンバスターで、落ちたカードが聖バリ、幽閉、奈落、血族、結束なんだけど・・・僕何か悪い事した？

永理くんが使ったらネクロとか普通に落ちるんだけどね、積み込みだよなアレ！

「『デビル・ドラゴン』を召喚！そして『デビル・ドラゴン』を外し『レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン』を特殊召喚！バトル！『レッドアイズ・ダークネスメタルドラゴン』で亮に直接攻

撃！『真紅眼の闇竜』で亮に直接攻撃！ダークネス・ギガ・フレイム！」

な、何とか勝てた。これで夢でした。なんてオチは絶対に嫌だね。さあ、亮にも勝てたし、猫を愛でようかな？いや、愛でよう！

「永理さ〜ん、トウモロコシ頂戴。僕お腹空いちゃったよ。」

「ブフアア！」

「永理！？おい、大丈夫か！？」

「だ、大丈夫じゃないけど・・・問題ない。」

ああ、永理くんが血だらけになってるよ。鼻血で。ま、いつか。猫可愛いよ猫。

「ツン！？ゲホゲホツ！・・・はあ・・・はあ・・・。し、勝者、レイちゃんと吹雪。彼らに拍手を・・・ちよ、だれか水持ってきて。」

イレイザーくん大丈夫かな？つうか何で焼きそば食べてるの？普通たこ焼きとかだよね？

いや、別にいいけどね。でもなんかあ・・・。

「貴様のせいで負けたんだぞ。」

「んなわけねーだろ！私だって頑張ったわ！」

・・・触らぬ神に祟り無し、アレは無視しよう。

男の子の殆どはシヨタコンかロリコンに分かれる筈。どっちも？よし、おじさん

ふう、鬼柳さん攻略への道はアレだな。

永理「アレって何！？つうかなんで今回更新が遅くなったんだ？テスト勉強とかなら分かるが・・・。」

ニコニコ、TF6、カラムーチョ買いに行ったり、ネタが思いつかなかつたりでだ。テスト勉強なぞ知るか！！

永理「てめっ、勉強しろよ！」

吾輩の辞書に、勉強の文字は無いッ！！

永理「テメエは本当に駄目だ。」

ま、置いていて・・・と、オリカ紹介！

『旧サイバー・ヴァリー』

レベル1

地属性

攻撃力：0

守備力：0

植物族：効果

次の効果から1つを選択して発動する事ができる。このカードが相手モンスターの攻撃対象になった時、このカードをゲームから除外する事で自分はデッキからカードを2枚ドロし、デッキからカードを7枚墓地へ送る。そのバトルフェイズを終了する。このカードと自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選

択し墓地へ送る。自分のデッキからカードを3枚ドロウする。このカードと自分の手札1枚を選択してゲームから除外する。自分の墓地のカード1枚を手札に加える。

『ドラゴンフラス』

レベル4

地属性

攻撃力：1200

守備力：1700

ドラゴン族：効果

このカードが召喚・反転召喚に成功した時、デッキからドラグニティダークと名のつくモンスターを1体、特殊召喚できる。自分のデッキから「剣闘獣」と名のついたモンスター1体を特殊召喚する。

このカードの効果で特殊召喚したモンスターはドラグニティダークと名のついたモンスターの効果で特殊召喚した扱いとなる。

『ドラグニティダーク・カルラットエイジ』

レベル4

闇属性

攻撃力：1200

守備力：1700

このカードが召喚に成功した時、デッキからドラグニティダークと名のつくカードを1枚墓地へ送る事ができる。このカードが戦闘を行う場合、相手は罠カードを発動することはできない。

『ドラグニティダーク・カスタラットベイト』

通常罠

自分フィールドにドラグニティダークと名のついたモンスターが表側表示で存在し、相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができ

る。

相手モンスターを1体破壊し、そのモンスターの攻撃力の半分のダメージを相手に与える。

また、墓地に存在するこのカードをゲームから除外し、自分フィールドに存在するドラグニティダークと名のついたモンスターを1体破壊して発動できる。

この効果で破壊したモンスターのレベル±2のモンスターを1体、特殊召喚する。

『ドラグニティダーク・カスターロットベルトイ』  
レベル6

闇属性

攻撃力：2600

守備力：1200

手札を全て捨てる事で、このカードは直接攻撃できる。

ふう、俺頑張ったZ E

永理「その が凄くウザいんですけど・・・？」

気にするな さあ、走って行こうじゃないか。ロリコンの星へ向かって！

永理「貴様一人で走っとけ！」

残酷な表現アリって入れた方がいいかな？

永理「別に良いんじゃない？鼻血だし。」

なんか書き始めてから後悔する事があったししない？だって他の話が思いついた

視点：十代

前回の神楽坂は怖かったとです。遊城 十代です。  
ついにやってまいりました準決勝、はてさて、勝つのはどちらか？

・・・俺、ナレーションとしての素質有るんじゃない？割かしマジで。

「あつ、永理。トウモロコシくれ。腹減った。」

「・・・ちよい待て、あともう少して焼きあがる。・・・よし。」

おお、凄え美味い！この焦げた醤油が程よく香ばしく、トウモロコシの甘みを引き立てている！

・・・さつきから気になってたんだが、神楽坂が食べてるのってなんだ？なんかキャベツみたいなのが見えるんだが・・・。

「ああ、アレはキャベツ焼きという食べ物だ。意外と美味しいぞ。」

「じゃあ、それも一つ。」

「あいよ。・・・カミューラ、キャベツ焼き一つ！」

「あいよ！」

カミューラって、吸血鬼だったよな？吸血鬼の面影が全く見えないんだが・・・。

あとこの部屋、なんか動物多いような・・・。いや多いなこれ！猫とか犬とかが凄く！

・・・そういや、前に神楽坂がれっつ度量付近でイグアナを見たっ

て言ってたような……。

……気のせいかな。うん、そうだよねたぶん。

『え、では準決勝を始めようかと思いますが……おい、ソース多めって言ったよな？てめなんでソースマヨネーズ半々なんだよ！』

「黙れよ。」

『明日香様すいません調子こいてました許してください。』

もうそんな時間が、楽しいときが過ぎるのは早いな。

あ、喉乾いた。

「レイ、なんか飲み物あるか？」

「あ、これがありますけど……。」

……これなんて読むんだ？吐露非狩古鬱？

「なあレイ、これ、なんて読むんだ？」

「永理さんが言うには、トロピカルフルーツらしいですよ。」

絶対に読めないよ！そうは読めないよ！誰が読んでも分かんないよ！いや、別にいいけどね。いいけどさ……。

そういえば、クロノス先生とのデュエルは久しぶりだなあ。たしか、入学試験以来だっけ？楽しみだな。

「ヒヤッハー！十代、今度の相手は俺を満足させてもらえるか？」

「……トリシュ×3の前には無力だと思う。」

「なんだ、だらしねえ！」

うーん、逆にそれで勝つ方が凄いなと思うんだけど……。つうかアレだよな、満足デッキにダークシンク口って相性悪いよね。

まあ、上手く使えば鬼強になるけど・・・。

『よし、ではデュエル開始イ！』

「『デュエル！』『』『ヒヤーツハツハツハア！』」

さつきから俺の足元に猫がすり寄ってくるだが、いや可愛いからいいけど。

あと、なんか永理の肩にカメレオンみたいなのが見えるんだが、なんだあれ？

「私のターン！ドロ〜によ！」

カードを2枚伏せ、手札から魔法カード『大嵐』を発動！フィールドの魔法・罫を全て破壊しま〜す！」

あ、先行盗られた。いや、別にいいけどさ。

「そして破壊された『黄金の邪神像』の効果により、私の場に『邪神トークン』を2体特殊召喚しま〜す！」

そして2体の『邪神トークン』を生贄に『古代の機械巨人』を召喚！カードを伏せ、ターンエンドナノ〜ネ！」

レイちゃんならサンダイオンとかサダイオンとかを一気に出すし、吹雪さんなら初手青眼とか闇竜とかで初手攻撃力2900以上を普通にだすから、あまり脅威には見えないんだよな〜。

最初に見た時は凄いつて思ったんだけどなあ、俺も成長してるって事なのか？

「まずは地獄の一丁目だ、俺のターン！ドロ〜！」

か、完璧に鬼柳さんになつてるううう!!??  
もう神楽坂は戻つてこないのかな・・・、他の小説では結構優しい  
性格なんだけどなあ・・・。どうしてこうなつた!

「モンスターをセツトし、カードを2枚伏せるぜ。ターンエンド!」

普通それで終わるのが普通だよ。うん、なんか安心したよ。

・・・なんか永理の肩に白い手みたいなのが見えるんだけど気のせい  
だよな!幽霊とかじゃないよね!

栄ちゃん?え、幽霊なの?

「私のターンでアール!ドロー!」

『トイ・ソルジャー』を召喚し、カードを3枚伏せるでアール!タ  
ーンエンド!」

なんか永理の肩に乗ってる手が、俺に向かってピースサインしてき  
た!?なんで!?凄く怖いんですけど!!

俺幽霊系苦手なんだよ!悪かったなへタレで!

「お、俺のターン・・・ドロー。」

「どうした十代!やる気あんのか!??」

「いや、なんか永理の肩に幽霊みたいなのが・・・。」

「何をいまさら言ってるノ?ネ?ここは元々いわくつきの物件なノ  
?ネ。たしか、自殺者が出たとかなんとか・・・。」

マジですか!??なんで永理は平気なんだ!??俺なら怖くて発狂しそ  
うだぞ!

そつえば時々、肩が重く感じたり、鏡を見たら蒼い顔の女の人が見えたりしたんだけどやっぱり永理ののせいか!

「うっ、モンスターを伏せ、カードを伏せてターン終了……。」「ドロッパアウトボイ？顔色が悪いようですが大丈夫です〜カ？」  
「はい、たぶん大丈夫です。」

全然大丈夫じゃないけど我慢してるんだ。本当は逃げて帰りたいんだよ！

「なあ、家に帰ってもお前に幽霊が憑いてるんじゃないよ……。」  
「言うな神楽坂、たぶん大徳寺先生がなんとかしてくれる筈！」  
「無理ですニヤ。」

そ、即答ですか。そりゃないぜとつつあん。除霊してくれよとつつあん、とつつあん！

「私のターン！ドロ〜によ！」  
『古代の機械騎士』を召喚！バトルな〜ネ！『古代の機械巨人』で神楽坂の伏せモンスターを攻撃な〜ネ！アルティメット・パウ〜ンド！」

「破壊された『キラートマト』の効果！攻撃力1500以下のモンスターを特殊召喚できるぜ！」DT ナイトメア・ハンド』を特殊召喚！

更に『DT ナイトメア・ハンド』の効果で、手札の『インフェルニティ・ドワーフ』を特殊召喚！」

「ですが『古代の機械巨人』の効果で、貫通ダメージを受けてもらいま〜す！」『古代の機械騎士』で『DT ナイトメア・ハンド』に攻撃！プレシヤス・ジャベリン！」

神楽坂、少し不味いぞ。ここでDT ナイトメア・ハンドに攻撃されたら、1800ものダメージを受けてしまう！

でも、なんか余裕そうなんだよな。つつか笑ってるし、凄く怖い。

「残念だったなあ。罨カードオープン！『聖なるバリア ミラーフ  
オース』発動！」

うわあ、ガチカード来たよ。さすが神楽坂、さすがインフェルニテ  
イ……。

しかもテキストが昔のつて、それなんて言うチート？

たしか、破壊したモンスターの攻撃力の半分のダメージを相手に与  
えるって効果だったな。

うん、どう見てもチートだね。

「う……何故ダメージが……？」

「旧テキストだからだ！」

「ぬぐぐ……カードを2枚伏せ、ターンエンドなノ〜ネ！」

早くも先生達のライフが1450、はつきり言って信じられないな  
これ。

つつかやっぱり俺いらねえじゃん！！どう考えてもいらねえじゃん！

「もがけもがけ、俺のターン！ドロー！」

ヒヤーツハツハツハツハツハア！レベル2の『インフェルニテ  
イ・ドワーフ』に、レベル10のナイトメア・ハンドをダークチュ  
ーニング！

漆黒の帳下りし時、冥府の瞳は開かれる。舞い降りる闇よ！ダーク  
シンクロ！こいつで血の海わたってもらおうかあ？出でよ！『ワン  
ハンドレッド・アイ・ドラゴン』！」

来た、神楽坂のエースモンスター！墓地の闇属性モンスターの効果  
を得るというチート効果、なんでもデッキからカードを持ってこら  
れる万能サーチ。

だが、ダークシンクロモンスターだからあまり使われなかったんだよなあ。俺？HEROデッキには生贄をそろえる手段があまり無いし、レベル2以下のモンスターも入れてないしで。

ああ、本当は入れたいさ！でもな、安定性が必要なんだよ俺のデッキにはなあ！

「魔法カード『手札抹殺』を発動！互いに手札を全て捨て、捨てた枚数分ドローだ！

カードを2枚伏せるぜ！そして『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』の効果発動！墓地の『ダーク・クリエーター』の効果を得るぜ！墓地のナイトメア・ハンドを除外し『インフェルニティ・デーモン』を特殊召喚！『インフェルニティ・デーモン』の効果発動！デッキから『インフェルニティ・デストロイヤー』を手札に加える！

そして『インフェルニティ・デーモン』を生贄に『インフェルニティ・デストロイヤー』を召喚！バトルだあ！『インフェルニティ・デストロイヤー』で、クロノス先生に攻撃！」

デストロイヤーの効果って結構チートだよな。

つうか、永理に顔色が悪い人が集まってきてるんだけど……。ムツチャ怖いんですけど！？

「畏カード『炸裂装甲』を発動なノ〜ネ！『インフェルニティ・デストロイヤー』を破壊なノ〜ネ！」

「カウンター畏『盗賊の七つ道具』を発動！『炸裂装甲』の効果は無効にするぜ！」

うん、やっぱり神楽坂には勝てないよね。もうブルー寮生徒でもいいと思うんだけど……。

・・・永理の周りに顔色が悪い人が増えてきたみたいなんだが、もう無視だ！もうあんなは信じないぞ！

「Nooooooooo!!」

ペガサスですか!?!いや、別にいいけどさ。

つうか永理、なんか人間以外も集まってきたっばいんだけど!?!何?永理には幽霊を寄せ付ける何かがあるのか?

「更に『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』でナポリタンに攻撃!インフィニティ・サイト・ストリーム!!」

「ナポリオンでアール!畏カード『和睦の使者』発動でアール!!」

ナポリタンって美味しいよね!関係無いけど。

おお、何度見てもワンハンドレッド・アイ・ドラゴンの攻撃は凄いなあ、ほんまカッコいいよね!インフェルニティ・デス・ドラゴンよりもカッコいいよね!

「ひゃーはははははは!!甘いんだよオ!!カウンター畏発動!」  
「トラップ・スタン!」畏カードの効果は無効にするぜ!」

おいおい、ワンタンくらいは待ってやれよ。

『勝者、神楽坂!ぶつちやけ今回、十代あんま活躍してないよね!』

し、仕方ないだろ!神楽坂が強すぎるんだから!俺のデッキは普通に強いぞ!ただ、周りがチートじみた強さなんだよ!

視点:大徳寺

・・・セブンスターズ止めようかな、なんか勝てる気がしない。  
痛い思いしたくないし、前に永理君から賢者の石貰ったし・・・。  
なんで永理君が持つてるんだろう？作ったのか？  
まあ、とりあえずデュエルしなきゃ駄目だしなあ、無事に済ますに  
は・・・。

よし、これで行こう！

「永理くん、ちょっとデュエルしないかニヤ〜？」

「ん？別にいいが？でも大徳寺先生、デュエルディスク忘れてきた  
でしょ？」

「大丈夫ニヤ〜。ここにデュエルマットがあるのニヤ〜。」

「豪く準備がいいなおい！いや、まあいいけど。」

よし、ここまでは計画道理！このまま自然な流れでセブンスターズ  
の鍵を賭けて・・・。

「折角ですから、なんか賭けますか？イベントだし。」

「え、いいですニヤ。ようし、互いのデッキをシャッフルし・・・」

まさか、永理君から言ってくるとはな。

よし、このデッキ破壊もどきデッキの餌食にしてくれる！

「デュエル！」ですニヤ〜！

ジャンケンの結果、永理君からのターンだ。

・・・手札が悪いニヤ〜。まさかの事故ったニヤ〜。このデッキは  
あまり、事故らないように作ってるのに・・・。

「俺のターン、ドロー。」

『ジユラゲド』を攻撃表示で召喚し、カードを2枚伏せる。ターン終了。」

これはデュエルディスク使ってないから、いちいち叫んだりしない。

「私のターンにや、ドロー。」

モンスターを伏せて、カードを2枚伏せるニヤ〜。ターンエンドニヤ〜。」

ふつつつふ、私の伏せたモンスターはメタモルポットニヤ〜。これで一気にデツキ破壊してやる。

・・・ちなみに、伏せたカードは太陽の書2枚なのニヤ〜。残りの手札が上級モンスター2枚とウラの書ってどうかと思う・・・。

「俺のターン、ドロー。」

『ボーガニアン』を召喚し、バトルフェイズに入る。『ジユラゲド』で伏せモンスターを攻撃。」

「ふつつつふ、伏せていたモンスターは『メタモルポット』なのニヤ〜。互いの手札を全て捨てて、5枚ドローするのニヤ〜。」

「では、大徳寺先生の手札が墓地へ送られた瞬間に畏発動『ゾンビの宝石』。大徳寺先生の墓地に存在する『ウラの書』を手札に加える。」

『ボーガニアン』で大徳寺先生に攻撃。カードを伏せ、ターンエンド。」

手札が1枚増えたけど、永理君の場がヤバいぞ。恐らく、もう手札にはラーとかが来てるんだと思う。

しかし、ウラの書をいっただいどうするつもりだ？

「私のターン、ドロー。・・・言い忘れてたけど、互いに賭けるの

は七精門の鍵でいいかニヤ〜？」

「別にいいが、その口癖なんかなんないのか？アムナエル。」

「！い、いつから知ってたのだ？」

「最初にあつた時から。」

マジですか。

あと永理君、後ろの幽霊を何とかしてくれ。結構怖いから。

「モンスターを伏せ、カードを3枚伏せる。ターンエンド。」

あつ、なんか鎌を持った黒い服の人出てきた。

つて、永理君！？何普通にリングおげてるの！？何この人怖い。

「俺のターン、ドロー。」

スタンバイフェイズ時に『ボーガニアン』の効果で600ダメージ。

『ドリラゴ』を召喚し、バトル。『ジュラゲド』で伏せモンスターを攻撃。」

「伏せモンスターは『カオス・ポッド』だ。場のモンスターを全て、デッキに戻し、戻したモンスターの数だけ、レベル4以下のモンスターを特殊召喚する。」

永理君の場には、ボーガニアン、ジュラゲド、ドリラゴが存在している。つまり、運が良ければ大量のデッキ破壊が……！

……永理君の運は凄まじいな。唯一墓地へ落ちたのがラーの翼神竜とは……。

「ターンエンド。」

「私のターン、ドロー。」

『ニユート』を攻撃表示で召喚し、バトル。右の伏せモンスターを攻撃。」

「伏せモンスターは『執念深き老魔術師』だ。『ニユート』を破壊。」

ま、マジですか……。ヤバい、畏が無い。がら空きだぁ……。

「ターンエンド。」

「俺のターン、ドロー。」

伏せモンスターを全てリバーズ。『グラナドラ』を攻撃表示で召喚  
『グラナドラ』の効果により、1000ライフを回復。

バトル。『グラナドラ』で直接攻撃。『ニユードリア』で直接攻撃。  
『リバイバルスライム』で直接攻撃。」

ああ、負けちゃった……。なんで負けたんだろう。

まあ、約束だからなあ……。

「はい。」

「どうも。さて、なんかカップルがイチャついてるといふ電波を受  
信した気がする。」

ふっふっふ、オレイカルコス of 石版に封印してやる。」

永理君、怖いよそれ。

つつか悪い顔してる！ああ、これ本当に主人公なのか？どう考えて  
も主人公な台詞じゃないよ。

なんか書き始めてから後悔する事があったししない？だって他の話が思いついた

永理「・・・」ジユラゲド『OCG化しないかな？』

それはどうでもいいからゾンビの宝石が欲しい。あと暗黒の魔再生も。

永理「ついでに『速攻の吸血蛆』もな。」

まあ、現環境では使えないカードだけだな。ついでにラー早くOCG化して欲しい本当に。

永理「それでもいいからダークシンクロOCG化しろ！

それは置いといて、プロフィールが見たい、部屋の構造が見たい、何処が違うかわからないって人は感想欄にそう書いといて、5人以上で書くと思うぜ。

あとオリキャラも募集中だ。感想欄に見た目、性格、使用デッキ、性別などを書いてくれ。ただ、作者の文才や気分でキャラが崩壊したりするぜ。

あと、使用デッキも出来れば書いてくれ。ただ、性格などと同じように変更などがあつたりするかもしれないからな。で、もしデッキや性格、見た目などは書いてなかった場合、作者が勝手に決めたりする。ただ、書いてたとしても変更とかもあり得るからな。」

結構の奴忘れるんだよなあ・・・物忘れが激しいぜ

永理「気持ち悪い。」



最初らへんまで前書き書いてたの今更だが思い出した。だから今回は書いてみた

『イレイザーと。』

『・・・オーバーの・・・。』

『おさらい、特別ルール!』』

『何で・・・今更?・・・』

『はい、それはこの話が不正&手札回復しすぎWWWルール分かってないの?っていう苦情を回避するためです。』

『でも、なんで今回・・・だけ?もうこれで終わりだよ・・・?』

『はい、この話では特別ルールを使用しまくってるからです。感覚的に言えばなのはMADみたいな?』

『理解・・・で、その特別ルールは?』

『使用禁止カードの説明は省いて、これが特別ルールです!』

1 ライフコストの踏み倒し

2 エンドフェイズに手札を5枚になるように補充可能

3 通常モンスターはバニラテキストに記されている説明がカード効果となる。・・・以上!』

『・・・結局、3の奴は使われなかった・・・。』

『・・・では、本編スタート!』

最初らへんまで前書き書いてたの今更だが思い出した。だから今回は書いてみた

視点：永理

うつ、少し血（鼻血）が出過ぎたか……。ふつまあい、ロリ娘を眺めて死ぬなら本望！！

「……さつさとしろ、貴様のターンだぞ？貴様から仕掛けてきたんだろ、レッド生徒君？」

「ゴーゴー虫助、そんな奴倒しちゃえー！」

「その程度で勝ち誇るとは、貴様、本物の馬鹿だろ？いや、貴様ら……か……。」

「ふん、俺の場には攻撃力2400の『電動刃虫』と、攻撃力2800の『デビルドザー』が居るんだぞ？粹がるのもいい加減にするよ。」

はあ、最近のブルー生徒の実力はこの程度か、ガツカリだな。これならまだ十代達の方が強いぞ。

「永理、頑張ってくれ！我らの妬みと共に！」

「まかせろ！ドロー！」

我が同志達の為に負ける訳にはいかない！

……！このカードなら……。

「手札から魔法カード『死者蘇生』を発動！墓地の『ワンハンドレ

ツド・アイ・ドラゴン』を特殊召喚！」

「だが『強者の苦痛』の効果で、攻撃力はたったの2700！その程度の壁モンスター、粉碎してくれる！」

「甘い、甘い甘い甘い甘い！甘すぎるぞ糞ガキ！魔法カード『インフィニティ・サイト・ストリーム』発動！俺の場に『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』が存在する場合このモンスターを破壊し、貴様のカードを2枚破壊する！」

ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン専用カード、念のために入れててよかつたぜ。

「俺は『強者の苦痛』と『デビルドージャー』を破壊！」

「ぐつ、だが俺の場には、まさ攻撃力2400の『電動刃虫』がある。こいつを倒さない限り、下級のモンスターではライフをゼロにできない！」

「破壊された『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』の効果発動！デッキから『ミラクルダークシンクロフュージョン』を手札に加える！」

くくく、これで融合召喚し、ドラゴエキテスで止めを刺してやる！は？ダークシンクロモンスターはダークシンクロだから融合召喚できない？TFでは同じ扱いだから問題ないんだよ！

「魔法カード『ミラクルダークシンクロフュージョン』発動！墓地の『終末の騎士』と『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』を除外！エクストラデッキより出でよ！『ラスト・オブ・ドラゴン』！」

来た来た来た！これこそが我が真の切り札！神さえも凌駕する最強のカード！これさえあれば、神のカードなぞ紙同然！  
キャラが変わってる？気にするな！

「ふん、たかが攻撃力2000で何ができる！」

「弱小デュエリストが・・・『ラスト・オブ・ドラゴン』の効果発動！貴様のモンスターを破壊し、そのモンスターの攻撃力の倍のダメージを貴様に与える！」

「なッ・・・やめる貴様！」

「くくく、ブレリスト・エイド!!！」

ひあはは、俺の勝利は確実だ！

・・・正義感？なにそれ美味しいの？

視点：吹雪

ついに来た、決勝戦！ぶっちゃけ準優勝でもいいんだけどね！  
だって、これに勝てそうな気がしないもん！

「ヒャーハハハハ！今回は俺様を満足させてくれるデュエリストが居そうだぜ！」

「（・・・吹雪さんは何とかなるとして、問題はレイだな。あのカイザーを倒したんだし・・・。）・・・たぶん、お前を満足させられるデュエリストは居ないと思う。」

僕、逃げ出したい！だってアレだよ！あいつ等だよ！鬼畜満足に外道HEROだよ！レイちゃんが居て初めて勝てるような奴らだよアイツ等！

あと僕の足元にカメレオンが・・・。あ、ひんやりする・・・。

「十代様、手加減は無しだよ！」

「・・・御手柔らかにお願いいたします・・・。」

ちよ、レイちゃん！これ、この首元に付いてるヤモリ取って！ひんやりしてなんか気持ち悪い！又メ又メするよ！

『えー、では決勝戦を始めたいと思いますぜよ！赤コーナー、レイ & 吹雪チーム！青コーナー、神楽坂 & 十代チーム！両者、デュエル場へ！』

ちよっ、助けてええええええええええええ。。。

「デュエル！」「ヒャーツハツハツハア！」「たっ、助け、あつ、又メつて、又メつてした！」

レイちゃん、助けてよ！たっ「僕のターン！ドロー！」聞いてー！！もうマリクさんでもバクラさんでもいいから、誰か助けて！

440

「・・・大丈夫かあ？ほらよ。」

「全く、テメエ男だろ？だらしねえ！」

「マリクさんあざーっす！バクラさん、僕はチキンだから仕方ないんだよ！」

「・・・しよんな事より、もうお前のターンだぞ？」

「えっ？」

レイちゃんの場合はスカイ・コア。伏せカードは2枚か・・・。何のデッキなんだろう？絶対事故率高いと思うんだけどねえ・・・。対する神楽坂くんの場合は、インフェルニティ・デストロイヤーが1匹。伏せカードが4枚！？いくらなんでも伏せすぎでしょ！

「ぼ、僕のターン！ドロー！」

『黒竜の雛』を召喚し、このカードを生贄に、手札の『真紅眼の黒竜』を特殊召喚！カードを2枚伏せ、ターンエンド！」

ふっふっふ、伏せたカードはミラクルシンクロフュージョンにバスター・モード。ええ、事故ってますとも！後の手札は永理くんがおふざけで入れたヒドウン・ナイト フック とゼロ・ドラゴンだし！今日抜こうかと思ってたのに、いきなり大会なんか始めるんだからなあ永理くん。サイドデッキ無いの知ってるくせにさあ！

「俺のターン！ドロー！」

『融合』発動！手札の『E・HEROクレイマン』と『カードガンナー』を融合！『E・HEROカード・ウォリアー』を融合召喚！カードを3枚伏せ、ターンエンド！」

カードガンナーとクレイマンの融合・・・はつきり言おう！ダサイ！なんかわからないけどダサイ！冗談抜きでダサイ！

「僕のターン！ドロー！」

リバーズ罨『ツイン・ボルテックス』発動！僕の場合に存在する『スカイ・コア』を破壊し、十代様のカード・ウォリアーを破壊する！  
「破壊されたカード・ウォリアーの効果発動！このカードが破壊され墓地へ送られた時、カードを2枚ドロー！」

そ、そんな効果だったんだ。守備力3000でそれは強すぎないかい？

あれ？汗だくになって一体どうしたんだろう永理くん。

「ぜえ・・・ぜえ・・・マリクさ・・・ん・・・。み、水・・・。」

「お、おお。」

「頑張りー吹雪くーん！」

「デヴァインさん……はい！頑張ります！」

「破壊された『スカイ・コア』の効果発動！デッキから『機皇帝スキエル』、『スキエルT』、『スキエルA』、『スキエルG』、『スキエルC』を特殊召喚！」

「永続魔法『マシン・デロペツパー』を発動！バトル！十代様に攻撃！」

「うわあ、鬼畜だあ……。レイちゃん鬼畜だあ……。」

「畏カード『英雄の盾』！墓地のカード・ウォリアーを除外し、攻撃を無効！」

「甘いよ！僕、弱い人は嫌いなんだ。『スキエルT』で攻撃！『スキエルA』で攻撃！『スキエルC』で攻撃！カードを3枚伏せ、ターンエンド！」

「レイちゃん、時械神はどうしたんだい？」

「サイドデッキと取り換えたのかい？まあ、まだ時械神はデッキに入ってるだろうけど……。どう考えても変わり過ぎだと思っただよなあ……。」

「俺のターン！ドロー！」

「インフェルニティ・デストロイヤー』を対象に、魔法カード『インフェルニティ・エクトプラズマー』を発動！」

「インフェルニティ・デストロイヤー』を生贖にし、デッキから『インフェルニティ・エクトプラズム』を3体特殊召喚！」

「なんかモヤモヤしたのが、神楽坂くんの場合に出てきた……。グロイよ、永理くんの部屋で見たシニールストレミングよりグロイ……。」

あ、今夜夢に出そうだ。最悪だ！不幸だ！ホルアクティOCG化オ  
メ！

「ヒヤーツハツハツハア！2体のエクトプラズムを生贄に『D  
T ナイトメア・ハンド』を召喚！レベル2の『インフェルニティ・  
エクトプラズム』に、レベル10のナイトメア・ハンドをダークチ  
ューニング！

漆黒の帳下りし時、冥府の瞳は開かれる。舞い降りる闇よ！ダーク  
シンクロ！こいつで血の海渡ってもらおうかあ？いでよ！『ワンハ  
ンドレッド・アイ・ドラゴン』！」

うわあ、毎回思うんだけどダークシンクロってさ。なんか素材とな  
ったモンスターが苦しそうな顔してる気が……。  
まあいいか。

「ヒヤーツハツハツハア！リバース暴発動！『針孔の巣窟』！  
デッキからカードを5枚、墓地へ送るぜ！」

墓地へ送られたカードは……デストロイヤーにドワーフ、デス・  
サブマリんにリローダー。そしてアーチャー？聞いた事無いなあ……。  
一体どんな効果なんだろう……。

「バトルだあ！『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』でレイに攻  
撃！この瞬間『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』の効果発動！  
墓地の『インフェルニティ・アーチャー』の効果を得る！

『インフェルニティ・アーチャー』は、手札がゼロの場合直接攻撃  
できるぜ！ヒヤーハハハハハハ！！」

つまり、攻撃力3000の直接攻撃！？チートだ、チート。

「くっ、永続罠『メリットアップ』を発動！相手にカードを2枚ドロウさせるけど、僕の場に存在するモンスターの攻撃力を2000アップさせるよ！」

上手い！神楽坂くんの手札が2枚に増えて、ワンハンドレッド・アイ・ドラゴンは直接攻撃ができなくなる！  
だけど、神楽坂くんが笑ってるのが気になる……。

「甘い、甘い甘い甘い！！宇治金時より甘いぜ！罠カード『インフェルニティ・ヘルフレア』発動！手札を2枚捨て、エンドフェイズまで俺様のモンスターの攻撃力を捨てたモンスターの攻撃力分アップだ！」

俺様が捨てたカードは『インフェルニティ・ネクロマンサー』に『インフェルニティ・ジェネラル』だ！つまり、攻撃力は2700アップ！

あ、また手札がゼロになった……。レイちゃんさようなら。  
……あれ？これ僕、死んだんじゃない？  
だって今まで勝てたの、レイちゃんのおかげだったもん！

「えっ？とっ、罠カード『王国の法律』を発動！このカードを発動したターン、相手は直接攻撃できない！」

ああ、懐かしや王国。まだシンクロとかダークシンクロとかない時代の……。  
でも、ライフが2000は少なすぎるよね！

「ほーお、姑息な手を使うじゃねえか。だったら俺も使わせてもら

うぜー！罨発動！『虚無への誘い』発動！手札がゼロの場合、相手モンスター1体の効果を無効にする！

俺は『スキエルG』を対象にするぜ！ヒャーハハハ！『スキエルA』に攻撃！」

「ま、不味い！罨カード『ツイン・ポルテックス』発動！攻撃対象を『スキエルC』にし『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』を破壊！」

ん？なんで今使ったんだろう？最初から使えば良かったのに……。そうすれば神楽坂くんにドローさせずに済んだのに……。

「ほーお、破壊できたか。流石だなレイ！破壊された『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』の効果発動！デッキから『死者蘇生』を手札に加えるぜ！

『死者蘇生』を発動！墓地の『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』を特殊召喚！ターンエンド！」

うわあ、まるでネフティスみたいだね。

……なんだろう、焼き鳥食べたくなってきた。

「僕のターン！ドロー！」

『真紅眼の黒竜』を生贖に『真紅眼の闇竜』を特殊召喚！魔法カード『テイク・オーバー5』を発動！デッキからカードを5枚、墓地へ送るよ！」

墓地へ送られたカードは、レモンバスターにゼロ・ドラゴン。結束にハウンド・ドラゴン。オレイカルコスだけ……ってええ！？いつの間に居れたんだこのカード！

永理くんか、永理くんたる絶対！

僕は闇の力なんか使わないよ！……真紅眼？ダークネス？気にす

るな！

「更に儀式魔法『高等儀式術』を発動！デッキからレベル3の『片翼の飛龍』に、レベル1の『ゼロ・ドラゴン』を墓地へ送り、『闇竜の黒騎士』を儀式召喚！

そして、『闇竜の黒騎士』を生贄に、『真紅眼の黒竜』をデッキから特殊召喚！更に、『真紅眼の黒竜』を生贄に、『真紅眼の闇竜』を特殊召喚！」

うわあ、これ僕運いいだけだよね今回。

攻撃力5100が2体って、奇跡だ！奇跡以外の何物でもない！ああ、明日どれほどの不幸が降りかかってくるんだろう……。

「バトル！『真紅眼の闇竜』で、『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』に攻撃！ダークネス・ギガ・フレイム！」

真紅眼の攻撃がワンハンドレッド・アイ・ドラゴンに当たる直前、その攻撃が止まった……何故？

「まったく、見てられないぞ神楽坂。畏カード『ヒーロー見参』を発動したのさ。さあ吹雪さん、どれか選ぶがいい！」

どれを選べばいい事やら……。

……よし、一番右に決めた！

「一番右のカードだ！」

「くくく、運が無いなあ吹雪さん。吹雪さんが選んだ右のカードは『E・HEROネクロ・ダークマン』よって、特殊召喚されるぜ！」

バトルフェイズ中にモンスターが減ったり、増えたりすると攻撃の

巻き返しが発生する。十代くんはそれを利用しただと・・・？  
だが、それで攻撃が無効になった訳ではない！この勝負、貰ったよ！

「攻撃を続行！ダークネス・ギガ・フレイム！」

「ぐ、うわあああああ！くつ、破壊された『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』の効果発動！デッキ・・・から『クリッター』を手札に・・・加える・・・！」

「更に闇竜で直接攻撃！ダークネス・ギガ・フレイム！」  
「う、があああああああ！！！！！」

な、何とか勝てた・・・、あとは十代くんだけか・・・。  
そんなにチートカードは使わないから楽に勝てるかな？

「カードを2枚伏せ、ターンエンド！」

「うつ、ヤバいなこれ。俺のターン！ドロー！」

魔法発動『融合』！手札の『E・HEROスパークマン』と『沼地の魔神王』を融合！

『E・HEROフレイム・ウィングマン』を融合召喚！更に魔法カード『テイク・オーバー5』発動！デッキからカードを5枚、墓地へ送るぜ！」

うわあ、墓地へHEROが4枚も落ちたよ・・・。

残り1枚はネクロ・ガードナーだし・・・永理くん並にチートだね。落ち具合も、ドロー運も・・・。

はあ、それを分けてほしいよ。せめて1割は、せめて1割は欲しいよドロー運！

まあ、攻撃力4000じゃ足りないけどね。

「更に魔法カード『テイク・オーバー5』発動！デッキからカードを5枚墓地へ送る！」

ま、また5枚もHEROと名のつくカードを・・・分けてくれドロ  
ー運を！

せめてレモンバスター引いたら一緒にレポートも・・・。  
あつ、今更だけど真紅眼の攻撃力超えた・・・。

「バトル！シャイニング・フレア・ウイングマンで闇竜を攻撃！シ  
ヤイニング・シュート！」

ここで、ここで負けたいんだけど・・・そうはいかないんだよ  
ね！

「畏カード『スキル・サクセサー』発動！十代くんが攻撃対象にし  
た闇竜の攻撃力を400アップさせる！」

「なつ、くっ・・・ターンエンド！」

よし、これで勝った！優勝だ！

レイちゃん、後は任せたよ！

「はあ、永理さんならもつと楽しませてくれるだろうにな。僕の  
ターン！ドロー！」

魔法カード『魂の解放』を発動！墓地の『ネクロ・ガードナー』と  
沼地、フレアにあとは・・・吹雪さんのドラゴン族を適当に除外！」

い、いやがらせかい！？お兄ちゃん泣いちゃうぞ？

あ、明日香、そんな冷めた目で見ないでくれ！お兄ちゃん悲しい！

「これで終わりだよ！『機皇帝スキエル』で十代さんに直接攻撃  
！」

あつ、十代くんの呼び方が変わった……。  
まあいいけど、だって僕には関係ないしね

……誰だ！ が気持ち悪いって言ったやつ誰だ！

『勝者、吹雪&レイちゃん！珍しく吹雪が活躍しました！優勝者にはホルアクティを、そして大会参加者全員に永理家特製カードパックをプレゼント！』

あ、僕も貰えるんだ。何が入ってるかな。

……これどうよ？

オレイカルコスの結果、オレイカルコス・トリトス、オレイカルコス・デウテロス、ラーの翼神竜、混沌帝龍って……。

うん最後のはまあいいとして、最初の奴が……。だってオレイカルコスだよ！？やっぱ永理くんがする事は他の主人公と違うぜ、そこに痺れる憧れない。

レイちゃんは……

「レイちゃん、何が当たった？僕はオレイカルコスの3結果が……」

「ん？僕はオシリス、オベリスク、開闢『邪神ゲー』ヤスシだけど」？

うわあ、レイちゃんのパックも凄いのが大量に……。

「ツシャア！『パワー・ウォール』が3枚当たったぜ！」

「おお、E HERO？聞いた事ないカードだな……。」

「れ、レベル10のドラグニティだと……？」

「あつ、スカルライダー当たった。」

なるほど、それでバック名が混沌と純悪の融合なのか・・・。  
うん、永理くんほど主人公に向いてない主人公っていないよね。

最初らへんまで前書き書いてたの今更だが思い出した。だから今回は書いてみた

うん、永理自重しろ！

永理「永理は妬ましくなると、つい殺っちゃうんだ」

怖っ！笑顔で言うの怖っ！

永理「みんなも一緒に殺ってみようよ。行くよ？オレイカルコスのこと……結果！」

はい、オリカー覧ね。永理やめっ、うん、許可する。そのリア充を粉碎せよ！

『インフェニティ・サイト・ストリーム』  
通常魔法

自分フィールド上にワンハンドレッド・アイ・ドラゴンが存在する場合に発動できる。

分フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を破壊し、相手フィールド上に存在するカード2枚を破壊する。

『ラスト・オブ・ドラゴン』  
レベル12

闇属性

攻撃力：2000

守備力：2000

ドラゴン族：融合

『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』 + 闇属性、戦士族モンスター

1体

このカードは、ミラクルダークシンクロフュージョンでのみ、融合召喚できる。

1ターンに一度、相手モンスターを1体破壊し、そのモンスターの攻撃力の倍分、ダメージを与える。この効果を発動したエンドフェイズ時、このカードを破壊し

このカードの攻撃力分のダメージを受ける。

『E・HEROカード・ウォリアー』

レベル5

地属性

攻撃力：1600

守備力：3000

戦士族：融合

『カードガンナー』+『E・HEROクレイマン』

このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードが破壊され墓地へ送られた時、デッキからカードを2枚ドローする。

『英雄の盾』

通常罫

攻撃宣言時、墓地のHEROと名のついたモンスターをゲームから除外して発動する。

相手モンスターの攻撃を1度だけ、攻撃を無効にする。

『インフェルニティ・エクトプラズマー』

通常魔法

自分フィールドに存在するインフェルニティと名のついたモンスター

1を生贄にして発動する。そのモンスターの攻撃力760に付き、デッキからインフェルニティ・エクトプラズムを特殊召喚する。

『インフェルニティ・エクトプラズム』  
レベル2

闇属性

攻撃力：300

守備力：1500

アンデット族：効果

自分の手札がゼロで、このカードがフィールド上に存在する場合自分のデッキ、または手札からインフェルニティ・エクトプラズムをフィールド上に特殊召喚する事ができる。

『メリットアップ』

自分フィールドに表側表示で存在するモンスターを1体選択して発動する。

そのモンスターの攻撃力をエンドフェイズまで2000ポイントアップさせる。

その後、相手はデッキからカードを2枚ドローする。

『インフェルニティ・ヘルフレア』

通常罫

自分フィールドに表側表示で存在するモンスターを1体選択し、手札のインフェルニティと名のついたカードを2枚捨てて発動する。捨てた手札のモンスターの攻撃力分、対象に選択したモンスターの攻撃力をエンドフェイズまでアップさせる。

『王国の法律』

通常罫

このカードを発動したターン、相手は直接攻撃する事が出来ず、ライフに直接ダメージを与える効果を持つ魔法・罠・効果モンスターの効果を発動することはできない。

『虚無への誘い』

通常罠

自分フィールド上にインフェルニティと名のついたモンスターが表側攻撃表示で存在し、自分の手札が0枚の場合に発動する事ができる。

相手モンスター1体の効果を無効にする。

永理さあ、あのパツクどうなんよ？

永理「ん？対して気にする事無いだろ？地縛神だってTF5ではパツクで手に入ったんだし。」

いや、そうだけどさ。

いつ、この主人公が悪役じゃないと言った……？（前書き）

『アバターと!?!』

『ツインの』

『33話から34話までの経緯的なあらすじ~!』

『前回、十代とかがE HEROを手に入れたりしましたね。』

『してたな。』

『この話は文化祭が終わってからの打ち上げ的な物です!』

『テンション高すぎ引くわ~。』

『まあそんなわけで、今回は永理がまさかのラスボスのフラグを立ててしまいました~!』

『一応主人公だぜ?悪役的永理を見たくない人は、視点明日香あたりで終われば良いと思うよ?』

いつ、この主人公が悪役じゃないと言った……？

視点：バクラ

「あゝ、今日は疲れた。……なあバクラ、よくCMでやってる全米を震撼させたって奴さ。アレぶっちゃけありえないよな。」  
「そうか、とりあえずせんべいは座って食べるよ。」

一体何者なんだこいつ？冥界へ普通に逝けるし、闇のカードとか神のカードとか普通に使うしで。

そもそも俺様を冥界から現世へと連れてきた目的はなんなんだ？いや、また現世でデュエルできる事は嬉しいんだけどさ。

ちなみに、俺様たちが泊まっているのは廃寮。……見た目がちよつとした旅館並だったのは驚いたがな……。  
つつかこつちじゃ、普通に精霊が見えるんだな。驚いたぜ。

「永理さ〜ん、折角だからビンゴゲームしよう！」

「うおおおおつ！！！！？」

レイちゃん、扉を開けるときはノックしようね。そしてゆっくり開けようね。マリクが扉に当たってオベリスクの直接攻撃受けた時みたいになって飛んで逝ったから。  
誤植ではないぜ？

「おう、マリクもバクラも一緒にやるか？」

「別にいいが、あの変な髪形の奴も一緒にやるのか？」

「変な髪形？……ディヴァインの事か？」

「いや、王様の方の……。」

「永理！カード買いに来たぜ！」  
「カード買いに来たんなら俺の寮の方へ行ってくれ。こっちはカードは無い。」

あの十代とかいう奴。なんか純粹すぎて・・・なんか眩しい感じがする。

まあ、ガキは元気が一番だしな。  
つつか永理、テメエは自分の寮で寝れよ。

「ふっふっふ、折角だから怪談でもしようか？」

「その前にビンゴゲームをしようよ！」

「これ、なんて修学旅行？」

「マリク、もう気にしたら負けな気がするぜ。」

正直、俺はもう諦めたよ。

・・・今夜は良い月夜だなあ・・・。

「ビンゴー！」

「思い道理！」

あのさー、一個も当たらないってどうよ？

いやだってさ？あのマリクだってリーチまではあるんだぜ？こっちは掠りもしねーよ！

そもそも俺、一応記憶編のラスボスだけ？それが何？廃寮という名の旅館でビンゴゲームって、ビンゴゲームって・・・。

「つ、次こそは！」

あつ、同族発見。

いやあ、なんか同じ感じの人見てるとなんかアレだな。嬉しい感じになるな。

そもそも何？なんでみんなリーチ連発？パチンコでもすぐろくでも人生ゲームでもこんなにならねえよ！

大体なんだよ、ホルアクテイOCG化するのにゾークがOCG化しないってどうなのさ！あれか？PTAか？ドリラゴ何とかなったから大丈夫だろ！これも俺の不運のせいか？

「ふう、人生ゲームもビンゴゲームもやったし、温泉でも行くか！  
デイヴァインさんよろしくうー！」

「OK！さあみんな、私の周りに集まって。」

？なにをするんだ？

「速攻魔法『緊急テレポート』発動！！」

か、カードが実体化した！？

いや、なんか今更感ある感じだけどさ。

あつ、着いた。

「ちよ、デイヴァイン貴様、知ってやってるだろおおおおおお  
おおおお……」

「あつ、ごめん。」

ああ、アビドスが池の中に……。

つつかあれ、大丈夫か？服のまんまだぞ？溺れるぞ？

「おい王様、あいつ大丈夫なのか？」

「……無理だ……」

諦めたよこいつ!

駄目だこいつ、前までは絆が何とか言ってたのに。

「アドビスさ〜ん、大丈夫ですか〜?」

「レイちゃん、知ってて間違ってる? いやね、おじさんも長年生きてるからそう怒らないけどね。でもさ、そこまで知ってて間違われるとおじさんのガラスのハートが割れちゃうよ?」

「嫌いぞカラボス。」

「永理くん!? それ一文字もあつてないから! 鬼柳さんの勘違いよ間違いってるから!」

「貴様、デュエルしろ! 修正してやる!」

「吠えるなよ若造があ!!!」

おい、温泉浸かりに来たんだろ?なんでデュエルしてんだ?しかも休憩場で・・・。

他の人の迷惑になってしまうぞ〜。

つうかなんでレイちゃん早く風呂に入らないの?もう明日香さん入っちゃってるよ?

つうか翔、何ネットやってんの?何掲示板開いてるの?風呂入れよ!

「ふーはははは、貴様の場に存在するアブソールとガイアを生贄にラヴァ・ゴーレムと特殊召喚!更に手札の『傀儡虫』を捨て、ラヴァ・ゴーレムのコントロールを得る!

ふーははは、ゴーレム・ヴォルケーノ!!!」

「イワーーーーー!!!!!!!!!!」

うわあ、2ターンキル……。これでエンドフェイズにコントロールが元に戻り、1000ダメージで止めとは……。

つうかあれ、マリクのデッキじゃね?どう考えてもマリクのデッキじゃね?

つつかアビドス、早く体拭け。風邪ひくぞ？

つつか何でカード大丈夫なの？前まで普通と思ってたカード手裏剣も、冷静に考えたらおかしいと感じるしさあ。

何？ここまでキャラと夢壊す小説ないだろそんなに。銀魂の二次創作小説よりしつかり銀魂してるよ！いろいろ危ない発言とかもしてるしさあ！

「・・・そろそろ風呂入るか・・・。」

「ああ、そうだな。なんか寒気が・・・。」

「早く入れや！マジで風邪ひくぞ！」

「おい、ちよつと焼きマシユマロしたいから火点けてくれー。」

「じゃあちよつと後ろに下がってくれ。・・・魔法カード『火炎地獄』！」

「ああ、なんか背中が熱い・・・。」

あ、アビドス！？背中が、背中が燃えてるぞ！

「アビドス、燃えてるぞ。」

「ふっふっふ、俺はいつも、心はバーニングさ！」

「いや、物理的に・・・。」

「・・・彘？」

あ、また池に飛びこんだ。

そのあとどうなったかは知らない。何故なら、アビドスが池から上がってくる前に風呂に入ったからだ。

「ひ、広い！！」

「ふっふっふ、これこそがデュエルアカデミア名物、巨大温泉！効能は疲労回復その他、血糖値とかそんなんが改善されるぜ！」

「ずいぶんアバウトな説明だなおい！」

「おお、しゃるが居るぞバキュラ！！アルパカまで！」  
「バキュラ言うな！」

ああ、いい気持ちだなあ本当に……。

丁度いいぐらいの温度、露天風呂という解放感……。おちつく、  
やっぱり一日の閉めは風呂だなあ……。

十代、泳ぐなおい。ディヴァインも泳ぐな、いい大人だから。

「ガーツ、なんか満足できねえぜ！誰か俺とデュエルしろおおお  
！！」

「しゅこししじゅかにしてくれ、風呂くらいゆっくり静かに入りた  
い。」

「つつかアレだ、いきなり猫耳or犬耳の娘が空から降ってこない  
かなあ。」

「ふうん、では覗けばよからう。」

「諸君、死ぬ準備はできてるか？」

「……俺はやめとく。」

「おれしゃまもやめとくぜ。」

あいつが主人公でいいのか？いや、動物好きでデュエルが強いつて  
いう、主人公的な要素はあるんだけど……。性格がなあ……。  
まあ永理も、冗談で言ったみたいだから覗きはしなかったけど。つ  
つかマリク、読みずらいぞ？デュエルターミナルで治ったんじゃな  
かったつけ？

「翔、焼酎無い？」

「んなの学生が持つてるわけないツスよアニキ……。」

「……焼酎ではなく、にがり酒ならあるが？」

「なんで持つてんすか!？」

永理、お前未成年だろ！！

そんな俺の心の声も届かず、永理はディヴァインと一緒に酒飲んでやがる。

・・・常識って、なんだっけ？

視点：翔

ふう、まさか伝説のデュエリストである武藤 遊戯さんと一緒に、風呂に入れるとは・・・。

人生、なにが起こるか分かんないツスね。

さて、掲示板でも見るツスか！

ちなみに、僕が今いる場所は廃寮のパソコン室。1時間500円でご利用が可能ツス。

「え〜つと、デュエリスト掲示板・・・と。」

おっ、なんか面白そうなスレ見つけ、早速覗いてみようつと。  
何々・・・？

スレ題：リスペクト

・・・リスペクト？今のご時世じゃリスペクトなんて何の役にも立たないのに、こんなスレ立てるなんて・・・。  
本文は・・・。

1 名前：校長

最近、生徒がリスペクトデュエルをしなくて困ってます。どうすればいいでしょうか？

2 名前：以下、名無しにかわりましてVIPがお送りします  
知恵袋でやれwww

3 名前：ガツチャ  
んなのどうでもいいからレッド寮直せ馬鹿。

うわあ、アニキぼろ糞言ってるよ。

4 名前：永続満足  
そんな貴方にデブス・アミュレット！これがあればワンキル防止で  
きるぜ！お値段は1枚、2300円か！

高い、いくらなんでも高すぎるよ。

もう、ここまででいつか。十分出番あったし今回。

明日香さんより出番あったし。

視点：明日香

何で覗きに来ないのよ！おかげで出番がこんな最後らへんになっちゃったじゃない！

・・・まさか、皆私に興味ないハードゲイだったり！？いや、それは無いか。

永理はロリコン、亮はババコン？いや、ただ年上が好きだけね。  
あと十代は・・・あの子は純粹すぎて、女性の裸に興味ないのね、  
なんかシヨックだわ。

いやね、でもそういう純粹な人を落とすのもまた通？って奴よ！



視点：永理

『どうだ永理、デュエルエナジーは集まったか？』

「ああ、貴様の頼み道理な……。で、貴様は何が目的なんだ？ 影山。」

『影丸な。……不死の命に決まっておろう。そういう貴様は何が目的だ？』

「さあな。俺にもいろいろ事情があるんだよ影助。」

『いや、だからk』

しつこい、そう思ったので電話を切った。  
ふう、大会も無事に終わったし、実験結果も出たしでいい事尽くめ  
だったな。

おっ、また電話だ。誰からだ？

『永理さん、お久しぶりです。私の事、覚えていますか？』

「・・・何か用か？Z-ONE。」

『いえ、そっちにホセが行ったらしいのでちょっと・・・。』

まあそれは置いて、実験結果はどうでしたか？』

はあ、何かと思ったらそんな事か。面倒な奴だ。

「実験は90%成功・・・ととこだな。

目ヤニや汗、そして影までは創る事は出来なかった。これでは神どころかダニも創ることはできまい。」

『・・・貴方は一体、何を創ろうとしてるのですか？』

「さあ、もしかしたら貴様の望まぬ未来・・・かもしれないな。」

『そうならない事を祈るばかりですよ。何故か私には、貴方の運命を変える事ができませんでしたからね。』

運命・・・か。たしかZ-ONEが言っていた運命、それは死・・・。

その正体は何なのかは分からないが、少なくとも自然死や病死では  
無さそうだな。

まあZ-ONEに話すことはすべて話したな

「Z-ONE、そろそろ通話を切っていいか？また別のところに電  
話しなきゃならないから。」

『はい。あつ、そうそう。プラシドカルチアーノが、貴方から頼まれていた剣が完成したと言ってましたが・・・一体、何を頼んだのですか？』

「時空を切り裂く剣だが？もう切るぞ。」

はあ、面倒な奴だなあいつ。無駄に心配性だからな。

「魂は満ちた。あとは幻魔と神がぶつかりあい、冥界の扉が開く・・・くつくくくははははは、ひやははははははは！これで世界は闇に覆われ、絶望が世界を支配する死霊世界の誕生となるのだ！！

俺が闇の支配者となるのだ！」

「火ヤハハハハハ、相変わらずだな、その野望は、いつまでたっても変わらないか・・・。」

俺の後ろに赤い帽子を深く被ったイエロー生徒、炎祭が居た。いつの間・・・。

しかし、相変わらずの老け顔だな。

「光が闇に勝つことなぞ許されぬ事だ。・・・この世界が創られる前、つまり一番最初に生まれた者は闇だ。すべての創造主であるのは神なぞではない、すべて闇の力だ。あいつら、マリクにバクラもそれから創った。」

「ですが、如何様にして創られたのですかな？私には到底分かりかねますなあ。火ヤハハ・・・。」

「・・・簡単な事だ。ただ雑霊を集め、実態を持たせたに過ぎない。流星に俺も、魂までもゼロから作り出すことはできないからな・・・。」

炎祭が納得したというような顔をしている。少し考えれば分かる事と思うが・・・。

この計画が成功すれば、未来世界からダークシグナーを呼び出す事ができる。ただ、同時にシグナーまでもが生まれてくるのだが・・・それはまあいいだろう。

俺の計画などは、イリアステルでも分かるまい。俺は元々、この世界の魂ではないからな。あの時死んでしまったが、今考えればそれが吉だったのかもな。無数の偶然が重なりあい、俺が転生できた。中々面白い運命ではないか。

（火ヤハハ、この計画が終われば破滅VS霸王・・・か。どっちが勝つてもこの世界は終わりだな。火ヤハハハハハハ！！！！）

「炎祭、今日は良い月夜だな。・・・まるで御姫様でも振ってきそうな。なあ？そのガキ。」

「.....」

ほお、心に闇を持つものか・・・。何の事情があるかは知らんが、ちと遊ぶか.....。

いや、久しぶりに炎祭のデュエルを見るのも悪くない・・・か.....。

「炎祭、遊んでやれ。久々にお前のデュエルを見たくなってな。」

「火火火、了解つと。と、言うわけだ糞ボウズ。おじちゃんと遊んでくれや。火火火アハハ.....火ヤーハハハハハ！！！」

闇の炎がイエロー生徒と炎祭を取り囲む。まるで魂を欲してるかのように。

いやー、闇の炎はいつ見ても綺麗だねえ。それとう同様に、復讐の炎も中々.....。

「貴様に要は無い！僕は永理に復讐しに来た！」

「火ヤハハ.....まあそう言わずさあ、闇のデュエルで遊ぼうや。」

「ッ……、いいだろう。まずは貴様からだ！」

あいつ、よく見たら黄色の悪魔と恐れられている無私櫓じゃねえか？

「デュエル！」

まずは炎祭のターンか、楽しめそうだねえ。

「俺のターン！火ヤハハハハ！」

永続魔法『火薬ビン』を発動！こいつは火または炎と名のついた魔法カードを発動し、貴様のライフに直接ダメージを与えた場合、このカードを墓地へ送り、貴様に900のダメージを与えるぜ！」

ほお、いきなり来るとはな……。炎祭の得意なコンボが。

「『炎獣』を召喚！更に『炎獣』の効果発動！貴様に600のダメージを与えるぜ！そして『火薬ビン』を墓地へ送り、貴様に900のダメージだ！カードを1枚伏せ、ターンエンド！」

炎獣の攻撃力は1980、そう簡単には越えられない。さあどう出る？

「……炎祭、何故貴様が永理などという下種何かに協力してるんだ？僕のターン！ドロー！」

フィールド魔法『伝説の都アトランティス』を発動！『ギガ・ガガギゴ』を攻撃表示で召喚し、バトル！『ギガ・ガガギゴ』で『炎獣』を攻撃！」

ギガ・ガガギゴの攻撃力は2450に200プラスして2650、

このままでは670のダメージを受けてしまうぞ。まあ、少ないが・・・。

「火火火、ダメージ計算時に畏発動『炎壁』を発動！炎族モンスターとの戦闘を無効にし、デッキからカードを3枚ドロー！そして、2枚捨てるぜ！」

ほお、ここで使うか。じゃあ、もう切り札を呼ぶ準備はできてるって訳だ。

しかし、相手も中々やるな。俺たちほどではないが。

まあ、器としては最適だな。

「おい炎祭、アレ使え。」

「火火火、了解。ボウズ、ターンエンドだろ？俺のターン！」

フィールド魔法『世界の終り《始まりの瞬間》』を発動！」

やはり、闇は落ち着くな。これが世界の終り、そして世界の始まり・・・か。

まあ、絶望と狂気だけの世界を俺は望んでいるんだがなあ。

「グッ、体が・・・闇が僕に憑りついてくる・・・。なんだこのフィールド魔法は・・・？」

おやおや苦しそくに。常人にはちと厳しい奴だからな。

あのペガサスが、自身の闇をそのまま具現化させ、そして所有者を絶望の闇へと葬り去ると噂されているカード。

そして同時に、願いが叶うとも言われているが・・・真偽は定かではない。

「火火火、すぐに楽にしてやるよ。魔法カード『悪夢の施し』を発

動！デッキからカードを4枚ドロし、5枚捨てる……。  
墓地に存在する炎と名のつくモンスター『炎獣』『炎鳥』『炎邪』  
『炎帝テスタロス』『炎を支配する者』『怨念の魂業火』『炎の精  
霊イフリート』『炎龍』を除外し、俺の切り札を召喚させてもらっ  
ぜ！出でよ『炎邪神ラブリミス』！！」

来た、炎祭の切り札。ここまで早く呼び出すとはな……。  
こいつを出そうと思ったたら大変だからな、俺は出した事が無い。  
しっかし、除外対象に水族無いのになんで左手に水晶なんだろう？  
まあ、気にする事無いがな。

「な……。だが、たかが攻撃力2400！僕の攻撃力2450の  
『ギガ・ガガギゴ』には敵わない！」

「火火火、若造が！『炎邪神ラブリミス』の効果発動！貴様の場に  
存在するモンスターを破壊し、元々の攻撃力の半分のダメージを相  
手に与えるぜ！もっともこの効果を発動するターン、俺は攻撃がで  
きないがな。」

そう、ギガ・ガガギゴの元々の攻撃力は2450……。つまり半分  
の1225のダメージか……。  
アイツだけは相手にしたくないねえ。召喚条件の難しいモンスター  
をこつとも簡単に呼び出すとはな。

「火火火、ターンエンド！」

あーあ、手札がもう無いや。頼みの綱は、除外された炎鳥だけか。  
。。。  
結構アイツ、手札早く減らすなあ。。。

「グッ、僕のターン！」

（手札が悪い。あいつにカードを引かせるのは危険すぎるが、仕方ないか。）魔法カード『天よりの宝札』発動！互いにデッキから、手札が6枚になるようにドローする。僕の手札は3枚、つまり3枚ドロー！」

「火火火、賭けに出たか。なら俺は6枚ドローさせてもらっぜ！」

ほう、手札が事故ってたか。

だがいいのか？炎祭の手札が6枚、敵に塩を送るようなもんじゃねえか。

「魔法カード『手札抹殺』を発動！互いに手札を全て捨て、捨てた枚数分ドロー！」

「火火火、いいのか？俺の墓地を肥やすもんだぞ？」

「（来た！）魔法カード『サイクロン』発動！『世界の終り』を破壊！」

世界の終りを破壊したか。やはり、未知のカードは早めに潰す……。それが人間の弱さ。そのカードが破壊された時に、炎祭のデッキに眠る最強のモンスターが出る。

「火火火『世界の終り』が破壊され、墓地へ送られた時にデッキからこいつを特殊召喚する。『心縛神Chinpakyu』を特殊召喚！」

心縛神Chinpakyu、ケチュア語で感染、伝染という意味。つまりその効果は……。

「ッ、カードを3枚伏せ、モンスターをセット！ターンエンド！」

ほお、カードを3枚も伏せるとは……。恐らく、炎祭の手札にはサ

イクロン系のカードが来てる筈……。まあ、大嵐かもしれないが。

「火ヤーハツハツハツハ！攻めてこなきゃ勝てねえぜ？俺のターン！魔法カード『フレイム・サイクロン』を発動！手札を2枚捨て、貴様の場の魔法・罫カードを2枚破壊！墓地の『炎鳥』の効果発動！除外されたこのカードを墓地へ戻し、デッキからカードを2枚ドロ！！」

更に墓地の『炎人』の効果発動！墓地のこのカードを除外し、手札の炎と名のついたモンスターを特殊召喚できる！手札の『炎神』と『炎車輪』を特殊召喚！」

ほお、1ターンでここまで展開できるとは、流石だな炎祭。そっぴや、Chinpakyuの効果つてどんなだっけ？

「火火火……。『心縛神Chinpakyu』の効果、俺の場のモンスターを2体破壊し、貴様のモンスターを全て破壊する！そして俺はカードを1枚ドロするぜ！そして魔法カード『炎神の導き』を発動！手札を全て捨て、その枚数×700のダメージを与えるぜ！俺の手札は6枚！つまり貴様に4200のダメージだ！」

恐らく、オーバーキルをしようとしてるんだろう。

「火火火、俺の勝ちだな！さあ、闇に飲まれてもらうぜ？火火火火火火……。火ヤーハツハツハツハツハツハツハ！！」

「な、く、来るな！うわああああああ！！！！」

無私櫓に黒いスライム擬きが纏わりつき、闇に飲まれていった。少々物足りなかったな。炎祭、少しは長引かせてくれよ。

「生贄は多いに越したことはない。よくやったな炎祭。」

「火火火、アイツじゃ弱すぎるんだがなあ……。もう少しマシな生贄候補は居ねえのかよ？」

「それなりの実力がある奴は、俺の周りに漂っているこいつ等のための器。または闇のカードを渡し、生贄をそろえるための尖兵として扱えるからな……。生贄はその程度の実力で十分だ。」

まあ実際、十代とかレイには負けるが……。

「おい永理、携帯鳴ってるぞ？」

一体誰からだ？

……。ホセからか、なんか、アイツ等と話すの久々な気がするな。折角だから出るか。

「はいもしもし？」

『おゝわしわし、わしだつて。』

「……。わしわし詐欺か？」

『えっ、面白くなかった？』

「思い切り。」

アイツが冗談を言うなんてな……。珍しい。

しかし、さっきから虫が鬱陶しいな。だから夏は嫌なんだよ……。

『酷い、あつそうそう。頼まれていた剣出せ。』ちよ、プラシド何スカーレット出してんだよ！お前シンク口嫌いだったろ！？』『勝つためなら手段なぞ選ばん！』……。お主等……。』

「そうか、ありがとう。んじゃ俺、そろそろ寝るから切るぞ？」

そう言い、俺は携帯を切った。あつ、メールだ。誰からだ？

・・・クロノス先生から？何故？

いやだってそこまで親しくしてないし、つつか学生を飲み会に誘うなよ！

いや、酒はいけるけどさ。酒売ったりしてるけどさ。

「じゃあ炎祭、俺今から飲みに行くから。じゃあな。」

「・・・あんた学生だろ？」

炎祭、小さい事気にしてるから留年してしまうんだぞ。

いつ、この主人公が悪役じゃないと言った・・・？（後書き）

うん、中々の悪役ぶりだな永理。褒めてつかわそう。

永理「D A M A R E！」

では、オリカ紹介！ああ、猫が欲しい。

『火薬ビン』

永続魔法

火または炎と名のついた魔法カードを発動し相手のライフに直接ダメージを与えた場合、このカードを墓地へ送り、相手にに900のダメージを与える。

『炎獣』

レベル4

炎属性

攻撃力：1980

守備力：0

獣族：効果

1ターンに一度、相手ライフに600のダメージを与える。この効果を発動するターン、自分は攻撃宣言ができない。

『炎壁』

通常罫

自分フィールドに表側攻撃表示で存在する炎属性モンスターが攻撃対象に選択された時に発動する。炎族モンスターの破壊と戦闘ダメ

ージを無効にし、デッキからカードを3枚ドロウし、そして2枚捨てる。

『世界の終り、《 始まりの瞬間》』  
フィールド魔法

自分フィールドに存在する神と名のついたモンスターの攻撃力を500アップさせる。

このカードが破壊され墓地へ送られた時、デッキから心縛神と名のついたモンスターを特殊召喚する。

『炎鳥』

レベル3

炎属性

攻撃力：1400

守備力：1100

鳥獣族：効果

除外されいるこのカードを墓地へ戻し、デッキからカードを2枚ドロウできる。

この効果は3ターンに一度しか使用できない。

『炎邪』

レベル4

炎属性

攻撃力：2000

守備力：0

悪魔族：効果

このカードは、墓地のカードを1枚除外しなければ攻撃できない。

『炎邪神ラブリミス』

レベル9

攻撃力：2400

守備力：1300

幻獣神族：効果

このカードは通常召喚できない。墓地の炎と名のついたモンスターを8枚除外してのみ、特殊召喚できる。

1ターンに一度、相手の場に存在するモンスターを破壊し元々の攻撃力の半分のダメージを相手に与える。この効果を発動するターン、自分は攻撃宣言ができない。

『心縛神Chinpakyu』

レベル10

神属性

攻撃力：2800

守備力：2300

炎族：効果

このカードは通常召喚できない。終わりの始まりの効果でのみ特殊召喚できる。

自分フィールドに表側表示で存在する場のモンスターを2体破壊し、相手のモンスターを全て破壊し、デッキからカードを1枚ドロースする。

『フレイム・サイクロン』

通常魔法

手札を2枚捨て、相手の場に存在する魔法・罫カードを2枚まで破壊する。

『炎人』

レベル2

炎属性

攻撃力：1000

守備力：2500

炎族：効果

墓地に存在するこのカードを除外し、手札の炎と名のついたモンスターを特殊召喚できる。

『炎神』

レベル7

炎属性

攻撃力：2600

守備力：1700

幻獣神族

かつて幾多の村々を燃やし尽くしたといわれる邪神。その業火は、地獄の炎をも焼き尽くすと言われている。

『炎車輪』

レベル6

炎属性

攻撃力：1900

守備力：1900

機械族：効果

このカードを手札から墓地へ送り、デッキから炎車輪を2枚まで手札に加える事ができる。

『炎神の導き』

通常魔法

自分の手札を全て捨て、捨てた枚数×700のダメージを相手に与える。

ああ、アニメの世界に行きたい。

永理「・・・無理だろ？」

ああ！ぶつちやけ人見知り激しいんだよ俺。だから見知らぬ人とデユエルなんて、大会でしかできないぜ？

永理「いっつも1回戦で敗退してるけどなお前。」

・・・仕方ないだろ、ブリュ持ってないんだから！

どうしてこうまでキャラが安定しないのが気になる。(前書き)

オーバー「オーバーと……」

エンド「エンドのお？」

「『前回のあらすじ……みたいなの？』」

オーバー「前回、永理と炎祭が闇のデュエルで……悪役道まっしぐらであったが……今回の話ではいつものほのぼののルート……」

エンド「『ついに出てきた光雄、じゃなくてボーイ。原作道理あの人と対戦。』」

まさかの永理にヒロイン登場か？」

オーバー「ちなみに……私の性別は女性……。あと、藍って子出てた気が……」

エンド「……それでは、本編スタートです。」

どうしてこうまでキャラが安定しないのが気になる。

視点：永理

ああ、昨日は飲み過ぎた……。流石に5杯も一気飲みはするもんじゃねえな……。

あつ、なんか足元が温かいような……。？猫か、そういえばキャットフード何処へ置いたっけ？

あつたあつた、ほらたんとお食べ。

「……。何やってんですか？教祖様。」

「猫に餌やってんだよ。」

「火火火……。まあ、俺も好きですがね。所で、影丸さんがお呼びですぜ？」

……。一体何の用だあのおっさん、こっちは二日酔いで辛いつてのに……。

あゝ、なんでこんなに飲んでしまったのかねえ。本当に。マジでヤバい、吐き気がする。頭痛い。

「……。炎祭、今日は断っておいてくれ。頭が……。」

「御意に……。火火火。」

「なあ炎祭、今日って何曜だっけ？」

「今日は……。たしか月曜ですね。」

……。は？たしか学園祭があったのは土曜、つまり2日も寝てたと。

・・・?

レイちゃんとは姉貴をお見送りできなかったorz

「あ、そうそう。瑠璃さんから荷物が……。たしかこk「月影  
永理さんですね？」人の台詞遮って楽しいか姉ちゃん？」「……  
すみません。」

何処から出したそのダンボール箱！つと、ツツコミを入れたいが客  
が居るのでやめとこつ。

この貧乳、あの眼鏡は……。原 麗華さんか？

「今、貧乳って考えてませんでしたか……。？」

「イエ、メツソウモゴザイマセン。」

「はあ、まあいいでしょう……。制服着なくても授業中に寝てて  
もいいから授業に来てなノ〜ネ！……。と、クロノス先生から伝言  
がきてr……。私の話聞いてます!？」

「ちょ、大声出さんという頭が……。？」

「だ、大丈夫ですか？」

「大丈夫、ただの二日酔いだから……。？」

「貴方学生でしょ!？」

何を今頃言ってるんだ？最近じゃ小学生だって酒飲むんだぜ？甘酒  
だけど……。？」

ああヤバイ、なんか吐きそう。なんであんなにも飲んだんだ俺？あ  
つ、ちよつとマシになってきた。

ああ、こんな事なら一昨日炎祭の闇のゲームなんて見ないで寝とく  
んだつた。

「……。まあとりあえず、アカデミアには行ってもらいますからね  
！しっかり制服を着てね。」

制服・・・か。そういえばどこやったつけ？最後に着たのはたしか・・・ああ！

そついや制服にラーメンの汁溢してクリーニングに出したんだった！

「ごめん、制服がちよつと・・・。炎祭、なんとかなんねえかな？」

「俺の制服なら1着余ってますけど、あんたレッド生徒だからなあ・・・。もう制服無しで行っちゃえばいいんじゃないっすか？」

んな殺生な！

「はあ、そつちがその気なら、デュエルです！私が勝ったらしつかり制服着てアカデミアに行ってもらいますからね！」

「俺が勝つたら？」

「その時は私服でアカデミアに行ってもらいます！」

それってどちらにせよ同じじゃねえか！

まあいいや、久々に授業を真面目に受けるつてのもいいな・・・制服無いから真面目じゃねえか。

そついや、あの箱何が入ってるんだ？なんか声が聞こえるんだが・・・まさかアレじゃないよな！

「デュエルです！」「デュエル・・・。」

おい炎祭、他人事と思って何ネットゲやってんだ！

「ネットゲじゃないっす、シュミレーションゲームっす！」

てめいつか消す！

ちなみに俺は紳士ではなくただの悪役なのでレディーファーストと

か知らない。

「俺のターン！ドロー！」

カードを2枚伏せ、魔法カード『愚かな埋葬』を発動！デッキから『マテリアルドラゴン』を墓地へ送る！ターンエンド！」

手札に下級モンスターが居ないんだよコンチクショウ！

いやまあ、伏せたカードはリビングデッドの呼び声だからいいけどね。・・・除去使われたら悲惨な事になるよ・・・。

「ガンバレー教祖サマー。あつ、あつたあつたマリオくん6巻。」

ため炎祭何読んでんだゴラ、こっちは手札事故で困ってたんだぞ！？ああ、もつと思いやりのある幹部が欲しい。

「私のターン！ドロー！」

魔法カード『火炎地獄』を発動！相手に1000のダメージを与えます！」

「永続罫『リビングデッドの呼び声』発動！墓地の『マテリアルドラゴン』を蘇生させる！」

ふう、これでライフ1000回復つと、ラッキー。

「くっ、モンスターを伏せてターンエンド！」

よかった、カードとか伏せられなくて本当によかった！もし伏せられていたら怖くて攻撃できなかつたよ。

だって俺チキンだもん！

「俺のターン！ドロー！」

『マッド・デーモン』を召喚し、バトル！『マッド・デーモン』で  
守備モンスターを攻撃！」

「伏せモンスターは『マシユマロン』！このカードは戦闘では破壊  
されません！」

「だが『マッド・デーモン』は貫通能力を持っている。1300の  
ダメージを受けてもらっぜ！」

ふう、マシユマロンの効果でライフを1000回復できた。さて、  
このカードを伏せてっ。

「カードを伏せ、ターンエンド！」

「私のターン！ドロー！」

魔法カード『サイクロン』を発動！貴方の場に存在する永続罫『リ  
ビングデッドの呼び声』を破壊！」

うわあ、これはヤバいぞ？相手はフルバーン、俺のライフはすぐに  
消えてしまっだろう。

だが、もし相手が攻撃してきたらマッド・デーモンは守備表示にな  
って少しは耐えられるはず！

「永続魔法『悪夢の拷問部屋』を発動！そして私は魔法カード『昼  
夜の大火事』を発動！相手に800のダメージを与えます！更に永  
続魔法『悪夢の拷問部屋』の効果で、相手に300の追加ダメージ！  
そしてそれにチェーンして速攻魔法『連鎖爆撃』を発動！このカー  
ドの発動時に積まれているチェーン数×400ポイントダメージを  
相手ライフに与えます！」

このカードの発動時に積まれているチェーン数は3！つまり120  
0のダメージです！」

うわあ、いきなり2400もダメージ受けたよ。つつか相手、もう

手札が1枚だけだよ？どうするの？  
まさかの手札補充とかないよね！

「魔法カード『命削りの宝札』を発動します！自分の手札が5枚になるようにドローします！ただし、5ターン後のスタンバイフェイズに全て捨てる事になりますが・・・。

魔法カード『火炎地獄』を発動！相手に1000のダメージを与えます！更に『悪夢の拷問部屋』の効果で、相手に300のダメージです！これでターンエンドです！」

残りライフが1100ってどうなの？むっちゃギリギリなんだけど？制服クリーニング出してるんだけど？

「俺のターン！ど」  
「すいませ〜ん、永理君居ますか〜？」  
「あ、はい。ちよつと待っててくれ原 麗華さん。」

あつ、翔か。一体何の用だ？

「せいへ」  
「よつしゃナイスだ翔！原さんちよつと待っててくれ。すぐ着替えるから！」  
「台詞遮らないでほしいッス・・・。」

俺は翔から制服を受け取り、マリオも真つ青な勢いでトイレに駆け込んだ。

ぶつちやけソニック超えた気がするが別にそんな事無かったぜ！

「うし、アカデミアに行くぞ少年少女諸君！」

「そういえば、たん・・・鮫島校長が後で校長室に来いと言った気がするッス。」

おい、今狸って言ってなかったか？アイツ一応校長でサイバー流の

師範なんだぞ？  
カイザーより弱いけどな。

「所で、後ろに居るこd「誰が子供だ！」骨が、骨が折れる！ギブギブギブ！」

いつの間にか赤い髪の少年、ルチアーノが居た。つうかいつの間に・・・。  
ちなみに、過去形なのは今、翔にウォーズマンのあれをしているからである。

あれって何かって？パロ・スペシャルだよ言わせんな恥ずかしい。

「あの、あの子誰ですか？」

「ルチアーノ、一応デュエリストだ。」

「一応って何!？」

「あ、なんか腕の感覚が・・・。」

ルチアーノ、もうやめとけ。冗談抜きでヤバいって。

「で、一体何の用だルチアーノ。あと下っ端はどうした？」

「下っ端はたしか、ジャンプ買に行くって言ってたよ。T O L O V Eるを見たいからって。」

おい下っ端、何買いに行ってたんだ貴様。シグナーとの決着はどうした？

つうか炎祭、何アカデミアに行こうとしてんだ置いてくな。

「じゃ、後はよろしくお願いします教祖様。」

「に、逃げんなー!！」

うわあ、ダッシュで駆けて行ったよあいつ。ほんと思いやりのある部下が欲しいよ全く！

つつか何これ、なんか埃ついてんだけど！？あいつ適当にやったら絶対！

「で、何の用だルチアーノ。」

「頼まれていた剣にあと、ぷらす、下っ端がこれも渡しとけて。」

これって、クロスハンター！？あいつ手作りで単行本作りやがったな！？

要らねえよこんなの！あいつ要らないやつ俺に押し付けただけだろ！？

「あー、あと……。」

「ん？」

ものっすごい嫌な予感が……。

「僕もアカデミアに行きたいな！」

やっぱりな！どうせそんな事だろうと思ったぜ！

あ、そういえば頭痛がちょっとマシになってきてるような……。

「うし、じゃあ行くか！」

「あの、生徒でないものがアカデミアに通うってのはちょっと……。」

「大丈夫！あの禿げ狸にはもう言っただけだし！」

「……いつの間に……。」

ふーはは、そこは大人の事情ってやつよ少年少女諸君！

視点：十代

俺は今日、久しぶりに制服を着た永理を見た。なんかラッキーな気分だったなあ……。

そついや、なんか校長室が騒がしいな。誰か居るのか？

まあいいか。つつかアバター、朝からドローパン3個も食うなよ！  
なんでそんなに食ってんだ？朝飯食べるよ！

誰に言ってるかって？ディスプレイの前の諸君に決まってるじゃないか言わせんな恥ずかしい。

そついや、あの赤髪の奴、誰だろ？

「ヒャーハツハツハア！どうしたどうした十代、朝っぱらから時化した顔しやがって？恋の悩みか？」

「恋！？それなら僕の出番だね十代くん！」

相変わらずハイテンションだな神楽坂。あと吹雪さん、何処で買ったんですかその仮面。

「これかい？なんか永理くんから貰ったんだ。中々似合ってるだろ？」

「はいそうですねー（棒）」

ぶっちゃけどうでもいいんですけど。

つつかさつきから何やってんだあの白い服の人。

なんか右眼が機械っぽいんだが……気のせいかな？

「あ、これとこれ。あとあのパックを2パックください。」

「・・・何をしておるのだブラシド・・・。」

「・・・まさか、パラドックス!?なんでここに・・・?。」

「ふむ、未来を変えるにも金が必要なのだ。だからここでバイトをな。」

なんかいろいろあるっぽいぞアイツ等。

そっぴや、まだジャンプ買ってなかったな。スケッチダンス見たいから買うか。

「すいませーん、ジャンプください。」

「え、はい。ちょっと待つとれブラシド、すぐにお前の分も持つてくる。」

まだか?クロノスの授業の時に読もうと思ってんだが・・・。

「これだろ?。」

これ、ビジネスジャンプじゃねえか!親でもこんな間違い起こさねえよ!

つつかこれ未成年に売っちゃ駄目なやつだろ!?

「おい、これビジネスジャンプじゃねえか!親でもこんな間違い起こさねえよ!。」

「すまぬすまぬ、ちょっとふざけただけだ。ほれ。」

「ふざけるな!。」

つたく、最近の若い者は・・・。

まあそんな事があり、今校長室に居ます。

「・・・相変わらず煩い場所だなこゝ。」

「つつか展開速すぎワロタｗｗ」

「それは言うな十代。」

「キーシツシツシツシ！そこは慣れだぜ？」

「おい、俺のいちご盗ったの誰だ！」

「いや、お前のだったの？残してたからてつきり嫌いだと・・・。」

「俺は好きなものは最後に食べる派だ！貴様をデュエルで成敗してくれる！」

うわあ、なんか色々とかオスだ本当に。

つつかアレヤバクね？あの麻雀ヤバクね？むっちゃ好みの女性だひやっふおおおおお！！

なあ明日香、隅っこでゲームウオッチやってないでさ、俺と一緒にデュエルでもやろうぜ！

「おい校長、この白服は誰だ？」

「白服ではない、恋の大泥棒ボーイだ！」

何々、光雄？なんちゅう普通な名前や。

ちなみに、今見てるのは校長室前で拾った船の免許だ・・・光雄しか書いてないのだが、これが名字か？いや、それは無いよな。

あと明日香、なんか目が怖いんだけど。なんか目の白い部分が赤くなってる気がするんだけど！？

「一体何の用なの光雄！スカーフでも返しに来たのかしら？」

「光雄ではなくボーイと呼んでもらいたい！・・・ふふ、少しばかりセブンスターズと戦いたくなってね。正義の血が騒ぐ・・・とでも言っておこうか。」

「もうセブンスターズは全部倒したぞ光雄。」

「ぶっちゃけ来るの遅すぎっす光雄君。」

「だから光雄ではない！ボーイだ！」

うわあ、翔と永理言いたい放題だな。

そういえば、今日キャベツの特売日なんだよなあ。今日はお好み焼きにでもするか。ハネクリボーの好物だしな。

「そういえば、私のスカーフ盗んだの貴方だったわよね？殺すわよ？」

明日香が、明日香が怖いです。久々の出番なのに……。

ほら、万丈目も震えてるし、その殺気をなんとかしてくれ！

つつかスカーフ一枚ぐらいいいだる別に！そのくらいでそこまでの殺気出すのやめてもらえるかホントつつかやめてください明日香様！

「久々のデュエルよ、楽しませて頂戴！」

「えっ、これ俺がやらなきゃ駄目……なのか……？」

「まあ、そうだな。頑張れ光雄。死なないようにな……。」

「死なないようにって何！？凄く怖いんだけど!？」

うつわあ、なんか黒い炎があたりを覆ってるような気が……。

気のせい？いや、気のせいじゃないよねあれ！絶対ダークシグナーのあれだよね！

「デュエルよ!」「でゆ、デュエル……。」

あ、永理がむずかしいでフルコン出した。凄い……。

「これ、飲む？」

「あ、ああ。」

赤髪の少年が俺にペットボトルをくれた。

良い子だ、本当に良い子だよあの子。何々、ペプシ・・・紫蘇!?  
どんな味だよ紫蘇味って、ために飲んでみた。

・・・結論、大分と不味い!!!  
ぶつちやけペプシに紫蘇入れる意味がわからないよ!

「先行はあげるわ。さあ、楽しませなさい!」

「お、俺のターン!ドロー!

永続魔法『セカンド・チャンス』を発動!そして『ギャンブル天使  
バニー』を召喚!」

きよ、巨乳だと!?

あとどうでもいいけどここ校長室だから。デュエルはデュエルフイ  
ールドでやれやって思った俺は悪くないと思いました。あれ、作文  
!?

「『ギャンブル天使バニー』の効果発動!1ターンに一度だけ、自  
分のメインフェイズに発動できる。コイントスで裏表を当て当たっ  
た場合、相手に1000ポイントのダメージを与える効果、そして  
ハズレの場合、自分は1000ポイントのダメージを受ける。  
さあ、運命のコイントス!」

出た目は裏、つまり光雄に1000のダメージだな。どうせギャン  
ブルデッキ使うならもつといいバーンダメージカードがあったらう  
に・・・。  
つうか絶対火炎地獄のほうがいいぞ?

「だが『セカンド・チャンス』の効果でもう一度だ!」

セカンド・チャンスの効果、それはコイントスをやり直すという効  
果。

ぶつちやけこんな効果を持った魔法カードとか遊戯王だけだよね。  
で、光雄がコイントスして出た結果が表、つまり明日香に1000  
ものダメージだ。

「カードを伏せ、ターンエンド！」

「私のターン！ドロー！」

「はあ、その程度なのね。ガツカリよ。」

「何？」

明日香さん、どういう事でしょうか。

つつか目、目が怖いよ！その目でそんなこと言われたら相手、怯ん  
じゃうぞたぶん。

「どういう事だ？俺のデュエルタクティクスは完璧なはずだ。少な  
くともこのアカデミア生徒には負ける事は無い！」

「それはどうかしら？『極星天ヴァルキュリア』を召喚！そして『  
極星天ヴァルキュリア』のモンスター効果、発動！」

このカードが召喚に成功した時、相手フィールド上にモンスターが  
存在し、自分フィールド上にこのカード以外のカードが存在しない  
場合手札の極星と名のついたモンスター2体をゲームから除外して  
発動する事ができるわ！

自分フィールド上に『エインヘリアル・トークン』2体を守備表示  
で特殊召喚！そしてレベル4の『エインヘリアル・トークン』2体  
にレベル2『極星天ヴァルキュリア』をチューニング！

北辰の空にありて、全知全能を司る王よ！今こそ、星界の神々を束  
ね、その威光を示せ！！シンクロ召喚！天地神明を統べよ、最高神  
『極神聖帝オーデイン』！」

1ターン目から攻撃力4000って、明日香やり過ぎだ。

ほら、光雄君も怯えてるではないか。やめたげてよオ！

つつかあのおっさんひげ凄いぞおい！髪の毛の長いし、男なら短く  
だろ！

俺？俺はいいの。

「『極神聖帝オーデイン』の効果、インフルエンス・オブ・ルーン！  
バトルよ！さあオーデインよ、その力を悪しき女に裁きの鉄槌を振  
り下ろせ！ヘヴンズジャッジメント！」

「永続罫『モンスターBOX』！相手モンスターの攻撃宣言時、コ  
イントスを1回払い裏表を当て、当たった場合その攻撃モンスター  
の攻撃力はバトルフェイズ終了時まで0にする！」

「無駄よ、オーデインに魔法・罫は効かないわ！」

うわあ、オーデインの雷がギャンブル天使バニーに落ちて、まるで  
アニメさながらの黒焦げになって消えて逝った。

ああ、昔こんなのあったなあ。

「カードを2枚伏せ、ターンエンドよ。貴方のラストターン、私を  
楽しませなさい！」

うん、これ絶対逆転無理だろ。

だって自己再生能力を持った攻撃力4000のモンスターだぜ？ト  
リシュで除外？ブリュでバウンス？

・・・アイツ等は別だ。

「俺のターン！ドロー！」

この瞬間『モンスターB X』の効果！俺はこのカードを破壊する！  
『時の魔術師』を召喚！そして『時の魔術師』の効果！タイム・ル  
ーレット！」

結果は裏、だがセカンド・チャンスの効果でもう一度コイントスを

し、見事表を出しやがった。

つまり、オーディンが破壊され2000ものダメージを受ける事になる。蘇生できるけど。

このターンで決めなきゃ光雄のライフはすぐにゼロになってしまうぞ。

「魔法カード『融合』発動！場の『時の魔術師』と、手札の『ベビードラゴン』を融合！

『千年竜』を融合召喚！」

普通、ギャンブルデッキに融合は入れないと思う。

ご都合主義ってやつか？

「バトル！『千年竜』で明日香に直接攻撃！サウザンド・ノーズ・ブレス！」

「畏カード『ドレインシールド』！攻撃を無効にし、ライフを2400回復！」

「くっ、ターンエンドだ！」

「貴方のエンドフェイズ時、墓地の『極星聖帝オーディン』は墓地のチューナーを糧に復活する！」

永理、せめて見といてやれ。なにムシキングやってんだ懐かしいなおい。

そっぴや、何ぼ金つき込んだっけ？流石にやり過ぎたなあ……。つうかオーディン、なんか疲れてるぞ？

「私のターン！ドロー！」

光雄の場に『極星邪龍ヨルムンガンド』と『極星邪狼フェンリル』を特殊召喚！」

相手の場に何故攻撃力3000と攻撃力4000のモンスターを特殊召喚するんだ？

あれか？破壊されたら大ダメージを与えるとかそういう効果か？

「私はこれでターンエンドよ！」

「一体何を考えてるんだ明日香、俺のターン！ドロー！」

「スタンバイフェイズ時『極星邪狼フェンリル』の効果、場のモンスターを表示形式を変更する！」

そして『極星邪龍ヨルムンガンド』の効果！このカードが守備表示から攻撃表示に変更された時、貴方に3000のダメージを与える！」

「へ？うわあああああああ！！！」

うっわあ、完璧にやり過ぎだ。

つつかこれ、痛みを現実に与える闇のデュエル・・・じゃなかったな。あれは幻覚だったのか？

いや、でも確かに見たんだ！なんか闇の炎が、炎が・・・。

「明日香君、君やり過ぎだよ。」

「ふふふ。さあ、スカーフを返してもらおうよ。」

「ちっ、好きにしる。・・・好きだった子のスカーフ、どうしても欲しくってさ。」

「ねえ永理く、この相手強すぎない？」

「ちよっと弄ってるからな。」

「・・・話聞けよおい！」

うっわあ、光雄マジドンマイ。

まあ俺じゃないからどうでもいいがな！

「っ、次あった時はこうは行かぬぞ、次こそは俺が勝つ！さらばだ

「！」  
「つりゃあ！」

赤髪の子が投げたペプシネックス（紫蘇）を光雄が踏み、派手にこけた。

赤髪の子が爆笑しているよ。どうなのそれ。ドSなのあれ。

つつかオチは！？オチはどこ行ったおい！？

「オチたじゃん、僕が投げたペプシ（紫蘇）で。4コマ漫画でいう起承転結の結・・・みたいな。」

「遊星強すぎる。なんだよあれ、なんでシューティング・クエーサーが1ターンで出てくるんだよ。冗談じゃねえよ。」

あのフードを被った青年がなんか愚痴ってる。手にはPSPを持って。

うっわあ、全くオチてねえ。

どうしてここまでキャラが安定しないのが気になる。(後書き)

オリカ使わなくても十分強いよ明日香さん。

永理「おお、怖い怖い。」

光雄ドンマイだな本当に。あと永理、凄いなお前フルコンとか。俺なんか簡単でやっとフルコンなのにさあ！

永理「いや、そんな事言われても……。」

さて、折角なのでアニメ風に次回予告よろしく！

永理「な、いきなりだなおい！

・・・俺がエロゲをやってる時に現れた3幻魔、影丸は精霊の力を吸い取るために精霊を持つ俺と十代とのタッグデュエルを申し込んできた。久々に登場したあのキャラまで出てきたが、ぶっちゃけ忘れてましたすいませんだ。

はたして影丸の運命は、そしてプラシドは無事、？ジャンプを入手する事が出来るだろうか。次回なにかが違うGXと3邪神、タッグデュエルでのイレイザーはガチカード。お楽しみに・・・こんなでいいか？」

OKOK、上出来だ少年。

さて久しぶりに、プロフィールが見たい、部屋の構造が見たい、何処が違うかわからないって人は感想欄にそう書いて、5人以上で書くと思う・・・あくまでも思うだけでその日のやる気とかによる。

あとオリキャラも募集中。感想欄に見た目、性格、使用デッキ、性

別などを書いてくれ。ただ、俺の文才や気分でキャラが崩壊したりするぜ。

あと、使用デッキも出来れば書いてくれ。ただ、性格などと同じように変更などがあつたりするかもしれないからな。で、もしデッキや性格、見た目などは書いてなかった場合、作者が勝手に決めたりする。ただ、書いてたとしても変更とかもあり得るぜ。

ふう、久々だなあれ。

永理「お前忘れすぎだぞ。」

タッグデュエルでのイレイザーはガチカード。(前書き)

『ツインと?』

『ドレッドの……。』

『前書き……みたいなの?』

『なんかテンション低いぞドレッド! まあいいが、前回、イリアス  
テル達が何故か永理の家に転がり込んだ』

『下っ端TF6やってたな。』

『まあそれは置いて、光雄と戦った明日香、ぶつちやけ遊んで  
たようにしか見えない。まるで、死にかけの動物を虐める子供のよ  
うに……。』

『そのたとえどうなの? では、本編をお楽しみください。』

『ぶつちやけ、前回の話見た方が早かったりするぜ! これ見てるよ  
りな!』

『ぶつちやけるな!』

タッグデュエルでのイレイザーはガチカード。

『どうしたどうしたア？その程度で終わりかア？』

『闇と闇重なりし時、冥府の扉は開かれる・・・光無き世界へ！』

『こいつがどうなってもいいってんなら、攻撃してきな。ただし、貴様の愛するこいつは死ぬがな！』

『貴様の命運も尽きたようだな、これで楽にしてやる。行けヘルポエマー、奴の魂を刈り取れ！』

『これでまた、生贄が一人・・・』

『破壊を求めよ、希望を捨てよ、貴様らにあるのは絶望のみだ！止めだ！』

『勝つのに手段なぞ必要ない、これはデュエルギャング同士の対決だからな・・・くくくくはははは、ひやはははは！』

『残念だったな。貴様等、奴を潰せ！』

『残るデュエリストは貴様だけか、血祭りにあげてやる。俺様ら、チーム・バッドエンドがなあ！』

『1ダメも与えられぬとはな、失望したよ。殺せ『ジュラゲド』！』

・・・夢か、久しぶりに見たな。

視点：永理

あの夢は俺の昔の記憶、少しばかり若い時にやらかした黒歴史的なものだ。

あの頃は若かったなア。で、何故起きたら目の前に蟹鍋が？何して  
るプラシド、ポン酢？知らんよそんなの。  
まあいいか、さて、待っててくれよ俺のフェイトちゃん！

「まだまだ、まだ食い足りんよ！」

「フオツフオツフオツフオツフオ、鍋は戦場だ！」

「遅い、蟹ゲットオオオオオ！」

「甘いよプラシド、オラア！」

プラシドが蟹を取ろうとしたらルチアーノが宮本武蔵真つ青な勢いでプラシドの箸を掴み、上へと投げた。よくそんな器用な事できるな。

おお、その隙間をまるで八エの如き速さで蟹を掴んだ！？

「これで鍋奉行の座は、私の物だ！」

「甘いよホセ、畏発動！」

ルチアーノが先ほど上へと放り投げたプラシドの箸が、ホセの手の甲の部分に勢いよく当たり、ホセの手が鍋の外側へ……。  
うわあ、あれ絶対熱いわ。よい子は真似すんなよ！

「ウオオオオオオオオッ！」

「まだだあああああッ！」

「何やってんだ貴様等！」

あつ、ディヴァインがファイアーボールをイリアステル共に当たり、  
転げまわってる。いつの間にいたんだおじさん。

「蟹ならいくらでもあるから喧嘩すんな！」

「……すいません……。」「」

なんかシユールだ、ホセが正座してるの……。

そう思い妙に得した気分になってる時に、なんかあれだ、爆発音  
がした。

あーあ、ホセ驚いて鍋ぶちまけてるよ。しかも偶然そこで寝てたパ  
ラドックスの顔面にダイレクトアタック決まっちゃったよ。

うわこれどうしようと思ってる、玄関からノック音が聞こえた  
が気のせいになりたい、だってなんか面倒事に巻き込まれそうだもん。

「おいパラ、ちょっと出て。」

「断る、俺は炬燵でぬくぬくしときたいんだ。貴様が行け。」

「居候の身で生意気な！」

「どうでもいいから早く出てほしかったす。」

おい翔、何処から入ってきた。

あとみかん勝手に食うな、まず手を洗え！

「どっから入って来たんだお前……。」

「ルチアーノ君に入れてもらった。」

「ルチアーノはこんなにも良い子なのに、パラドックスときたら……  
。一体誰に似たのかしら？」

「お母さん！？」

誰が母さんか！

「で、何様だ翔。こつちは蟹争奪戦で忙しいのだ。」

「あー、なんか万丈目君が明日香さんとラヴ・デュエルするために七精門の鍵を盗んだんだけど、なんかそれがきっかけて幻魔の封印が解かれてしまったらしいんだ。で、空からヨボヨボノ宇宙人みたいな人が降ってきて、十代のアニキと永理君にデュエルを申し込んだんだよ。」

「なんとも面倒な話だね。あ、ホセみかん取って。」

原作道理だな恐ろしいぐらいに。さて、デッキ調整しなければならぬのだが・・・ここで一つ問題が。

こたつの魔力は恐ろしいものです。（みかんを）食べる手が止まりません。

だって温かいんだもん！

「おーいパラ、カード持ってきて全部。」

「ぜ、全部！？貴様、この部屋をカードの海にするつもりか？」

「うーし、それなら・・・ポチつとな。」

俺が懐から取り出したスイッチ。それを押した瞬間に上から、カードがまるで滝のように流れ、幻想的な風景を・・・全然幻想的じゃねえ！

「まあ、これは全部ソリット・ヴィジョンだがな！」

「・・・じゃあ何のためにそれ作った!？」

「ついノリで」

いやだって、暇だったんだもん！あらかたゲームやったし、そもそもゲームを9時間ぶつ通しでやったら飽きるんだもん！

それでもすぐに欲しくなる。何故だろう。恐らく、人間の欲望がそ

うさせているのだろう・・・。  
あれ、プラシドがすぐにゲーム買うのってそのせいなのまさか。あいつ機械なのに!?!いやでも、蟹鍋してるし・・・。

うし、行くか! (この間1、2時間)

みんなやっと来たって顔してるよ。遅くたっていいじゃない、寒がりだもの・・・。

「やっと来たな。貴様、私らがどれだけ待ったと思ってるんだ一体・・・。」

「んなの知らん。だってこたつ好きだもの。」

「・・・まあいい、貴様にあわさ十代、これ頼まれてたやつだ。これ探してて少し遅くなってしまったんだ。予定では30分早く着く予定だったんだ。「おい、どちらにせよ大分と遅いぞ!」話聞いて!」

まあわざとだけだな。人のエロゲタイムを邪魔した罰だ! だって折角レアなバッドエンドと出会えたのに・・・。

「貴様、人を待たせておいてその態度とは・・・やはり、闇使いは闇使いか。」

・・・えーっと、誰だっけ?

いや、どっかで顔を見た記憶はあるんだが・・・、誰だっけ? まるで機動戦士ガンダムさんのオスカーとマークを覚えてる感じのアムロみたいな感じだ。

「・・・十代、あれ誰だ?」

「・・・知らん、翔に聞け。」

「キーシッシ、影薄いんだね。」

「いや、そりゃ何話も一回も出なかつたら忘れるって。」

「ほお、俺は久々にやったエロゲのヒロインだって全員名前言えるし、一番最初にやったエロゲのヒロインの名前だってまだ言えるぞ？」

「うわ、引くわそれ。」

「無視するな貴様！」

あ、ごめん素で忘れてたわ。

いやだって、今までこいつ無しで会話してたんだぜ？ だったら忘れるのも無理はないだろ？

だってこんな主人公だもん！

「俺を忘れたのか貴様、俺の名は天界磁、天界磁 誠だ！」

誠誠、ああ、俺に負けた人か。

「ああ、あの人か。で、何故まだ生きてたんだお前。」

「貴様を倒す為、地獄の底から戻って来たのだ！」

「役者は揃った、幻魔の復活を完全にする為、精霊を持つデュエリスト、遊城 十代、月影 永理よ。どうせだ、タッグでどうだ？ 天界磁もそれで良かろう？」

「・・・いいだろう。永理、貴様は俺が倒す。貴様は手を出すな。」

これって、やっぱタッグデュエルになるのか？ 面倒な事だな。

俺は部屋でゆっくり、嫁とニヤンニヤンしたいのに・・・。

嫁って言うても勿論、二次元だぞ？ あとニヤンニヤンが古い？ 貴様、闇のデュエルだ。

「そうだな。デッキからカードを1枚出し、その中で一番攻撃力が高い奴が先行でいいな。ただし、それで選択したカードはデュエル中に使用できないぞ。」

異論は・・・無さそうだな。

さて、俺が選ぶのは攻撃力3000のラヴァ・ゴーレム。奴らのカードが何であれ、奴らならこの攻撃力以上のモンスターが使用できなくなると考えると、恐らく高くて1900か。

「俺が選んだのはラヴァ・ゴーレム、攻撃力は3000だ。」

「俺が選んだのはバブルマン・ネオ、攻撃力は800だ!」

「わー俺が選んだのはクリスティア、攻撃力は2800!」台詞遮らんといて。はあ、私が選んだのは『ジユラゲド』攻撃力は1800だ!」

何故ジユラゲドが・・・と思ったが口には出さないでおこう。シリアスな雰囲気壊れちゃ駄目だからな。

もう壊れている?気にするナンクルナイサー!

「『デュエル!』」

おーイルチアーノ、何呑気にみかん食ってたんだこら俺にも寄越せ。ちなみに、みかんはドレッドが作った畑になつてたの勝手に持つて来た。

「俺のターン!ドロー!」

ウホッ、いいカード。

ごめん、一度言ってみたかったんだ。

でもいいカードなのは本当だよ?

「『ネクロソルジャー』を召喚し、カードをセット！ターン終了！」  
ふっふっふ、ここで視点は、切り替わる！

視点：十代・・・痛いよ、く「オメエの出番、無エから！」・・・  
へ？

なんか懐かしいような気がする声が聞こえたような・・・。気のせい  
いか？

しっかし、初手手札がこれってマジで積み込み疑われたりするだろ  
うが決してそんなのではない。

そもそもそれをやっているのは亮さんだけだ。

次は天界磁のターンか、マジで特徴無いんだよなアイツ、なんと  
言うかその・・・シルエツトで判明できないキャラってあれじゃん？

「俺のターン！ドロー！」

「貴様のスタンバイフェイズに、俺は『ネクロソルジャー』の効果  
発動！デッキ、又は手札から同名モンスターを特殊召喚！更に、こ  
の効果で特殊召喚した『ネクロソルジャー』の効果で特殊召喚！」  
「『死天使への生贄』を召喚し、カードを伏せてターンエンド！」

・・・顔色が悪いなあいつ、なんというか、ダークシー・レスキュー  
ーを思い出したなうん。

ああ、みかん食いたい。ルチアーノ頼むから一つだけ、一つだけで  
いいからさ。

次は影丸の番か、普通なら俺の番なのに・・・いや、バブルマン・  
ネオ選んだ俺も俺だけどさ。

「私のターン！ドロー！」

『ネクロソルジャー』を召喚し、カードを伏せてターンエンド！」

何？ネクロソルジャー人気なの？

いや、別にいいけどさ。まあ確かに、生贄要員にはいいけどさ。

つうかやっとなの番だよ。

「俺のターン！ドロー！」

「貴様のスタンバイフェイズ時、デッキから『ネクロソルジャー』を特殊召喚！更に、この効果で出てきた『ネクロソルジャー』も、効果を使用できるので、更に『ネクロソルジャー』を特殊召喚！」

少しばかりヤバいな。まあ、大して問題ではないが……。

永理が何とかしてくれるだろう。

「『ダーク・フュージョン』発動！手札の『E・HEROバーストレディ』と『E・HEROフェザーマン』を融合！」

『E・HEROインフェルノ・ウィング』を融合召喚！モンスターを伏せ、カードを場に2枚伏せ、ターンエンド！」

くつくつく、影丸、貴様のデッキは攻略済みだ。問題は天界磁のみ！

永理、貴様のおかげでな！

いや、味方だからね一応。

「俺のターン！ドロー！（なるほど、そついう事か。……少し、十代を強化しすぎたか？主に頭の方。）

3体のモンスターを生贄に神を見せてやろう、3幻神を超える神を！降臨しな『邪神イレイザー』……！」

『俺の出番キター……！』

ああ、雰囲気が一気に潰れた気がするが元から潰れてたから気にしないことにした。  
つつかこれが初登場ってどうよ？

「これが神の力だ！イレイザーよ、その邪魔な人形を潰しちまいな！ダイジェスティブ・プレス！」

『これが、出番の無いカードの力だああああ！』

うつわあ、完膚なきまで粉碎しちゃってるよ。ネクロソルジャー可哀そう……。

うん、あの子はアニメオリジナルだから1回しか出てないんだよ。今回いっぱい出てるけど。

「カードを伏せ、ターンエンド！」

またカードを伏せた。まさかとは思っただけど、デストラクション・ポーションとかじゃないよな。

もしそれならイレイザー可哀そうだな、折角の出番なのに……。

「俺のターン！ドロー！」

『死天使の生贄』を生贄に『死天使クリステイアゼロ』を召喚！『死天使の生贄』は、死天使と名のついたモンスターを生贄召喚する場合、2体分として扱う！

バトル！『死天使クリステイアゼロ』で『E インフェルノ・ウィング』を攻撃！」

「畏カード『ダークヒーロー・ブラスト』を発動！E HEROと名のついたモンスターが攻撃対象に選択された時、その攻撃モンスターを1体破壊し、そのモンスターの元々の攻撃力分のダメージを相手に与える！」

クリスティアゼロの攻撃力は2700！その攻撃力を受けてもらおうか！」

まさかここで使う事になるうとは・・・早くも俺のアンチカードが出てきたからな、早々に潰さなければならぬ。

さあ影丸、貴様の切り札を出すがいい！

「くっ、ターンエンド！」

「私のターン！ドロー！」

装備魔法『ストーンヘンジ』を発動！私の墓地の『ネクロソルジャ』を特殊召喚！

そして場の3体の悪魔族モンスターを生贄に『幻魔皇ラビエル』を召喚！」

大分とデツカイなおい！

流石似非オベリスク、姿もパロだな。

「更に永続魔法『トライアングル・フォース』を発動！デツキから同名カードを場に出す事ができる！」

そして3枚の永続魔法を生贄に『降雷皇ハモン』を召喚！」

手札消費激しすぎだろあれ。

つつかあれ、ラーか？なんとなく分かるけど・・・。

「バトル！『降雷皇ハモン』で『E・HEROインフェルノ・ウィング』に攻撃！失楽の霹靂！」

「・・・幻魔は確かに強い。だが、こいつ等にも弱点は存在するのさ！永続罫『イービル・ブロック』！E・HEROと名のついたモンスターが攻撃対象に選択された時、デツキの上からカードを5枚墓地へ送り、攻撃を無効にする！」

幻魔は確かに強い。だが、全てのカードには弱点が存在する。その一つがこれ、確かに神に畏は通用しないが、神ではなくプレイヤーの発言が起動となって発動する畏には無力！

そして、このデッキにはE HEROのサポートカードは大量に入っている。その中にダーク・フュージョンのサポートカードまでもだ。

つまり、この効果は俺にはメリットにしかない。

「くっ、ターンエンドだ！」

「俺のターン！ドロー！」

墓地に存在するこのカード、闇の創造主。結構高かったな……。しかも、手札に来たら思い切り事故るし……。

「墓地の『闇の創造主』を除外し、墓地の『ダーク・フュージョン』を手札に加える！」

そして『ダーク・フュージョン』を発動！場のインフェルノ・ウィングと、手札の『E HEROアンデッド・カオス』を融合！『E HEROデビルズ・ガーディアン』を融合召喚！」

これこそ、我が切り札！効果は忌わしき属性HEROのエクリダオに似た効果だが、だがあ奴なぞこいつの足元にも及ばぬ！

これこそ、最強のHERO！

「なっ、何故貴様がそのカードを……？」

「さあな、デビルズ・ガーディアンの効果は、墓地のE HEROと名のついたモンスターの数×600アップする。こいつの元々の攻撃力は2600、そして墓地に存在するモンスターの数は4、つまり攻撃力は1800アップし攻撃力は4400！」

バトル！デビルズ・ガーディアンで、ハモンを攻撃、ヘルヴィンヤス・ブラスト！」

闇の炎を纏い、ハモンをボッコボコにした。うん、ミクを思い出した俺は悪くない。

「ぐツ、なんだと・・・？何故、最強である幻魔が・・・幻魔がやられるわけが・・・。」

「そして効果だ、戦闘で破壊したモンスターを除外し、そのモンスターの攻撃力の半分のダメージを与える！ハモンの攻撃力は4000、つまり2000のダメージだ！」

腕から黒い炎を吹き出し、影丸にダメージを与える。うん、これ完璧に悪役だよね・・・。

「カードを伏せ、ターンエンド！」

「俺のターン！ドロー！」

畏カード『おジャマ・トリオ』を発動！貴様らの場に『おジャマ・トークン』を3体特殊召喚する！

そしてイレイザーの攻撃力アップ！そして『コストソルジャー』を召喚！『コストソルジャー』の効果！デッキから魔法カード『神秘の中華鍋』と『魔法石の採掘』そして『早すぎた埋葬』を墓地へ送り、場に『コスト・トークン』を3体特殊召喚！

更に『コスト・ソルジャー』の効果、このカードを生贄にし、ライフを1になるように払う事でもう一度だけ通常召喚できる！『コスト・トークン』3体を生贄に『邪神アバター』を召喚！」

改めて見ると、少しは恐怖を感じるな・・・。

つうか相手可哀そう。まあどうでもいいけど！

・・・ちよつと疑問に思うのが、幻魔が封印されていた場所になん

かこう、黒い渦が見えるんだけど……。

「影丸、貴様の役目は終わった。」

「……どういう事だ！」

「これで幻魔と邪神、そしてデュエルエナジー、闇の凝縮、鍵は揃った。闇の扉を開き、未来にて死せし奴らを復活させる計画……。貴様には話してなかったな。」

え、どういう事だ……？

永理が、影丸と繋がっていた……？影丸が永理の手の上で踊らされていたら……？

「魔法カード『DTウィルス』を発動！ライフを半分払い、デッキからDTと名のついたモンスター『DT デス・サブマリン』を特殊召喚！」

そしてデッキからカードを5枚、墓地へ送る！そして墓地の『邪神寄生虫』の効果！場に邪神と名のついたモンスターが存在しこのカードが墓地に存在する場合、墓地のこのカードをゲームから除外し、デッキから同名モンスターを特殊召喚！」

まさか、やるのかアレを……？

しかし、一体何の事なんだ？未来で死んだ？闇の扉？

「レベル・3の『邪神寄生虫』にレベル9のデス・サブマリンをダークチューニング！」

闇と闇交わりし時、邪悪なる扉は開かれ、希望の扉は閉じられる……  
・破滅のみの世界へ！ダークシンクロ！我が敵を闇へと誘え！『冥府の番人ウイルス・ヘルヴェート』！」

これが、永理の本当の切り札……？

初めて見たが、どこかで見た事がある様な……。闇、破滅、絶望、孤独、まるでそれらが一つの個体としてあるような、俺はそれを感じた事がある？いや、そんな記憶は無いはずだ。さて、本当に記憶に無いのか……？

「こいつの攻撃力は5000、そして効果は、貴様等のモンスターの攻撃力を半分にし、その分アップさせる！吸い取れ！バトル！ヴィルズ・ヘルヴェートで天界磁の『おジャマ・トークン』を攻撃！地獄への誘い！」

ヘルヴェートの背中に存在する真つ黒な翼、それを羽ばたかせおジャマ・トークンを破壊する。

その時出てた殺気はなんだったんだ……？

「ヴィルズ・ヘルヴェートは攻撃に成功した時、デッキからカードを5枚墓地へ送り、その中に存在する悪魔族モンスターの数×400のダメージを与える！」

墓地へ送られた悪魔族モンスターは4！1600のダメージを受けてもらう！」

「ぐ、うわあああああ……！」

「次、アバターで影丸のラビエルを攻撃！地獄蹂躞拳！」  
「が、あああああああ……！」

影丸を倒したが、なんかなあ……。いやね、なんか満足しないんだよ。何故だろう？

「はあ、流石にやり過ぎたな。このカードは封印しておいた方がいいな。さて……デイヴァイン、あれをやれ。」

「え……うん。」

あ、影丸逃げた。しっかし、こいつどうするか。  
で、なんでデイヴァインさんが？

「【冥府の番人に食われし魂よ、石版に封じられし魂を生贄に降臨せよ！】」

「来い、ウイルス・ヘルヴェート！」

永理の声がなんかおかしいような・・・気のせいかな？  
つかあれ、あの魂みたいなの何？まさか本当に魂じゃないよな。

「【冥府より蘇生せよ、ダークシングナー！！】」

「ぐ、不味い・・・みんな離れるんだ！」

え、デイヴァインさん何を・・・。

俺がそう思った瞬間、永理とデイヴァインさんが闇の光に包まれた・・・。

「・・・成功した・・・か・・・？デイヴァイン、大丈夫か？」

「あ、ああ。何とかな・・・。」

「これでサーキットの完成がまた・・・遠のいていく・・・。」

「キーツシツシツ、まあ普段から永理の世話になってるんだし、その位いいんじゃない？」

光が消え砂埃が晴れると、知らない人たちが倒れていた・・・。  
なんか、腕に変な痣があるような・・・。

「ここは、何処だ？」

「知らねえよ！おいルドガー、ここ何処だおい。」

「・・・すまん、先日飲み過ぎて頭が痛いんだ。・・・アテムさん  
どこ行っただら。折角酒持ってきたのに。」

「大丈夫ですか？・・・まあ、私のカードの扱いに比べたら、まだましな方だな・・・。」

「・・・なんかすいません、私みたいな補欠同然な私の地縛神の方が使えてすいません。」

「大丈夫です、私が神ですから！」

女性が二人、野郎が五人か・・・。

ああ、あれが増えるのか。なんか嫌だな・・・。

「さて、貴様らを復活させたのは俺だ。まあとりあえず腹減ったから廃寮の方へ行ってくれ。と、言うわけでデイヴァイン、よろしく。(カードが消えたか、少しばかり無茶すぎたか?)」

「はいはい。全く、人使いが荒い人だな・・・。」

デイヴァインさん大変そうだな。さて、俺もそろそろ寢床で寝るか！疲れたし。

その後、アイツ等がアカデミアに来ることになり、驚いたのはまた別の話である。



視点：炎祭

ついに復活したか、ダークシグナー。

これでシグナーが現世へと現れ、シグナーの龍も復活する。

そして、シグナーはダークシグナーを倒すべくデュエルアカデミアへ来るはずだ。その時に奪えば冥界の王と契約を結び、不死の命を手に入れる事ができるはず。

さて、まずはそのダークシグナーと会わなければならない。何処に居るのかは分らんが、まあ適当に歩きや見つかるだろう。

やっぱ明日会おう、何故こんな時に補習を受けなきゃならないんだよ……orz

ああ、やっぱ今日の運勢最悪だったしなあ……はあ……。

## タッグデュエルでのイレイザーはガチカード。(後書き)

ふう、やっぱり小学生は最高だぜ！（ただし、二次元に限る。）

永理「黙れ！」

痛い痛い、ちょ、人間の腕はそっちにはまがり、イ、エ、ア、ア、ア、ア、ア、ア！

永理「たく、だから貴様は……。」

まあそんなことは置いといて、オリカ紹介！……腕めっちゃ痛い。

『死天使の生贄』

レベル4

闇属性

攻撃力：1700

守備力：1200

天使族：効果

このカードは悪魔族としても扱う。

このカードは死天使と名のついたモンスターの生贄召喚以外のためには生贄にする事ができず、シンクロ素材とする事もできない。

このカードを悪魔族としても扱う天使族モンスターを生け贄召喚する場合、このモンスター1体で2体分の生け贄とする事ができる。

『ダークヒーロー・ブラスト』

通常罫

E HEROと名のついたモンスターが攻撃対象に選択された時に発動できる。

相手モンスター1体の攻撃を破壊し、そのモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

セットされたこのカードが破壊され墓地へ送られた時、このカードを破壊したプレイヤーのデッキトップを墓地へ送る。そのカードがモンスターカードだった場合、そのプレイヤーにそのモンスターの攻撃力分のダメージを与える。

『闇の創造主』

レベル7

闇属性

攻撃力：1400

守備力：3000

悪魔族：効果

自分の墓地に存在するこのカードをゲームから除外して発動する。

墓地のダーク・フュージョンを手札に加える事ができる。

この効果を発動するターン、自分はこのカードの効果以外の墓地を対象にする効果を発動する事ができない。

『E HEROアンデッド・カオス』

レベル5

闇属性

攻撃力：2400

守備力：1300

アンデット族：効果

墓地に存在するこのカードをゲームから除外して発動する。

自分のデッキからE HEROアンデッド・カオスを特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したモンスターは、シンクロ素材にすることができない。

『E HEROデビルズ・ガーディアン』  
レベル8

闇属性

攻撃力：2600

守備力：1800

悪魔族：融合

『E HEROインフェルノ・ウィング』 + 『E HEROアンデ  
ツド・カオス』

このモンスターはダーク・フュージョンによる融合召喚でしか特殊召喚できない。このカードの攻撃力は、自分の墓地に存在するE HEROと名のついたカード1枚につき300ポイントアップする。このカードが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送った時、破壊したモンスターの攻撃力分の半分のダメージを相手ライフに与える。

『コストソルジャー』  
レベル3

地属性

攻撃力：0

守備力：0

戦士族：効果

1ターンに一度、デッキから魔法カードを任意の枚数墓地へ送る事で、自分の場にコスト・トークンを墓地へ送った魔法カードの数分だけ特殊召喚する。

このカードの召喚ターン、このカードを生贄にし、ライフを1に払うことでもう一度だけ召喚できる。この効果は、1ターンに一度しか使用できない。

『冥府の番人ヴィルス・ヘルヴェート』

レベル12

攻撃力：5000

守備力：0

幻獣神族：ダークシンクロ

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

このカードを特殊召喚する為には、自分フィールド上に存在する

「ダークチューナーDT」と名のついたチューナーのレベルを

それ以外の自分フィールド上に存在するモンスター1体のレベルから引き

その数字がこのカードのレベルと等しくならなければならない。

このカードのダークシンクロ召喚成功時、相手モンスターの攻撃力を半分にし、その攻撃力分アップさせる。このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊した時、自分のデッキの上からカードを5枚墓地へ送る事ができる。この効果で墓地へ送った悪魔族族モンスター1体につき400ポイントダメージを相手ライフに与える。

今回のオリカ、最後の強すぎたわ。ナハハハハハ！！

永理「ナハハじゃねえ！」

まあいいではないか！さて、次回予告よろしくウ！

永理「はあ、まあよかろう。

イリアステル組とクリスマススを過ごすことになったダークシグナーと俺たち、そしてリア充撲滅&サーキット完成を目論むパラドックス、プラシドも何故か乗り気だが、途中でいちご100%を買いに行くことになった。プラシドが作ってきたD ホイールとは何か、新たなデュエルの可能性、スピードデュエルとは？

次回外編、クリスマスは異性と一緒にいる奴を狩る日。お楽しみに  
！」

そして、プロフィールが見たい、部屋の構造が見たい、何処が違うかわからないって人は感想欄にそう書いといて、5人以上で書くと思う・・・あくまでも思うだけでその日のやる気とかによる。

あとオリキャラも募集中。感想欄に見たい目、性格、使用デッキ、性別などを書いてくれ。ただ、俺の文才や気分でキャラが崩壊したりするぜ。

あと、使用デッキも出来れば書いてくれ。ただ、性格などと同じように変更などがあつたりするかもしれないからな。で、もしデッキや性格、見た目などは書いてなかった場合、作者が勝手に決めたりする。ただ、書いてたとしても変更とかもあり得るぜ。

クリスマス外編：クリスマスは異性と一緒にいる奴を狩る日。（前書き）

『ドレットと？』

「私、一回きりで出番消失の百合娘。大庭 ナオミです！」

『今回は外編という事で、ぶっちゃけ小説本編と繋がりに無くな？と思っけていても我慢して読むか、そつとこのページを閉じてください。』

『まあ、幻魔でもこたつに鍋出たからいいと思っけてどどど。つ

か私の出番寄こせ！クリスマスプレゼントでな！」

『まあまあ、それでは、本編どうぞ！』

## クリスマス外編：クリスマスは異性と一緒にいる奴を狩る日。

「諸君、今日の日は何か？」

「戦争！戦争！戦争！」

「そう、今日は聖なる日。この日に異性とイチャイチャニヤンだと・・・？これが、許される事なのか！？」

「戦争！戦争！戦争！」

「我々は渾身の力をこめて今まさに振り降ろさんとする握り拳だ。

だがこの暗い闇の底で半世紀もの間堪え続けてきた我々にただの戦争ではもはや足りない！！

大戦争を！！

一心不乱の大戦争を！！

我らはわずかに一個大隊 千人に満たぬ敗残兵に過ぎない、だが諸君は一騎当千の古強者だと私は信仰している。

ならば我らは諸君と私で総力300と4人の軍集団となる我々を忘却の彼方へと追いやり、ディスプレイの前の連中を叩き起こそう。

髪の毛をつかんで引きずり降ろし眼を開かせ思い出させよう。

連中に嫉妬の味を思い出させてやる。

連中に我々の呪怨の唄を思い出させてやる。

リア充と非リア充のはざまには奴らの常識では思いもよらない事があることを思い出させてやる。

一千人の非リア充の戦闘団で世界を燃やし尽くしてやる・・・さあ諸君、地獄を作るぞ！」

視点：ルチアーノ

「・・・何これ？」

いきなりプラシドとパラドックス、そして何故か翔と鬼柳が先ほどのテープレコーダーを何故かドヤ顔で流している。

何故テープレコーダー？CDは？つうか永理、何また鍋作るうとしてんの？あと十代、何鍋作り手伝おうとしてんの？

つうか永理、永理はあれやらないの？

「いや、だってここ島じゃん？リア充いないじゃん？」

「ところがギツチヨン！」

「実は学園でも不純異性交流が！」

「あるのです！つうか私の台詞少ねえ！」

「僕の方は無いけどね。」

ギツチヨンって、これまた懐かしい単語を・・・。

うわ永理、それ唐辛子入れ過ぎだよ。ほら、十代涙目だし・・・。

そっぴや、ルドガーさん達どこ行ったんだろ？

「ああ、ルドガーはドレッドと畑に・・・ボマーとディマクはパック買にいったぞ？長官はピラミッドっぽい遺跡に籠りきりだ。」

「永理、これは流石に入れ過ぎ・・・。」

「シャラップ！ミーは今鍋ではなくカルイーが食べたいのです！」

あ、そう。なんかもうどうでもよくなってきたわ。

つうかこれどうなの？幻魔編終わってから冬になるってどうなの？たしか影丸倒した後って卒業デュエルじゃなかったっけ？

「時報ウザい。」

「そうね、何とかならないかしら・・・。」

「プレミア入れ。」

いや、そうだけどさ。そうだけどさ……。まあ確かに、時報ウザいよね。特に3時、特に3時。大事な事なので2回言いました。

「なあプラシド、何作ってんの？」

「D ホイールだ。今度、やってみようと思ってな。サーキット完成を少しでも早めねばならぬからな。」

「で、上半身と下半身が真っ二つに割れると。」

「割れぬ！」

実際、プツチンしてたけどな。

つつかそんな事出来たんだプラシド、そっちの方にチョーびっくりだよ。

うわあ……。なんかこのカレー、もうカレーじゃない何かになってるよこれ。絶対食ったら腹壊すよこれ！

……。僕は好きだけどね。永理のカレーなんか美味しいし……。なんでプラシドは食べれないのかなあ？

これが俗に言う子供舌ってやつ？キーツシツシツシツシ！

「あ、確か今日、いちご100%入ってるかな？ちよっと買ってくるからホセ、頼む。」

「いや、私が行こう。お前はゆっくりD ホイールを作れ。」

「……。いちご100%は俺の部屋にいっぱいあるから買いに行かんでもいいと思うが……。」

「じゃ、じゃあ飲み物たしか、無くなりかけてたる？買いに行ってくるよ。」

「いやプラシド、お前はゆっくrry」

醜い、醜いよ二人とも……。

これが大人か、こんな大人にはなりたくないね。

「さあ、めしあがれ。」

「……鬼柳、お前食え。」

「何故俺が!？」

うわあ、なんかコップに永理特製カレー（激辛）を注いで、一気に無理矢理飲ませた。

うん、凄く地獄絵図だったとだけ述べておくよ。

「……何やってんだ被り……。」

「ゲホツゲホツ、誰が被りじゃ……お前が俺のデッキを勝手につく……ゲホゲホツ!」

「いや、俺の方が強いし……。」

……なんか面倒な事になって来たなあ……。プラシドが凄くいい笑顔なのが気になるんだけど……。

おいプラシド、その顔やめろ気持ち悪い。むっちゃ慢心な笑顔なのが気持ち悪い。

「ッラア!!」

「目が、目がああああああ!!」

なんかムカついたので永理特製カレー（激辛）を顔面にぶん投げてやったZE

凄くすつきりした。（この後、イレイザーが嫌々お召し上がりになりました。）

「うおお……折角のデュエルだ、初ライディングデュエルといこうじゃねえか!う、目がまだ痛い。何故だ、俺は機械だから痛覚

は無い筈……。まさか、Z・ONEめ、あいつ絶対痛覚インプットしただろ絶対！」

「ほお、面白そうじゃねえか。ヒャーハッハッハッハッハア！」

「面白い、相手になってやるぜ！見せてもらうぜ、貴様の死のダンスをなア！」

で、何故永理までライディングスーツ着てるの？しかも謎の首なし騎士と……。

いや、何い笑顔で死霊侯爵のコスプレ衣装出してんの？……凄いくオリティだっと思ってしたのは内緒だよ。

で、神楽坂は永理の趣味丸出し……。ではなくもろダークネス吹雪です本当にありがとございました。

鬼柳の方はアニメ版だよ！いちいち説明するの面倒くさいんだよ！

「『フィールド魔法』『スピード・ワールド』セットオン！ライディングデュエル、アクセラレーション！ヒャーッハッハッハッハア！」

「凄、笑い声までハモってる……。」

でプラシドよ、その謎のスーツっぽいコスプレ衣装はなんだ？

「これか？これは『サイバー・チュチュ』のcos『俺のターン！』……コスプレいs『インフェルニティ・デーモン』を召喚！カードを伏せ、ターンエンド！」……コスプレ衣装だ！」

何故サイバー・チュチュの……。いや、永理よりはマシだけどさ……。

「ハッ、ガイアが俺にいちご100%OVAを買えと轟き叫んでる気がする！ハッハッハ、そのD ホイールはプラシドサンタからのクリスマスプレゼントだ！それではこれで、サーラバー！待っているピッチピチ女子高生たちよ！」

ちよプラシド、行かないで〜！

ああ、今日も朝日が眩しい……。

「俺のターン！ドロー！」

『インフェルニティ・デーモン』を召喚！カードを伏せてターンエンド！」

あ、鬼柳の方がターンを終えた。何故ここまで長いターンになるんだろう？

「俺のターン！畏カード『極限への衝動』発動！手札を2枚墓地へ送り、俺の場に2体の『ソウルトークン』を特殊召喚！」

2体の『ソウルトークン』を生贄に『DT ナイトメア・ハンド』を召喚！そしてナイトメア・ハンドの効果で手札のレベル2以下のモンスター『インフェルニティ・ドワーフ』を特殊召喚！

レベル2の『インフェルニティ・ドワーフ』に、レベル10のナイトメア・ハンドをダークチューニング！」

これで神楽坂の手札は……ゼロ！来る、神楽坂のエースモンスターが……。

……あれ、ダークチューナーに なんかあつたっけ？

「まああれはあれだ。レプリカカードだ。……本物使ったら闇のデュエルになってしまうから……。」

あ、そうなの。納得納得。

「漆黒の帳下りし時、冥府の瞳は開かれる。舞い降りる闇よ！ダークシンクロ！こいつで血の海渡つてもらおうかあ？いでよ！『ワンハンドレッド・アイ・ドラゴン』！」

「ヒヤッハッハッハッハッハア！墓地の『インフェルニティ・デモン』の効果のコピーし、デッキから『インフェルニティ・インフェルノ』を手札に加える！バトルだあ！」

「この炎で燃やされちまいなア、インフェニティ・サイト・ストリーム！」

「ぐ、があっ！くっ、言うだけの事はあるじゃねえか……。」

「カードを伏せ、ターンエンド！」

鬼柳のデーモンがいとも容易く破壊された。なんか、機皇帝で太刀打ちできる相手じゃなさそうだよ二人とも……。

視点：炎祭

ウザい、糞カップル共がウザい。

なんでこんな寒い日に外でイチャイチャイチャイチャ……燃やすぞゴラ。

「つたく、なんで神楽坂は自分で買いに行かないのかねえ？パツクを。」

「レベル1の『チューニング・サポーター』×2に、レベル3の『ジャンク・シンクロン』をチューニング！」

「戦場に現れし古強者よ、今こそ血塗られし槍を持ちて我が敵を刺し殺せ！シンクロ召喚！『大地の騎士ガイアナイト』！」

アレは・・・プラシドさんじゃねえか？前世で見た記憶が正しければシンクロ召喚は使ってなかったはず・・・。  
しかし、何故ガイアナイトだ？別にゴヨウでよくな？

「ハッ！たかが攻撃力2600のモンスターを召喚したところで、俺の『ゴヨウ・ガーディアン』には足元にも及ばぬ！」

「・・・貴様、やはり虫けら程度のミニマム脳みそか。」

「・・・なんと、俺様はあの超スーパージェネラルであるブルー生徒なんだぞ？たかがレッド生徒が吠えるな！」

一体何をするつもりだあいつ・・・。

「魔法カード『ミラクルシンクロフュージョン』発動！墓地の『スクラップ・デス・デーモン』と、場の『大地の騎士ガイアナイト』を除外し、融合！」

これが、俺の切り札だ！『地点の騎士ガイアドレイク』を融合召喚！」

おお、こりや凄いな。

攻撃力が3500と中々な強さだ。まあ、ガイアナイトを採用するデュエリストが最近は減ってきてるからな・・・。

ゴヨウとブリュのせいだ・・・。

「行けガイアドレイク！ブレイク・ダウン！」

相手の残りライフは2000、この攻撃が通ればライフを700削れる。

・・・やっぱり煙草なきや落ち着かな。

「ぐ、があー！」

「くっくっく、ターンエンドだ！」

俺がTFで召喚した時は奈落で落とされたり、神宣でオワタだったりで、攻撃したことなかったな……。これは涙ではない、汗だたぶん。

「クツ、ドロー！」

たかがレッド生徒が粹がるな！魔法カード『サンダー・ボルト』！貴様のモンスターを破壊だ！」

「禁止カードか。だが、その程度のカード……。」

「ハッ、だが貴様の場はがら空きだ！墓地の『聖なる魔術師』と『ヴィクトリー・ドラゴン』を除外し『混沌帝龍 終焉の使者』を特殊召喚！」

バトル！『混沌帝龍 終焉の使者』で貴様に直接攻撃！」

「雑魚が、畏カード発動！『魔法の筒』！これにより、戦闘を無効にし貴様に混沌帝龍の攻撃力、つまり3000のダメージを受けてもらう！」

うわあ、あの人禁止カード相手にいと容易く勝っちゃったよおい。……ドヤ顔ムカつく。

「インチキだ、インチキに決まっている！禁止カードを入れまくったデッキが貴様のような、貴様のようなネタデッキ相手に負ける訳が……。」

「ハッ、この蛆虫が！貴様程度のミニマム脳みそでそのデッキを回せるとでも思っているのか！」

あそこで混沌帝龍の効果を使っていれば、勝ってたかもな。

しかし、あのデッキどうやって回したんだ？どうせ初手で双子悪魔3打したりしたんだろ？そこからどうやって勝ったんだ？

あ、なんかこっち来た。

「くっくくく、どうやって勝ったか気になるようだな。特別に教えてやるぞ。」

別に聞いてないのに・・・いや、気になるからいいけど。

「初手で双子悪魔を3打やられた俺は、ドローにすべてを賭け、見事『命削りの宝札』を引き当てたのだ。

そしてドローしたカードが『調律』が1枚、『機械複製術』が2枚、『地獄の暴走召喚』が1枚、『二重召喚』が1枚だった。

そして俺は『調律』でデッキから『ジャンク・シンクロン』を手札に加え、偶然『ボルト・ヘッジホッグ』を墓地へと落したのだ。

そして『ジャンク・シンクロン』を召喚し、墓地の『チューニング・サポーター』を蘇生、そして魔法カード『機会複製術』でデッキから同名モンスター『チューニング・サポーター』と2体特殊召喚したのだ。

そしてチューニングし、レベル6のブリューナクが居たが、ここはあえてガイアナイトをシンクロ召喚した。そして『チューニング・サポーター』の効果により、デッキからカードを2枚ドローしたのだ。

まさかそこで『調律』を引くとは思っていなかったが、その魔法カードを使い、デッキから『ジャンク・シンクロン』を手札に加えたのだ。そして魔法カード『二重召喚』で『ジャンク・シンクロン』を召喚し、効果により墓地の『チューニング・サポーター』を特殊召喚し、速攻魔法『地獄の暴走召喚』で

墓地の『チューニング・サポーター』を特殊召喚したのだ。ちなみに、相手の場にはその時『カオス・ソルジャー 開闢の使者』が居たが。それは一度正規召喚しなけr(ry)」

そこまで聞いて、俺はアカデミアの購買へと向かった。  
いくらなんでもあの説明は長すぎだ。はっきり言つと鬱陶しい。

・・・俺が煙草に火をつけた瞬間、どこぞの小娘がある生徒とデュエルをしてしまった。・・・何故してしまったかというところ、そこが丁度購買の真ん前だったからだ。

下手に通る事も出来ず、俺はそのデュエルを強制的に見させられる事となつてしまった。

「クリスマスにくらい、出番あつてもいいじゃない。カイザーは美人とラブライブイチャイチャ、なんであいつなんか女性にモテるのよ！あいつ熟女好きなのにさ！」

だからね、主に出番の無さと私には彼氏なんかいないのにベタバタ男にくつついてるあんたが許せないのよ。・・・主に私の出番の為に死になさい！」

「なんで私が死ななきゃいけないのよ！」

なんでこうなつた。俺はただ、神楽坂に（強制的に）パンを買いに行くつてだけなのに・・・。

何故ここまで運が無いんだよ！お天気おねえさんの言つてた事は嘘だったのか！何が今日は幸運が舞い込んでくるだ、舞い込んできたのは転がってきた100円だけだ！

なんだよあの小さな幸運、小さすぎるし不幸の方が多いで！

「デュエル！」

あー、早く家に帰って競馬見たい。こつちは早くビデオで撮つてある荒尾競馬場の最終レース見たいんだよ！

「私のターン！」

『トラップ・リアクター・RR』を守備表示で召喚！カードを2枚伏せてターンエンド！」

あの人、まさかジャイアント・ボマー・エアレイドデッキか？  
やっぱD・D・B入ってんのか？だったら早く終わらせろよ！

「私のターン！」

『アマゾネスの戦士』を召喚！そして装備魔法『ミスト・ボディ』を装備！」

「その瞬間罨カード『魔法アイチボム』を発動！その魔法カードを破壊し、相手に800のダメージを与える！そして手札・デッキ・墓地から『マジック・リアクター・AID』を守備表示で特殊召喚！」

おお、一気に2体のリアクターを召喚したよあの娘。凄いなおい。  
・・・マジで早く終わってくれ、神楽坂に殺される。

く一方その頃、神楽坂は・・・

「インフェニティ・サイト・ストリーム2連打ア！」

「ちよ、うわああああ！」

「ああ、神楽坂が勝っちゃったね。」

「うん・・・本家が負けるってどうなの？」

「ひやははははは、ヒャーハッハッハッハッハッハア！」

なんだろう、俺が悩んでるのが馬鹿らしくなってきた。  
だってなんかあっちの方楽しそうな電波受信したんだよ！

「バトル！『マジック・リアクター・A I D』に攻撃！首切りの剣！」

アマゾネスの戦士がマジック・リアクター・A I Dに切り裂き、A I Dを破壊した・・・と、思ったら破壊されていなかった。何故かモンスターが増えているし・・・。

「なっ、どうしてモンスターが破壊されない!？」

「ふっふっふっふ、このカードを発動していたのさ！『フェイク・エクスペローション・ペンタ』をねえ！」

・・・大会でやったらジャッチされますので、発動していたは止めましょう。

「くっ、ターンエンドよ！」

あーあーあーあー、あの人完璧に油断しているよ。だって伏せカード出さないんだもん。

恐らく、あの程度のモンスターで何ができる・・・とでも思っているのだろうなあ・・・。やっぱ、あまり使われてないからなあ・・・。ジャイアント・ボマー・エアレイド。

「私のターン！」

魔法カード『トレード・イン』を発動！手札の『ジャイアント・ボマー・エアレイド』を墓地へ送り、カードを2枚ドロウ！

『サモン・リアクター・A I』、『トラップ・リアクター・R R』、『マジック・リアクター・A I D』を墓地へ送り、手札・デッキ・墓地から『ジャイアント・ボマー・エアレイド』を特殊召喚！」

俺好みのモンスターだな、空中から無抵抗モンスターを打ち殺す。中々面白そうではないか。

「『ジャイアント・ボマー・エアレイド』の効果！手札を1枚捨て、貴女の『アマゾネスの戦士』を破壊する、デス・ドロップ！」

おーおー、やりたい放題だねえ嬢ちゃん。

・・・まだか？こっちは早くマガジン買わなきゃいけないってのに・・・。

「バトル！『ジャイアント・ボマー・エアレイド』で直接攻撃！デス・エアレイド！」

いきなり3000のダメージか、凄いなこの娘。

つつかそれ、ほぼ無敵のモンスターだよな。これ出せるって事は、プロとしての素質があるかもな・・・。

「グッ、貴女、レディーならもう少し可愛いモンスター使いなさいよ！」

「知らないわそんなの、私は私のやりたいようにやるのよ！ターンエンド！」

「はあ、可愛げの無い女ね。ドロー！」

『アマゾネスの戦士』を召喚！」

「この瞬間『ジャイアント・ボマー・エアレイド』の効果！そのモンスターを破壊し、貴女に800ダメージよ！シャープ・シユールティング！」

うわ、エグいなあの娘。女は怒らせない方が良いつて言っが、こりゃ本当だな。

「な、なによそのインチキ効果！」

「まあ、これ出すためにここまでやらなきゃいけないからなあ……」

あれ、出せりや勝ちみたいなもんだよな。

おお、怖い怖い。ゲート・ガーディアンが弱く見えるぜ。……あいつ弱いけど……。

「クツ、カードを2枚伏せてターン終了よ！」

「私の……ターン！」

『ジャイアント・ボマー・エアレイド』の効果！右の伏せカードを破壊！デス・ドロップ！」

破壊されたカードはデイメンション・ウォール。まあ、あたりか？だが、あの伏せカードが怖いんだよなあ。他人だからどうでもいいけど。

「墓地へ送られた『屑塊の宝札』の効果発動！このカードがモンスターの効果のコストとして墓地へ送られた時、デッキからカードを1枚ドロロー！」

そして速攻魔法『サイクロン』発動！その伏せカードを破壊！」

「ちょ、どこまでチートドロローなのよ！」

「知らないわ、デス・エアレイド！」

「ちょ、きゃあああああああ！」

……やっと買える、長かった。プラシドに捕まり自慢話を聞かされ、购买前でデュエルを強制的に見せられて……。これで、やっと帰って競馬を見れる。

「あ、これ下さい。」

「あ、  
」

・・・先に買われたorz

ああ、明日生きているかな・・・？

うん、無理だな。糞ファツキンクリスマス！リア充死ね！

クリスマス外編：クリスマスは異性と一緒にいる奴を狩る日。（後書き）

クリスマスはアレだ、イエス・キリストの誕生日、その日に性行為だと、くたばれ！

永理「全くだな。まあ、とりあえずオリカ紹介しとけ。」

では、嫉妬と憎悪を載せてオリカ紹介！

『魔法アイチボム』

通常罠

相手が魔法カードを発動した瞬間に発動できる。

その魔法カードを破壊し、相手に800ダメージを与える。

その後、デッキ・手札・墓地からマジック・リアクター・A i Dを特殊召喚する。

544

『屑塊の宝札』

永続魔法

このカードがモンスター効果のコストとして墓地へ捨てられた時、デッキからカードを1枚ドロウする。

では、ベリー苦しみます！

永理「ベリー苦しみます。よい聖夜を。」

みんなは学校サボらず、授業出るよ！でないと留年してしまっぞー！（前書き）

『・・・エンドと・・・。』

「TFで時代が来た私、ホセとの・・・。」

『「前書きみたいなあれ。」』

『・・・今回は・・・留年ネタ・・・です・・・。』

「留年とはどのような効果だ、いつ発動する？」

『・・・知りません。』

みんなは学校サボらず、授業出るよ！でないと留年してしまうぞ！

視点：鬼柳

「・・・卒業？誰が・・・。」

「だから、俺が。」

こいつ、俺より先輩だったのか。知らなかった。

いや、BBA好きなのは知っていたが、まさか先輩だったとは・・・。

でもなんかなあ・・・先輩って感じじゃないんだよなあ・・・。

「へー、お前ずっと人妻物やって留年すると思っていたのだが・・・。」

「まあそうだけとさあ。ずっと授業出てなくても、あの狸校長に勝てば留年は免れるんだ。それで見事勝ち、卒業と裏サイバーデッキを手に入れたってわけだ。」

うわあ、カイザーそんなゲームやってたのか・・・。

まあ俺も、永理に勧められた学園物をやったのだがな！

しかし、このデッキどうするかなあ・・・。永理に勧められて使っているデビルパラサイドデッキ。

ライフがゼロで発動する効果と、ライフがゼロになっても負けないという効果、そして自身のライフをゼロにするという。インフェルニティデッキより扱いが難しそうなデッキだ。

ためにカリーとデュエルしてみたのだが、回れば強いというデッキだな本当に・・・。

5回デュエルし、2回勝った。やっぱ運が無いのか？

「で、その約束だったのにあの狸、今度は卒業デュエルでお前に勝  
てとき……。と、言うわけでデュエルだ！」

「バクラ、相手してやれ。」

「いや、そいつじゃダメだなんだよ。」

相手してやれよ……。そう思った矢先、上から神楽坂が落ちてき  
た。

いや、本当に落ちてきたんだってヴぁ！

「ヒヤーツハツハツハア！何楽しそうな事やってんだ？俺様も  
混ぜろよ！」

「神楽坂、お前こんなとこで何やってんだ！購買はあっちの方だっ  
つうの！」

「知るか貴様の飯なんぞ、こっちは楽しそうな事やるっばいから来  
たんだよ！十代、テメエが行けや。」

正論だな、自分の飯ぐらい自分で買いに行け。

つうかさ、何処でデュエルすればいいんだ？ここで勝っても誰も見  
てないから誰も分らないだろ？

「じゃあこれでどうだ？プラシドに勝ったら俺とデュエルできる権  
利をプレゼントで……。と、言うわけでプラシドよる。」

「……ルチアーノ、代わりにお前が」断る。「即答しなくても  
いいじゃない……。」

うん、即答は酷いと思うぞ。

俺でも遊星にこれ似合うか？って聞いて、普通って即答さえて枕を  
濡らしたからなあ……。

うん、それがクリスマス最後の会話だったんだ。……誰が好き好

んで野郎どもとクリスマス過ごさなきゃならないんだよ！

「はあ・・・、じゃあ『カオスエンド・ルーラー 開闢と終焉の支配者』3枚。」

「クツ、分かった。・・・永理、安く売ってくれよ。」

・・・なんか同情するな。うん、少しだけ出してやろう。本当に少しだけだな！

だって名前からして高そうだもん！カオス系って結構な値段するんだよなあ・・・禁止の混沌帝龍だってあの値段だし・・・。

そっぴや、あのダンボール箱ってなんなんだ？こっちに来てから幻聴が聞こえるようになった気が・・・何故だ？

「値段は安くして・・・190000円だな、3枚で。」

「うう、まあ確かに安くはなってるが・・・前に融合呪印生物買ったばかりだからなあ・・・。今週のジャンプ買うのは諦めるか。」

「そっぴや炎祭、マガジンどうした？」

「いやそれが、ちょうど目の前で売り切れちゃってですね。」

「・・・くたばれ！」

「いやちよ、神楽坂さん痛い痛い！腕はそっち側にはまが（ry）」

炎祭さん大丈夫か？なんか腕が曲がってはいけない方向へと曲がったように見えたが・・・。

「まあ、そういうわけでデュエルだルチアーノ！ちょうどお前だけデュエルしてなかったしな！」

「おう、まあ頑張って勝てよ？僕は手加減せずにガチで勝ちに行くからね。」

ルチアーノのデッキか・・・なんかホセが震えてる様な感じがする  
のだが気のせいかな？

もしかして、トラウマまでいくようなデッキなのか！？

「デュエル！」「きいーっひゃっひゃっひゃっひゃっひゃ！」

俺とキャラが被ってる奴が・・・3人・・・だと？

普通小説でキャラ・デッキが被るなんて殆ど無い筈なのに・・・。

「僕のターン！ドロー！」

フィールド魔法『王家の眠る谷 ネクロバレー』を発動！そして  
永続魔法『黒い旋風』3枚発動！カードを伏せてターンエンド！」

ネクロバレー？墓守デッキか？

確かに墓地を封印できるのは強いが・・・でも、あいつのデッキを  
一度だけ見た事あるんだが、ガチ機皇帝だったぞ？

機皇帝ってたしか、リミット・リバースからの守備表示、破壊で5  
体を特殊召喚が主な流れだよな・・・。

それを自分から潰しに行くとは・・・。

「キシシ、このカードはお前にとって最大の天敵だ。何故なら貴様  
の切り札『オーバーロード・フュージョン』が封じられるからなあ  
！」

「俺のターン！『ハウンド・ドラゴン』を召喚！バトル！『ハウ  
ンド・ドラゴン』で直接攻撃！」

ハウンド・ドラゴンの攻撃力は1700、中々高いな。

まあ、永理にベン・ケイ1キルされたり、ホセとデュエルして攻撃  
力2000のレベル1モンスター出されたりで・・・。

いい思い出無いなあ・・・。

「カードを伏せ、ターンエンド！」

「僕のターン！ドロー！」

『BF 暁のシロツコ』を召喚！『黒い旋風』の効果で、デッキから『BF 黒槍のブラスト』2枚と『BF 疾風のゲイル』を手札に加えるぜ！

そして手札の『BF 黒槍のブラスト』を2体特殊召喚！更に『BF 疾風のゲイル』を特殊召喚！こいつ等は僕の場合にBFと名のついたモンスターが表側表示で存在する場合、特殊召喚できる！

シロツコの効果で、攻撃力をブラストに与える！そしてゲイルの効果で、貴様の『ハウンド・ドラゴン』の攻撃力を半分にするぜ！バトル！黒槍のブラストで攻撃！デス・スパイラル！」

「畏カード『パワー・ウオール』発動！」

「じゃあ永続畏『王宮のお触れ』を発動！このカードが表側表示で存在する場合、畏の効果はすべて無効だ！」

鬼畜、鬼畜だよルチアーノ。

これで分かったぞ、ルチアーノのデッキは旋風ネクロ型お触れBFだな！

なんとという環境メタ……。なんとというインチキ効果の連続……。鬼だ、ここに鬼が居る！

「クツ、ターンエンド！」

「僕のターン！」

『BF - 漆黒のエルフェン』を召喚！このカードは、僕の場合にBFと名のついたモンスターが表側表示で存在する場合、リリース無しで召喚できる！」

「リリースって何だ？おしえて、鬼柳さん！」

ああ、この時代ではリリースではなく生贄っていうのか。

しっかし、生贄ではなくリリース・・・向こうの世界からやってきたからややこしいな。

「リリースってのは生贄召喚の意味を持つ。融合デッキの場合、エクストラデッキというのだ。」  
「へー。」

お、黒い旋風の効果で、デッキからカルート3枚手札に加えたか・・・クロウ元気かなあ・・・。  
いや、あいつ等は俺を裏切ったんだ・・・だけど、少し寂しいな。あいつ等が何処にも居ないと思うと・・・。

「バトル！」BF - 漆黒のエルフェン』で直接攻撃！手札のカルート3枚を墓地へ捨て、攻撃力1400×3・つまり4200アップ！更に『BF 黒槍のブラスト』で直接攻撃！『BF 疾風のゲイル』で直接攻撃！『BF 暁のシロツコ』でダイレクトアタックだあー！」

オーバーキル過ぎだろどう考えても・・・。  
つうかこれ、亮留年決定！？

「永理、5万あげるからデュエルしてお願い。俺、プロ世界へ行きたい。」

「OK！さてルチアーノ、下がれ。」

「うん、後でカモメのぬいぐるみ頂戴ね！」

「おお、あげるから・・・さて、折角だから精霊デッキでも作るか。少し待ってる亮。」

精霊？んなカード持ってるのかこいつ？

そう疑問に思っていると、永理がダンボール箱の箱を派手に開けた。

なんか幻聴が激しくなった気が……。

「うし、それじゃ行くぜ！」

デッキ作るの早ッ！

「デュエル！」

あれ、気のせいか？永理の後ろに首なし騎士が見えるのだが……。その他に死霊伯爵に死霊操りしパペットマスターにゴブリンゾンビまで……。

「俺のターン！ドロー！」

『ゴブリンゾンビ』を守備表示で召喚！カードを2枚伏せ、ターンエンド！……ところで、旧サイバーデッキはどうした？」

「俺のターン！ドロー！」

ああ、そのデッキはあれだ。プロ時代に使うとアレなんだよ……。なんでコントロール略奪デッキが駄目なんだよ。」

そういや昔、ジャックがコントロール略奪はエンターテイメントではない。とか言ってチューナー・キャプチャー入れてたな。

うん、アイツが言うなって思った俺は悪くない。

『ケツケケケケ、アイツが久々の相手か……。まあ、楽しませてくれよヒヤハハハハ！』

「ふん、魔法カード『サイクロン』発動！右の伏せカードを破壊！『ハウンド・ドラゴン』を召喚し、バトル！『ゴブリンゾンビ』に攻撃！」

カイザーが破壊したのは閃光を吸い込むマジック・ミラー。サイバ

「デッキのアンチカードだが・・・相手はドラゴンデッキだ。意味は無い。」

「永続罠『戦慄のアースバウンド』を発動！お前の攻撃宣言時、お前に500のダメージを与える！食いちぎれ！」

「ふん、この程度・・・。」

「更に、破壊された『ゴブリゾンビ』の効果で、デッキから『ピラミッド・タートル』を手札に加える！」

「もうわしの出番か・・・少し早くないか？」

「そう言うな、久々のデュエル場だ。少しは喜べよ。」

『と、言われてものお。お主に家に置いてけぼりにされたからのお・・・。』

ま、また聞こえた。一体なんなんだ？

あれ、気のせいか・・・ピラミッド・タートルが見えるんだが・・・。

おイルチアーノ、みかん食った手で俺のデュエルディスク触るな。

みかん臭くなるだろ。

・・・プラシド、チョコ食った手で触るな。マジでやめてお願い汚いから。

「カードを伏せ、ターンエンド！」

「俺のターン！ドロー！」

『ピラミッド・タートル』を守備表示で召喚！更に魔法カード『苦渋の選択』を発動！デッキから『死霊伯爵』『首なし騎士』『ゾンビマスター』『死霊伯爵』だ！」

おい、死霊伯爵2枚あるぞおい。

つつかマジでどんなデッキか分からないぞ。

「・・・まさか、俺のデッキか!?」

ば、バクラさんのデッキ・・・道理で見た目がアレなデッキなのか・・・。

そっぴや、ゾンビマスターって性別なんだろう? 永理が女の子か男の娘しかありえないって言ってたが、最後の方がちよつと信じられないんだが・・・。

俺としてはやっぱ、無口で内気な女の子がいいな。それでオカルト趣味があつてで・・・最高だ。

「そつだな、俺は『死霊伯爵』2を選択する!」

「では、残りを墓地へ捨てるぜ! カードを伏せ、ターンエンド!」

まあ、手札に上級モンスターが手札にあつたら邪魔なるよな。

実際、手札にエンフェルニティ・デストロイヤーが手札に来てワンハンドレッド・アイ・ドラゴンが破壊されたからなあ・・・。プラシドに。

「俺のターン! ドロー!」

『サイバーダーク・キール』を召喚! このカードの召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した時、効墓地のレベル4以下のモンスターを装備カードとしてこのカードに装備!

バトル! 『サイバーダーク・キール』で『ピラミッド・タートル』を攻撃!

「くつくくくく」戦慄の『アースバウンド』の効果で、500ダメージだ! そして破壊された『ピラミッド・タートル』の効果で、デッキから『ゴブリンゾンビ』を特殊召喚!

しかし、墓地のモンスターがもう6体とは・・・早いな。

「カードを2枚伏せ、ターンエンド！」

・・・さつきからホセがランニングマシンでむっちゃ走ってるのだが・・・あれはなんだ一体・・・。  
なんか足になんか衝撃波が見えるんだが・・・。気のせいだよな。  
気のせいだと思いたい。

そっぴい昔、皆とランニングデュエルしたなあ・・・何故走ってたのかあまり記憶に無いが・・・。  
・・・バイクでデュエルするのも今考えれば意味不明だが・・・。

「俺のターン！ドロー！」

『ゴブリンゾンビ』を生贄に『死霊伯爵』を召喚！『ゴブリンゾンビ』の効果で、デッキから『ゾンビマスター』を手札に加える！更に魔法カード『手札抹殺』発動！互いの手札を全て捨て、捨てた枚数分ドローする！

俺が捨てたカードは3枚、つまりカードを3枚ドロー！永続魔法『生還の宝札』を発動！更に魔法カード『生者の書 禁断の呪術』を発動！墓地の『ゾンビマスター』を特殊召喚！そして『サイバーダーク・エッジ』を除外！

『生還の宝札』の効果で、デッキから1枚ドロー！」

・・・何故3枚ドローの方を使わないんだ？ああ、デッキ枚数が少ないからか。

多分、アイツのデッキは圧縮に長けているデッキなんだろう。アンデットだし。

『え、わたしの出番ですか！？』

『お久しぶりですね『ゾンビマスター』さん。しかし、何故マスターは私たちを箱の中に封印したんでしょうねえ？』

「・・・ぶっちゃけ夜煩くなるし。だってお前らアンデットだから

夜は部屋でパーティだとかしてたし……。」

え、女の子!?まさかの!?やっと出たなヒロイン! つつかシヨボイな箱に封印した理由!

「『ゾンビマスター』の効果!手札を1枚捨て、墓地の『ゴブリンゾンビ』を特殊召喚!『生還の宝札』の効果で、1枚ドロ! 永続魔法『生還の宝札』発動!バトル!そして速攻魔法『サイクロン』!『ハウンド・ドラゴン』を破壊!

『ゴブリンゾンビ』で『サイバードーク・キール』を攻撃!」

何の抵抗も無いまま破壊されるキール。その顔はどこか、悟りを開いていた……。

しっかし、飛び切りとは……外れたら恥ずかしいぞ?

実際、前にサテライトでマジックしてたら失敗して、顔から火が出るほど恥ずかしかった。

「『ゾンビマスター』で攻撃!」

『お願い『ワイト』君!わたしの為に頑張つて!』

ワイトがその身を犠牲にし、カイザーに1800のダメージを与えた。

愛に生きる者は愛に死ぬ。前に永理がそう言ってた気がする。

「止め!『死霊伯爵』で直接攻撃!」

『魔界秘伝剣技、魔神落雷斬!』

死霊伯爵の剣技、凄く早かったZE

ああ、これでカイザーが留年決定か……まあ、あのおっさんの事だから無いだらうけど。

「これで、俺のプロへの道がまた……。」  
「まあ、あのおっさんに言うておくわ。脅せば何とかなるし……。  
2000円で。」

「……本当か？ありがとっ、ありがとっ……。」

泣ける、泣けるなあ……。うん、嘘だぜ！

しかし、脅すって一体何を……。

永理なら買収とかしそうだが、トメさんの写真で。

つつか永理、さり気なく金取るな。

「今回、俺様の出番無かったぜ。どっという事だ！」

「我らの出番も……。」

「おっ、帰ってきてたのかルドガー、デイマク。」

……新しいデッキ手に入ったのに、今回デュエルしてなかったな  
あ……。

そっぴや、卒業デュエルはどうするんだ？裏サイバーデッキ使うの  
か？



視点：永理

「はあ？どういふ事だ閻魔様！」

『まあイレギュラーですね。何故か今回カードがそつちに、99枚も送られていたみたいですし。。。』

そついや、頼んだカードが予想以上に多かつたな。

しかし、その程度の事だ。しかも何故今更それを言う？

「で、何故今更俺に電話してきた？」

『実は、先週そつちに異常なまでの正義感を持った憑依者が。。。  
。。に入ってしまったんですよ。しかも未来世界のシグナーと共に。。。』

。。。マジかよ。こつちのイリアステルシンクロキラー使わないから不利だぞおい。。。ホセは知らん。

しつかし、まさか光に入るとはなあ。。。まあ、閻に引きずり込んでやるよ！

『あー、あと頼まれていたやつ。やっと取り寄せれました。途中、

ハバネロパウダーが舞って目がムスカ状態になってたりしましたよ。

「そうか、災難だったな。あばよ。」

・・・相変わらずいいロリボイスだったな。

しかし、光、正義のデュエリスト・・・か。面白い事になってきてるじゃねえか！くつくくくくくく・・・ヒヤハハハハハハハ！！

「聞いてたか、卒業デュエルの後にくるぜ。光からの刺客、シグナ―共がなあ！」

「火火火、面白い事になってきましたねえ・・・。火火火火やはははは、火ヤーハハハハハハ！！」

「そこにシグナーも居るんだろうなあ？もしかしたらクロウ、遊星、そしてジャック・アトラス・・・ひゃーはは、楽しめそうだなあ！」

「サーキットを描くには、丁度いい人材だな。」  
「ヒヤ―ッハッハッハア！カス共がどう集まるうがカスの塊だろうがあー！」

「たかがシンクロ召喚なぞ、俺のE HEROデッキの前には屑に等しいぞ！」

シグナーとダークシグナー、そしてイリアステル。面白いメンツが揃って来てるじゃねえか！ひゃーっはっはっはっはっはっはっは！！

このアカデミアに来るまでの僅かな正義、絶やすんじゃねえぞ！そうでなきゃ俺達が面白くないからなあ！

こっちにはダークシグナー、イリアステル、そして破壊の闇。本当に楽しくなりそうだが。何処まで足搔けるかなあ。

絆を断ち切り、希望を根絶やしにしてくれろう！アマチュアのデュエル程度では、俺らに勝つ事はできぬさ！ヒヤッハッハッハ・・・ヒヤ―ッハッハッハッハッハッハッハ！！

みんなは学校サボらず、授業出るよ！でないと留年してしまうぞ！（後書き）

完全なダークサイドだなお前。

永理「お前が作者だろ！あの笑い方完璧に死亡フラグではないか！」

では、フラグクラッシャーになるのだ。折角ヒロインとしてゾンビマスターあげたのに……。

永理「あれはありがとう。本当にありがとう。さて、前回してなかった次回予告！」

卒業デュエルにて、カイザーと十代のデュエル。見事十代のデビルズ・ガーディアンの効果で勝利を手に入れたのである。なので次回卒業デュエルはありません。

なので次回、運命の始まり、新たなる転生者……てか憑依者。つか卒業デュエルとエドの話しない小説ってこの小説ぐらいだよな……お楽しみに。」

、プロフィールが見たい、部屋の構造が見たい、何処が違うかわからないって人は感想欄にそう書いといて、5人以上で書くと思う・・あくまでも思うだけでその日のやる気とかによる。

あとオリキャラも募集中。感想欄に見た目、性格、使用デッキ、性別などを書いてくれ。ただ、俺の文才や気分でキャラが崩壊したりするぜ。

あと、使用デッキも出来れば書いてくれ。ただ、性格などと同じように変更などがあつたりするかもしれないからな。で、もしデッキや性格、見た目などは書いてなかった場合、作者が勝手に決めたりする。ただ、書いてたとしても変更とかもあり得るぜ。

・・・しょっちゅう忘れるんだよなあこれ。  
何故だろう？

永理「ハハハ、物忘れの激しいやつめ。」

運命の始まり、新たな転生者……てか憑依者。つつか卒業デュエルとエドの

「デイマクと。」

「亮さんの？」

「前書きだぜ！」

「今回は万丈目VS新入生だったな。」

「ああ、最後辺りに永理が外道道まっしぐらだぜ！」

「では、本編をどうぞ！」

運命の始まり、新たな転生者……てか憑依者。つつか卒業デュエルとエドの

視点：遊星

俺達がZ-ONEを倒し、アークレイドルの衝突を阻止し、シティの町が回復してきた今日、まさかの来客が現れた。

……ダークシグナーのルドガー、レクス達だ。

「何の用だ！俺達は暇じゃないんだ！」

「いやジャック、お前は暇だろ。」

……ジャックが何か言った気がするが、気のせいだろう。

「何の用だ？」

「過去の世界に、我々と同じ、いや我々以上の実力を持った闇。我々の負の情念が具現化し現れたのだ。」

「そこで君たちに過去へと言ってもらい、彼らを倒してほしい。」

過去へ？……デジャヴだな。

「だが、どうやって過去へ？」

「私とレクスが残っているすべての力を使い、君たちを過去へと飛ばす！」

だが、それをやるとお前たちが……。

「四の五の言っている暇はない。邪神よ、我らの魂を生贄に彼らを過去へと飛ばしたまえ！」

ルドガーとレクス、彼らの体が徐々に消えていく。いや、俺らが過去へとタイムスリップしているのか？

ルドガー、レクス、お前らの犠牲は無駄にはしない。必ず、過去で復活したダークシグナーを倒してみせる！

視点：順

「『時械神サンダイオン』で『ゴブリン突撃部隊』を攻撃！そして『閃光の双剣 トライス』を装備したモンスターは、もう一度攻撃ができる！『ガガギゴ』に攻撃！そしてもう一体の『時械神サンダイオン』で『グラナドア』を攻撃！」

「くぐああああああ！」「」

ワンターンスリーキル・・・クラッシュタウン以外で見た事無いよ・・・。

あ、どうも初めまして。ぼくの名前は雷動 順って言うんだ。誰に自己紹介してるんだろう？

ご存知のとうり、転生者です。ちなみに、今デュエルでワンターンスリーキルしたのはお隣さんの早乙女 レイちゃん。レイちゃんがアカデミアに行ってから、デッキがチートになったような気がする。あれ5d'sの時械神のカードだよね？

「弱いね、その程度で最強？笑われせるね！」

レイちゃんってあんなキャラだっけ？

「・・・アカデミアの船、乗り遅れても知らないよ？」  
「もうそんな時間なの？じゃ、そろそろ行こうか。」

少年少女移動中

移動中は何も無かったので省略しました。・・・誰に説明してるんだろうさつきから。

あ、あれってイルカ？野生の初めて見たなあ・・・。

「・・・レイちゃん、それ何？」

「何って、イナゴの佃煮だけど？」

いや何当たり前みたいに言ってるのこの子！？ぼくは食べれないから口に押し付けないで！美少女にあーんして貰えるのは夢だったけどイナゴは嫌だよ！

「美味しいんだけどなあ・・・。」

『そりゃ食わないよ。今の時代の子どもは・・・。』

あれ、あの重力を無視した服は・・・ジャック！？なんでこの世界に！？

遊星にアキ、クロウまで居るし・・・いくらなんでもパラレルすぎだろ！

『間もなくアカデミアへ、アカデミアへ。お下りの方は足元にご注意し、お忘れ物の無いようご注意ください。』

「いや電車かよ！」



あれどう見ても死霊伯爵だよね！どう見ても死霊伯爵だよね！  
なんで居るの？なんで道のわきに首なし騎士の鎧があるの？なんで  
奥に目みたいなのがあるの？  
もう突っ込みどころ満載だなおい！

「・・・何か用か少年。」

「あー、ぼく此処の寮だつて先生が・・・。」

「あー、ならドンマイだな。ここは戦い方に問題のある生徒ばかり  
が来る寮。そしてカードショップその他百貨店なども経営している  
寮。アイザックだ。」

アイザックつてあの某グロゲーだよね？なんていうマイナーな・・・  
。つてか中身、フィギュアとかあつたよね！？名前がアレなのに・・・  
なんとという可愛い物を・・・。  
つてか今なんて言った？戦い方に問題のある生徒・・・？  
つまりぼくの戦い方に問題があると？

「何故ぼくが・・・。」

「そりゃ、800ダメージは辛いだろ。4000デュエルだし。」

ああ、そうか。やっぱバーンダメージは駄目なのか・・・。  
で、この少しだけある黒いラインは何なの？  
そう思い尋ねる瞬間、後ろからバイクの音が聞こえてきた。つつか  
あれ、こつち向かってきてない！？

「永理、そろそろ万丈目のデュエルがはじm・・・あれ、ブレーキ  
が利かない！？避けて止めて避けて止めて避けて止めてー！」

「少年、避ける。」

「い、言われなくて・・・もお!？」

うわあ、扉へダイレクトで行ったよ。大丈夫かな？

「クッ、大丈夫だ！ホセのバイクがある！」

「フォッフォッフォッフォ！」

うおっ、空からホセが降ってきた！？

しかもプラシドのD ホイール潰したし……。ご愁傷様です。

「全員乗ったか？アクセル全開、GO！シンクロ召喚！」

「ちよ、俺を置いていくなー！！！」

今シンクロ召喚って言ったよね！？

つか早い！アクセルシンクロするのによおい！？

「デユエル！」

な、何とか間に合った。うっ、気持ち悪い。

あれ、腕にある紫色の痣が輝いている？なんで？

「僕のターン！」

『切り込み隊長』を召喚！『切り込み隊長』の召喚に成功した時、手札のレベル4以下のモンスター『荒野の女戦士』を召喚！『切り込み隊長』に装備魔法『宝玉の剣』を装備！

『荒野の女戦士』に『神剣・フェニックスブレード』を装備！ターンエンド！」

プレイミスだね、どう考えても。

ほら、プラシドにホセ、永理さんも呆れてるし。

「そついや永理、万丈目のデッキはなんだ？」  
「うむ、ダークシンクロおジャマデッキだ。」

ダークシンクロ!?この世界にあるの!?そりゃシンクロ召喚はよく見るけどさ。

「俺のターン!ドロー!  
魔法カード『天使の施し』を発動!カードを3枚引き、2枚捨てる!  
そして墓地へ送られた『おジャマジック』の効果!デッキから『おジャマ・イエロー』『おジャマ・グリーン』『おジャマ・ブラック』を手札に加える!」  
「おジャマデッキ・・・?どうして万丈目さんともあるっお方がそんな雑魚デッキを。」

おジャマデッキは結構強いよ。攻守逆転というデッキだから。  
あ、でもこの時代にはおジャマ・カントリーは無かったっけ?

「墓地の『DTデス・サブマリン』の効果!デュエル中に一度だけ、このカードを場に特殊召喚する!  
『おジャマ・イエロー』を召喚!レベル2の『おジャマ・イエロー』に、レベル9のデス・サブマリンをダークチューニング!  
「ダークチューニング!?何故あいつがあのかードを持つてるんだ!?!」

あれは、クロウ?あいつも居たんだ。  
・・・レイちゃん、さつきからなんか臭いんだけど・・・その食べ物。

『え、ちよ万丈目のアニキ?何を・・・。』

「暗黒より生まれし者、万物を負の世界へと誘う覇者となれ！ダークシンクロ！現れよ『猿魔王ゼーマン』！」  
『助け……て。誰か、助……け……て……』

苦しんでるなあ、あれ？あれ主人公サイドだったよね？

「永理、あれが無かったぞ？」

「ああ、今回は闇の力を光の結社共に見せつけるため、あれを万丈目に渡した。可哀そうだがあの生徒には、DTの実験鼠になってもらう。」

外道だ、外道だよこの人……。

あれか、あの子はDTの力をテストするために、あの子の夢を潰す気なのかこの人。まあ、僕じゃないからいいんだけどね。

そっぴや、今まで気づかなかったけど永理さんのデュエルディスク、ドーマのあれだ！

「バトルだ！『猿魔王ゼーマン』で、貴様の『切り込み隊長』を攻撃！アンスロポイド・エボリューション！」

「ぐあああああああ！何故だ、ソリットヴィジョンシステムで痛みを感じるなんて……。」

「カードを3枚伏せ、ターンエンドだ！」

猿魔王ゼーマンは、手札のモンスターを墓地へ送る事で攻撃を無効にする効果。伏せカードが無くても大して問題ではない。  
万丈目って、あんなに強かったっけ？

「僕のターン！ドロー！」

魔法カード『死者蘇生』を発動！墓地の『切り込み隊長』を蘇生！  
そして『天よりの宝札』を発動！互いに手札が、6枚になるように

カードをドロロー！そして『手札断札』を発動！互いに手札を4枚捨て、4枚ドロロー！

そして2体のモンスターを生贄に『ギルフォード・ザ・レジェンド』を召喚！『ギルフォード・ザ・レジェンド』の召喚に成功した時、墓地の装備魔法を可能な限り装備する！

僕は墓地の『神剣・フェニックスブレード』『宝玉の剣』『デーモンの斧』そして『ジランク・アタック』を装備！バトルだ！『ギルフォード・ザ・レジェンド』で『猿魔王ゼーマン』を攻撃！」

おお、攻撃力4200って凄い！

まあ、ジャイアント・ボマー・エアレイドで乙なんだけどね。

「罨カード『ドゥーブルパッセ』！貴様のモンスターの攻撃は俺への直接攻撃になる！そしてダメージ計算時に罨カード『パワー・ウォール』を発動！デッキからカードを20枚墓地へ送り、2000ダメージを軽減！そしてドゥーブルパッセ』の効果で、攻撃対象となったモンスターの攻撃力、つまり2500のダメージを受けてもらおう！」

残りの万丈目のライフは1800、サファイア・ドラゴンの直接攻撃で終わるライフだね。

でも、なんで万丈目がドゥーブルパッセにパワー・ウォールなんていうカードを使っているんだろう？

「ふっふっふ、これで僕の勝ちですね！ターンエンド！」

「それはどうかな？俺のターン！ドロロー！」

フィールド魔法『クローザー・フォレスト』を発動！」

これはたしか、デイマクが使ったフィールド魔法？たしか効果は・・・  
・墓地の獣族モンスター1体に付き、獣族モンスターの攻撃力を1

00アップさせる効果だったような・・・。  
そうか、パワー・ウォールの効果で20枚のカードが墓地へと行っている。そしてゼーマンの攻撃力は2500、今分かっている墓地の獣モンスターの数は2体、そして恐らく、手札断札の効果で墓地へ送られているモンスターの数は2。  
2900では届かないけど、墓地へ送られた獣族モンスターの数は・・・。

「俺の墓地に眠る獣族モンスター、その数は20体！よって攻撃力は2000ポイントアップ！バトル！ゼーマンで『ギルフォード・ザ・レジェンド』を攻撃！」

予想以上に墓地へ送られていました。何そのチート。

たかが500、されど500ですな。ダメージは300だけど・・・。

「そして罠カード『キャトルミューティレーション』発動！ゼーマンを融合デッキに戻し、レベル7のモンスター『森の番人グリーン・バブーン』を特殊召喚！グリーン・バブーンで直接攻撃！」

凄いコンボだな、ぼくだったら絶対手札事故起こすに決まってるもん。

あれ、永理さんが居ない？どうしたんだろう？

視点：永理

テストプレイとしてはまあまああってとこだな。しかし、あいつには素質があったな。あの少年、たしか名は五階堂と言ったか？

「どうした永理、何を笑っている？」

「あそこにはシグナーが5人、そして新たなダークシグナーが2人も居たのだぞ？ 未来世界のシグナーとダークシグナー、そしてこの世界のシグナーとダークシグナー・・・いや、転生者と言った方が良いかな？」

まあ、ダークシグナーの1人はシグナー共と一緒に居たみたいだが・・・。」

この世界を支配するにはアイツ等、シグナー共が邪魔だな。まあ、こっちはレイちゃんにあの新生が居る。それにイリアステルもな。

まだ、まだ完璧な不死は完成していないが、アイツ等がいずれ超融合を完成させれば再び冥界の扉を開き、俺と冥界を融合させる！ そして冥界の王となり、世界を破壊しつつくすくすくくくくくく、笑いが止まらないなあ。

「あっち側についているダークシグナー、俺のアンデットデッキで速攻潰す！」

聞こえてるんだろう？ 宿敵と手を組んでいるダークシグナーよお！ さあ、アンチカードを入れる。そして絶望しな、貴様のシンクロ召喚では俺様たちを倒す事は出来ない事にな！

「貴様・・・俺とデュエルしろ！」

なるほど、閻魔様が言っていた転生者、いや、憑依者か。

面白い、貴様の絆を断ち切ってやろう！

「デュエル！」

いつの時代も、正義が勝つとは限らないんだよ！

「俺のターン！ドロー！」

カードを伏せ、こいつを召喚しよう『ゴブリンゾンビ』！ターンエンド！」

『ほお、中々楽しめそうなガキじゃねえか永理さんよお！』

くつくつく、伏せたカードは不協和音。大方いきなりリミットオーバーアクセルシンクロするつもりだろうが・・・この世の中そんなに甘くないんだよお！

「僕のターン！ドロー！」

魔法カード『ワン・フォー・ワン』を発動！手札の『クイック・シンクロン』を捨て、デッキから『チューニング・サポーター』を特殊召喚！『シンクロン・エクスペローラー』を召喚！効果により、墓地の『クイック・シンクロン』を特殊召喚！」

「そうか、ならこの罠を使わせてもらおう！『不協和音』！」

「なん・・・だと・・・？」

くつくくくく、貴様の場には攻撃力0のシンクロン・エクスペローラーが1体、攻撃力100のチューニング・サポーターが1体のみ。この勝負、俺の勝ちだ！

「くつ、ターンエンドだ！」

「俺のターン！ドロー！魔法カード『愚かな埋葬』を発動！デッキから『ゾンビマスター』を墓地へ送る！」

そして永続魔法『生還の宝札』を発動！そして魔法カード『死者蘇生』を発動！墓地の『ゾンビマスター』を特殊召喚！『生還の宝札』の効果で3枚ドロー！

そして魔法カード『天使の施し』を発動！カードを3枚引き、2枚捨てる！『ゾンビマスター』の効果で、墓地の『ゾンビマスター』を特殊召喚！『生還の宝札』の効果で3枚ドロー！そしてもう一体の『ゾンビマスター』を特殊召喚！『生還の宝札』の効果で3枚ドロー！『ゾンビマスター』の効果で、墓地の『ゾンビマスター』を特殊召喚！『生還の宝札』の効果で3枚ドロー！永続魔法『一族の結束』を3発動！バトル！『ゾンビマスター』で『チユーニング・サポーター』を攻撃！」

「ぐ、うわあああ！」

おいおい、このチートドローどうなの？攻撃力がエグイぞ？ルドガーだって引いてるし……。

まあ、関係無いけどな！ヒャーハハハハ！

「まだまだア！『ゾンビマスター』で『シンクロン・エクスプローラー』を攻撃！そして『ゴブリンゾンビ』で『クイック・シンクロン』を攻撃！

『ゾンビマスター』で直接攻撃！」

……やり過ぎた。ちょっとだけ反省しよう。ゾンマスちゃん疲れてるみたいだし……。

そりゃあんなけ効果使ったら過労死するよな。我ながらよくあんな事出来たなっと思っわ。

ちなみに、このデッキに強欲な壺と天よりの宝札は入っていない。生還の宝札の方がずっと使えるから。

「く、次こそは貴様を倒す！光の結社の名に懸けてな！」

「光か、それなら斎王にこう伝えておけ。貴様の挑戦は何時でも受けるとな。負け犬君？」

くっくっく、これであの絆厨の蟹の事だ。必ず俺らに挑んでくるはず。

まあ、まだ時は早いかな。斎王が居ないのであれば意味は無い。だが、奴はなんらかの繋がりを持っているはずだ。あのデッキにあった1枚、破滅の光を感じたからな。

来るなら来いシグナー、貴様らの絆とやらを片っ端からへし折ってやるっ！

運命の始まり、新たな転生者・・・てか憑依者。つつか卒業デュエルとエドの

そついや、斧を持った主人公って聞かないよな。

永理「ヤンガス。」

それくらいだろ？

永理「まあ、そうだな。」

さて、翔にイエロー昇格の話が持ちあがる。その条件は、クロノスが用意した、ブルー寮の胡蝶蘭という少女にデュエルで勝つこと。

一方、胡蝶蘭という生徒はデッキを強くしてほしいと俺に願いつてくる。俺にいよいよ春が訪れるのか、そして翔は見事、胡蝶蘭に勝つことができるのか？そしてプラシド、貴様は购买前で何をやっているんだ？次回、新たな切り札、インセクトデッキスピートの恐怖。お楽しみに。」

プロフィールが見たい、部屋の構造が見たい、何処が違うかわからないって人は感想欄にそう書いといて、5人以上で書くと思う・・・あくまでも思うだけでその日のやる気とかによる。

あとオリキャラも募集中。感想欄に見た目、性格、使用デッキ、性別などを書いてくれ。ただ、俺の文才や気分でキャラが崩壊したりするぜ。

あと、使用デッキも出来れば書いてくれ。ただ、性格などと同じように変更などがあつたりするかもしれないからな。で、もしデッキや性格、見た目などは書いてなかった場合、作者が勝手に決めたりする。ただ、書いてたとしても変更とかもあり得るぜ。

うし、今回は2話連続でできた！

永理「おめでとう。」

新たなる切り札、インセクトデッキデスピートの恐怖。(前書き)

「デイマクと・・・?」

「俺しゃま、マリクの。」

「前書きです!」

「あのモブ、一度だけのキャラクターにしておくのは勿体無いな。」

「プレスライドのドロー運が無いなあ・・・。」

「では、本編をどうぞ!」

## 新たなる切り札、インセクトデッキデスピートの恐怖。

視点：遊星

うう、昨日はミルク勢いで飲み過ぎた。いくらなんでも4杯も飲むのは駄目だったか。

ジャック、覚えておけよ。貴様が無理矢理飲ませたミルクのせいで俺は、トイレに引き籠ることになったのだからな！

「  
」

外からブラシで床を擦る音が聞こえる。そついや、なんで男子便所の清掃員がおばさんなんだ？

いや、深い意味は無いけど……。

しっかし、どこかで聞いた覚えのある声なんだが……。

……あつ、紙が無い！

「すいませーん！紙切れちゃったんですけど？」

「あー、ちよつと待ってね。えーつとたしかここだったよな。……永理君はなんでこんなところに福神漬けなんて置いてあるんだ？」

何故福神漬け？と思った数分後、扉からノックの音が聞こえた。

「すいませんねえ、ちよつと探すのに手間取っちゃって……。」

「いえ、ありがとうござい……。」

「あつ。」

そこには、あの時自縛神に食われた筈のディヴァインが立っていた。  
清掃服を着て……。

「何をしている？」

「何って、掃除だが？」

それは見ればわかる。問題は何故、貴様が掃除をしているって事だ。  
そして何故、このアカデミアに居るんだ？

「何故って言われてもねえ。……何故なの？」

「いや、俺に聞かれても……。」

「んな事より、腹大丈夫か？」

「大分とマシになってきた。」

「そろそろ授業が始まる時間だが？」

もうそんな時間か。まあ、もう流石に出ないだろ。

そう思い便所のレバーを引くと……。

「……。」

便が流れなかった。

……どうしようかと思っていたら、ディヴァインがファイアーボ  
ールで片づけてくれた。心から感謝しよう。

そういや今日は、あるレッド生徒がイエローへ昇格するって、アイ  
ツから聞いていたな。

……この痣が疼く原因はなんだ？禍々しい力を感じるが……。  
どこかで感じたような……。

そういや福神漬があったな。あれでも食べながら観戦でもしよう。  
ジャック、お前にこれを無理矢理食わせてやるう！ふはははははは！

心なしか、臭う気がするが気のせいだろ。

視点：ルチアーノ

「神楽坂、おとなしく見ているよ？前みたいに乱入されたら僕が、永理に怒られるからな。」

「ルチアーノ！これを止める！」

「無茶言つな！あ、その人危ないぞ！！！」

あの緑色の髪の毛見た事ある気がするが、今はそんなの気にしてる場合じゃない！

間に合えー！必殺のお・・・。

「神楽坂キャノン！！！」

「ひょ？うわああああああ！！！！！」

「へ？ブベラツ！」

うし、プラシドの頭にダイレクトアタック成功！

なんか転倒して地面にめり込んでる気がするが知らん！ぶつちやけ僕には関係ないから問題ない。

あ、レイちゃんが必死に抜こうとしている。

「だ、大丈夫ですか？」

「あー、お前ルチアーノだろ！」

「・・・ああ、龍亜と龍可か。なんか用か？」

「なんか・・・人が飛んで来た様な気がしたんだけど・・・。」

気のせいだって龍可ちゃん！

「・・・何してるんですか？」

「おお、雷動君。見て分からないかい？」

「ナンパ？」

「んなわけねえだろ！」

珍しくポケたよこの人。ポケはプラシドだけで十分だよ！

あつ、レイちゃんの持っていたクサヤがプラシドの埋まっている場所にダイビングした。

あれ臭そうだな。もう近づかないでおこうっん。

「レイちゃん、なんでクサヤ汁なんて持ち歩してるの？」

「なんか、永理さんがある人に売るために・・・らしいよ。まだ替えはあるけどね。」

これってやつぱり、僕が送り届けなきゃダメなのかな？

・・・D ホイール乗った事無いのに・・・こうなりやヤケじゃ！

「合体！これがD ホイールの最終進化形態だ！（涙目）」

「うん。でもこれ、倒れたりしない？」

「ついでにぼくも乗せて行ってください。歩くの面倒なので。」

「GO！シンク口召喚！」

泣いてなんか・・・ないやい！

これは涙じゃなくて汗だ！

視点：永理

「デッキを強化してください！」  
「・・・へ？」

いやいやいやいや、なんで？え？これ夢？

いやだつて、ブルー生徒が俺の寮に来て、何事かと思えばいきなり  
デッキを強化して？え、これ夢？

何この人？見るからにDSな人が俺にお願い？マジで？

「プラシドみたいな失敗はしない！急ブレーキ！」

「うおおっ！！！」

危ないなあ、まじで怖かったぞあれ。

つか大丈夫かこの人。こういうのに慣れてないっぽいんだが・・・。

「おい万丈目、昆虫の10持って来い。」

「あ、あの中から探し出すのか？」

「当然だ！」

何を当たり前のことを言っているんだ此奴。

つつかさつきから嫌いぞ吹雪！何してるんだ！？

「デュエルしてる・・・みたいですね。」

「・・・居たのか雷道。」

「居ましたよ・・・見たところ、ジャックと吹雪さんがデュエル  
してるみたいですね。」

ほお、今始まったばかりか。そういや、なんかキングがなんとかか  
んとかとか言ってたな。

アイツ等何やってんだ本当に・・・。

「僕のターン！ドロー！」

『バリア・リゾネーター』を召喚し、魔法カード『生贄人形』を発動！『バリア・リゾネーター』を生贄に『真紅眼の黒竜』を召喚！そして魔法カード『黒炎弾』を発動！相手ライフに2400にダメージ！カードを伏せてターンエンド！」

なるほど、結束デッキは止めたのか。

恐らく手札に、サイバー・ドラゴンが居るんだろう。そして次のドローでレベル3のチューナーを引けばレモンを召喚できる。結構運任せだなあいつ。

「俺のターン！ドロー！」

相手の場にモンスターが存在し俺の場にモンスターが存在しない場合、このカードは特殊召喚できる！『バイス・ドラゴン』！」

たしかまだ在庫はあつたはず……。ルチアーノの野郎、使うからつて3枚も持つて行きやがって。もう在庫が50枚しかないぞ？ たつた50枚だったら探すの大変なんだぞ？お、あつたあつた。この束だつたなたしか。

これでこの娘のデッキを強化し、翔をイエロー昇格などという事は必ずや阻止する！何故ならば、もし翔が昇格 自分には力があると思つて天狗になる ウザい……。と、言う事になりかねんからだ！ っしかし、十代のところには明日香が、俺のところには胡蝶がとほ……。現実には小説よりも奇なりとは言つたもんだな。

「おい、デッキを見せろ。」

ふむ、見たところ普通の昆虫族デッキか。まあ、ちよつとカードを加えるだけで結構強いデッキになるからな。

うん、これを抜いてこれをこれで……。

「イレイザー、DTの2を持って来い。万丈目はダークシンクロの2を頼む。」

ダークシンクロ1はタッグフォー스로登場した効果の方のダークシンクロ。DTの2は俺がこっちで作ったダークチューナーモンスターだ。

ちなみに昆虫族の10とは、昆虫族のサポートカードである。・・・誰に説明してんだ？

「あー、雷道君は永続魔法のAを持ってきてくれ。」

「あ、はい。」

しつかり言う事を聞いてくれる後輩が居るってのは気分がいいなあ。さて、一体プラシドは何をやっている？ジャンプをあいつに買わせに行かせたのは間違いだったか？

そっぴや、なんでルチアーノはプラシドみたいにD ホイールと繋がってるんだ？

『おい、恐竜の3をご所望だ。誰か持ってきてくれー。』

「ルチアーノ、頼む。」

「へいへい。・・・たしか低い場所にあったから、大丈夫か。」

後で飴ちゃんあげよう。良い子だルチアーノ。あの馬鹿邪神とは大違いだな。

あ、このカード・・・こいつのエースモンスターか？出来ればこれ抜きたいんだが・・・。

まあ、こいつを生かすように改造するか。より凶悪になあ！

「・・・なあプラシド、マリクとバクラはどうしたんだ？つかいつ

の間に居たんだお前。」

「マリクはおニャンコのCDを買いに、バクラはペガサスのところへ行ってゾークOCG化を頼みに行った。・・・俺のバイクに不可能は無い！」

「いや、ブレーキは付けるよ！つうか古いなおニャンコ！」

おお、順君ナイスツッコミ。

あ、そういや丁度フリスク切れてたんだっただな。後で頼むか。

・・・もう一回閻魔様から電話がかかって来てフリスクを送ってきてくれないかな。

・・・無理だよな、いくら俺がチート主人公（基本人脈）だからってなあ・・・。

「『スカーレット・ノヴァ・ドラゴン』で『レッド・デーモンズ・ドラゴン』を攻撃！バーニング・ソウル！」

「畏カード『魔法の筒』！」

「のあ、うわあああああ！！！」

やっぱりジャックはジャックだな。普通伏せカード警戒するだろ。ふむ、これで・・・完成つと！

「うし、これで頑張れ若人。」

「あ、はい。」

あーっはっは、翔待っておれ。俺に頼ってきた可愛い子猫ちゃんを強化しまくってやったぜ！

あと俺はロリコンではない！ただロリも好きっただけだ！

視点：順

永理さんがなんかデッキを強化しまくってるみたいだね。  
気のせいかな、ニードルワームが見えた気がするのは気のせいかな？

「ふむ、それではデュエルフィールドへ行くぞ！みんな、俺に乗れ  
！」

ブラシドは臭かったので、ホセとルチアーノのD ホイールに乗る  
ことになりました。

後ろから凄い形相で追いかけてくるのが怖いです。

「待てやゴルアアアアアアアアア！！！！」

「『ファイアーボール』！」

「ぎゃああああああ！」

あ、デイヴァインさんが助けてくれたようです・・・って、ええ！？  
なんでデイヴァインさんが居るの！？ついでに何そのブラシ。

「なんでデイヴァインさんがこんな所に居るんですか！？」

「いやね、なんか地縛神から解放されたらここに居たんだよね。」

「なんでだろう？」

「いや知りませんよ！」

「所で、いいのかい君たち。もうそろそろ翔と胡蝶さんのデュエル  
が始まるぞ？そんな所でつったも、もう行きますね！」あ、ああ。」

途中、ブラシドが購買へ行ったこと以外は普通だった。そう、あの  
デュエルが始まるまでは・・・。

とか考えたりしてみたけど、こんな事してもシリアスには程遠いよ  
ね。

あ、プラシドが倒れている。バタバタしてなんか、陸に上がった魚みたいだね。

つか今思ってたんだけど、アカデミア内をD ホイールで爆走してるけどいいのかな？

うん、駄目だよね。

「デュエル！！」

何とか間に合った。何にもしてないのに何故か疲れたよ。

「私のターン！ドロー！」

モンスターを伏せて、永続魔法『大樹海』を発動！カードを伏せて、ターンエンド！」

大樹海、たしか昆虫族が戦闘で破壊され墓地へ送られた時、デッキから破壊されたモンスターと同レベルのモンスターを手札に加えるって効果だったよね？

・・・なんで入れてなかったんだろう？思い切り効果読んでたし。

「僕のターン！ドロー！」

相手の場にモンスターが存在し、自分の場にモンスターが存在しない場合『サイバー・ドラゴン』を手札から特殊召喚！

そして『融合呪印生物 光』を召喚し、効果発動！フィールド上のこのカードを含む融合素材モンスターを生け贄に捧げる事で、光属性の融合モンスター1体を特殊召喚する！

来い！『サイバー・ツイン・ドラゴン』！バトル！『サイバー・ツイン・ドラゴン』で伏せモンスターを攻撃！エヴォリューション・ツイン・バースト！」

レッド寮生徒の翔君がこんなに強い訳がない！  
あれ、TFで何回か見た事ある光景だなあ……。

「伏せモンスターは『ニードルアワーム』！効果により、デッキからカードを5枚墓地へ送ってもらわね！」

「『サイバー・ツイン・ドラゴン』は、二回攻撃ができるんだ！直接攻撃！」

「じゃあ伏せカードオープン！『万能地雷グレイモア』！『サイバー・ツイン・ドラゴン』を破壊！」

「くっ、カードを伏せてターンエンド！」

グレイモア、とりあえず入れときゃいいってカードだよな。  
結構いいカードんだけどなあ……。

「私のターン！ドロー！」

モンスターを伏せて、ターンエンド！」

伏せモンスター、一体何のカードだろう？考えられる可能性は……。

リクルート対応の共鳴虫、デッキ破壊効果のあるニードルワーム、  
そして相手モンスターを破壊する出た当初はガチカードの人喰い虫  
……なんで永理さんは寿司を食べてるんですか？え、昼食？学校  
で食べる飯じゃねえよ！

「僕のターン！ドロー！」

「ジエット・ロイド」を召喚し、バトル！「ジエット・ロイド」で  
攻撃！」

「伏せモンスターは『共鳴虫』！効果により、デッキから攻撃力1  
500以下の昆虫族モンスター『アルティメット・インセクトLV  
3』を特殊召喚！」

うげえ、気持ち悪い。女性が使うモンスターじゃないよあれ！  
永理さんは・・・なんか人形作ってるううう！？  
なんで作ってんの！？なんで自慢顔なの！？

「ターンエンド！」

「私のターン！ドロー！」

スタンバイフェイズ時『アルティメット・インセクトLV3』は『アルティメット・インセクトLV5』になる！」

うん、あれやつば気持ち悪い。

しかし、どんなデッキか全くわからないなあ・・・。

あ、マリクさん帰って来たんだ。

「バトル！『アルティメット・インセクトLV5』で『ジェット・ロイド』を攻撃！」

「残念だったね！『ジェット・ロイド』が攻撃対象に選択された時、手札から罫を発動できる！僕は手札から『聖なるバリア ミラーフォース』を発動！」

おお、勿体ない。

たった一体のモンスターに聖バリ使うなんて・・・。魔法の筒発動しろって思ったばくは悪くない。

「じゃあメインフェイズ2に、墓地の『共鳴虫』と『ニードルワーム』を除外して『デビルドージャー』召喚！カードを伏せてターンエンド！」

「こ、攻撃力2800！？ば、僕のターン！ドロー！」

魔法カード『パワー・ボンド』を発動！手札の『ジャイロイド』と『スチームロイド』を融合！『スチームジャイロイド』を融合召喚！

そして『パワー・ボンド』の効果で融合召喚したモンスターの攻撃力は、倍になる！バトル！『スチームジャイロイド』で攻撃！ハリケーン・スモーク！」

攻撃力4400、中々高いけど・・・あのデッキは永理が魔改造（戦術的に友達無くすような）したデッキだからなあ・・・。  
デッキ破壊とビート、それらを混合させたデッキなんて考えた事も無かったなあ・・・。

普通の人なら回す事出来ないデッキを回しているあの人、凄く強いよ。

「じゃあ、永続罠『戦場の惨劇』発動ね。攻撃宣言時、デッキからカードを5枚墓地へ送ってもらおうわ！そして『大樹海』の効果で、デッキから『デビルドージャー』を手札に加える！」

「（『次元幽閉』が落ちた。最悪だ・・・。）エンドフェイズ時『パワー・ボンド』の効果で融合召喚した場合、そのモンスターの攻撃力分のダメージを受ける！ターンエンド！」

パワー・ボンド、前世で機械巨人ワンキルされたなあ・・・。  
うん、あれはトラウマだった。

「私のターン！ドロー！」  
魔法カード『手札抹殺』！互いに手札を全て捨て、捨てた枚数分ドロー！魔法カード『天よりの宝札』を発動！互いにデッキから、カードを5枚ドロー！」

なんかみんな、吃驚してるなあ・・・。  
まあ、あのレアカードを使ってたもね。  
で、どうするってんのあの人。

「『死者蘇生』！墓地の『DT カオスローグ』を特殊召喚！墓地の『デビルドージャー』を除外し『ジャイアントワーム』を特殊召喚！レベル4の『ジャイアントワーム』に、レベル8の『DT カオスローグ』をダークチューニング！

闇の力高まる時、君臨する大いなる力！光を踏み砕け！ダークシンクロ！

光は闇に包まれるのみ・・・！帳を下せ！『漆黒のズムウォルト』！」

・・・相変わらずのダークシンクロだね。永理さんにデッキを改造されたら最後、ダークシンクロがメインのデッキになってしまうんだね。

・・・うん、前世でよく小説とか読んでたけど・・・ここまで改造される小説はそうそうないよ？

あつ、今回はレプリカのほうなんだ。

「『DT カオスローグ』の効果！デッキからカードを5枚、墓地へ送ってもらおうわ！」

残りデッキが16枚！？

まさか、ここまで昆虫族デッキデスビートが強いなんて・・・。

今度、永理さんにデッキ改造してもらおうかな・・・。やめとこう、嫌な予感しかない。

「バトル！一筋の光明も許さぬ、奪い去れっ！ダーク・ドラッグ・ダウン！

そして『漆黒のズムウォルト』の効果！このカードがこのカードよりも攻撃力が高い相手モンスターを攻撃した場合、相手モンスターの攻撃力からこのカードの元々の攻撃力を引き

その差分100ポイント毎に1枚のカードを、相手のデッキの上か

ら墓地へ送り、その後バトルフェイズ終了時まで、相手モンスターの攻撃力をこのカードの攻撃力と同じにする！

貴方の『スチームジャイロイド』の攻撃力は4400、そして『漆黒のズムウォルト』の攻撃力は2000・・・攻撃力差は2200！つまり、貴方のデッキからカードを22枚墓地へ送ってもらおう！」

ズムウォルトの攻撃で、翔の残りデッキ枚数は0。胡蝶さんの勝ちだね。

流星、胡蝶さんは強いね。永理さんにデッキを外道改造しただけのことはあるね。

「・・・あんな効果、反則だよ！」

「・・・うん、私もそう思う。」

「ぼくもそう思うよ。やっぱりTFの効果で丁度いいよ。」

「まあ、イエロー生徒になれなくても頑張ってるね！十代の兄さんだつて居るんだしさ。少しは自分に自信を持った方がよい翔君。」

「じゃあなんで永理さんにデッキ改造頼んだんだよ！」

「そう叫んだばかりの声は、結局彼らには届かなかった。」

視点：プラシド

「購買でファブリーズを買いに来たのだが・・・嫌なやつに出会ってしまった。」

「ルチアーノの野郎、俺の財布から札束をこっそり持って行きやがってええええ！」

「……うん、2654円しか入ってなかったんだ。ごめんなさい、貧乏でごめんなさい！」

「だってZ・ONEが月3000しか貰えないんだよ！ジャンプとか単行本とか買ったらずぐ消えるんだよ！最近ドラゴニック・レギオンも買ったしさあ！」

「……何故お前らがここに居るんだ？」

「……え？」

「あ、パラドックスも居たんだ。」

「つか何その頭のとっぺんに付いてる星！え、まさかクリスマスツリーのバイト？なんで？」

「だってもうクリスマス終わってたし！しかもここ小説内だからクリスマスどころか冬休み終わってたし！」

「何故って、ただファブリーズを買いに来たのだから？あるよう……少女が俺にクサヤ汁をかけてしまったんだ。だからファブリーズを……。あ、聞いてない。サーセン。」

「何って、見て分かれ。クリスマスツリーごっこだ。」

「クリスマスツリーごっこって何！？たまにこの人わけわかんなくなるんだよな。」

「俺だけこんなに不運なんて、こんな絶対おかしいよ！」

「そっか、大変だな。」

「同情しないで！その目が俺の心を傷つけるよ！」

「で、貴様は何用だ？」

「いや、ただぼんたん片手に購買でファブリーズを買いに来ている」

お前が気になつてな・・・。」

何故ぼんたんって思ってるんだろ？今日の昼飯だよ！悪いか！  
ああ、そりゃ金使いすぎたのは俺が悪いよ！だけどな、値段が3000のブルーアイズ・マウンテンをいつも飲んでるジャックよりマシだろうがああああ！！

ああもうムカついた！遊星をライディングデュエルで潰す！

「アバター！この虫けらにD ホイールを持って来い！」

『いや、なんで俺が「さつさとしろ！」は、はい！』

八つ当たりしたっていいじゃない！

絶対に勝つ！何故かスピード・ワールドが1しかないけどどんなの関係無え！

「っしゃあ、行くぞ虫けら！」

「『フィールド魔法』スピード・ワールド』セット！ライディングデュエル、アクセラレーション！」

ふっはっはっは！！スーパー八つ当たりタイムのスタートだああああああ！！

俺のT 666改の力を見るがいい！

「まずは貴様のターンからだ！虫けららしく足掻いてみせる！」

「俺のターン！ドロー！」

『ボルト・ヘッジホッグ』を守備表示で召喚！カードを2枚伏せてターンエンド！」

くっくくくく、性懲りもなくシンクロ狙いか。だが甘いんだよお！スピード・ワールドは2000のダメージを受けるが、普通の魔法

カードを発動できる。

つまり、一度だけ使えるスペシャルな技って事だ！

「俺のターン！ドロー！」

魔法カード『ワン・フォー・ワン』を発動！」

「だが『スピード・ワールド』の効果で2000ダメージを受けてもらっぞ！」

くつくくく、貴様程度の実力者なぞ、このライフで十分だ！

我がガイアナイト波動竜騎士デッキの力、思い知るがいい！

「手札の『ボルト・ヘッジホッグ』を墓地へ送り、デッキから『チューニング・サポーター』を特殊召喚！そして『ジャンク・シンクロン』を召喚！『ジャンク・シンクロン』の効果で、墓地の『ボルト・ヘッジホッグ』を特殊召喚！」

「まさか、貴様がシンクロン召喚だと・・・!?」

「そのまさかさ！レベル2となった『チューニング・サポーター』とレベル2の『ボルト・ヘッジホッグ』に、レベル3の『ジャンク・シンクロン』をチューニング！」

屑の中に埋もれし悪魔よ、我が場により出でて忌わしき敵をうち滅ぼさん！シンクロン召喚！来い、海外にて生まれし悪魔！『スクラップ・デス・デーモン』！」

『チューニング・サポーター』の効果で1枚ドロー！『Sp-オーバー・ブースト』を発動！このターン、俺のスピードカウンターを4つ増やす！だが、エンドフェイズにスピードカウンターを1になっってしまうからなあ！

そして『Sp-スピード・フュージョン』を発動！俺のスピードカウンターが4つ以上ある時、手札またはフィールド上から融合モンスターカードによって決められたモンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する！

俺は場の『スクラップ・デス・デーモン』と、手札の『融合呪印生物 地』を融合！駆け上げられ俺の魂！『地天の騎士ガイアドレイク』！融合召喚！」

ふつくしい、さすが俺の魂のカード。

このカードの前では、ブリュヤスタダ、レモンにデス・ドラゴンも足元には及ばぬ！

ハルケギニアへ届け、我が槍よ！ふははははは、粉碎玉碎大喝采！

「バトルだあ！『地天の騎士ガイアドレイク』で『ボルト・ヘッジホッグ』を攻撃！ブレイク・ダウン！」

「畏カード『くず鉄のかかし』！攻撃を無効だ！」

ちっ、面倒なカードだ。

だが、俺の手札にはジャンク・シンクロンがある。こいつの効果で墓地のチューニング・サポーターを蘇生させ、そしてボルト・ヘッジホッグの効果で蘇生！そしてシンクロでC・ドラゴンをシンクロ召喚し、更にスピード・フュージョンでドラゴエクイテスを融合召喚してやる！

まあ、このカードを伏せるか。

「カードを2枚伏せてターンエンド！」

「俺のターン！ドロー！」

『Sp・エンジェル・バトン』を発動！デッキからカードを2枚ドロし、その後手札1枚を墓地へ送る！」

あ、墓地肥やしのカードそれもあつたのか。忘れてた。

「『Sp・ヴィジョンウィンド』を発動！自分用のスピードカウンターが2つ以上ある場合発動する事ができる！俺の墓地に存在する

レベル2以下のモンスター1体を特殊召喚する！『シンクロン・エクスプローラー』を特殊召喚！

『ジャンク・シンクロン』を召喚！レベル2『ボルト・ヘッジホッグ』レベル2『シンクロン・エクスプローラー』に、レベル3の『ジャンク・シンクロン』をチューニング！

集いし叫びが木霊の矢となり空を裂く！光さす道となれ！シンクロ召喚！いでよ！『ジャンク・アーチャー』！」

ほお、だがジャンク・アーチャーの効果ではガイアドレイクを除外はできないぞ？

まさかとは思うが・・・こいつ、効果を知らないのか！？

それとも、まさか！？

「罨カード『シンクロ・ストライク』を発動！俺の場のシンクロモンスター1体の攻撃力をエンドフェイズまで、シンクロ素材にしたモンスターの数×500ポイントアップさせる！

『ジャンク・アーチャー』のシンクロ召喚時に使用したシンクロ素材は3体！つまり攻撃力1500アップ！バトル！『ジャンク・アーチャー』で『地天の騎士ガイアドレイク』を攻撃！スクラップ・アロー！」

くっ、まさかこんなに早く破壊されるとはな・・・。

だが、まだ終わらんよ！俺の伏せカードはリビングデッドの呼び声、これでスクラップ・デス・デーモンを蘇生させ、ジャンク・アーチャーを破壊してやる！

うん、機皇帝ワイゼルは入ってるよ？ジャンプ3冊買ったけどデッキに入れるのは1枚だけだよ？だって事故になるもん！

「ターンエンド！」

「貴様のエンドフェイズ時、永続罨『フルスロットル』を発動！俺

のターン！ドロー！

そしてスタンバイフェイズ時『フルスロットル』の効果で、スピードカウンターを1つ増やす！

そして永續罠『リビングデッドの呼び声』を発動！墓地の『スクラップ・デス・デーモン』を蘇生！そして『Sp-ハーフ・シーズ』を発動！貴様のモンスター1体の攻撃力を半分にし、ダウンした攻撃力の数値だけ俺のライフポイントを回復する！

バトル！『スクラップ・デス・デーモン』で『ジャンク・アーチャー』を攻撃！スクラップ・クロー！」

スピード・ワールドは、1000ポイントのダメージを受けることに1、スピードカウンターを取り除かれる。

・・・あ、くず鉄のかかし忘れてたorz

「罠発動！『くず鉄のかかし』！攻撃を無効！」

「カードを伏せ、ターンエンドだ！」

伏せたカードはスパーク・ブレイカー、これをどうしようと・・・？  
真つ二つにはなりたくないよう。ルチアーノがいちこのショートケーキ勝つてきてくれたって言うのにさあ！

「俺のターン！ドロー！」

『ジャンク・アーチャー』の効果、ディメンション・シユート！『スクラップ・デス・デーモン』を除外！バトル！『ジャンク・アーチャー』でプラシドに直接攻撃！スクラップ・アロー！」

くっ、2300のダメージはヤバいかもな・・・。

俺の手札にはジャンク・シンクロンと、シンクロン・マグネーターのみ・・・。

逆転のカードは・・・まだデッキの中だ。

「ターンエンド！」

このターンに、すべてを賭ける！

「俺のターン！」

違う、だがこれでいける！まだ希望はある！

「『Sp・エンジェル・バトン』を発動！カードを2枚引き、1枚捨てる！」

引いたカードは・・・ワイゼルT3とワイズA3。

天は我を見放したああああ！！

「・・・サレンダーしてもよろしいですか（涙目）」

「あ、ああ。」

勝つか負けるか分からん勝負で、ここまで長引かせると危険だ！（主に俺の上半身と下半身の真ん中あたりと、心臓。無いだろって？・・・気にするな。）

「くつくくくく、次はこうは行かないぞ不動 遊星！」

「涙拭けよ。」

「こ、これは涙ではない！汗だ！」

「あ、おい！・・・行っちゃった。これ、落していったんだが・・・」

なんだったんだあの事故！俺にはデステイニードローが無いのか！？あれ、携帯が無い！うおおお、折角集めた着メロがあ・・・着メ

口があ・・・。

次は俺のアニメデッキで、貴様を葬ってやる！機皇帝の力でああ！

新たなる切り札、インセクトデッキデスビートの恐怖。(後書き)

永理「プラシド爆 殺！」

は、しなかったよ！ふはははは！

はい、ではアニメ風に次回予告よろしく！

「了解、プロのデュエルリーグで、カイザー亮とエド・フェニックスがデュエルするが、エドのE・HEROデッキに苦戦してしまう。そして切り札『オーバーロード・フュージョン』を使用してしまふ。だがその頃、俺達悪役サイドはシグナーで転生者である一人の少年とデュエルする事となった。鬼柳VS転生者、つうか憑依者のデュエルが始まるのであった。次回、ライフレスコンボの恐怖、デビルパラサイドデッキの底力！？お楽しみに。」

プロフィールが見たい、部屋の構造が見たい、何処が違うかわからないって人は感想欄にそう書いといて、5人以上で書くと思う・・・あくまでも思うだけでその日のやる気とかによる。あとオリキャラも募集中。感想欄に見た目、性格、使用デッキ、性別などを書いてくれ。ただ、俺の文才や気分でキャラが崩壊したりするぜ。

あと、使用デッキも出来れば書いてくれ。ただ、性格などと同じように変更などがあつたりするかもしれないからな。で、もしデッキや性格、見た目などは書いてなかった場合、作者が勝手に決めたりする。ただ、書いてたとしても変更とかもあり得るぜ。・・・大分と寝た時に限って眠くなるのは何故だ？

永理「あー、あるある！」

ライフレスコンボの恐怖、デビルパラサイドデッキの底力！？（前書き）

『どうも、英ちゃんです。いままでのあらすじとかします！

あ、ありのまま起こったことを話すぜ。ナムは前回転生者VS鬼柳を書く予告していたが、いつの間にか遊星VS永理&ジャックVS鬼柳になっていた。何を言っているか分からないと思うが、私も何を言っているのかわかり（ry）』

アバター『・・・では、本編をお楽しみください。』

ライフレスコンボの恐怖、デビルパラサイドデッキの底力!?

視点：ルチアーノ

「『アブサード・ステイラー』で『ゴブリン突撃部隊』を攻撃！  
アブサード・ステイラー！」

「ぐわああああああ！！！」

はあ、やっぱりこの程度か。だけど、なんでブルー生徒の魂が必要なんだ？

たしか・・・あるカードの製作に必要とか言ってたような・・・。

「『地獄詩人ヘルポエマー』で直接攻撃！」

「ぎゃあああああああ！！！」

お、そつちも終わったかな？キシシ、流石破壊の闇の幹部。実力は折り紙つきだねえ。

そついや、永理は倒し終わったら金を奪えって言ったな。・・・  
魂は封じられているから問題ないね。

「キシシ、人が近づいて来たみたいだね。」

「ふむ、一度隠れるか。」

・・・あの髪型は、ジャック？なんでジャックがこんなところに・・・。

確か今は、カイザーVSエドを見る筈なんだけどなあ……。  
何キヨロキヨロしてんだあいつ？あ、穴を掘りだしたぞ？  
……。あの薄い本は！きしし、面白い所を見ちゃったぞ！

「ふむ、あれはロリっ子大好きクラブ お兄ちゃん、ボクを一人に  
しないでだな。永理がよく買っている本だ。」

「双眼鏡、いつの間に……。」「  
「今の間いだ。」

これでジャックファンクラブを潰す！流石にあの小うるさい女子も  
幻滅するだろうさ！

一応、表向きは嫉妬で相手を消すのが目的だからね。

そついや、マリクさんと永理は？バクラはたしか、KONMAIに  
俺様を作ってもらおうように言ってくる。上手く行ったら、一緒にす  
き焼きを食べようって言って、どこか行っちゃったしなあ……。  
死亡フラグビンビンで出掛けて行ったけど大丈夫か？

「ねえ万丈目、マリクさんは？……。あとプラシド。」

「マリクは漫画喫茶に行ってくるっ言ってた、プラシドは知らん。」

いや知らんって、んな無責任な。昨日は一緒にいちごのショートケ  
ーキ食べたのは覚えてるんだけど……。やっぱあれ、怒ってるのか  
なあ？

ただ、いちごにジョロキユアを入れただけなのに、大人げないよな  
あプラシドは。

「……。何をやってるんだい？君たち。今は錬金術の授業の時間じ  
やなかったっけ？」

「んなのどうでもいいんだよ！ダイヴァインは黙ってるよ！」

「・・・反抗期か、私にも昔、あつたなあうん。」  
「どうでもいいよ！」

はあ、本当に大丈夫かなあ・・・バクラ。  
頼むから、無事でいてくれよ？お土産を持って。  
勿論、プラシドのぶんは無しだ！

視点：永理

眠い、何故授業がこれ（エドVS亮）で潰れるんだ？  
ふあゝあ、昨日ニコニコ紅白見た後、TF6を徹夜でやってたから  
眠い。

錬金術の授業なら寝れると思ったのに・・・。

「アムナエル先生、ちょっと家からバーチャルボーイ持ってきて。  
マリオやりたい。」

「何故そんな昔のゲームを!？」

「じゃあ、悪魔城ドラキュラやりたいから。」

「もっと最近のゲームやれよ！」

はっはっは、断る！

こちららファミコン時代からやってんじや。昔のゲームをやりたく  
なるんじやい！

そっついや、プラシド何処行っただ？たしか、羽簾買ってくるって  
言ってた気が・・・。

「ぐおおおおおおッ！！馬鹿な、この俺が人間如きに・・・！」

なんか爆発音が聞こえたんだが・・・何やってんだプラシド。お、カイザーがサイバードーク・キールを召喚したか。装備したのはハウンド・ドラゴン・・・いきなり攻撃力が2500か。裏サイバーデッキにはまあまあいいカードだな・・・裏庭にはしなかったんだ。

「おい、デュエルしろよ。」  
「掃除が終わってからね。」

デヴィアインと遊星がデュエルモードに入ってる・・・。デヴィアインは掃除に夢中だから、軽く受け流してるけど。

その後のデュエルは、俺は見えていない。何故なら、寝てしまったからだ！

だって眠かったんだもん！

・・・十代が言うには、亮が負けたらしい。らしいというのは、聞いた時の状況が、俺の脳内がスリープしていたからだ。

なんでも、不正行為がばれて負け、と某マジックコンボする人のような負け方をしたが、別に重傷を負った異性が居たりとか、デッキを盗み見たりとかではなく、リストバンドからカードを取り出すという某バンデッドさんを思い出すような負け方をしたらしい。

流石亮、俺達じゃできないことを平然とやってのける。そこに痺れず憧れない。

「おい、デュエルしろよ。」

なんで蟹がここに居るんだヴォケエ！

何？伏線とかそんなの無かったのになんで？あれか、あの転生者（憑依者）をアンデットデッキでぼっこぼこにしたからか？

「まったく、仲間思いの奴ほど面倒なやつもいないよなあ……。まあ、屑カードしか持っていない蟹に負ける訳ないけどな！  
優先権廃止したスターダストに、除外でオワタのガチシンクロデッキ程度、俺様の除外ビートデッキで瞬殺してくれるわ！」

「いいぜ、貴様程度なぞ、楽に葬ってやる。屑カードの集まりなぞなあ！」

「「デュエル！」」

多少のガチカードを混ぜたところで、その程度のデッキの弱点なぞ御見通しよ！

「俺のターン！ドロー！」

永続魔法『次元の裂け目』を発動！魔法カード『手札抹殺』を発動！互いに手札を全て捨て、捨てた枚数分ドロー！

『闇の誘惑』を発動！カードを2枚引き、1枚を除外！俺は『異次元の偵察機』を除外だ！『異次元からの生還者』を召喚し、エンドフェイズ時、除外された『異次元の偵察機』を2体特殊召喚！ターンエンド！」

奴のデッキには、拾ったカードしか入っていないはず。つまりサイクロンを捨てる奴なぞ居ないから、奴のデッキには入っていないはず！

「俺のターン！ドロー！」

『マックス・ウォリアー』を召喚！バトル！『マックス・ウォリアー』で『異次元の偵察機』を攻撃！スイフト・ラッシュ！『マックス・ウォリアー』の効果！このカードが相手モンスターを攻撃する場合、このカードの攻撃力を400ポイントアップする！」

マックス、ゴミカードだな。あんなカードを入れてるなんて、考え

られないな。  
本当にありえないわ。

「このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊した場合、次の自分のスタンバイフェイズ時までこのカードのレベルは2になり元々の攻撃力・守備力は半分になる！カードを3枚伏せターンエンド！」

「そして貴様のエンドフェイズ時『異次元の偵察機』は除外場から特殊召喚される！」

・・・なんで俺にデュエルを挑んできたんだ？  
マジで分かんない、ロリコンなもの！

「俺のターン！ドロー！」

魔法カード『苦渋の選択』を発動！俺は『異次元の偵察機』『異次元からの生還者』『デビルズ・サンクチュアリ』『バトルフェーダー』『マクロコスモス』さあ、どれを選ぶ？」

「俺は・・・『異次元の偵察機』を選択する！」

だよ〜、普通の人ならバトルフェーダー選んじゃうんだよね〜。  
みんな攻撃力だけしか見てないからね〜。

「残りは墓地へ送られるが『次元の裂け目』の効果で、モンスターは除外される！」

更に魔法カード『次元融合』！除外されている『異次元の生還者』『バトルフェーダー』を特殊召喚！3体のモンスターを生贄に『邪神ドレッド・ルート』を召喚！」

「あ、大根が・・・。おっ？出番？イヨッシャアアアアア！！！」

／テンション上がってきたアー、

・・・うん、テンションなんて上がらないよ。脳内BGMが謎の古畑任三郎のアレだよ。んなんでテンション上がるわけねえよ！  
ガンQで壁が見えない部屋で野郎とデュエルでテンション上がる人なんていないぜ？・・・栄ちゃん何処行っただらろう？

『修行から帰ってきましたあゝ！』

「・・・何の？」

『裁縫の（ドヤツ）』

栄ちゃん・・・可愛いから許す！ロリコンで悪役サイドで何が悪い！  
変態だつていいじゃない、男の子だもの・・・。

「バトル！『邪神ドレッド・ルート』でマックソ・ウォリアーに攻撃！ファイアーズノックダウン！」

「畏発動『くず鉄のかかし』！」

出た、遊星さんのくず鉄のかかしだ！

・・・うん、ただ言いたかっただけなんだ。すまない。

「カードを伏せ、エンドフェイズ時『異次元からの生還者』と『異次元の偵察機』2体を特殊召喚！ターンエンド！」

奴のデッキも、次元幽閉の前には無力！ふははははは！

「俺のターン！ドロー！」

速攻魔法『異次元からの埋葬』を発動！墓地の『ネクロ・ディフェンダー』『スピード・ウォリアー』『ネクロ・ガードナー』を墓地へ戻す！」

なんで蟹がレアカードの異次元からの埋葬とネクガ持ってんだよ！

不味い、これは想定外だった。いやまだだ。まだ負けが決まった訳じゃない！

「『ジャンク・シンクロン』を召喚！『ジャンク・シンクロン』の効果で、墓地の『スピード・ウォリアー』を特殊召喚！そして墓地からの特召喚に成功した時『ドツペル・ウォリアー』を特殊召喚！レベル2の『ドツペル・ウォリアー』に、レベル3の『ジャンク・シンクロン』をチューニング！

集いし星が新たな力を呼び起こす。光差す道となれ！シンクロ召喚！出でよ『ジャンク・ウォリアー』！

『ジャンク・ウォリアー』の効果！パワー・オブ・フェローズ！」

過労死さん今年もお勤め、御苦労様です。

まあ、除外されるんだけどね。へッ！攻撃力も半分になるんだけどな！ヒヤハハ！

そして、畏もあるんだがな！

「畏カード『奈落の落とし穴』！『ジャンク・ウォリアー』を除外してもらおうか！」

「なんだとッ！くっ、ターンエンドだ！」

少年よ、これが絶望だ！

3つの絶望の1つ、負けると分かっているながら希望を持ち、それを打ち碎かれる絶望だ！

「俺のターン！ドロー！」

3体の『異次元の偵察機』を生贄に『邪神イレイザー』を召喚！更に魔法カード『強欲な壺』！カードを2枚ドロー！そしてその後、このカードを破壊する！」

旧テキストです。昔は苦渋でクリッター&ウィッチを直接墓地へ送り、デッキから封印されしシリーズを手札に加えたんだけどなあ……。

昔はよかった、みんな雑魚カードしか持ってなかったから楽に邪神で葬れたのになあ……。

「魔法カード『大嵐』！魔法・畏カードを全て破壊する！バトル！邪神ドレッド・ルート』で『ジャンク・ウオリアー』を攻撃！フイアーズノックダウン！エンドフェイズ時『異次元の偵察機』が、除外場から特殊召喚される！ターンエンド！」

『あれ、俺の出番無し！？直接攻撃できないの！？絶望した、不遇な俺の扱いに絶望した！』

これが3つの絶望の1つ、出番と効果が不遇なイレイザーの心、これが絶望だ！

そして最後の絶望、出番が無くなったオリジナルキャラのヒロイン、これも絶望だ！

「俺の……ターン！」

魔法カード『ワン・フォー・ワン』を発動！手札を1枚捨て、デッキから『チューニング・サポーター』を特殊召喚！

『ジャンク・シンクロン』を召喚！『ジャンク・シンクロン』の効果により、墓地の『ネクロ・デIFエンダー』を特殊召喚！

レベル2の『ネクロ・デIFエンダー』に、レベル2の『チューニング・サポーター』に、レベル3の『ジャンク・シンクロン』をチューニング！

集いし叫びが木霊の矢となり空を裂く！光さす道となれ！シンクロ召喚！いでよ！『ジャンク・アーチャー』！『チューニング・サポーター』がシンクロ召喚の素材に使用された時、カードを1枚ドロ

『ジャンク・アーチャー』の効果発動！『邪神ドレッド・ルート』を除外する！デイメンション・シュート！」

ドレッド・ルートが除外されたら、攻撃力1000のイレイザーしか残らない！

不味い、この攻撃が通ったらイレイザーがまた引き籠ってしまう！

「『ジャンク・アーチャー』で『邪神イレイザー』を攻撃！スクラップ・アロー！」

『へ？ちよま、嫌あああああああああ！！！！！』

ああ、イレイザーの頭に矢がぶつ刺さった。痛そうだな。

あ、それ思い切り引き抜いた。これイレイザー絶対痛いだろ！

「『邪神イレイザー』の効果！このカードが破壊された時、場のカードを全て破壊する！」

『ただでは死なん、貴様の魂も連れて逝く・・・』ジャンク・アーチャー！』

シロツコですか？

そう思ったが、多分それを狙って言うてるから言わない。うん言わない。

「なんだとツ！？クツ、カードを伏せてターンエンド！」

「そしてエンドフェイズ時『邪神ドレッド・ルート』は戻ってくる！俺のターン！」

チツ、魔法・罠カード破壊系カードではなかったか。

だが、あの伏せカードはなんだ？まあいい、ネタで入れたこのカードを使う時が来たとはな。

ん？あ、アバターあった。

「3体の『異次元の偵察機』を生贄に『邪神アバター』を召喚！」  
『久々の出番キター！』

まあ、活躍が偽大寒波なんだがな！

やっぱ止めにはアバターだな。魔法・罫を封じれるから。

「バトル！『邪神ドレッド・ルート』で直接攻撃！ファイアーズノックダウン！更に『邪神アバター』で直接攻撃！ダークネス・ファイアーズノックダウン！」

「グワアアアアアアアアアア！！！」

な、何とか勝てた。ああ疲れた。

しかし、ホンマ何用なんだあのタラバガニ。

「クッ、お前をロリコン委員会に入会するため、デュエルで勝てば連れて行けると思ったのに……まさか負けるなんて……。」

ロリコン委員会？ほお、そんなのがあったのか。

まあ、俺はアブノーマルなだけで、別にロリコンではなくペドフェリアであるため、俺は入らない。

「あー……俺はペドだから入らないわ。」

「いや、お前には入ってもらおう！」

その声は！？まさかみ……み……大地！

「三沢 大地だ！」

「「ああー、居たのか。」」

「お前らがデュエルを始める前から居たわ！折角ピケル&クラン&霊使いを買いに来たのに、いつのまにかお前がデュエルを始めてだな。」

全く気付かなかったわ。

うん、影薄いな。ミスト・ボディをあげたのがいけなかったのか？反省はしていないし後悔もしていない。

「うし断る。俺は、ある組織の頭をやっているからなあ。」

「・・・そうか、残念だ。だが、たまにはこっちにも顔を出してくれ。君ほどの実力者、いつでも歓迎するよ！」

ああ、絶対に行かないがな。

こっちにはエロゲという最終兵器があるからだ。二次元最高！

ちなみに、ロリ以外にも人外、死体、幽霊、男の娘など何でも好きだ。

ただしデブス、テメエは駄目だ。

「そうか、合計5600円だ。」

「ああ、それじゃあ。・・・行くぞ不動 遊星！」

「はい、三沢さん！」

・・・霊使いとピケクラ、あとカード・スクエルダーにセームベルまで買いやがったぞ。

合計100枚買いやがって。あいつのライフは50だったな（財布的な意味で）これが財布レスコンボ！

視点：鬼柳

シグナーの反応、これはジャックか？  
クックククク、狩り殺してやる。

「デュエルだあ！」

「うおっ、ビックリした！・・・何の用だ鬼柳。」

その本は・・・ロリっ子大好きクラブ お兄ちゃん、ボクを一人に  
しないで・・・？

・・・うん、俺は見えていない。

「・・・ごめん。」

「あ、謝るな！」

いやだつて、その本ってあれだろ？あつち系か？永理の部屋の奥に  
あつたあれか？

うん、ジャックにもその気があつたとはな。遊星とクロウだけじゃ  
無かつたんだな。

あれ、つまりロリコンじゃないのは・・・チーム・サティスファク  
ションでロリコンじゃなかつたの俺だけ・・・？

「・・・へ、変態だー！」

「なんで今更！？クツ、こうなつたら・・・デュエルだ！デュエル  
で貴様が負けたら、この事は忘れてもらうー！」

「俺が勝つたら？」

「土下座します。」

そこまでするか。

もうキングの欠片も無いな。

「あー、うん。じゃあ、やる？」

「デュエル！」

なんかあれだな、グツダグツダなおい！

このデッキ、実践で使うのは初めてだから大丈夫か？

「俺の先行！ドロー！」

魔法カード『無の煉獄』を発動！カードを1枚ドロー！

『デビルパラサイド・キヤタピユラー』を攻撃表示で召喚！『デビルパラサイド・キヤタピユラー』の効果！ライフを半分払い、手札のレベル4以下のデビルパラサイドと名のついたモンスターを特殊召喚できる！『デビルパラサイド・クライマー』を守備表示で特殊召喚！

『デビルパラサイド・クライマー』の効果！ライフを1になるように払い、デッキからデビルパラサイドと名のついたモンスターを墓地へ送るぜ！

俺はデッキから『デビルパラサイド・クライマー』を墓地へ送る！カードを伏せ、エンドフェイズ時『無の煉獄』の効果で、手札を全て捨てる！ターンエンド！」

もう残りライフが1だけ。これがライフレスコンボ！

下級モンスターはライフが1になってから効果を発動する、そして上級はライフが0になってからというのが一番の特徴だ。

まあぶっちゃけると、使いにくくなったインフェルニティみたいな感じだ。

「何を考えているか知らんが、俺には小細工など通用しない！俺のターン！ドロー！」

相手フィールドにのみモンスターが存在する場合、このカードは、

手札から特殊召喚できる！『バイス・ドラゴン』！

『フレア・リゾネーター』を召喚！レベル5の『バイス・ドラゴン』  
び、レベル3の『フレア・リゾネーター』をチューニング！

「王者の鼓動、今ここに列をなす。天地鳴動の力を見るがいい！シンクロ召喚！我が魂！『レッド・デーモンズ・ドラゴン』！」

1ターン目からシグナーの龍をシンクロ召喚とは、流石だなジャック！

だがなあ、このカード共はその上を行くんだよ！

「墓地の『デビルパラサイド・ドラゴンキラー』の効果発動！自身のライフが1の場合、墓地のこのカードを取り除く事でドラゴン族のシンクロモンスターのコントロールを得る！

さあ来いよ！『レッド・デーモンズ・ドラゴン』！」

「なん・・・だと・・・!?」

ぶっちゃけ、これ抜いた方がいいんじゃないかね？って思ってたが、他に  
入れるカードが無かったので入れたんだぜ！

やっぱり相手のエースモンスターを奪うのは最高だぜ！

「クツ、カードを2枚伏せ、ターンエンド！」

ああああ、これで終わり？

ヒヤッハハハ、このターンで終わらしてやるぜ！

「俺のターン！ドロー！」

魔法カード『天よりの宝札』を発動！互いに手札が、6枚になるようにドローする！俺の手札は0、つまり6枚ドロー！

フィールド魔法『世界の終り』《始まりの瞬間》を発動！そして魔法カード『大嵐』！場の魔法・罠カードを全て破壊する！」

俺の伏せたカードは聖バリだったんだけどなあ。結局使わずじまいか。

「『世界の終り《始まりの瞬間》』が破壊され墓地へ送られた時、デッキから心縛神を特殊召喚する！俺はデッキから『心縛神 Aya huasca』を特殊召喚！

そして『心縛神 Aya huasca』のモンスター効果発動！自身のライフを0にする事で、相手ライフに相手の手札の数×1000ポイントのダメージを与える！パラサイド・ウェーブ！」

ジャックの手札は2、つまり2000のダメージだ！ヒヤハハハハハハ！！

まあ、相手が神楽坂だったらこいつ、ただの気持ち悪いモンスターなだけなんだけどな。

「グ、だが鬼柳、貴様のライフは0になったぞ！これで俺の勝ちだ！」

「クツクククク・・・墓地の『デビルパラサイド・アンデット』の効果発動！自身の場に存在するデビルパラサイドと名のついたモンスターを生贄に捧げる事で、ライフが0になっても、デュエルで負けにはならない！

バトル！『心縛神 Aya huasca』で直接攻撃！『レッド・デーモンズ・ドラゴン』で止め！灼熱のクリムゾン・ヘルフレア！」

ふう、今回は回った方だな。

「頼む、今回の事は言わないでくれ！つつか言わないでくださいお願いします！」

うわ、本当に土下座してるよ。プライドのプの字もないぞこいつ。キングもここまで落ちぶれるとはな……。時の流れは恐ろしいものだ。

「あー、今回は何も見ていないから俺。だから、顔をあげて……な？」

「ありがとう、ありがとう……！」

うわ泣いてるよ気持ち悪い。

そういや、遊星の布団の下にロリ系のやつが大量にあったな。

まあでも、あいつは開き直ってるからなあ……。それはそれで駄目だと思うが、永理もそうなので気にしないでおこつ。

……。その後、ジャックはロリコンであるという噂が流れたが、地縛神に誓って俺ではない。

そして、ルチアーノが上機嫌だったのはまた、別のお話である。

## ライフレスコンボの恐怖、デビルパラサイドデツキの底力！？（後書き）

永理「前回の次回予告と全く違うじゃねえか！」

あ、ありのままいm（ry）

永理「それはもういい！」

まあまあ、素数でも数えて落ち着け。

さて、オリカ紹介！

『デビルパラサイド・キャタピュラー』

レベル3

閻属性

攻撃力：1300

守備力：1200

悪魔族：効果

1ターンに一度、ライフを半分払い手札から、デビルパラサイドと名のついたレベル以下のモンスターを特殊召喚できる。自分のライフが100より少ない場合、この効果を発動する事はできない。1ターンに一度、自分のライフが1の場合、デツキからレベル6以下のデビルパラサイドと名のついたモンスターを特殊召喚できる。この効果を発動するターン、自分は通常召喚をできない。

『デビルパラサイド・クライマー』

レベル3

閻属性

攻撃力：1400

守備力：1200

このカードの召喚・特殊召喚・反転召喚に成功した時、！ライフを1になるように払い、デッキからデビルパラサイドと名のついたモンスターを墓地へ送る事ができる。1ターンに一度、自分のライフを1にする事ができる。

『デビルパラサイド・ドラゴンキラー』

レベル1

闇属性

攻撃力：0

守備力：0

自分のライフが1の場合、墓地のこのカードを除外する事でドラゴン族のシンクロモンスターのコントロールを得る事ができる。この効果は相手ターンにのみ発動できる。このカードが除外場から墓地へ戻った時、自分はデュエルに敗北する。

『心縛神 Ayahuasca』

レベル10

闇属性

攻撃力：2700

守備力：2400

アンデット族；効果

このカードは通常召喚できない。終わりの始まりの効果でのみ特殊召喚できる。

1ターンに一度、自身のライフを0にする事で相手ライフに相手の手札の数×1000ポイントのダメージを与える事ができる。

『デビルパラサイド・アンデット』

レベル6

攻撃力：1900

守備力：1300

アンデット族：効果

1ターンに一度、このカードが墓地に存在する場合、自分の場に表側表示で存在するデビルパラサイドと名のついたモンスターを生贄に捧げる事で3回目の自分のスタンバイフェイズ時まで、自分のライフが0になってもデュエルには負けない。

このカードがシンクロモンスターのシンクロ召喚に使用され墓地へ送られた場合、

自分はライフを1にする。

では、良いお年を！

永理「結構言うの遅いけどな、良いお年を。」

今日も今日とて、パラさんは不幸なのです。ドンマイ！（前書き）

「Z O N Eと。」

「プラシドの!？」

「前回までのあらすじ!」「」

「前は・・・色々ありました。詳しくはライフレスコンボの恐怖、  
デビルパラサイドデッキの底力!?!を読んでもください。」

「それは無いでしょ創造主様!?!」

「では、本編をどうぞ。」

「まさかの俺ガン無視!?!」

今日も今日とて、パラさんは不幸なのです。ドンマイ！

視点：ブラシド

十代VSエド、アニメで見た事のある人なら勝敗が分かっているだろうが、十代のデッキはE HEROデッキなのである。

つまり、エドが確実に負ける・・・はず。俺の記憶が正しければエドのデッキには、死のデッキ破壊ウイルスが入っていたと思う。

まあ、そんな事はどうでもいいのだ・・・。今重要なのは・・・鍋だ。

「……ッラア！！」

舞い散る白菜、落ちていく肉、パラドックスの本にかかってしまった。パラドックスの顔面にビチャって張り付いた熱々の肉。

転げまわるパラドックス、再度向き合う俺とルチアーノ、そしてホセとデイヴァイン。

「あ、マリクみかん持ってきて。」

「あ、ああ・・・面倒くしええなあ。」

煮え滾るすき焼き、なんか固まってきた生卵。そして、前よりなんか増えたと思うガンQのフィギュア。

この勝負《すき焼き》、貰った！

「させるか！」

「なん・・・だと・・・？」

ルチアーノの投げた箸が、俺の箸を空中でつかみ、弾いた！？  
ルチアーノの奴め、いつの間にこんな芸当を……。ハッ、腋臭が  
ら空き……。？

迂闊だった！何故俺はルチアーノに妨害されるといふ事を計算に入  
れておかなかったのか！

（フッフッフ、ブラシド、お前の考えていることなぞ御見通しなん  
だよ！貴様に先に、すき焼きを食べられるのならこの箸をも犠牲に  
するよ僕はね！）

（何やってんだろこの人達……。）

順君！？そんな目で俺らを見ないでくれ！お兄さんは悲しくなつて  
死んでしまつかもしれないぞ！

いや、まあ機械だからまた作ればいいんだけどね。

あれ、そっぴや永理は何処行つたんだ？

「永理さんなら十代VSエドの試合を見に行きましたよ。で、パラ  
ドックスさん大丈夫ですか？」

「大丈夫じゃない、泣きたい。」

パラドックスが涙目だが……。ぶっちゃけ誰得？つて話なんだよな。  
せめてレイとか明日香とかが涙目or上目づかいがいいな。

たれ目もいいよね！まあ、蔑むような眼で睨まれたら俺は……。俺  
は！

……。すまん、少し興奮しすぎていた。俺はカッコいいのに何故モ  
テないのが気になつて。

だって俺、結構カッコいいと思うんだよ！俺も合 体するまではカ  
ッコいいと評判だったんだかな！

「ッラア！」  
「熱っつー！」

あ、ルチアーノとデイヴァインがすき焼きを箸で空中に浮かし、寢室へ移動中のパラドックスに煮え滾っているすき焼きに思い切りぶつけた。

大変だな。猫に当たらなくってよかったよかった。

「はあ、先に行ってますよ？後から来てください。着替えて。」

えー、なんでそんな面倒くさい事を……。もうそのまんまでもいいじゃない！

視点：十代

これはちつとばかり不味いな。

相手の場にはダムドが居る。そして墓地にはダイヤモンドガイの効果で墓地へ落した滅びの爆裂疾風弾が一つだ。

滅びの爆裂疾風弾の効果は、相手の場のカードを全て破壊する効果。簡単に言うると疑似サンダー・ボルトみたいなもんだ。

そして手札は強欲な壺、バブルマンのみ。場には永続罫チャトリオット・パイルが一つだ。

次のターンにサイクロンなどを引かなければ、負ける！

「おい鬼柳、アンパン買ってこい。」  
「断る！」

何やってんだ永理と鬼柳！こっちは緊迫した状況だというのに！

カミューラもカミューラだよ、何勝手にデッキにヘル・テンペストなんて入れてんだ！使わないよ！万丈目じゃないんだから！

「どうした十代、これで終わりか？」

「まだだ、まだ絶望はしない！ドロー！」

来た、俺のデステイニードロー。ダブル・サイクロンが！

これでチャトリオット・パイルを破壊し、バブルマンを召喚し、2枚ドローしてから強欲な壺で2枚ドロー！完璧だ！

「『ダブル・サイクロン』を発動！俺の場の『チャトリオット・パイル』を破壊し、貴様の伏せカードを破壊！」

「グッ、幽閉が……。」

テメなんつうガチカード入れてんだ！こちとら永理のおかげでやっと1枚入れてるってのによお！

永理の店の場合、1枚大体7800円で買えるんだ。信じられるか？それでも結構安い方なんだぜ？嘘みたいだろ？

「バブルマンを召喚！効果発動！2枚ドロー！そして魔法カード『強欲な壺』！2枚ドロー！」

更に『天使の施し』！3枚ドローし、2枚捨てるぜ！」

・・・ここまでドローしなきゃ来ないこのカードはなんなの？  
ダーク・フュージョンばっか来て、ダーク・コーリングが来ないのはなんでなの？これがE HEROデッキ使いの3つの絶望の一つなの？

「魔法カード『ダーク・コーリング』を発動！墓地の『邪帝ガイウス』と『E HEROマリシャス・エッジ』を墓地融合！」

これこそ最凶のHERO！『E HEROマリシヤス・デビル』！  
バトル！『E HEROマリシヤス・デビル』で『D HERO  
ダイヤモンドガイ』を攻撃！  
エッジ・ストーム！」

この攻撃が決まれば俺の勝ちだ！だが、奴の伏せカードは恐らくガチカード。だが、ここで攻撃を戸惑っていたら駄目だ！  
絶対に勝つ！俺はただ、自分が勝つという未来を見ていればいいんだ！

「畏カード『攻撃の無力化』！攻撃を無効にし、バトルフェイズを強制終了させる！」

「カードを2枚伏せ、ターンエンド！」

攻撃の無力化・・・か。なんとかなったな。もし強制脱出装置とかだったら俺の負けは決まっていた。

残りライフはたったの1400、そして伏せカードは火霊術 紅とロスト。まだ俺の墓地は十分に肥えてはいない。

これでは俺のライフがすぐに0になってしまう。・・・火霊術 紅の効果つてなんだっけ？何々・・・？

あ、これ俺勝ったわ。

「僕のターン！ドロー！」

墓地の『滅びの爆裂疾風弾』を発動！貴様のモンスターを全て破壊する！」

「なら、それにチェーンし畏カード『火霊術 紅』を発動！『E HEROマリシヤス・デビル』を自分フィールド上に存在する炎属性モンスター1体を生け贄に捧げ、生け贄に捧げたモンスターの元々の攻撃力分のダメージをお前のライフに与えるぜ！」

頼む、通ってくれ！

「カウンター罠『トラップ・スタン』！このターン、このカード以外の罠カードの効果は無効となる！つまり、お前はわざわざ僕の為に場を開けてくれたんだ。バトル！ダイヤモンドガイ！バブルマンに攻撃！」

「ぐ、があッ！」

不味い、このデッキに入っているドロークカード。その中に入っている逆転のチャンスを抑えるカードは2枚のみ……。

だが、ここで負ける訳には……。いや、最強のHEROは俺のE HEROだけだという事を、こいつに分からせるためには……。

「ハッハ、もう諦めたらどうだ？君のライフはたったの400、手札は0枚。この状況で勝つ事ができるのは神楽坂君くらい……そうだろ？ターンエンドだ。」

「ここで、負ける訳にはいかないんだよ！俺の……。ターン……！」

確かに……神楽坂・鬼柳のデッキでなくちゃ、手札0で勝つという希望は無いだろう。

だが、このカードなら……まだ希望は繋がっている！

「魔法カード『闇の誘惑』！デッキからカードを2枚引き、手札の闇属性モンスターを除外する！もし手札に闇属性モンスターが存在しない場合、手札を全て捨てる！」

俺は『E・HEROネクロダークマン』を除外！そして魔法カード『埋葬呪文の宝札』を発動！このカードは墓地の魔法カードを3枚除外する事で、デッキからカードを2枚ドロークする！

俺は墓地の『ダーク・フュージョン』と『ダーク・コーリング』そ

して『闇の誘惑』をゲームから除外！カードを2枚ドロ！更に魔法カード『運命の宝札』を発動！サイコロを振り、出た目の数ドロ！するぜ！さあ、ダイスロール！」

次のドロで、岩石族モンスターとダーク・コーリングが引けなければ俺の負け。ここはこのカードに賭ける！

頼む、2以上出てくれ！俺はまだ負けたくない！

「出た目は……。クツ、1。俺はカードを1枚ドロ！そしてデッキトップから、サイの目の数だけカードを除外する！カードを伏せ、ターンエンド！」

俺の手札はR ライトジャスティス、ヒーローフラッシュ！！、テラ・フォーミング、摩天楼 スカイクレイパー。これでどう勝てと？

「僕のターン！ドロ！」

これで終わりだ！『D HEROダイヤモンドガイ』で止めだ！  
「ぐ、があああああああああ！！！」

ここで、負け……。るの……。か……。？

視点：エド

「ああ、僕だ。お前の言う通り十代に光の呪いをかけておいたぞ。これで貸し借り0だ。」

ご苦労様エド。次に会う時はお互い敵同士だ。いや、クラスメイトか……。火火火火火……。それでは失礼。」

前に貰ったドグマガイ、何故世界に1枚しか無いD HEROをアイツが持つてるのか。そしてあのカードの価格。一体アイツは何者なんだ？

まあ、このデッキは永理のおかげで完成した完璧なD HEROデッキが完成したのだが・・・。

斎王も気に入っているというのに、敵同士というのが残念だ。

「今日も絶好調でしたねエド。これもいい宣伝になりました。デュエルアカデミア最強のHERO使いを倒したHERO使い。」

「斎王、当たり前だ。僕が素人なんかに負ける訳がないだろう？」

「それもそうですね。」

こちらにはシグナーという切り札がある。永理には負ける事は無い筈だ。

そう、永理一人なら・・・。あいつにはいろいろと問題のある生徒を従える妙なカリスマがある。斎王はそれを知らないみたいだが・・・。

今のうちに消しておいたほうがいいか？

視点：永理

エド、斎王には強力なカードを渡してしまったからなあ・・・。戦いたくないなあできるだけ。

まあいい・・・これで十代が新たな力を手に入れれば、こちらとしても大分と高い戦力を手に入れる事が出来る筈。

あいつの新たなデッキ、Nだったかな？たしか・・・そんな名前だった気がする。

「火火火火火、永理さんも大変ですねえ。十代の為に折角の恩を犠牲にして、新たな力を手に入れさせるとは……。」

「利用できるものは何でも利用する。たとえそれが敵でもな。」

次会う時は敵同士、つまりシグナーとの戦いとなるのか。

まあ、俺達の勝ちだろうがな。貴様等は俺の手の上で踊らされているピエロにすぎないのさ。

「マリク！バクラ！決戦の時に備え、魂を狩れ！」

「「御意！」」

魂が十分に補充されたら、あの時のカードを召喚してやろう。究極にして最恐、絶対無敵の邪神をなあ！

今日も今日とて、パラさんは不幸なのです。ドンマイ！（後書き）

アニメの女子は可愛いのに、現実ときたらさあ……。本当に嫌になるよ。

性格とか顔とか顔とか顔とか。

永理「あ、基本顔だけなのね。いや、別に良いけど。」

では、次回予告よろ。気分が変わると思うけどNA

永理「気持ち悪い。・・・エドに負けた十代は、カードが白紙にしか見えなくなっていた。いっぽう、吹雪が妹の明日香とデュエルすることに。吹雪は明日香を説得し、兄妹でコンビを組んで芸能界デビューしたいと考えていたが明日香は嫌らしい。なんだブラシド、ねぎを右手に持ち何処へ行く!? 次回、久々の明日香の登場がこれだよ!!! お楽しみに!!!」

気持ち悪いは酷くね!?・・・プロフィールが見たい、部屋の構造が見たい、何処が違うかわからないって人は感想欄にそう書いといて、5人以上で書くと思う・・・あくまでも思うだけでその日のやる気とかによる。

あとオリキャラも募集中。感想欄に見た目、性格、使用デッキ、性別などを書いてくれ。ただ、俺の文才や気分でキャラが崩壊したりするぜ。

あと、使用デッキも出来れば書いてくれ。ただ、性格などと同じように変更などがあつたりするかもしれないからな。で、もしデッキや性格、見た目などは書いてなかった場合、作者が勝手に決めたりする。ただ、書いてたとしても変更とかもあり得るぜ。

遊戯王の忍者デッキ、使ってみたいが金が無い!

永理「なら諦める！」

久々の明日香の登場がこれだよ！！（泣）  
by 明日香（前書き）

「前回に引き続き私、Z・ONEと。」

「みんなのアイドル、藍ちゃんです！」

「前回、パラドックスが悲惨な目にありました。」

「短い！でもそれでわかる不思議！」

「では、本編をどうぞ。」

「私の出番と台詞これだけ！？」

久々の明日香の登場がこれだよ！！（泣） by 明日香

視点：パラドックス

前回、私の本と至福の妄想タイムをすき焼きに台無しにされた私。  
この事を昨日の日記に書き記しておいた。

でも私もロボットだからな、多分忘れる事は無いだろうから書く必要は無いのだがな。・・・そういえば、この猫の名前なんだっけ？  
前に永理から聞いた気が・・・まあいいや。

「おいパラドックス、これを買ってこい。」

「何故私が・・・。」

「いいから！お兄ちゃんでしょう！」

ブラシドにそんな事言われる筋合は無い！つかその次元を切り裂く  
剣で楽に行けるだろ！？

いや、暇だからいいけどさ。それで渡されたメモ帳なのだが、何故  
かネギとしか書かれていなかった。

ネギ1本で何を作れる？そう私が1・2分ぐらい悩んでいたら、ふ  
と思いついた事がある。

・・・そういや昨日、ブラシドがニコニコ動画のミクの動画見てた  
気が・・・。たしか、ミックミックにしてやんよだったか？

いい曲だった、あの曲はもう一度聞きたいものだ。だが、それを聞  
くとヲタクと勘違いされるのではないか？やはり、あの曲を聴くの  
は止めた方が良いか？

いやしかし・・・。そう自分の中で自問自答していたら、ふとルチ

アーノを見つけた。ホセの膝に乗って、マリオカードダブルダッシュユ！！をやっている。微笑ましい光景だ。

「あ、パラドックス、起きたの？赤コウラ行っけええええええ！！」  
「パラドックス、少し頼みたい事がある。あ、崖に落ちた。・・・  
これメモに書いといたから。ルチアーノ！もう一度勝負だ！」

「ふっふっふ、何度やっても結果は同じだ！」

サーキット完成させるよ、ダブルダッシュなんてやらないで。そう思ったが、口に出さなかった私は成長したのだなと自覚した。

つうかライディングデュエルはどうなった？その手でどうやってゲームキューブのコントローラーを持ってんだ？と、色々疑問に思ったがまあ口には出さないでおこう。

そして頼まれた買い物リスト・・・モーメント！？んなデカイ物こんな過去には無いぞ！？そしてダイン・・・どこで手に入れると？何このかくや姫の無理難題より難しいお使い！

・・・はあ、とりあえず十代にでも聞いてみるとするか。あいつ何故か色々知ってるからな。

くクリスマスツリー移動中く

「パラドックスさん？何か用なの？」

気のせいかな、ゴースト骨塚の声が聞こえたような・・・。  
あ、翔か。

「うむ、十代は居るか？」

「十代のアニキなら居ないよ。なんかカードが見えなくなったらし

「いよ。・・・大丈夫かな？」  
「さあ？」

信じられん！あのデュエルはエビフライの次に好きとまで言っていたあの十代がカードが見えなくなるという異常事態に陥ってしまったとは。

これはあれか？明日雪どころか槍降ってくるんじゃないかね？機皇帝が攻めてくるんじゃないかね？ゼロ・リバーズ起こるんじゃないかね？うおわああああ！！！！

いや落ち着け私！常に平常心だ私！こんな時は素数を数えるんだ私！だが面倒だぞ！大体なんだよ素数って、数字なんて丁と半だけ覚えてればいいんだよ！

「ば、パラドックスさん大丈夫ですか？」

「・・・大丈夫だ。少しアンモナイトの幻影が見えた気がしたが大丈夫だ。」

「いやそれ大丈夫じゃないよね！？」

順君、私を心配してくれるのか・・・。良い子だ。

こんな綺麗な心を持った少年が増えてくれれば、私の心のライフも大分と回復するだろう。

・・・シヨタコンじゃないんだからね！！

視点：永理

明日香VS吹雪、白熱したバトルだったな。デュエルシーンなんて無いよ！残念でした！

「問題無い。それより、ダインという鉱石を知らないか？少し仲間に頼まれてだな……。」

私はデッキケースに入れていたダインの写真を翔、という背がルチアーノ並に低い少年に尋ねた。

まあ、この少年が知ってるわけ無いだろうが……念のために聞いておこう。

隠しカエルコインしかり、隠しキノコしかりでだ。なんでもとりあえずやってみるのが先決だ。やらないで後悔するより、やって後悔した方が良いだろ？

「あー、あの遺跡付近にそれとよく似た鉱石があったような……。前にトンネル掘ろうぜって話になって……。万丈目君の体力の無さに吃驚したなあ……。」

あるんだ！ダインあるんだ！

遺跡付近となると……購買の近くか。ついでにネギも買っておいでやろう。

〈五重塔移動中〉

「何故私がクリスマスツリーとか五重塔とかになっただ！」

「い、いきなりどうしたの？」

「……いや、なんでもない。」

ふと遺跡付近をブーラブラー（某ピチピチフレッシュ好きの人とは関係無い）していたら、明日香と吹雪のデュエル中だった。

なんでも、アイドルデビューしたいと吹雪が言ったらしい……

アイドル？前にマリクが買ってきたおニャンコクラブのアレの事か？  
何故マリクがおニャンコ好きになったのかは知らないが、まあそれはぶっちゃけ関係無い。

「僕は魔法カード『黒炎弾』！明日香のライフに2400のダメージだ！」

「畏カード『ダメージ・トランスレーション』！受けるダメージを半分にし、『ゴーストトークン』を1体特殊召喚するわ！」

さて、フィールドの状況を説明しよう。

吹雪の場には、表側表示の黒眼、通称凡骨の嫁が1体守備表示。対する明日香の場は、オーデインにゴーストトークン、そしてロキの3体だ。

吹雪、君はよく頑張った。褒美にこの長ネギをあげよう。

「これで止めよ！サンダー・パイル！」

「ぐおわああああ！！！」

あ、終わった。豪い早く終わったなオイ！

まあいいけど、これでダインをゆっくり掘りに行ける！ゆっくり掘って行つてね！

くマリク擬き移動中く

マリク擬きつて何さ！確かに映画でマリクさんをリスペクトした事はしたけどさ！

さて、ここが遺跡・・・ってデカツ！そして何あの頂点のマッチョ

！？すごく気持ち悪ッ！

まあいい、そんな変態はほつといてこつちは鉱石採りだ！

・・・意外と落ちてるんだな。初めて知ったよ。さて、これで袋もパンツパンだ！あとは元廃寮へ戻るだけだ！

元廃寮へ向けて全速前進 DA！

く格好よく合体し、3体1の100%負ける戦いを挑んでおきながら無様に負けたパラドックス移動中く

誰が無様だ！こつちだって真面目にやってんだよ！

そもそもあの勝負、あんなチートカード使われなければ私が勝っていたんだ！攻撃力5000のパワー舐めんなよ！

「おいパラドックス、しつかりアレを買って来たろうな？」

「ああ、ここいあるよ・・・。」

ふつつつふ、ホセは驚くだろうな。このダインの量を見たら。なんせ、こんな採れるなんて他にクラッシュタウン位しか無いもんな。

「で、何処にあるのだ？グイソは・・・。」

「は？」

グイソ？何それ。いやいダインだよ！ダインだよ！？

何だよグイソって、この字どう見てもダインじゃねえか！なんだよそのダインのパクリみたいなの！

「チツ、使えねえなパラドックス！」

ルチ何気に酷くね？私頑張ったんだよ？なんか白い目で生徒に見られながらも頑張ったんだよ？

なのにああ・・・もうほんっと笑えるよなあ・・・。は、はははは・・・はあ・・・。

これは後に分かった事だが、購買に売ってあるきな粉饅頭の形がダイソに似ているからダイソって名前をホセが付けたいらしい。分かるかなもん！

視点：永理

なんかパラドックスがorzになっていたのは何故だ？  
そしてプラシド、長ネギ片手に何処へ行く？

「・・・不動 遊星の所へ。あいつの部屋にネギを植え付け、女子  
なぞ呼べぬ部屋にしてくれるわ！」

「・・・そうか、頑張れよ。」

クリアマインドで真つ二つに割られる未来が見えたが、黙っておこう。

だってなんかイキイキしてたもん。あんなん止められないよ！

あと何故ネギ？と、思ったが前にニコニコで初音 ミクの動画見たのを思い出した。それでか・・・。

まあそれはぶっちゃけ開闢当たったんだぜ！へー、じゃあ闇の指名者で光属性・戦士族宣言するわ。ちよ、おまwww。  
的な位どうでもいい。

「で、何の用だ？遊城 十代？」

「カードが白紙にしか見えないんだ。これ何かの病気か？」

・・・十代の発言が妙にリアルだったのだが・・・何故？  
そしてパラドックス、いい加減落ち込むのをやめろ。鬱陶しい。

『じゃあ、私の声も聞こえないんですか？』

『なんだか・・・寂しい気がしますね。』

「・・・みたいだな。」

効果が効き過ぎだぞエド、ツラのくせに・・・。

「ツラじゃない、桂だ！」

「い、いきなりどうしたんですかエド!？」

「いや、なんでもない。」

なんか聞こえた気がしたが、気のせいか？

うん、気のせいにしておこう。なんか面倒になりそうだし。

「永理、あのカードから不思議な光を感じるんだが・・・。」

「は？」

光？ラーなら普段はダンボール箱の奥底に入れているが・・・。他に光りそうなカードなんてセイヴァー・ドラゴンか地縛神ぐらいだぞ？

ちなみに、ラーの上にあるカードは神宣とモリンフェン、マキユラとラヴァ・ゴーレムに拷問車輪とマリクさんの使ったカードを乗せ

てみました。

どうでもいい？・・・おじさん寂しいな、そんな事言われたら。

「ネ・・・オス・・・？」

ネオステッキ、懐かしいな。昔使ってたな・・・。あの時はプリズマーでコピー、ラス・オブ・メオスで場をリセット。そしてオーバースウルとかで蘇生で直接攻撃。が主な流れだったな。

弱点としては、攻撃力3000以上が出されたら戦闘で破壊出来ないからラス・オブ・ネオスでしか破壊できないんだよな・・・。先行でクエーサー出された時は殺意湧いたね本当に・・・。

「永理、このカードをくれ。・・・エドに復讐したいんだ・・・。」

「・・・3400円だ。そしてここにデッキレシピがある。これは5400円、そしてこのレシピに書かれているカードは別売りだ。」

たとえ友人でも、値段に妥協しない。それが俺だ。

しっかし、なんであの穢れを知らない子供のような眼をした十代がこうなっちゃったのかねえ・・・。

俺は関係無い・・・よな・・・？あれ、なんで黙るの？俺なんか悪い事した？

ただ昔ヤンチャしたくらいだよ？童実野町のデュエルギャングの頂点に立ったり、地下デュエルでキングになったりとかしかしてないよ？

あつ、パラドックスがバナナの皮踏んで思い切りタイルに頭ぶつけた。あれは痛いぞ？

「永理、すべてくれ！」

「毎度あり。」

これがゲームスタートの開始だ。少しは楽しませてくれよ……。  
破滅の光とシグナー共よお！！

くおまけ プラシドが前回何処へ行ってたか

「なあプラシド、お前前回何処行ってたんだ？」

「創造主からお年玉貰いに行ってた。勿論、永理とルチアーノ、破壊の闇のみんなの分もあるぞ？」

「いい人だなあいつ。」

久々の明日香の登場がこれだよ！！（泣） by 明日香（後書き）

永理「もう少し明日香出してやれよ。」

はっはっは、三沢よりはマシだろ。いつ出るかな……。

永理「おいおい……。」

じゃ、次回予告よろ。

永理「万丈目の前にあらわれた神秘的な男・斎王。二人はデュエルすることに。斎王は手札のカードをテーブルにふせたままにし、万丈目にデッキをシャッフルさせてしまふ。そして運悪くパラドックスがぶつかり、カードを海へ落してしまった。

というわけで十代のリベンジデュエル。新たなHEROネオスの実力は？明日香と三沢の出番はいつ来るのか？次回、ぶっ倒しても！ぶっ倒しても！ぶっ倒しても蘇ってくるネオス。ライディングデュエル、アクセラレーション！」

・・・プロフィールが見たい、部屋の構造が見たい、何処が違うかわからないって人は感想欄にそう書いといて、5人以上で書くと思う・・・あくまでも思うだけでその日のやる気とかによる。

あとオリキャラも募集中。感想欄に見たい目、性格、使用デッキ、性別などを書いてくれ。ただ、俺の文才や気分でキャラが崩壊したりするぜ。

あと、使用デッキも出来れば書いてくれ。ただ、性格などと同じように変更などがあつたりするかもしれないからな。で、もしデッキや性格、見た目などは書いてなかった場合、作者が勝手に決めたりする。ただ、書いてたとしても変更とかもあり得るぜ。

・・・ドラゴニック・レギオンと間違えて巨竜の復活を買ってしまった。

永理「・・・うん、ドンマイだ。」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0547v/>

---

なにかが違うGXと3邪神

2012年1月8日23時46分発行